

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																																																																																									
	現 行	改 正																																																																																																																																																										
	<p>[別表-1]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>細 別</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 値</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工</td> <td>掘削工</td> <td>掘削</td> <td>土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満及び岩の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>掘削(砂防)</td> <td>土質 押土の有無 障害の有無 火薬使用</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満及び岩の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>河床等掘削</td> <td></td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>掘削(光ケーブル配管)</td> <td>土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>整地</td> <td>作業区分</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>掘削(ルーズ)</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr style="border: 2px solid red;"> <td>土工</td> <td></td> <td>押土(ルーズ)砂防</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>横込(ルーズ)</td> <td>土質 作業内容</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>横込(ルーズ)砂防</td> <td>土質 作業内容</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>土砂等運搬</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>土砂等運搬(砂防)</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>掘削工(ICT)</td> <td>掘削(ICT)</td> <td>土質 施工方法 障害の有無 施工数量</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満及び岩の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>(路体・路床)盛土工</td> <td>路体(盛堤)盛土</td> <td>施工幅員</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>路床盛土</td> <td>施工幅員</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>整地</td> <td>作業区分</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>押土(ルーズ)</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>押土(ルーズ)砂防</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>横込(ルーズ)</td> <td>土質 作業内容</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>横込(ルーズ)砂防</td> <td>土質 作業内容</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m³未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>土砂等運搬</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td></td> <td>土砂等運搬(砂防)</td> <td>土質</td> <td>m³</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 別	細 別	規 格	単 位	数 値	備 考	土工	掘削工	掘削	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及び岩の場合は10m ³	土工		掘削(砂防)	土質 押土の有無 障害の有無 火薬使用	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及び岩の場合は10m ³	土工		河床等掘削		m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		掘削(光ケーブル配管)	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		整地	作業区分	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		掘削(ルーズ)	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		押土(ルーズ)砂防	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		横込(ルーズ)	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		横込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		土砂等運搬	土質	m ³	10		土工		土砂等運搬(砂防)	土質	m ³	10		土工	掘削工(ICT)	掘削(ICT)	土質 施工方法 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及び岩の場合は10m ³	土工	(路体・路床)盛土工	路体(盛堤)盛土	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		路床盛土	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		整地	作業区分	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		押土(ルーズ)	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		押土(ルーズ)砂防	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		横込(ルーズ)	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		横込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³	土工		土砂等運搬	土質	m ³	10		土工		土砂等運搬(砂防)	土質	m ³	10		<p>現行どおり</p> <p>削除</p> <p>現行どおり</p>	<p>積算基準改定に伴う削除</p>
種 別	細 別	規 格	単 位	数 値	備 考																																																																																																																																																							
土工	掘削工	掘削	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及び岩の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		掘削(砂防)	土質 押土の有無 障害の有無 火薬使用	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及び岩の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		河床等掘削		m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		掘削(光ケーブル配管)	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		整地	作業区分	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		掘削(ルーズ)	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		押土(ルーズ)砂防	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		横込(ルーズ)	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		横込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		土砂等運搬	土質	m ³	10																																																																																																																																																							
土工		土砂等運搬(砂防)	土質	m ³	10																																																																																																																																																							
土工	掘削工(ICT)	掘削(ICT)	土質 施工方法 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及び岩の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工	(路体・路床)盛土工	路体(盛堤)盛土	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		路床盛土	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		整地	作業区分	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		押土(ルーズ)	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		押土(ルーズ)砂防	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		横込(ルーズ)	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		横込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³																																																																																																																																																						
土工		土砂等運搬	土質	m ³	10																																																																																																																																																							
土工		土砂等運搬(砂防)	土質	m ³	10																																																																																																																																																							
1-1-6																																																																																																																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/5																																																																																																																																																									

改正理由	一部改正	改正 現行	備 考																																																																																																																																													
現 行		改 正																																																																																																																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">種 別</th> <th style="width: 10%;">種 別</th> <th style="width: 15%;">規 格</th> <th style="width: 5%;">単 位</th> <th style="width: 5%;">数 値</th> <th style="width: 55%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr style="border: 2px solid red;"> <td>舗装工</td> <td>転圧コンクリート舗装</td> <td>コンクリート規格 舗装厚</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>連続鉄筋コンクリート舗装</td> <td>コンクリート規格 舗装厚</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>縦目地</td> <td>目地材種類・厚さ</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>横目地</td> <td>目地形式</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>薄層カラー舗装</td> <td>舗装色 規格・使用</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>舗装工(ICT)</td> <td>下層路盤(車道・路肩部)(ICT)</td> <td>路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>上層路盤(車道・路肩部)(ICT)</td> <td>路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>インターロッキングブロック舗装</td> <td>ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工機械</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>特殊ブロック舗装</td> <td>作業区分 ブロック規格</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>踏掛版工</td> <td>踏掛版</td> <td>コンクリート規格 鉄筋材規格・径</td> <td>m³</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>区画線工</td> <td>区画線</td> <td>施工方法区分 規格・仕様区分 厚さ 排水性舗装用の有無</td> <td>m</td> <td>10</td> <td>ただし100m未満の場合は1m</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>区画線消去</td> <td>施工方法区分</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td>路床安定処理工</td> <td>安定処理</td> <td>混合深さ 固化材100m²あたり使用量 固化剤の種類</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td>自走式土質改良工</td> <td>土質改良</td> <td>改良土質 固化材1m²あたり使用量 固化剤の種類</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td>表面安定処理</td> <td>サンドマット</td> <td>砂材量費の有無</td> <td>m³</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td></td> <td>安定シート・ネット</td> <td>シート種類</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td></td> <td>表面混合処理</td> <td></td> <td>m²</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td></td> <td>置換</td> <td>置換材量 施工数量</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td>置換工</td> <td>置換</td> <td>置換材量 施工数量</td> <td>m³</td> <td>100</td> <td>ただし1,000m²未満の場合は10m³</td> </tr> <tr> <td>地盤改良工</td> <td>サンドマット工</td> <td>サンドマット</td> <td>砂材量費の有無</td> <td>m³</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		種 別	種 別	規 格	単 位	数 値	備 考	舗装工	転圧コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	舗装工	連続鉄筋コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	舗装工	縦目地	目地材種類・厚さ	m	1		舗装工	横目地	目地形式	m	1		舗装工	薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	舗装工	舗装工(ICT)	下層路盤(車道・路肩部)(ICT)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	舗装工		上層路盤(車道・路肩部)(ICT)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	舗装工		インターロッキングブロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工機械	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	舗装工	踏掛版工	踏掛版	コンクリート規格 鉄筋材規格・径	m ³	1		舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 厚さ 排水性舗装用の有無	m	10	ただし100m未満の場合は1m	舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1		地盤改良工	路床安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m ² あたり使用量 固化剤の種類	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²	地盤改良工	自走式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m ² あたり使用量 固化剤の種類	m ³	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ³	地盤改良工	表面安定処理	サンドマット	砂材量費の有無	m ³	10		地盤改良工		安定シート・ネット	シート種類	m ²	10		地盤改良工		表面混合処理		m ²	10		地盤改良工		置換	置換材量 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ³	地盤改良工	置換工	置換	置換材量 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ³	地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材量費の有無	m ³	10		<p>削除</p> <p>現行どおり</p>	<p>積算基準改定に伴う削除</p>
種 別	種 別	規 格	単 位	数 値	備 考																																																																																																																																											
舗装工	転圧コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																											
舗装工	連続鉄筋コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																											
舗装工	縦目地	目地材種類・厚さ	m	1																																																																																																																																												
舗装工	横目地	目地形式	m	1																																																																																																																																												
舗装工	薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																											
舗装工	舗装工(ICT)	下層路盤(車道・路肩部)(ICT)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																										
舗装工		上層路盤(車道・路肩部)(ICT)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																										
舗装工		インターロッキングブロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工機械	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																										
舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																										
舗装工	踏掛版工	踏掛版	コンクリート規格 鉄筋材規格・径	m ³	1																																																																																																																																											
舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 厚さ 排水性舗装用の有無	m	10	ただし100m未満の場合は1m																																																																																																																																										
舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1																																																																																																																																											
地盤改良工	路床安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m ² あたり使用量 固化剤の種類	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																										
地盤改良工	自走式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m ² あたり使用量 固化剤の種類	m ³	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ³																																																																																																																																										
地盤改良工	表面安定処理	サンドマット	砂材量費の有無	m ³	10																																																																																																																																											
地盤改良工		安定シート・ネット	シート種類	m ²	10																																																																																																																																											
地盤改良工		表面混合処理		m ²	10																																																																																																																																											
地盤改良工		置換	置換材量 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ³																																																																																																																																										
地盤改良工	置換工	置換	置換材量 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ³																																																																																																																																										
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材量費の有無	m ³	10																																																																																																																																											
1-1-13																																																																																																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 2/5																																																																																																																																													

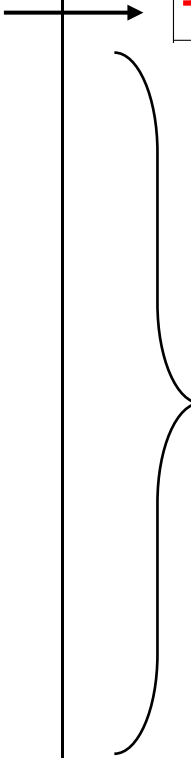
改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																																																																												
現	行	改 正	備 考																																																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>組別</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート構造物</td> <td>暗渠工</td> <td>プレキャストボックス</td> <td>内幅 内高</td> <td>m 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>帯状構造物(小規模)工</td> <td></td> <td>幅 高さ コンクリート規格</td> <td>m 1</td> <td>各種ブロック(既製品共)H=2.0m未満の擁壁類</td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>帯状構造物(大規模)工</td> <td></td> <td>コンクリート規格 幅 高さ</td> <td>m 0.1</td> <td>H=2.0m以上の擁壁類</td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>排水構造物工</td> <td></td> <td>管規格</td> <td>m 1</td> <td>ただし径1m以上の管渠類の場合は0.1m</td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>排水構造物工</td> <td>現場排水路</td> <td>内幅(復単不使用の場合) 内高(復単不使用の場合) コンクリート規格</td> <td>m 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>排水構造物工</td> <td>縦排水・小段排水</td> <td>U型側溝の種類 U型側溝の規格 内幅(各種の場合) 内高(各種の場合) 作業区分 コンクリート打設の有無 コンクリート規格 目地板の有無 目地板の種類 目地板の種類(各種の場合)</td> <td>m 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>場所打面渠工(構造物単位)</td> <td>面渠</td> <td>内幅 内高 コンクリート規格</td> <td>m² 1</td> <td></td> </tr> <tr style="border: 2px solid red;"> <td>構造物</td> <td>排水性舗装用路肩排水工</td> <td>透水性側溝コンクリート</td> <td></td> <td>m² 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>橋脚架設工</td> <td>橋脚架設</td> <td>鋼材規格</td> <td>t 0.1</td> <td>ただしt未満の場合は0.01t</td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td>製作工</td> <td>製作加工</td> <td>ボルト・ナット</td> <td>組 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>スタッドシベル</td> <td>径・長さ</td> <td>本 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>バックアップ</td> <td>材質</td> <td>m² 0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>充填シール</td> <td>材質</td> <td>m² 0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>アンカーボルト</td> <td>材質・径・長さ アンカー材規格</td> <td>組 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td>鋳造費</td> <td>金属支承</td> <td>支承規格</td> <td>個 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>大型ゴム支承</td> <td>支承規格</td> <td>個 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>排水柵</td> <td>柵規格</td> <td>個 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>橋名板</td> <td>材質</td> <td>枚 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td></td> <td>橋脚板</td> <td>材質</td> <td>枚 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工場製作工</td> <td>工場塗装工</td> <td>前処理</td> <td>材料種類</td> <td>m² 10</td> <td>ただし100m²未満の場合は1m²</td> </tr> </tbody> </table>		種別	組別	規格	単位	数値	備考	コンクリート構造物	暗渠工	プレキャストボックス	内幅 内高	m 1		構造物	帯状構造物(小規模)工		幅 高さ コンクリート規格	m 1	各種ブロック(既製品共)H=2.0m未満の擁壁類	構造物	帯状構造物(大規模)工		コンクリート規格 幅 高さ	m 0.1	H=2.0m以上の擁壁類	構造物	排水構造物工		管規格	m 1	ただし径1m以上の管渠類の場合は0.1m	構造物	排水構造物工	現場排水路	内幅(復単不使用の場合) 内高(復単不使用の場合) コンクリート規格	m 1		構造物	排水構造物工	縦排水・小段排水	U型側溝の種類 U型側溝の規格 内幅(各種の場合) 内高(各種の場合) 作業区分 コンクリート打設の有無 コンクリート規格 目地板の有無 目地板の種類 目地板の種類(各種の場合)	m 1		構造物	場所打面渠工(構造物単位)	面渠	内幅 内高 コンクリート規格	m ² 1		構造物	排水性舗装用路肩排水工	透水性側溝コンクリート		m ² 1		構造物	橋脚架設工	橋脚架設	鋼材規格	t 0.1	ただしt未満の場合は0.01t	工場製作工	製作工	製作加工	ボルト・ナット	組 1		工場製作工		スタッドシベル	径・長さ	本 1		工場製作工		バックアップ	材質	m ² 0.1		工場製作工		充填シール	材質	m ² 0.1		工場製作工		アンカーボルト	材質・径・長さ アンカー材規格	組 1		工場製作工	鋳造費	金属支承	支承規格	個 1		工場製作工		大型ゴム支承	支承規格	個 1		工場製作工		排水柵	柵規格	個 1		工場製作工		橋名板	材質	枚 1		工場製作工		橋脚板	材質	枚 1		工場製作工	工場塗装工	前処理	材料種類	m ² 10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <table border="1"> <tr> <td>構造物</td> <td>面渠工(大型ボックスカルバート工)</td> <td>プレキャストボックス</td> <td>製品長 分割数 内高寸法</td> <td>m</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造物</td> <td>面渠工(大型ボックスカルバート工)</td> <td>止水シート</td> <td>幅・規格等</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	構造物	面渠工(大型ボックスカルバート工)	プレキャストボックス	製品長 分割数 内高寸法	m	0.1		構造物	面渠工(大型ボックスカルバート工)	止水シート	幅・規格等	m	1		新規追加
種別	組別	規格	単位	数値	備考																																																																																																																																										
コンクリート構造物	暗渠工	プレキャストボックス	内幅 内高	m 1																																																																																																																																											
構造物	帯状構造物(小規模)工		幅 高さ コンクリート規格	m 1	各種ブロック(既製品共)H=2.0m未満の擁壁類																																																																																																																																										
構造物	帯状構造物(大規模)工		コンクリート規格 幅 高さ	m 0.1	H=2.0m以上の擁壁類																																																																																																																																										
構造物	排水構造物工		管規格	m 1	ただし径1m以上の管渠類の場合は0.1m																																																																																																																																										
構造物	排水構造物工	現場排水路	内幅(復単不使用の場合) 内高(復単不使用の場合) コンクリート規格	m 1																																																																																																																																											
構造物	排水構造物工	縦排水・小段排水	U型側溝の種類 U型側溝の規格 内幅(各種の場合) 内高(各種の場合) 作業区分 コンクリート打設の有無 コンクリート規格 目地板の有無 目地板の種類 目地板の種類(各種の場合)	m 1																																																																																																																																											
構造物	場所打面渠工(構造物単位)	面渠	内幅 内高 コンクリート規格	m ² 1																																																																																																																																											
構造物	排水性舗装用路肩排水工	透水性側溝コンクリート		m ² 1																																																																																																																																											
構造物	橋脚架設工	橋脚架設	鋼材規格	t 0.1	ただしt未満の場合は0.01t																																																																																																																																										
工場製作工	製作工	製作加工	ボルト・ナット	組 1																																																																																																																																											
工場製作工		スタッドシベル	径・長さ	本 1																																																																																																																																											
工場製作工		バックアップ	材質	m ² 0.1																																																																																																																																											
工場製作工		充填シール	材質	m ² 0.1																																																																																																																																											
工場製作工		アンカーボルト	材質・径・長さ アンカー材規格	組 1																																																																																																																																											
工場製作工	鋳造費	金属支承	支承規格	個 1																																																																																																																																											
工場製作工		大型ゴム支承	支承規格	個 1																																																																																																																																											
工場製作工		排水柵	柵規格	個 1																																																																																																																																											
工場製作工		橋名板	材質	枚 1																																																																																																																																											
工場製作工		橋脚板	材質	枚 1																																																																																																																																											
工場製作工	工場塗装工	前処理	材料種類	m ² 10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																										
構造物	面渠工(大型ボックスカルバート工)	プレキャストボックス	製品長 分割数 内高寸法	m	0.1																																																																																																																																										
構造物	面渠工(大型ボックスカルバート工)	止水シート	幅・規格等	m	1																																																																																																																																										
1-1-20																																																																																																																																															
積算上の注意事項			(控え頁) 3/5																																																																																																																																												

改正理由	一部改正	改 正 現 行	
------	------	------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

河川構造物	種 別	細 別	規 格	単 位	数 値	備 考
	鋼製堰堤本体工	鋼製枠(格子・スリット)	鋼製砂防形式 塗装種別(中塗) 塗装種別(上塗)	t	1	
砂防	コンクリート・鋼製堰堤本体・副堤工	堤冠コンクリート	セメント種類 コンクリート規格	m ²	1	
砂防		本抜暗渠	管径 管種類 管長さ	m	0.1	
砂防		鋼製枠	型式	t	0.1	
砂防		枠内中詰	土質	m ²	1	
砂防		岸堤	安全ネットの有無	m	1	
砂防		隔壁コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 高さ	m ²	1	
砂防		均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
砂防		残存型枠	型枠の種類	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
砂防	鋼製砂防工	本締め	木	本	1	
砂防		アンカー	アンカーボルト規格	本	1	
砂防		現場塗装	塗装種別	m ²	1	
砂防	コンクリート側壁工	均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
砂防		本抜暗渠	管径 管種類 管長さ	m	0.1	
砂防	集排水ボーリング工	ボーリング	施工場所 土質区分 呼び径	m	0.1	
砂防		ボーリング洗浄		m	0.1	
砂防		保孔管	保孔管材質・種類 施工場所 ストレート加工の有無	m	1	
砂防		ボーリング仮設機材		回	1	
砂防	集水井工	集水井抽削	径径 土留材料	m	1	
砂防		井戸中詰	土質	m ²	1	
砂防		プレキャスト井筒	ブロック規格	m	1	
砂防		固定基礎コンクリート	タイプ	m	1	
砂防		底張コンクリート	構造物種別 コンクリート規格	m ²	1	

砂防	鋼製堰堤本体工	鋼製枠(格子・スリット)	鋼製砂防形式 塗装種別(中塗) 塗装種別(上塗)	t	0.1	
----	---------	--------------	--------------------------------	---	-----	--

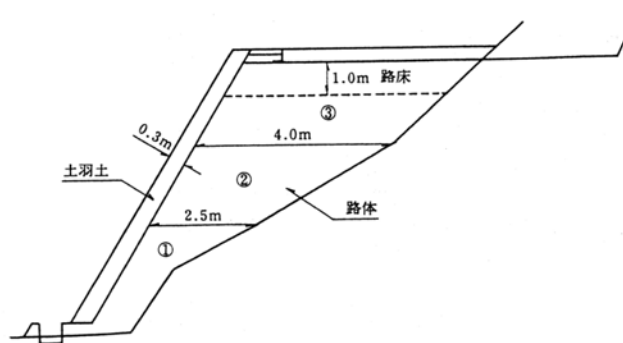


記載の修正

1-1-27

積算上の注意事項			(控え頁) 4/5
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																																																														
現 行		改 正	備 考																																																																																																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">種 別</th> <th style="width: 10%;">細 別</th> <th style="width: 20%;">規 格</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 値</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路維持</td> <td>側溝清掃(機械)</td> <td>作業形態</td> <td>km</td> <td>0.01</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>管渠清掃</td> <td>作業形態 作業量区分 排水管清掃車使用区分 側溝清掃車使用区分 散水車の使用区分 散水車機種</td> <td>m</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>橋清掃</td> <td>作業形態 機械使用区分 土砂厚</td> <td>箇所</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>橋梁清掃工</td> <td>伸縮継手清掃</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>排水管清掃</td> <td>m</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr style="border: 2px solid red;"> <td>道路維持</td> <td>道路付属物清掃工</td> <td>ガードレール清掃</td> <td>km</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>ガードハイブ清掃</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>トンネル照明器具清掃(機械)</td> <td>km</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>トンネル照明器具清掃(人力)</td> <td>灯</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>現設誘導標清掃</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>トンネル壁面清掃</td> <td>m²</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>道路除草工</td> <td>除草</td> <td>m²</td> <td>1,000</td> <td>ただし100,000m²未満の場合は100m²</td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>応急処理工</td> <td>応急作業</td> <td>日</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>冬季安全施設工</td> <td>スノーポール設置・撤去</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>作業区分 スノーポール材料の計上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>防雪機</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>防雪防護種類 機高</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>落雪(せり出し)防護機</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>防雪機現地引出・収納</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>防雪機種類 作業区分</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		種 別	細 別	規 格	単 位	数 値	備 考	道路維持	側溝清掃(機械)	作業形態	km	0.01		道路維持	管渠清掃	作業形態 作業量区分 排水管清掃車使用区分 側溝清掃車使用区分 散水車の使用区分 散水車機種	m	10		道路維持	橋清掃	作業形態 機械使用区分 土砂厚	箇所	1		道路維持	橋梁清掃工	伸縮継手清掃	m	1		道路維持		排水管清掃	m	10		道路維持	道路付属物清掃工	ガードレール清掃	km	0.1		道路維持		ガードハイブ清掃	m	1		道路維持		トンネル照明器具清掃(機械)	km	0.1		道路維持		トンネル照明器具清掃(人力)	灯	1		道路維持		現設誘導標清掃	本	1		道路維持		トンネル壁面清掃	m ²	1		道路維持	道路除草工	除草	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²	道路維持	応急処理工	応急作業	日	1		道路維持	冬季安全施設工	スノーポール設置・撤去	本	1		道路維持		作業区分 スノーポール材料の計上				道路維持		防雪機	m	1		道路維持		防雪防護種類 機高	m	1		道路維持		落雪(せり出し)防護機	m	1		道路維持		防雪機現地引出・収納	m	1		道路維持		防雪機種類 作業区分	m	1		<p>現行どおり</p> <p>削除</p> <p>現行どおり</p>	<p>積算基準改定に伴う削除</p>
種 別	細 別	規 格	単 位	数 値	備 考																																																																																																																												
道路維持	側溝清掃(機械)	作業形態	km	0.01																																																																																																																													
道路維持	管渠清掃	作業形態 作業量区分 排水管清掃車使用区分 側溝清掃車使用区分 散水車の使用区分 散水車機種	m	10																																																																																																																													
道路維持	橋清掃	作業形態 機械使用区分 土砂厚	箇所	1																																																																																																																													
道路維持	橋梁清掃工	伸縮継手清掃	m	1																																																																																																																													
道路維持		排水管清掃	m	10																																																																																																																													
道路維持	道路付属物清掃工	ガードレール清掃	km	0.1																																																																																																																													
道路維持		ガードハイブ清掃	m	1																																																																																																																													
道路維持		トンネル照明器具清掃(機械)	km	0.1																																																																																																																													
道路維持		トンネル照明器具清掃(人力)	灯	1																																																																																																																													
道路維持		現設誘導標清掃	本	1																																																																																																																													
道路維持		トンネル壁面清掃	m ²	1																																																																																																																													
道路維持	道路除草工	除草	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²																																																																																																																												
道路維持	応急処理工	応急作業	日	1																																																																																																																													
道路維持	冬季安全施設工	スノーポール設置・撤去	本	1																																																																																																																													
道路維持		作業区分 スノーポール材料の計上																																																																																																																															
道路維持		防雪機	m	1																																																																																																																													
道路維持		防雪防護種類 機高	m	1																																																																																																																													
道路維持		落雪(せり出し)防護機	m	1																																																																																																																													
道路維持		防雪機現地引出・収納	m	1																																																																																																																													
道路維持		防雪機種類 作業区分	m	1																																																																																																																													
積算上の注意事項	1-1-43		(控え頁) 5/5																																																																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行	
現行	改正		備考
<p>② ①以外の法面工の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料でない場合に区分する。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>また、路体（築堤）盛土は施工幅員、路床盛土は平均幅員により下記のとおり区分して算出する。</p> <p>① 2.5 m未満 ② 2.5 m以上4.0 m未満 ③ 4.0 m以上</p> </div>  <p>2) 断面積（河川） 「2. 数量算出項目（2）盛土」を参照の上算出する。 ただし、土羽土を計上する場合の堤体盛土量は、下記により算出する。</p> <p>盛土</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 路体（築堤）盛土 ├ 土羽土（必要により） └ 路体（築堤）盛土（ICT） <p>路体（築堤）盛土 $V_0 = \text{全体盛土}V - V_1$ 土羽土 $V_1 = A(m^2) \times 0.3(m)$ 面積 $A = \text{平均法長}(\ell) \times \text{延長}(L)$</p> <p>また、路体（築堤）盛土は、施工幅員により下記のとおり区分して算出する。（1）断面積（道路）参照</p> <p>① 2.5 m未満 ② 2.5 m以上4.0 m未満 ③ 4.0 m以上</p> <p style="text-align: center;">1-2-11</p>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>また、路体（築堤）盛土、路床盛土は施工幅員、路床盛土は平均幅員により下記のとおり区分して算出する。</p> <p>① 2.5 m未満 ② 2.5 m以上4.0 m未満 ③ 4.0 m以上</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>		<p>記載の追加・削除</p>
積算上の注意事項			<p style="text-align: right;">（控え頁）</p> <p style="text-align: right;">1/1</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

1. 適用

超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。

2. 数量算出項目

発泡スチロール設置、発泡スチロール（材料費）、緊結金具（材料費）、コンクリート床版、支柱結合アンカー（材料費）、支柱設置、支柱（材料費）、壁面材設置、壁面材（材料費）、裏込砕石（軽量盛土）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、雑工種、生コンクリート規格、養生工、圧送管延長距離、床板厚さ、溶接金網規格、鉄筋量、盛土高、附帯工の割合、砕石の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	鉄筋量	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考
発泡スチロール設置		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
発泡スチロール（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
緊結金具（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		
コンクリート床版		○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	m ³		
支柱結合アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
支柱設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
壁面材設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²		
壁面材（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²		
裏込砕石（軽量盛土）		○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	m ³		

注) 1. 軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ10mm以下）、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、敷砂（敷均し厚10cm以下）を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。

次頁より移動

1-3-2

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報													単位	数量	備考
			規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	鉄筋量	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類					
発泡スチロール設置		A	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³	
発泡スチロール（材料費）		A	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³	
緊結金具（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個	
コンクリート床版		A	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	m ³	
支柱結合アンカー（材料費）		A	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³	
支柱設置		B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本	
支柱（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本	
壁面材設置		B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²	
壁面材（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²	
裏込砕石（軽量盛土）		B	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	m ³	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照とする。

注) 1. 軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ10mm以下）、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、敷砂（敷均し厚10cm以下）を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。

2. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。
3. 発泡スチロールブロックの固定のためにL型ピンを設置が必要な場合は別途考慮する。

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁)
		1/2

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改	正
<p>2. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>3. 発泡スチロールブロックの固定のためにL型ピンを設置が必要な場合は別途考慮する。</p> <p>4. コンクリート床版にグラウンドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。</p> <p>5. ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はH300mm×300mm以下、長さ9m以下)を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>6. 壁面材1枚当りの規格は、長さ2.5m以下、幅0.6m以下、重量170kg以下を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>(2) 発泡スチロール設置の雑工種による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>雑工種</p> <ul style="list-style-type: none"> — 排水材+基礎砕石+敷砂 — 排水材+基礎砕石 — 排水材+敷砂 — 基礎砕石+敷砂 — 排水材 — 基礎砕石 — 敷砂 — 無し <p>(3) コンクリート床版の養生工による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工</p> <ul style="list-style-type: none"> — 一般養生 — 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) <p>(4) コンクリート床版の生コンクリート規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>圧送管延長距離</p> <ul style="list-style-type: none"> — 延長無し — 50m 未満 — 50m 以上 100m 未満 — 100m 以上 150m 以下 <p>注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。</p> <p>(5) コンクリート床版の床版厚さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>床版厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 10cm — 15cm <p>(6) 裏込砕石(軽量盛土)の盛土高による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>盛土高</p> <ul style="list-style-type: none"> — 6m 以下 — 6m 超え(付帯工有り) <p style="text-align: center;">1-3-3</p>		<p>前頁へ移動</p> <p>現行どおり</p>	
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4.4 張りコンクリート工

1. 適用

張りコンクリート工(コンクリートの厚さが平均5cm以上10cm以下)に適用する。

2. 数量算出項目

張りコンクリートの数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、対象構造物、施工区分、コンクリート規格、目地材の有無とする。

(1)数量算出項目及び区分一覧表

1)張りコンクリート		区分	対象 構造物	施工 区分	コンクリート 規格	目地材 の有無	単 位	数 量	備 考
項目	区分								
コンクリート		○	○	○	○	○	m ²		
型 枠		○					m ²		

(2)対象構造物区分

- 下記の通り、対象構造物ごとに区分して算出する。
- ①縦排水溝
 - ②小段排水溝
 - ③防草コンクリート

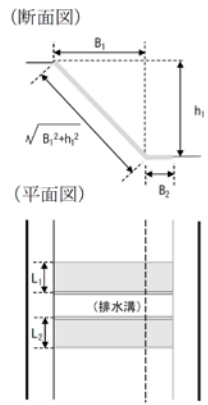
4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。
※対象構造物の幅、長さが一定でない場合は、平均値を用いて算出することとする。

(1)縦排水溝

$$S = (L_1+L_2) \times \sqrt{(B_1^2+h_1^2)} + (L_1+L_2) \times B_2 \quad (m^2)$$

- S : 張りコンクリート面積(m²)
- B₁ : 対象構造物の幅(m)
- B₂ : 対象構造物の幅(m)
- h₁ : 対象構造物の高さ(m)
- L₁ : 対象構造物の長さ(m)
- L₂ : 対象構造物の長さ(m)



現行どおり

(1)数量算出項目及び区分一覧表

1)張りコンクリート		区分	対象 構造物	施工 区分	コンクリート 規格	目地材 の有無	単 位	数 量	備 考
項目	区分	3次元 モデル							
コンクリート		B	○	○	○	○	m ²		
型 枠		B	○				m ²		

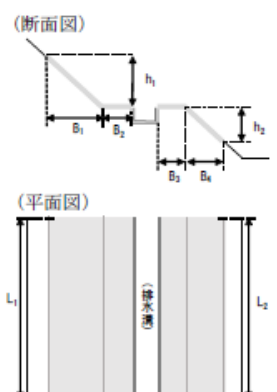
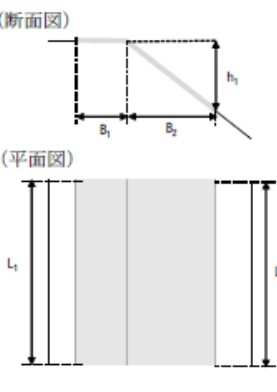
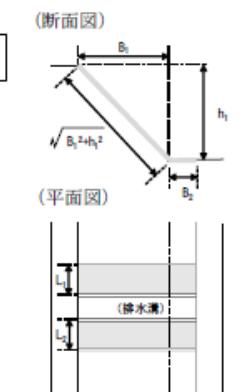
3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

現行どおり

次頁へ移動


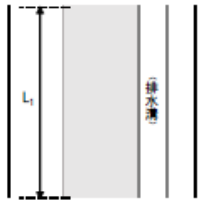
記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/4
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現行	改正		備考
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>(2) 小段排水溝</p> $S = (L_1 \times \sqrt{B_1^2 + h_1^2}) + (L_1 \times B_2) + (L_2 \times B_3) + (L_2 \times \sqrt{B_4^2 + h_2^2}) \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) B₃ : 対象構造物の幅 (m) B₄ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) h₂ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p>  <p>(3) 防草コンクリート (法肩部)</p> $S = (L_1 \times B_1) + (L_2 \times \sqrt{B_2^2 + h_1^2}) \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p>  <p style="text-align: center;">1-4-14</p>	<p style="text-align: center;">(1) 縦排水溝</p> $S = (L_1 + L_2) \times \sqrt{B_1^2 + h_1^2} + (L_1 + L_2) \times B_2 \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p>  <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 2/4

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現 行	改 正		備 考
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(4) 防草コンクリート (法尻部)</p> $S = (L_1 \times \sqrt{B_1^2 + h_1^2}) + (L_2 \times B_2) \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p> </div> <div style="width: 45%; border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(5) 防草コンクリート (排水部)</p> $S = L_1 \times B_1 \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">1-4-15</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px; width: 80%;"> <p>(3) 防草コンクリート (法肩部)</p> $S = (L_1 \times B_1) + (L_2 \times \sqrt{B_2^2 + h_1^2}) \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p> </div> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p> </div>		
積算上の注意事項			(控え頁) 3/4

工 種	張りコンクリート工
-----	-----------

改正理由	一部改正		改正 現行	
現 行	改 正			備 考
	<p style="text-align: center;">前頁より移動 →</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin: 20px auto; width: fit-content;"> <p>(5) 防草コンクリート (排水部)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> $S = L_1 \times B_1 \quad (\text{m}^2)$ </div> <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>(断面図)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(平面図)</p>  </div> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">1-4-16</p>			
積算上の注意事項				(控え頁) 4/4

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

5章 法覆工

5.1 法枠工

5.1.1 プレキャスト法枠工

1. 適用

プレキャストブロックによる法枠工に適用する。

2. 数量算出項目

プレキャストブロック、中詰等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、中詰種類、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	中詰種類	規格	単位	数量	備考
プレキャストブロック		○	○	m ²		中詰面積を含めた面積とする
敷砂利		○	○	m ³		必要な場合算出
中客土	中詰フロック	×	○	m ²		法枠面積を含めた面積とする
	中詰張コンクリート	×	○	m ³		
	中詰張芝	×	○	m ²		
	植生土のう	×	○	袋		
詰	栗石(割石)	×	○	m ³		
	砕石	×	○	m ³		

- 注) 1. プレキャストブロックについては、アンカー及び吸出防止材の有無に区分し算出する。
 2. プレキャストブロック及び中詰めブロックについては、1㎡当りプレキャストブロック使用量(個)も算出する。
 3. 中詰ブロックについては、段数(1~2段or 2段を超える)ごとに区分し算出する。
 4. 足場工が必要な場合は別途算出する。
 5. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			中詰種類	規格	単位	備考
プレキャストブロック		B	○	○	m ²	中詰面積を含めた面積とする
敷砂利		C	○	○	m ³	必要な場合算出
中客土	中詰フロック	B	×	○	m ²	法枠面積を含めた面積とする
	中詰張コンクリート	B	×	○	m ³	
	中詰張芝	B	×	○	m ²	
	植生土のう	B	×	○	袋	
詰	栗石(割石)	B	×	○	m ³	
	砕石	B	×	○	m ³	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. プレキャストブロックについては、アンカー及び吸出防止材の有無に区分し算出する。
 2. プレキャストブロック及び中詰めブロックについては、1㎡当りプレキャストブロック使用量(個)も算出する。
 3. 中詰ブロックについては、段数(1~2段or 2段を超える)ごとに区分し算出する。
 4. 足場工が必要な場合は別途算出する。
 5. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

記載の追加

1-5-2

積算上の注意事項

(控え頁)

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

5.1.2 現場打法砕工

1. 適用

現場打法砕工に適用する。

2. 数量算出項目

現場打法砕、コンクリート、型枠、鉄筋、中詰等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、中詰種類、規格、施工方法とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	中詰種類	規格	施工方法	単位	数量	備考
現場打法砕		○	×	×	m ²		施工面積
コンクリート		○	○	○	m ³		
型 枠		○	×	×	m ²		小型構造物 (1)
鉄 筋		○	○	×	t		
敷 砂 利		○	○	×	m ³		必要な場合算出
吸出防止材		○	○	×	m ²		必要な場合算出
ア ン カ ー		○	○	×	本		必要な場合算出
中	中詰ブロック	×	○	×	m ²		
	中詰張コンクリート	×	○	×	m ³		
	中 詰 張 芝	×	○	×	m ²		
	客 土	×	○	×	m ³		
詰	植生土のう	×	○	×	袋		
	栗石 (割石)	×	○	×	m ³		
	砕 石	×	○	×	m ³		

注) 1. 足場が必要な場合は別途算出する。
2. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

1-5-4

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			中詰種類	規格	施工方法				
現場打法砕		B	○	×	×	m ²		施工面積	
コンクリート		A	○	○	○	m ³			
型 枠		B	○	×	×	m ²		小型構造物 (1)	
鉄 筋		B	○	○	×	t			
敷 砂 利		C	○	○	×	m ³		必要な場合算出	
吸出防止材		C	○	○	×	m ²		必要な場合算出	
ア ン カ ー		C	○	○	×	本		必要な場合算出	
中	中詰ブロック	B	×	○	×	m ²			
	中詰張コンクリート	B	×	○	×	m ³			
	中 詰 張 芝	B	×	○	×	m ²			
	客 土	B	×	○	×	m ³			
詰	植生土のう	B	×	○	×	袋			
	栗石 (割石)	B	×	○	×	m ³			
	砕 石	B	×	○	×	m ³			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 足場が必要な場合は別途算出する。
2. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

5.1.3 吹付砕工

1. 適用

金網メッシュ、プラスチック段ボール等の自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を用い鉄筋を含む吹付砕工に適用する。

2. 数量算出項目

吹付砕、ラス張、水切モルタル・コンクリート、表面コテ仕上げ、法面清掃、枠内吹付・中詰等の数量を区分毎に算出する。

3. 区分

区分は、規格、垂直高とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	法面の垂直高	単位	数量	備考
吹付砕		○	○	m		目地が必要な場合は、別途算出する。
ラス張		×	×	m ²		必要に応じて計上する 全面積対象
水切モルタル・コンクリート		×	×	m ³		必要に応じて計上する
表面コテ仕上げ		×	×	m ²		〃
法面清掃		×	×	m ²		必要に応じて計上する 全面積対象
枠内吹付 枠内中詰	モルタル	○	○	m ²		必要に応じて計上する
	コンクリート	○	○	m ²		〃
	植生基材	○	○	m ²		〃
	枠内中詰	○	○	各種		〃

注) グラウトアーカーは、「第1編(共通編)11章仮設工11.107アーカー」、ロックホトは、「第1編(共通編)11章仮設工11.11鉄筋挿入工」により必要に応じて別途算出すること。

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報				備考
			規格	法面の垂直高	単位	数量	
吹付砕		B	○	○	m		目地が必要な場合は、別途算出する。
ラス張		B	×	×	m ²		必要に応じて計上する 全面積対象
水切モルタル・コンクリート		B	×	×	m ³		必要に応じて計上する
表面コテ仕上げ		B	×	×	m ²		〃
法面清掃		B	×	×	m ²		必要に応じて計上する 全面積対象
枠内吹付 枠内中詰	モルタル	B	○	○	m ²		必要に応じて計上する
	コンクリート	B	○	○	m ²		〃
	植生基材	B	○	○	m ²		〃
	枠内中詰	B	○	○	各種		〃

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) グラウトアーカーは、「第1編(共通編)11章仮設工11.107アーカー」、ロックホトは、「第1編(共通編)11章仮設工11.11鉄筋挿入工」により必要に応じて別途算出すること。

記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 1/1
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																																				
現 行		改 正																																																				
備 考																																																						
<p>5.1.4 プレキャストコンクリート板設置工</p> <p>1. 適用</p> <p>グラウンドアンカーとプレキャストコンクリート板を緊結することにより、斜面等の安定化を図る工法に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>プレキャストコンクリート板、プレキャストコンクリート板（材料費）、ジョイント処理、ジョイント金物（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、フレームタイプ、1列当り平均据付枚数、モルタル規格、モルタル使用量（m³/箇所）とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>フレームタイプ</th> <th>1列当り平均据付枚数</th> <th>モルタル規格</th> <th>モルタル使用量 (m³/箇所)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャストコンクリート板</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャストコンクリート板 (材料費)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジョイント処理</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジョイント金物 (材料費)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) プレキャストコンクリート板のフレームタイプによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>プレキャストコンクリート板</p> <ul style="list-style-type: none"> └─ クロスタイプ └─ セミスクエアタイプ・スクエアタイプ <p>(3) プレキャストコンクリート板の1列当り平均据付枚数による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>1列当り平均据付枚数</p> <ul style="list-style-type: none"> └─ 20枚未満 └─ 20枚以上30枚未満 └─ 30枚以上 <p>(4) ジョイント処理のモルタル規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>モルタル規格</p> <ul style="list-style-type: none"> └─ 1:3モルタル（普通） └─ 1:3モルタル（高炉B） └─ モルタル不要 <p style="text-align: center;">1-5-9</p>		項目	区分	規格	フレームタイプ	1列当り平均据付枚数	モルタル規格	モルタル使用量 (m ³ /箇所)	単位	数量	備考	プレキャストコンクリート板		○	○	○	×	×	枚			プレキャストコンクリート板 (材料費)		○	×	×	×	×	枚			ジョイント処理		○	×	×	○	○	箇所			ジョイント金物 (材料費)		○	×	×	×	×	組			<p>現行どおり</p> <p>→</p> <p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	フレームタイプ	1列当り平均据付枚数	モルタル規格	モルタル使用量 (m ³ /箇所)	単位	数量	備考																																													
プレキャストコンクリート板		○	○	○	×	×	枚																																															
プレキャストコンクリート板 (材料費)		○	×	×	×	×	枚																																															
ジョイント処理		○	×	×	○	○	箇所																																															
ジョイント金物 (材料費)		○	×	×	×	×	組																																															
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																			

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																						
現 行		改 正																																																																																																						
<p>(5) ジョイント処理のモルタル使用量 (m³/箇所) による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>モルタル使用量 (m³/箇所)</p> <ul style="list-style-type: none"> — 0.016m³ 以下 — 0.016m³ 超え0.032m³ 以下 — 0.032m³ 超え0.050m³ 以下 		<p>現行どおり</p>																																																																																																						
<table border="1"> <caption>関連数量算出項目</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔 (アンカー)</td> <td>m</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>グラウト注入 (アンカー)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>ボーリングマシン移設 (アンカー)</td> <td>回</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>泥排水処理工</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>アンカー (材料費)</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>裏込工</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>ジョイント処理工 (スクエアタイプ)</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>目地工 (スクエアタイプ)</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>空m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) プレキャストコンクリート板 (材料費) は、規格ごとに枚数を算出する。</p> <p>(2) ジョイント金物 (材料費) は、ジョイント金物の他、連結ボルト等、必要な金具類を含み、規格ごとにジョイント1組当りの必要数量及び組数を算出する。</p> <p>(3) 斜面とプレキャストコンクリート板との間に発生する空隙に対して、裏込工を施工する場合は、別途考慮する。</p> <p>(4) スクエアタイプにおけるジョイント処理及び目地工は、別途考慮する。</p> <p>(5) プレキャストコンクリート板の1列当り平均据付枚数は、下式により算出する。 1列当り平均据付枚数=総据付枚数÷施工列数</p> <p>(6) 1列当り平均据付枚数は、1工事単位とする</p> <p>1-5-10</p>		項目	単位	数量	備考	削孔 (アンカー)	m		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	グラウト注入 (アンカー)	m ³		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	ボーリングマシン移設 (アンカー)	回		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	泥排水処理工	m ³		必要な場合別途計上	アンカー (材料費)	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	裏込工	m ³		必要な場合別途計上	ジョイント処理工 (スクエアタイプ)	箇所		必要な場合別途計上	目地工 (スクエアタイプ)	m		必要な場合別途計上	足場工	空m ³		必要な場合別途計上	<table border="1"> <caption>関連数量算出項目</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="2">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔 (アンカー)</td> <td>B</td> <td>m</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)</td> <td>B</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>グラウト注入 (アンカー)</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>ボーリングマシン移設 (アンカー)</td> <td>C</td> <td>回</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>泥排水処理工</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>アンカー (材料費)</td> <td>B</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>裏込工</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>ジョイント処理工 (スクエアタイプ)</td> <td>C</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>目地工 (スクエアタイプ)</td> <td>C</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>C</td> <td>空m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>記載の追加</p>		項目	3次元モデル	属性情報		備考	単位	数量	削孔 (アンカー)	B	m		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)	B	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	グラウト注入 (アンカー)	C	m ³		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	ボーリングマシン移設 (アンカー)	C	回		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	泥排水処理工	C	m ³		必要な場合別途計上	アンカー (材料費)	B	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照	裏込工	C	m ³		必要な場合別途計上	ジョイント処理工 (スクエアタイプ)	C	箇所		必要な場合別途計上	目地工 (スクエアタイプ)	C	m		必要な場合別途計上	足場工	C	空m ³		必要な場合別途計上
項目	単位	数量	備考																																																																																																					
削孔 (アンカー)	m		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																					
アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																					
グラウト注入 (アンカー)	m ³		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																					
ボーリングマシン移設 (アンカー)	回		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																					
泥排水処理工	m ³		必要な場合別途計上																																																																																																					
アンカー (材料費)	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																					
裏込工	m ³		必要な場合別途計上																																																																																																					
ジョイント処理工 (スクエアタイプ)	箇所		必要な場合別途計上																																																																																																					
目地工 (スクエアタイプ)	m		必要な場合別途計上																																																																																																					
足場工	空m ³		必要な場合別途計上																																																																																																					
項目	3次元モデル	属性情報		備考																																																																																																				
		単位	数量																																																																																																					
削孔 (アンカー)	B	m		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																				
アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)	B	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																				
グラウト注入 (アンカー)	C	m ³		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																				
ボーリングマシン移設 (アンカー)	C	回		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																				
泥排水処理工	C	m ³		必要な場合別途計上																																																																																																				
アンカー (材料費)	B	本		「第1編 (共通編) 11.10 アンカー工」参照																																																																																																				
裏込工	C	m ³		必要な場合別途計上																																																																																																				
ジョイント処理工 (スクエアタイプ)	C	箇所		必要な場合別途計上																																																																																																				
目地工 (スクエアタイプ)	C	m		必要な場合別途計上																																																																																																				
足場工	C	空m ³		必要な場合別途計上																																																																																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																																																																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																																
現行		改正																																																
<p>5.2 吹付工</p> <p>1. 適用</p> <p>モルタル吹付工、コンクリート吹付工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>モルタル吹付、コンクリート吹付の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、吹付厚さ、垂直高とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>吹付厚さ</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モルタル吹付</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>金網有無</td> </tr> <tr> <td>コンクリート吹付</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>金網有無</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. モルタル吹付、コンクリート吹付の補強鉄筋 (kg/m²) が必要な場合は別途算出する。また、金網 (m²) は、菱形金網と溶接金網で区分して算出する。 2. 通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。</p> <p>(2) 吹付厚さ区分 吹付厚さ (cm) ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 垂直高区分 法面の垂直高による区分は、下記のとおりとする。 ① 4.5m以下 ② 4.5mを超える</p> <p>注) 垂直高は、施工基面 (機械設置基面) からの高さとする。</p>		項目	区分	吹付厚さ	垂直高	単位	数量	備考	モルタル吹付	○	○	○	m ²		金網有無	コンクリート吹付	○	○	○	m ²		金網有無	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">区分情報</th> </tr> <tr> <th>吹付厚さ</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モルタル吹付</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>金網有無</td> </tr> <tr> <td>コンクリート吹付</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>金網有無</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照とする。</p> <p>注) 1. モルタル吹付、コンクリート吹付の補強鉄筋 (kg/m²) が必要な場合は別途算出する。また、金網 (m²) は、菱形金網と溶接金網で区分して算出する。 2. 通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	区分情報					吹付厚さ	垂直高	単位	数量	備考	モルタル吹付	B	○	○	m ²		金網有無	コンクリート吹付	B	○	○	m ²		金網有無
項目	区分	吹付厚さ	垂直高	単位	数量	備考																																												
モルタル吹付	○	○	○	m ²		金網有無																																												
コンクリート吹付	○	○	○	m ²		金網有無																																												
項目	区分	区分情報																																																
		吹付厚さ	垂直高	単位	数量	備考																																												
モルタル吹付	B	○	○	m ²		金網有無																																												
コンクリート吹付	B	○	○	m ²		金網有無																																												
積算上の注意事項		記載の追加																																																
		(控え頁)																																																
		1/1																																																

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

5.3 植生工

1. 適用
植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工、植生シート工、植生筋工、筋芝工、張芝工、市松芝工（格子状に張る場合）、人工張芝工（ネット又はワラ付張芝）、野芝種子吹付工、繊維ネット工、法面施肥工に適用する。
2. 数量算出項目
植生基材吹付、客土吹付、種子散布、植生マット、植生シート、植生筋、筋芝、張芝、市松芝、人工張芝、野芝種子吹付、繊維ネット、法面施肥の面積を区分ごとに算出する。
3. 区分
区分は、吹付厚さ、種子配合、法長、垂直高とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	吹付厚さ	種子配合	法長	垂直高	単位	数量	備考
植生基材吹付		○	○	×	○	m ²		注)1
客土吹付		○	○	×	○	m ²		
種子散布		×	○	×	○	m ²		注)5
植生マット		×	○	×	×	m ²		
植生シート		×	○	×	×	m ²		注)2
植生筋		×	×	×	×	m ²		注)3
筋芝		×	×	×	×	m ²		注)3
張芝		×	×	×	×	m ²		注)3、注)5
市松芝		×	×	×	×	m ²		注)3、注)4
人工張芝		×	×	×	×	m ²		
野芝種子吹付		×	×	×	×	m ²		注)6
繊維ネット		×	×	×	×	m ²		注)7
法面施肥		×	×	○	×	m ²		注)8

注) 1. 植生基材吹付については、通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。また、施工基面（機械設置基面）から上面への施工か、下面への施工であるかを区分して算出する。
2. 植生シートについては、標準品と環境品（分解【腐食】型及び循環型【間伐材等使用】）に区分して算出する。
3. 植生筋、筋芝、張芝、市松芝は、材料の総面積ではなく、対象となる法面等の施工面積を算出する。
4. 市松芝は平面部への高麗芝、野芝の芝付と、法面部への高麗芝、野芝の芝付、耳芝のみの施工の場合、公園工事の場合に区分して算出するものとする。散水養生、施肥が必要な場合は別途算出する。
5. 種子散布及び張芝については、平面部・法面部に区分せず合計を算出する。
6. 被覆シート張、養生（散水養生）が必要な場合は、別途算出する。
7. 繊維ネットは、肥料袋の有無でも区分して算出する。
8. 法面施肥は、肥料の使用量(g/m²)も算出する。また、法勾配を備考欄に明記する。

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	属性情報							
		3次元モデル	吹付厚さ	種子配合	法長	垂直高	単位	数量	備考
植生基材吹付		B	○	○	×	○	m ²		注)1
客土吹付		B	○	○	×	○	m ²		
種子散布		B	×	○	×	○	m ²		注)5
植生マット		B	×	○	×	×	m ²		
植生シート		B	×	○	×	×	m ²		注)2
植生筋		B	×	×	×	×	m ²		注)3
筋芝		B	×	×	×	×	m ²		注)3
張芝		B	×	×	×	×	m ²		注)3、注)5
市松芝		B	×	×	×	×	m ²		注)3、注)4
人工張芝		B	×	×	×	×	m ²		
野芝種子吹付		B	×	×	×	×	m ²		注)6
繊維ネット		B	×	×	×	×	m ²		注)7
法面施肥		B	×	×	○	×	m ²		注)8

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 植生基材吹付については、通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。また、施工基面（機械設置基面）から上面への施工か、下面への施工であるかを区分して算出する。
2. 植生シートについては、標準品と環境品（分解【腐食】型及び循環型【間伐材等使用】）に区分して算出する。
3. 植生筋、筋芝、張芝、市松芝は、材料の総面積ではなく、対象となる法面等の施工面積を算出する。
4. 市松芝は平面部への高麗芝、野芝の芝付と、法面部への高麗芝、野芝の芝付、耳芝のみの施工の場合、公園工事の場合に区分して算出するものとする。散水養生、施肥が必要な場合は別途算出する。

次頁へ移動

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

前頁より移動

(2) 施工箇所区分
植生筋工、筋芝、張芝、市松芝については、略図に名称を明示し施工箇所ごとに区分して算出する。

(河川略図例)

(道路略図例)

(3) 種子配合区分
種子配合毎に区分して算出する。

(4) 法長区分
法長による区分は、下表のとおりとする。

項 目	平均法長による区分		
法 面 施 肥	① 2.0m以下	② 2.0mを超え5.0m以下	③ 5.0mを超える

(5) 垂直高区分
法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

項 目	法面垂直高による区分		
植生基材吹付	① 4.0m以下	② 4.0mを超え8.0m以下	③ 8.0mを超える
客土吹付工	① 2.5m以下	② 2.5mを超える	
種子散布工	① 3.0m以下	② 3.0mを超える	

注) 垂直高は、施工基面（機械設置基面）からの高さとする。

1-5-13

現行どおり

5. 種子散布及び張芝については、平面部・法面部に区分せず合計を算出する。
 6. 被覆シート張、養生（散水養生）が必要な場合は、別途算出する。
 7. 繊維ネットは、肥料袋の有無でも区分して算出する。
 8. 法面施肥は、肥料の使用量(g/m²)も算出する。また、法勾配を備考欄に明記する。

(5) 垂直高区分
法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

項 目	法面垂直高による区分		
植生基材吹付	① <u>4.5m</u> 以下	② <u>4.5m</u> を超え8.0m以下	③ 8.0mを超える
客土吹付工	① 2.5m以下	② 2.5mを超える	
種子散布工	① 3.0m以下	② 3.0mを超える	

注) 垂直高は、施工基面（機械設置基面）からの高さとする。

積算上の注意事項		(控え頁) 2/2
----------	--	--------------

記載の修正

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

5.4 コンクリートブロック積(張)工

1. 適用
コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工及び緑化ブロック積工に適用する。
2. 数量算出項目
コンクリートブロック積、大型ブロック積、間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張、緑化ブロック積、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材(砕石)、遮水シート張、吸出防止材(全面)設置、植樹、現場打基礎コンクリート、天端コンクリート、プレキャスト基礎ブロック、小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリートの数量を区分ごとに算出する。
3. 区分
区分は、規格、構造とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①コンクリートブロック積

項目	区分	鉄筋規格	10m ² 当り 使用量	単位	数量	備考
コンクリートブロック積	○	○	○	m ²		

注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上450kg/個以下の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

②大型ブロック積

項目	区分	ブロック規格	水抜きパイプの有無	単位	数量	備考
大型ブロック積	○	○	○	m ²		

注) 1. 大型ブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量4,600kg/個以下、控え長500mm以上の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

③間知ブロック張

項目	区分	間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m ² 当り使用量	遮水シートの有無	単位	数量	備考
間知ブロック張	○	○	○	○	○	○	○	m ²		

注) 1. 間知ブロック張工は法勾配が1割以上、ブロック質量770kg/個以下の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯、天端コンクリートは別途計上する。
3. 間知ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①コンクリートブロック積

項目	区分	属性情報				
		3次元モデル	鉄筋規格	10m ² 当り 使用量	単位	数量
コンクリートブロック積	B	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照とする

注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上450kg/個以下の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

②大型ブロック積

項目	区分	属性情報				
		ブロック規格	水抜きパイプの有無	単位	数量	備考
大型ブロック積	B	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照とする

注) 1. 大型ブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量4,600kg/個以下、控え長500mm以上の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

記載の追加

記載の追加

次頁へ移動

改正理由	一部改正	改正 現 行	
------	------	-----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

前頁より移動

④平ブロック張

項目	区分	ブロックの質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	連結金具の有無	連結金具10m ² 当り使用量	単位	数量	備考
平ブロック張		○	○	○	○	○	○	○	○	m ²		

注) 1. 平ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合である。
2. 平ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

⑤連節ブロック張

項目	区分	作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考
連節ブロック張		○	○	○	○	○	m ²		

注) 1. 連節ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合である。
2. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

⑥緑化ブロック積

項目	区分	緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m ² 当り使用量	単位	数量	備考
緑化ブロック積		○	○	○	○	○	m ²		

注) 1. 緑化ブロックの積工(勾配1割未満、ブロック質量980kg/個以下)の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

次頁へ移動

③間知ブロック張

項目	区分	3次元モデル	属性情報							単位	数量	備考
			間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m ² 当り使用量	遮水シートの有無	連結金具の有無			
間知ブロック張		B	○	○	○	○	○	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 間知ブロック張工は法勾配が1割以上、ブロック質量770kg/個以下の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯、天端コンクリートは別途計上する。
3. 間知ブロック張と遮水シート張(ブロック背面)は、同施工面積とする。

④平ブロック張

項目	区分	3次元モデル	ブロックの質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	連結金具の有無	連結金具10m ² 当り使用量	単位	数量	備考
平ブロック張		B	○	○	○	○	○	○	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 平ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合である。
2. 平ブロック張と遮水シート張(ブロック背面)は、同施工面積とする。
3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

⑤連節ブロック張

項目	区分	3次元モデル	ブロックの質量	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考
連節ブロック張		B	○	○	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 連節ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合である。
2. 連節ブロック張と遮水シート張(ブロック背面)は、同施工面積とする。
3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

記載の追加

記載の追加

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現 行	
------	------	-----------	--

現	行	改	正	備 考
---	---	---	---	-----

前頁より移動

⑦胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材(砕石)、遮水シート張、吸出し防止材(全面)設置、植樹

項目	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	単位	数量	備考
胴込・裏込コンクリート	○	×	×	×	m ³		
胴込・裏込材(砕石)	×	○	○	○	m ³		
遮水シート張	×	×	×	×	m ²		
吸出し防止材(全面)設置	×	×	×	×	m ²		
植樹	×	×	×	×	本		

注) 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

⑧現場打基礎コンクリート、プレキャスト基礎ブロック

項目	区分	生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック規格	基礎砕石の有無	養生工の種類	単位	数量	備考
現場打基礎コンクリート	○			○	○	m		
プレキャスト基礎ブロック	×	○				m		
プレキャスト基礎ブロック(材料費)	×	○				m		

注) 現場打ち基礎コンクリートは、体積(m³)も算出するとともに、底幅及び高さも示す。

⑨天端コンクリート

項目	区分	生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考
天端コンクリート	○	○	○	○	m ³		

⑩小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリート

項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考
小口止				m		
横帯コンクリート				m		
巻止コンクリート				m		
型枠	○		×	m ²		
裏込材				m ²		
目地材				m ²		
基礎砕石				m ²		

注) 1. 必要に応じて数量を項目ごとに算出する。
2. 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートについては、体積(m³)も算出すること。

(2) 規格区分
コンクリートブロック積、コンクリートブロック張及び緑化ブロック積は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。

⑥緑化ブロック積

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格			
緑化ブロック積	B	○	○	○	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 緑化ブロックの積工(勾配1割未満、ブロック質量980kg/個以下)の場合である。
2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

⑦胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材(砕石)、遮水シート張、吸出し防止材(全面)設置、植樹

項目	区分	3次元モデル	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	遮水シート規格	単位	数量	備考
胴込・裏込コンクリート	B	○	○	×	×	×	m ³		
胴込・裏込材(砕石)	B	×	○	○	×	×	m ³		
遮水シート張	B	×	×	×	×	○	m ²		
吸出し防止材(全面)設置	B	×	×	×	×	×	m ²		
植樹	C	×	×	×	×	×	本		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

⑧現場打基礎コンクリート、プレキャスト基礎ブロック

項目	区分	3次元モデル	生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック規格	基礎砕石の有無	養生工の種類	単位	数量	備考
現場打基礎コンクリート	A	○	×	○	○	○	m		
プレキャスト基礎ブロック	B	×	○	×	×	×	m		
プレキャスト基礎ブロック(材料費)	B	×	○	×	×	×	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 現場打ち基礎コンクリートは、体積(m³)も算出するとともに、底幅及び高さも示す。

次頁へ移動

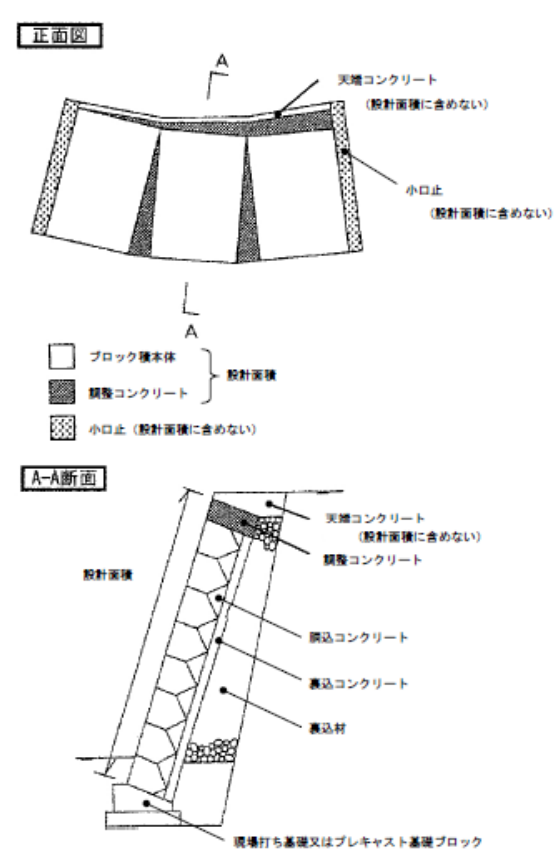
記載の追加

記載の追加

記載の追加

積算上の注意事項	(控え頁) 3/5
----------	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																								
現	行	改	正																																																																																							
			備考																																																																																							
	<p>前頁より移動 →</p> <p>次頁より移動 →</p>	<div data-bbox="1605 512 2421 1209" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>⑨天端コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>生コンクリート 規格</th> <th>コンクリート 打設条件</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td>A</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>⑩小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">構造</th> <th colspan="2">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小口止</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横帯コンクリート</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻止コンクリート</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎砕石</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 1. 必要に応じて数量を項目ごとに算出する。 2. 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートについては、体積(m³)も算出すること。</p> <p>(2) 規格区分 コンクリートブロック積、コンクリートブロック張及び緑化ブロック積は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 構造区分 空積(張)及び練積(張)に区分して算出する。</p> </div>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報				生コンクリート 規格	コンクリート 打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考	天端コンクリート	A		○	○	○	m ³		項目	区分	3次元 モデル	規格	構造	属性情報		備考	単位	数量	小口止	B				m			横帯コンクリート	B				m			巻止コンクリート	B				m			型枠	B		○	×	m ²			裏込材	B				m ²			目地材	B				m ²			基礎砕石	B				m ²			記載の追加
項目	区分	3次元 モデル				属性情報																																																																																				
			生コンクリート 規格	コンクリート 打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																		
天端コンクリート	A		○	○	○	m ³																																																																																				
項目	区分	3次元 モデル	規格	構造	属性情報		備考																																																																																			
					単位	数量																																																																																				
小口止	B				m																																																																																					
横帯コンクリート	B				m																																																																																					
巻止コンクリート	B				m																																																																																					
型枠	B		○	×	m ²																																																																																					
裏込材	B				m ²																																																																																					
目地材	B				m ²																																																																																					
基礎砕石	B				m ²																																																																																					
			記載の追加																																																																																							
			1-5-17																																																																																							
積算上の注意事項			(控え頁) 4/5																																																																																							

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<p>小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 構造区分 空積(張)及び練積(張)に区分して算出する。</p> <p>4. 参考図 (1) 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート</p>  <p>1-5-17</p>	<p>前頁へ移動</p> <p>現行どおり</p> <p>1-5-18</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 5/5

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																								
現 行		改 正																																																																																																																																																								
<p>5.5 石積(張)工</p> <p>5.5.1 多自然型護岸工(巨石積(張)工)</p> <p>1. 適用</p> <p>河川における多自然型護岸工事の巨石積工(練)及び巨石張工(練・空)、巨石採取に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>巨石積(張)面積を区分ごとに算出する。また、巨石採取の個数を算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、巨石径区分、遮水シートの有無、止水シートの有無、吸出し防止材の有無、裏込め材の有無、裏込め材規格、胴込め材規格、胴込・裏込コンクリート使用量、胴込・裏込コンクリート規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>巨石径区分</th> <th>遮水シートの有無</th> <th>止水シートの有無</th> <th>吸出し防止材の有無</th> <th>裏込材の有無</th> <th>裏込材規格</th> <th>胴込材規格</th> <th>胴込・裏込コンクリート使用量</th> <th>胴込・裏込コンクリート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巨石張(練)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石張(空)</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石積(練)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石採取</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td>機械により現地採取する場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 基礎コンクリート工、天端コンクリート工は、「第1編(共通編)5章法覆工5.4コンクリートブロック積(張)工3.区分」によるものとする。 (注2) 巨石積工は法勾配1:1未満、巨石張工は法勾配1:1以上の場合である。</p> <p>(2) 巨石径区分 巨石積(張)の面積を巨石の径で区分して算出する。なお、巨石の径は、最大径と最小径の平均値とする。</p>		項目	区分	巨石径区分	遮水シートの有無	止水シートの有無	吸出し防止材の有無	裏込材の有無	裏込材規格	胴込材規格	胴込・裏込コンクリート使用量	胴込・裏込コンクリート規格	単位	数量	備考	巨石張(練)	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²			巨石張(空)	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	m ²			巨石積(練)	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	m ²			巨石採取	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		機械により現地採取する場合	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="10">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>巨石径区分</th> <th>遮水シートの有無</th> <th>止水シートの有無</th> <th>吸出し防止材の有無</th> <th>裏込材の有無</th> <th>裏込材規格</th> <th>胴込材規格</th> <th>胴込・裏込コンクリート使用量</th> <th>胴込・裏込コンクリート規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巨石張(練)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石張(空)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石積(練)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石採取</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td>機械により現地採取する場合</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</u></p> <p>(注1) 基礎コンクリート工、天端コンクリート工は、「第1編(共通編)5章法覆工5.4コンクリートブロック積(張)工3.区分」によるものとする。 (注2) 巨石積工は法勾配1:1未満、巨石張工は法勾配1:1以上の場合である。</p> <p>(2) 巨石径区分 巨石積(張)の面積を巨石の径で区分して算出する。なお、巨石の径は、最大径と最小径の平均値とする。</p>		項目	区分	属性情報										単位	数量	備考	3次元モデル	巨石径区分	遮水シートの有無	止水シートの有無	吸出し防止材の有無	裏込材の有無	裏込材規格	胴込材規格	胴込・裏込コンクリート使用量	胴込・裏込コンクリート規格	巨石張(練)	B	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²			巨石張(空)	B	○	×	×	○	○	○	○	×	×	m ²			巨石積(練)	B	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²			巨石採取	C	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		機械により現地採取する場合
項目	区分	巨石径区分	遮水シートの有無	止水シートの有無	吸出し防止材の有無	裏込材の有無	裏込材規格	胴込材規格	胴込・裏込コンクリート使用量	胴込・裏込コンクリート規格	単位	数量	備考																																																																																																																																													
巨石張(練)	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²																																																																																																																																															
巨石張(空)	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	m ²																																																																																																																																															
巨石積(練)	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	m ²																																																																																																																																															
巨石採取	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		機械により現地採取する場合																																																																																																																																													
項目	区分	属性情報										単位	数量	備考																																																																																																																																												
		3次元モデル	巨石径区分	遮水シートの有無	止水シートの有無	吸出し防止材の有無	裏込材の有無	裏込材規格	胴込材規格	胴込・裏込コンクリート使用量	胴込・裏込コンクリート規格																																																																																																																																															
巨石張(練)	B	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²																																																																																																																																															
巨石張(空)	B	○	×	×	○	○	○	○	×	×	m ²																																																																																																																																															
巨石積(練)	B	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²																																																																																																																																															
巨石採取	C	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		機械により現地採取する場合																																																																																																																																													
1-5-20		1-5-21																																																																																																																																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																																																																							

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

5.5.2 石積(張)工

1. 適用

玉石及び雑割石(控長25cm～50cm)の積工(勾配1割未満)及び張工(勾配1割以上)であって、胴込・裏込コンクリートは、打設高さが18m以下かつ水平打設距離10m以下の場合に適用する。

2. 数量算出項目

石積(練石)(複合)、石張(複合)、石積(張)、石積(張)(材料費)、胴込・裏込コンクリート、裏込材(クラッシュラン)の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、石の種類、直高、胴込・裏込コンクリート規格、裏込材規格、構造区分、玉石控、裏込材の有無、胴込・裏込材規格、積張の区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①石積(練石)(複合)(控長35cmのみに適用)

項目	区分	石の種類	直高	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材規格	単位	数量	備考
石積(練石)(複合)		○	○	○	○	m ²		
石積(張)(材料費)		×	×	×	×	m ²		

注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。

②石張(複合)(玉石のみに適用)

項目	区分	構造区分	玉石控	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材の有無	胴込・裏込材規格	単位	数量	備考
石張(複合)		○	○	○	○	○	m ²		
石積(張)(材料費)		×	×	×	×	×	m ²		

注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。

1-5-22

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①石積(練石)(複合)(控長35cmのみに適用)

項目	区分	3次元モデル	属性情報					単位	数量	備考
			石の種類	直高	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材規格	属性情報			
石積(練石)(複合)		B	○	○	○	○	m ²			
石積(張)(材料費)		B	×	×	×	×	m ²			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。

②石張(複合)(玉石のみに適用)

項目	区分	3次元モデル	属性情報					単位	数量	備考
			構造区分	玉石控	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材の有無	胴込・裏込材規格			
石張(複合)		B	○	○	○	○	m ²			
石積(張)(材料費)		B	×	×	×	×	m ²			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。

1-5-23

記載の追加

記載の追加

積算上の注意事項

(控え頁)

改正理由	一部改正	改 正 現 行	
------	------	------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

③石積(張)

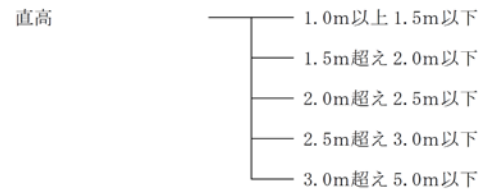
項目	区分	積張の区分	構造区分	石の種類	胴込・裏込 コンクリート 規格	裏込材 規格	単位	数量	備考
石積(張)		○	○	○	×		m ²		
石積(張) (材料費)		×	×	×	×		m ²		
胴込・裏込 コンクリート		○	×	×	○		m ³		
裏込材 (クラッシュ ラン)		○	×	×	×	○	m ³		

注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。

(2) 石の種類による区分は、以下のとおりとする。



(3) 直高による区分は、以下のとおりとする。



1-5-23

③石積(張)

項目	区分	属性情報								
		3次元 モデル	積張の 区分	構造 区分	石の 種類	胴込・裏込 コンクリート 規格	裏込材 規格	単位	数量	備考
石積(張)		B	○	○	○	×		m ²		
石積(張) (材料費)		B	×	×	×	×		m ²		
胴込・裏込 コンクリート		B	○	×	×	○		m ³		
裏込材 (クラッシュ ラン)		B	○	×	×	×	○	m ³		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照とする。

注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。

現行どおり

1-5-24

記載の追加

積算上の注意事項

(控え頁)

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																									
現	行	改 正	備 考																																																									
<p>(4) 構造区分は、以下のとおりとする。</p> <p>構造区分</p> <ul style="list-style-type: none"> — 練石 — 空石 <p>(5) 玉石控による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>玉石控</p> <ul style="list-style-type: none"> — 25cm 以上 35cm 以下 — 30cm 以上 40cm 以下 — 35cm 以上 45cm 以下 — 40cm 以上 50cm 以下 — 45cm 以上 50cm 以下 <p>(6) 裏込材の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>裏込材の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> — 有り — 無し <p>(7) 積張の区分は、以下のとおりとする。</p> <p>積張の区分</p> <ul style="list-style-type: none"> — 積工 — 張工 		<p>現行どおり</p>																																																										
<p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水抜パイプ (材料)</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材 (材料)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材設置工</td> <td>m²</td> <td></td> <td>全面設置が必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>現場打基礎コンクリート</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照</td> </tr> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 胴込コンクリート量は、玉石の場合は面積に控長の1/3を、雑割石の場合は1/2を乗じた体積 (m³) とする。</p> <p>(2) 裏込コンクリート及び裏込材の量は、面積に必要厚を乗じた体積 (m³) とする。</p> <p>(3) 空石張の胴込材の量は、面積に玉石の控長の1/3を乗じた体積 (m³) とする。</p> <p>(4) 石積 (張) (材料費) は、石の種類 (玉石、雑割石) ごとに面積 (m²) を算出する。</p>		項目	単位	数量	備考	水抜パイプ (材料)	m		必要な場合別途計上	吸出し防止材 (材料)	m ²		必要な場合別途計上	吸出し防止材設置工	m ²		全面設置が必要な場合別途計上	現場打基礎コンクリート	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照	天端コンクリート	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照	<p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水抜パイプ (材料)</td> <td>C</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材 (材料)</td> <td>C</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材設置工</td> <td>C</td> <td>m²</td> <td></td> <td>全面設置が必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>現場打基礎コンクリート</td> <td>A</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照</td> </tr> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td>A</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p>		項目	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	水抜パイプ (材料)	C	m		必要な場合別途計上	吸出し防止材 (材料)	C	m ²		必要な場合別途計上	吸出し防止材設置工	C	m ²		全面設置が必要な場合別途計上	現場打基礎コンクリート	A	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照	天端コンクリート	A	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照
項目	単位	数量	備考																																																									
水抜パイプ (材料)	m		必要な場合別途計上																																																									
吸出し防止材 (材料)	m ²		必要な場合別途計上																																																									
吸出し防止材設置工	m ²		全面設置が必要な場合別途計上																																																									
現場打基礎コンクリート	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照																																																									
天端コンクリート	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照																																																									
項目	3次元モデル	属性情報																																																										
		単位	数量	備考																																																								
水抜パイプ (材料)	C	m		必要な場合別途計上																																																								
吸出し防止材 (材料)	C	m ²		必要な場合別途計上																																																								
吸出し防止材設置工	C	m ²		全面設置が必要な場合別途計上																																																								
現場打基礎コンクリート	A	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照																																																								
天端コンクリート	A	m ³		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照																																																								
1-5-24		1-5-25																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3																																																									

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

5.6 平石張工

1. 適用

一般土木及び公園工事で施工する遊歩道、歩道、広場等の舗装・床張り、階段（踏面幅1,200mm以下、蹴上高400mm以下）及び壁張りにおける平石張工に適用する。

平石材料規格

作業区分 形状区分	舗装・床張り	階段	壁張り
乱形石	φ50～600 mm程度 平均厚さ10～60 mm程度 質量15 kg程度まで	φ80～400 mm程度 平均厚さ15～40 mm程度 質量6 kg程度まで	φ60～300 mm程度 平均厚さ15～50 mm程度 質量7 kg程度まで
方形石	短辺100 mm以上 長辺1,500 mm以下 厚さ25～120 mm 質量60kg まで	短辺100 mm以上 長辺920 mm以下 厚さ40～170 mm 質量130kg まで	短辺140 mm以上 長辺600 mm以下 厚さ30～120 mm 質量60 kg まで

(注) 質量は、石材1枚当りである。

2. 数量算出項目

平石張、平石（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業区分、平石の形状区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

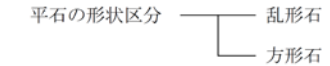
項目	区分	規格	作業区分	平石の形状区分	単位	数量	備考
平石張		×	○	○	m ²		
平石（材料費）		○	○	○	m ²		

注) 1. 平石（材料費）は、乱形石については径・平均厚さ・質量を、方形石については短辺・長辺・厚さ・質量も算出する。

(2) 作業区分は、以下のとおりとする。



(3) 平石の形状区分は、以下のとおりとする。



1-5-25

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	属性情報					数量	備考
		3次元モデル	規格	作業区分	平石の形状区分	単位		
平石張		B	×	○	○	m ²		
平石（材料費）		B	○	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 平石（材料費）は、乱形石については径・平均厚さ・質量を、方形石については短辺・長辺・厚さ・質量も算出する。

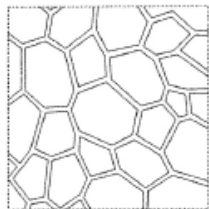
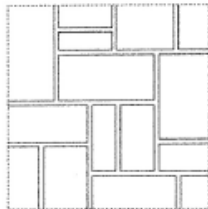
現行どおり

次頁へ移動

1-5-26

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

改正理由	一部改正		改正 現行	
現行	改正			備考
<p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p> <p>5. 参考図</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>乱形石</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>方形石</p>  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">1-5-26</p>	<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(3) 平石の形状区分は、以下のとおりとする。 平石の形状区分 — 乱形石 — 方形石</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">現行どおり</p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">1-5-27</p>			
積算上の注意事項				(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

6章 擁壁工

6.1 プレキャスト擁壁工

1. 適用

プレキャスト擁壁の施工に適用する。

2. 数量算出項目

プレキャスト擁壁の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、擁壁高さ、規格とする。

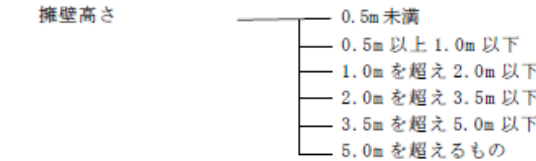
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	擁壁高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備考
プレキャスト擁壁		○	○	-	m	○	
基礎碎石	20cm 超え	×	○	-	m ²	○	(注) 3、4
	20cm 以下	×	×	○	-	×	(注) 3、4
均しコンクリート		×	○	○	m ²	×	(注) 3、4
ペーラインコンクリート		×	○	-	m ³	○	

- (注) 1. 製品を斜めにカットしたタイプの擁壁ブロックの高さは中央値、嵩上品はブロック高さ(差筋を含まない)を採用する。
 2. 床掘り、埋戻しは別途算出する。
 3. プレキャスト擁壁高さが0.5m以上5.0m以下の場合、基礎碎石、均しコンクリートについては、数量の算出は必要ないが、必要の有無は記載すること。
 4. プレキャスト擁壁高さが0.5m未満または5.0mを超える場合は、基礎碎石、均しコンクリート、敷モルタル、目地モルタル、吸出し防止材等その必要な項目の数量を適正に算出すること。

(2) 擁壁高さ区分

プレキャスト擁壁高さによる区分は、以下の通りとする。



1-6-2

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	属性情報					備考
		3次元モデル	擁壁高さ	規格	必要の有無	単位	
プレキャスト擁壁		B	○	○	-	m	○
基礎碎石	20cm 超え	B	×	○	-	m ²	○ (注) 3、4
	20cm 以下	C	×	×	○	-	×
均しコンクリート		B	×	○	○	m ²	×
ペーラインコンクリート		B	×	○	-	m ³	○

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照する。

- (注) 1. 製品を斜めにカットしたタイプの擁壁ブロックの高さは中央値、嵩上品はブロック高さ(差筋を含まない)を採用する。
 2. 床掘り、埋戻しは別途算出する。
 3. プレキャスト擁壁高さが0.5m以上5.0m以下の場合、基礎碎石、均しコンクリートについては、数量の算出は必要ないが、必要の有無は記載すること。
 4. プレキャスト擁壁高さが0.5m未満または5.0mを超える場合は、基礎碎石、均しコンクリート、敷モルタル、目地モルタル、吸出し防止材等その必要な項目の数量を適正に算出すること。

現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

6.2 補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁)

1. 適用

補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)においてコンクリート製壁面材(帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材を含む)によるものに適用する。

帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の仕様

工 種	帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
	帯鋼補強土壁(1)	帯鋼補強土壁(2)	
標準壁面形状	十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ)	長方形の1.2m×2.7m (高さ×長さ)	1.0m×1.5~1.6m (高さ×長さ)
補 強 材	ストリップ幅:60~80mm	ストリップ幅:80mm	SS400規格、SS490規格
壁面材強度	コンクリート設計基準強度: 度:21~30N/mm ²	コンクリート設計基準強度 度:30N/mm ²	コンクリート設計基準強度: 30N/mm ² , 40N/mm ²
盛 土	1層仕上り高さ:25cm	1層仕上り高さ:30cm	1層仕上り高さ:25cm

参考図. 各工種の標準壁面形状

帯鋼補強土壁(1)正面図 アンカー補強土壁 正面図

帯鋼補強土壁(2)正面図

(注)1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である。
2. 本施工パッケージは、壁面最上段部(ハーフ)、最下段部(ハーフ)、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用出来る。

2. 数量算出項目

補強土壁壁面材組立・設置、補強土壁壁面材(材料費)、補強材取付、補強材(材料費)、まき出し・敷均し、締固めの数量を区分ごとに算出する。

1-6-3

削除

6.2 補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁)

1. 適用

補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・~~帯鋼補強土壁(2)~~・アンカー補強土壁)においてコンクリート製壁面材(帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材を含む)によるものに適用する。

帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の仕様

工 種	帯鋼補強土壁(1)	アンカー補強土壁
	標準壁面形状	
補 強 材	ストリップ幅:60~80mm	SS400規格、SS490規格
壁面材強度	コンクリート設計基準強度 :21~30N/mm ²	コンクリート設計基準強度 :30N/mm ² , 40N/mm ²
盛 土	1層仕上り高さ:25cm	1層仕上り高さ:25cm

参考図. 各工種の標準壁面形状

~~帯鋼補強土壁(1)正面図~~ アンカー補強土壁 正面図

(注)1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である。
2. 本施工パッケージは、壁面最上段部(ハーフ)、最下段部(ハーフ)、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用出来る。

2. 数量算出項目

補強土壁壁面材組立・設置、補強土壁壁面材(材料費)、補強材取付、補強材(材料費)、まき出し・敷均し、締固めの数量を区分ごとに算出する。

記載の削除

語句の削除

語句の削除

図の削除

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備 考
---	---	---	---	-----

3. 区分
区分は、規格、工法区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	規格	工法区分	単位	数量	備考
補強土壁壁面材組立・設置		×	○	m ²		
補強土壁壁面材(材料費)		○	×	m ²		
補強材取付		×	○	m		
補強材(材料費)		○	×	m		
まき出し・敷均し、締固め		×	○	m ³		

(2) 工法区分は、以下のとおりとする。

工法区分

- 帯鋼補強土壁(1)
- 帯鋼補強土壁(2)
- アンカー補強土壁

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
コンクリート(天端コンクリート部)	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照
型枠(天端コンクリート部)	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
鉄筋工(天端コンクリート部)	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照
足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照
暗渠排水管	m		「第3編(道路編)2.1排水構造物工」参照
フィルター材	m ³		「第3編(道路編)2.1排水構造物工」参照
コンクリート(補強土壁基礎部)	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照
型枠(補強土壁基礎部)	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
基礎材工(補強土壁基礎部)	m ²		「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込果石工」参照

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

3. 区分
区分は、規格、工法区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	3次元 モデル	属性情報			
			規格	工法区分	単位	数量
補強土壁壁面材組立・設置		B	×	○	m ²	
補強土壁壁面材(材料費)		B	○	×	m ²	
補強材取付		B	×	○	m	
補強材(材料費)		B	○	×	m	
まき出し・敷均し、締固め		B	×	○	m ³	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 工法区分は、以下のとおりとする。

工法区分

- 帯鋼補強土壁(1)
- アンカー補強土壁

関連数量算出項目

項目	3次元 モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
コンクリート(天端コンクリート部)	A	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照
型枠(天端コンクリート部)	B	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
鉄筋工(天端コンクリート部)	B	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照
足場	B	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照
暗渠排水管	B	m		「第3編(道路編)2.1排水構造物工」参照
フィルター材	B	m ³		「第3編(道路編)2.1排水構造物工」参照
コンクリート(補強土壁基礎部)	B	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照
型枠(補強土壁基礎部)	B	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
基礎材工(補強土壁基礎部)	B	m ²		「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込果石工」参照

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

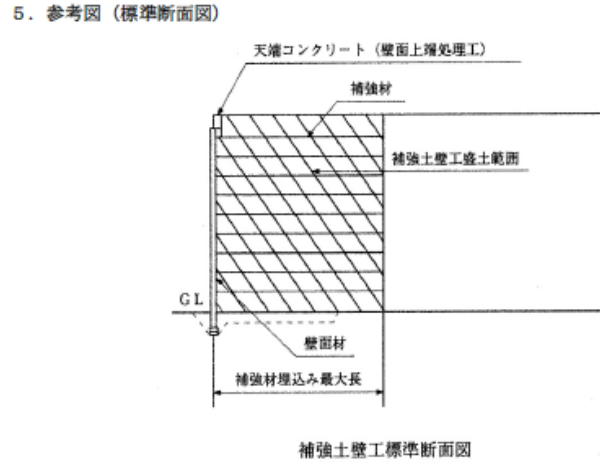
記載の追加

記載の削除

記載の追加

次頁へ移動

積算上の注意事項		(控え頁) 2/3
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <div style="text-align: center;">  <p>5. 参考図(標準断面図)</p> <p>天端コンクリート(壁面上端処理工)</p> <p>補強材</p> <p>補強土壁工盛土範囲</p> <p>G.L.</p> <p>壁面材</p> <p>補強材埋込み最大長</p> <p>補強土壁標準断面図</p> <p>(注) 補強土壁工盛土範囲以外の盛土については、第1編、2章土工により算出するものとする。</p> </div> <p style="text-align: center;">1-6-5</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

6.3 ジオテキスタイル工

1. 適用

ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。
ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

2. 数量算出項目

ジオテキスタイル壁面材組立・設置、ジオテキスタイル壁面材（材料費）、ジオテキスタイル敷設、まき出し・敷均し、締固め、ジオテキスタイル（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	規格	単位	数量	備 考
ジオテキスタイル壁面材 組立・設置	○		m ²		
ジオテキスタイル壁面材 (材料費)	○		m ²		
ジオテキスタイル敷設	○		m ²		
まき出し・敷均し、締固め	○		m ³		
ジオテキスタイル (材料費)	○		m ²		

注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。

壁面材種類	規 格		備 考
	幅 (mm)		
鋼製ユニット	2,000		タイプA
	2,000		タイプB
	1,000		タイプC
	1,200		タイプD

2. ジオテキスタイル工1段当りのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用する。

1-6-6

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	3次元 モデル	属性情報			備 考
			規格	単位	数量	
ジオテキスタイル壁面材 組立・設置		B	○	m ²		
ジオテキスタイル壁面材 (材料費)		B	○	m ²		
ジオテキスタイル敷設		B	○	m ²		
まき出し・敷均し、締固め		B	○	m ³		
ジオテキスタイル (材料費)		B	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。

現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 1/2
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

項目	単位	数量	備考
コンクリートブロック積	m ²		必要な場合別途計上
胴込・裏込コンクリート	m ³		必要な場合別途計上
胴込・裏込材 (砕石)	m ³		必要な場合別途計上
現場打基礎コンクリート	m ³		必要な場合別途計上
排水管敷設工	m		「第3編 (道路編) 2. 1. 1 排水構造物工 (プレキャスト製品)」参照
天端コンクリート (壁面上端処理工)	m ³		「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照
型枠 (壁面上端処理工)	m ²		「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照
鉄筋工 (壁面上端処理工)	t		「第1編 (共通編) 4. 3. 1 鉄筋工」参照
足場工 (壁面上端処理工)	掛m ²		「第1編 (共通編) 1 1. 4 足場工」参照

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の施工量は、直面積 (壁高×施工延長) とする ((3) 図、5. 参考図 (2) 参照)。
- (2) ジオテキスタイル壁面材 (材料費) は規格ごとに壁面材面積当りの鋼製ユニットの個数 (個/m²) を算出する (5. 参考図 (1) 参照)。
なお、施工方法別の数量算出項目、及び壁面材の標準使用量は以下である。

施工法 (工法)	適用	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	ジオテキスタイル敷設 まき出し・敷均し、 締固め	標準図
鋼製ユニット工法	○		○	5. 参考図 (1) 図A
巻込み工法 (壁面材なし)	×		○	5. 参考図 (1) 図B
普通敷設工法 (壁面材なし)	×		○	5. 参考図 (1) 図C

壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500 mm以下	個	100	5. 参考図 (1) 図A
	タイプB	600 mm以下		83	
	タイプC	600 mm以下		167	
	タイプD	600 mm以下		139	

1-6-7

項目	3次元モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
コンクリートブロック積	B	m ²		必要な場合別途計上
胴込・裏込コンクリート	B	m ³		必要な場合別途計上
胴込・裏込材 (砕石)	B	m ³		必要な場合別途計上
現場打基礎コンクリート	A	m ³		必要な場合別途計上
排水管敷設工	B	m		「第3編 (道路編) 2. 1. 1 排水構造物工 (プレキャスト製品)」参照
天端コンクリート (壁面上端処理工)	A	m ³		「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照
型枠 (壁面上端処理工)	B	m ²		「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照
鉄筋工 (壁面上端処理工)	B	t		「第1編 (共通編) 4. 3. 1 鉄筋工」参照
足場工 (壁面上端処理工)	B	掛m ²		「第1編 (共通編) 1 1. 4 足場工」参照

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする



現行どおり

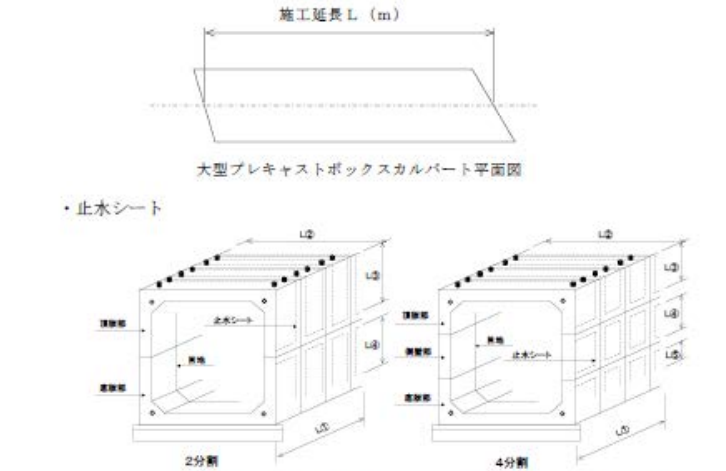
記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 2/2
----------	--	--	--------------

工 種	函渠工
-----	-----

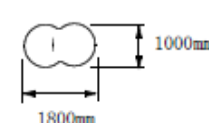
改正理由	一部改正		改正 現行	
現 行	改 正		備 考	
<p style="text-align: center;">7章 函 渠 工</p> <p style="text-align: center;">7.1 函渠工 7.1.1 函渠工 (1) 7.1.2 函渠工 (2)</p> <p style="text-align: center;">1-7-1</p>	<p style="text-align: center;">7 章 函 渠 工</p> <p style="text-align: center;">7.1 函渠工 7.1.1 函渠工 (1) 7.1.2 函渠工 (2) <u>7.1.3 函渠工 (3)</u></p>		<p style="text-align: center;">積算基準改定に伴う新規追加</p>	
積算上の注意事項				<p style="text-align: center;">(控え頁)</p> <p style="text-align: center;">1/1</p>

改正理由	新規制定	改正 現行	備考																																								
現	行	改 正	備 考																																								
現行なし	→	<p>7.1.3 函渠工(3)大型プレキャストボックスカルバート工</p> <p>1. 適用 大型プレキャストボックスカルバートの2分割及び4分割(製品長1m、1.5m、2m)の施工に適用する。</p> <p>参考(適用範囲を外れた大型プレキャストボックスカルバート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ブロックを1部材で構成するボックスカルバート ・3分割の大型プレキャストボックスカルバート ・頂版又は底版が場所打コンクリートタイプ ・プレキャスト製の門型、アーチカルバート及び2連分割タイプ ・大型プレキャストボックスカルバートの線形が曲線の場合 ・グラウトを使用しないPCアンボンドケーブル等による施工 ・横引き工法 <p>2. 数量算出項目 大型プレキャストボックスカルバートの延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、内空寸法、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>製品長</th> <th>分割数</th> <th>内空寸法</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大型プレキャストボックスカルバート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>幅・規格等</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>止水シート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎材</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>m³</td> <td></td> <td>#</td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	製品長	分割数	内空寸法	単位	数量	備考	大型プレキャストボックスカルバート		○	○	○	m			項目	区分	幅・規格等	単位	数量	備考	止水シート		○	m			項目	単位	数量	備考	基礎材	m ²		必要な場合別途計上	均しコンクリート	m ³		#	積算基準改定に伴う新規追加
項目	区分	製品長	分割数	内空寸法	単位	数量	備考																																				
大型プレキャストボックスカルバート		○	○	○	m																																						
項目	区分	幅・規格等	単位	数量	備考																																						
止水シート		○	m																																								
項目	単位	数量	備考																																								
基礎材	m ²		必要な場合別途計上																																								
均しコンクリート	m ³		#																																								
積算上の注意事項		1-7-5	(控え頁) 1/2																																								

改正理由	新規制定	改正 現行	備考
現	行	改 正	備 考
	現行なし →	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。 (1) 施工延長(L)のとり方は、下図のとおりとする。 ・大型プレキャストボックスカルバート</p>  <p style="text-align: center;">大型プレキャストボックスカルバート平面図</p> <p>・止水シート</p> <p>(注) 止水シートは、漏水等が懸念される箇所に設置した延べ延長を計上する。</p>	積算基準改定に伴う新規追加
積算上の注意事項		1-7-6	(控え頁) 2/2

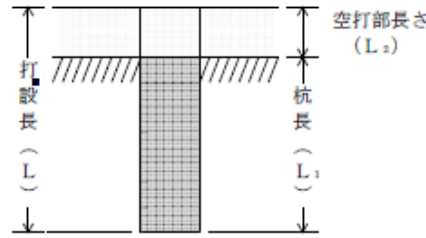
改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																													
現 行		改 正																																																																																																													
<p>8章 地盤改良工</p> <p>8.1 サンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工、サンドマット工</p> <p>1. 適用</p> <p>粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行うサンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工、サンドマット工及びこれらの工種の併用工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>サンドドレーン、サンドコンパクションパイル及びサンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工の本数、サンドマットの体積、安定シート・ネットの面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、杭径、打設長、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>杭 径</th> <th>打 設 長</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンドドレーン</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドコンパクションパイル</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドマット</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>安定シート・ネット</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 杭径区分</p> <p>サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの本数を杭径ごとに区分して算出する。 サンドドレーン、サンドコンパクションパイル併用工については、工種毎に区分して1本当り内訳にて算出する。</p> <p>(3) 打設長区分</p> <p>サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの本数を打設長ごとに区分して算出する。 サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工の場合は、工種毎の打設長で判断せず、造成する砂杭1本当りの打設長で区分する。 サンドマットがある場合、サンドマットの厚みを含む打設長とする。</p> <p>(4) サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工については、(1) 数量算出項目及び区分一覧表で算出した以外に各々サンドドレーン部分、サンドコンパクションパイル部分に分けて算出する。</p>		項目	区分	杭 径	打 設 長	規 格	単 位	数 量	備 考	サンドドレーン		○	○	○	本			サンドコンパクションパイル		○	○	○	本			サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		○	○	○	本			サンドマット		×	×	○	m ³			安定シート・ネット		×	×	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>杭 径</th> <th>打 設 長</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンドドレーン</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドコンパクションパイル</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドマット</td> <td></td> <td>A</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>安定シート・ネット</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>記載の追加</p>		項目	区分	属性情報						3次元モデル	杭 径	打 設 長	規 格	単 位	数 量	備 考	サンドドレーン		B	○	○	○	本			サンドコンパクションパイル		B	○	○	○	本			サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		B	○	○	○	本			サンドマット		A	×	×	○	m ³			安定シート・ネット		B	×	×	○	m ²		
項目	区分	杭 径	打 設 長	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																								
サンドドレーン		○	○	○	本																																																																																																										
サンドコンパクションパイル		○	○	○	本																																																																																																										
サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		○	○	○	本																																																																																																										
サンドマット		×	×	○	m ³																																																																																																										
安定シート・ネット		×	×	○	m ²																																																																																																										
項目	区分	属性情報																																																																																																													
		3次元モデル	杭 径	打 設 長	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																							
サンドドレーン		B	○	○	○	本																																																																																																									
サンドコンパクションパイル		B	○	○	○	本																																																																																																									
サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		B	○	○	○	本																																																																																																									
サンドマット		A	×	×	○	m ³																																																																																																									
安定シート・ネット		B	×	×	○	m ²																																																																																																									
積算上の注意事項		(控え頁) 1/1																																																																																																													

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																			
現行		改正																																																																																																			
<p>8.2 粉体噴射攪拌工(DJM工法)</p> <p>1. 適用 粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う粉体噴射攪拌工（改良材がセメント系及び石灰系の場合）に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 杭施工本数、移設回数、軸間変更回数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、現場制約の有無、施工方法、打設長、杭長、規格、改良材使用量とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>現場制約の有無</th> <th>施工方法</th> <th>打設長</th> <th>杭長</th> <th>規格</th> <th>改良材使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粉体噴射攪拌</td> <td></td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>粉体噴射攪拌(移設)</td> <td></td> <td>-</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>粉体噴射攪拌(軸間変更)</td> <td></td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 2軸施工の1日当り杭施工本数は、1軸当り1本として計上する。 2. バックホウによる先掘が必要な場合は、別途算出する。</p> <p>(2) 施工方法区分 施工方法による区分は、以下のとおりとする。 ①単軸施工 ②2軸施工</p>		項目	区分	現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考	粉体噴射攪拌		○	-	○	○	○	○	本			粉体噴射攪拌(移設)		-	○	-	-	-	-	回			粉体噴射攪拌(軸間変更)		-	-	-	-	-	-	回			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="8">属性情報</th> </tr> <tr> <th>現場制約の有無</th> <th>施工方法</th> <th>打設長</th> <th>杭長</th> <th>規格</th> <th>改良材使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粉体噴射攪拌</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>粉体噴射攪拌(移設)</td> <td></td> <td>C</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>粉体噴射攪拌(軸間変更)</td> <td></td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>回</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u> 注) 1. 2軸施工の1日当り杭施工本数は、1軸当り1本として計上する。 2. バックホウによる先掘が必要な場合は、別途算出する。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報								現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考	粉体噴射攪拌		B	○	-	○	○	○	○	本		粉体噴射攪拌(移設)		C	-	○	-	-	-	-	回		粉体噴射攪拌(軸間変更)		C	-	-	-	-	-	-	回		備考
項目	区分	現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考																																																																																											
粉体噴射攪拌		○	-	○	○	○	○	本																																																																																													
粉体噴射攪拌(移設)		-	○	-	-	-	-	回																																																																																													
粉体噴射攪拌(軸間変更)		-	-	-	-	-	-	回																																																																																													
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																		
			現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考																																																																																										
粉体噴射攪拌		B	○	-	○	○	○	○	本																																																																																												
粉体噴射攪拌(移設)		C	-	○	-	-	-	-	回																																																																																												
粉体噴射攪拌(軸間変更)		C	-	-	-	-	-	-	回																																																																																												
積算上の注意事項	1-8-4		記載の追加																																																																																																		
			(控え頁) 1/1																																																																																																		

改正理由	一部改正	改正 現行																																																								
現 行		改 正																																																								
<p>8.3 スラリー攪拌工</p> <p>1. 適用</p> <p>粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行うセメント及び石灰によるスラリー攪拌工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>杭施工本数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工方法、杭径、打設長、杭長、規格、改良材使用量とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工方法</th> <th>杭径</th> <th>打設長</th> <th>杭長</th> <th>規格</th> <th>改良材使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>杭施工本数</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1) 二軸施工の1本当り改良断面図は下図を標準とする。</p>  <p>2) バックホウによる先掘が必要な場合は別途算出する。</p> <p>(2) 施工方法、杭径区分</p> <p>1) 施工方法、杭径区分は以下の通りとする。</p> <p>①単軸施工</p> <ul style="list-style-type: none"> 杭径φ 800mm～φ 1200mm、3m<L≤10m 杭径φ 1000mm～φ 1600mm、10m<L≤30m 杭径φ 2000mm、3m<L≤10m <p>②二軸施工</p> <ul style="list-style-type: none"> 杭径φ 1000mm、3m<L≤40m 杭径φ 1000mm、3m<L≤40m (変位低減型) 杭径φ 1600mm、3m<L≤36m (変位低減型) <p>2) 工法名についても明記する。</p> <p>(3) 打設長、杭長区分</p> <p>杭施工本数を、打設長及び杭長ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 規格区分</p> <p>スラリー攪拌工の改良材の種類とする。</p> <p>1-8-7</p>		項目	区分	施工方法	杭径	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考	杭施工本数		○	○	○	○	○	○	本			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="9">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>施工方法</th> <th>杭径</th> <th>打設長</th> <th>杭長</th> <th>規格</th> <th>改良材使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>杭施工本数</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 1) 二軸施工の1本当り改良断面図は下図を標準とする。</p> <p>現行どおり</p> <p>(2) 施工方法、杭径区分</p> <p>1) 施工方法、杭径区分は以下の通りとする。</p> <p>①単軸施工</p> <ul style="list-style-type: none"> 杭径φ 800mm～φ 1200mm、3m<L≤10m 杭径φ 1000mm～φ 1600mm、10m<L≤30m 杭径φ 1800mm、2000mm、3m<L≤27m <p>②二軸施工</p> <ul style="list-style-type: none"> 杭径φ 1000mm、3m<L≤40m 杭径φ 1000mm、3m<L≤40m (変位低減型) 杭径φ 1600mm、3m<L≤36m (変位低減型) <p>2) 工法名についても明記する。</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>		項目	区分	属性情報									3次元モデル	施工方法	杭径	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考	杭施工本数		B	○	○	○	○	○	○	本		備考
項目	区分	施工方法	杭径	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考																																																
杭施工本数		○	○	○	○	○	○	本																																																		
項目	区分	属性情報																																																								
		3次元モデル	施工方法	杭径	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考																																															
杭施工本数		B	○	○	○	○	○	○	本																																																	
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																							

記載の追加

記載の追加、修正

改正理由	一部改正		改正 現行	
現行	改正			備考
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>(5) 改良材使用量区分 1) 改良材使用量を杭施工本数ごとに区分して算出する。また、杭長1m当り改良材使用量についても算出する。 2) 改良材の杭一本当り使用量は次式により算出する。</p> $V = v \times L1 \times (1 + K)$ <p>V : 杭一本当り改良材使用量 (t/本) v : 杭長1m当り改良材使用量 (t/m) L1 : 杭長 (m) K : ロス率</p> <p>4. 参考図 (施工図)</p>  <p style="text-align: center;">1-8-8</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>(4) 規格区分 スラリー攪拌工の改良材の種類とする。</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>			
積算上の注意事項				(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																				
現 行		改 正																																																				
備 考																																																						
<p>8.4 中層混合処理工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う中層混合処理工に適用する。 施工方式は、スラリー噴射方式の機械攪拌混合とし、改良方式は全面改良とする。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施工数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、改良深度、施工規模、規格、改良材使用量とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">改良 深度</th> <th rowspan="2">施工 規模</th> <th rowspan="2">規 格</th> <th rowspan="2">改良 材使 用量</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>改良 深度</th> <th>施工 規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施 工 数 量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 改良深度区分 施工数量を、改良深度ごとに区分して算出する。 改良深度は以下の通りとする。 ① 2 m < L ≤ 5 m ② 5 m < L ≤ 8 m ③ 8 m < L ≤ 10 m ④ 10 m < L ≤ 13 m L: 改良深度 (m)</p> <p>(3) 施工規格区分 施工規模の区分は以下の通りとする。 ① 1 工事当りの施工規模 1,000m³未満 ② 1 工事当りの施工規模 1,000m³以上</p> <p>(4) 規格区分 中層混合処理工の改良材の種類とする。</p> <p>(5) 改良材使用量区分 1) 改良材使用量を施工数量ごとに区分して算出する。また、施工 1 m³当り改良材使用量についても算出する。 2) 改良材の使用量は次式により算出する。 $V = v \times (1 + K) / 1000$ V : 1 m³当りの改良材使用量 (t/m³) v : 1 m³当りの改良材添付量 (kg/m³) K : ロス率 (+0.06)</p> <p style="text-align: center;">1-8-9</p>		項目	区分		改良 深度	施工 規模	規 格	改良 材使 用量	単 位	数 量	備 考	改良 深度	施工 規模	施 工 数 量	○	○	○	○	○	m ³				<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="8">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元 モデル</th> <th>改良 深度</th> <th>施工 規模</th> <th>規 格</th> <th>改良 材使 用量</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施 工 数 量</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p>		項目	区分	属性情報								3次元 モデル	改良 深度	施工 規模	規 格	改良 材使 用量	単 位	数 量	備 考	施 工 数 量	B	○	○	○	○	m ³				記載の追加
項目	区分		改良 深度	施工 規模								規 格	改良 材使 用量	単 位	数 量	備 考																																						
	改良 深度	施工 規模																																																				
施 工 数 量	○	○	○	○	○	m ³																																																
項目	区分	属性情報																																																				
		3次元 モデル	改良 深度	施工 規模	規 格	改良 材使 用量	単 位	数 量	備 考																																													
施 工 数 量	B	○	○	○	○	m ³																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																			

工 種	中層混合処理工
-----	---------

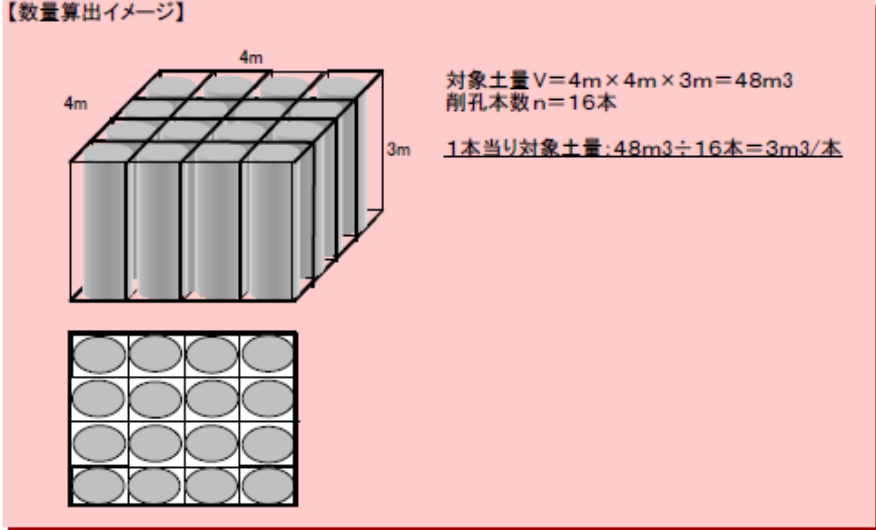
改正理由	一部改正		改正 現行	
現 行	改 正			備 考
	<p style="text-align: center;">前頁より移動 →</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(5) 改良材使用量区分</p> <p>1) 改良材使用量を施工数量ごとに区分して算出する。また、施工1m³当り改良材使用量についても算出する。</p> <p>2) 改良材の使用量は次式により算出する。</p> $V = v \times (1 + K) / 1000$ <p>V : 1m³当りの改良材使用量 (t/m³) v : 1m³当りの改良材添付量 (kg/m³) K : ロス率 (+0.06)</p> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">1-8-10</p>			
積算上の注意事項				(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																
現 行	改 正																																																																	
<p>8.5 高圧噴射攪拌工</p> <p>1. 適用</p> <p>粘性土及び砂質土等の地盤を対象として行う高圧噴射攪拌工のうち単管工法、二重管工法、三重管工法に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>打設本数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、杭径、削孔長、規格、土質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>杭径</th> <th>削孔長</th> <th>規格</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>打設本数</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入設備の移設</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 足場が必要な場合は、「第1編(共通編)11章11.4足場工」により算出する。 2. 注入設備の移設は、注入設備を中心に50mを超える場合、または同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合に、移設必要回数を算出する。</p> <p>(2) 杭径区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ①単管工法 <ul style="list-style-type: none"> 700mm以上800mm以下 800mmを超え、1,100mm以下 上記以外(実杭径毎) ②二重管工法 <ul style="list-style-type: none"> 1,000mm 1,200mm 1,400mm 1,600mm 1,800mm 2,000mm 上記以外(実杭径毎) ③三重管工法 <ul style="list-style-type: none"> 1,800mm 2,000mm 上記以外(実杭径毎) <p>(3) 削孔長区分 打設本数を注入長及び土被り長ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 規格区分 高圧噴射攪拌工の注入材の種類とする。</p> <p style="text-align: right;">1-8-10</p>		項目	区分	杭径	削孔長	規格	土質	単位	数量	備考	打設本数		○	○	○	○	本			注入設備の移設		×	×	×	×	回		注) 2	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>杭径</th> <th>削孔長</th> <th>規格</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>打設本数</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入設備の移設</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</u></p> <p>注) 1. 足場が必要な場合は、「第1編(共通編)11章11.4足場工」により算出する。 2. 注入設備の移設は、注入設備を中心に50mを超える場合、または同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合に、移設必要回数を算出する。</p> <p style="text-align: right;">1-8-11</p>		項目	区分	属性情報							3次元モデル	杭径	削孔長	規格	土質	単位	数量	備考	打設本数		B	○	○	○	○	本		注入設備の移設		C	×	×	×	×	回	注) 2	記載の追加
項目	区分	杭径	削孔長	規格	土質	単位	数量	備考																																																										
打設本数		○	○	○	○	本																																																												
注入設備の移設		×	×	×	×	回		注) 2																																																										
項目	区分	属性情報																																																																
		3次元モデル	杭径	削孔長	規格	土質	単位	数量	備考																																																									
打設本数		B	○	○	○	○	本																																																											
注入設備の移設		C	×	×	×	×	回	注) 2																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																															

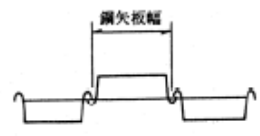
改正理由	一部改正	改正 <u>現 行</u>	
------	------	------------------	--

現 行	改 正	備 考																																																									
<p>8.6 薬液注入工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">粘土、シルト及び砂質土等の地盤に薬液を注入する薬液注入工法に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">薬液注入工の施工本数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">区分は、削孔長、土質、規格とする。</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 8%;">削孔長</th> <th style="width: 8%;">土質</th> <th style="width: 8%;">規 格</th> <th style="width: 8%;">単 位</th> <th style="width: 8%;">数 量</th> <th style="width: 8%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施 工 本 数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注 入 設 備 の 移 設</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注) 1. 足場が必要な場合は、「第1編 (共通編) 11章 11.4足場工」により算出する。 2. 注入設備の移設は、注入設備を中心に50mを超える場合、または同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合に、移設必要回数を算出する。</p> </div> <p>(2) 削孔長区分 薬液注入工の施工本数を土被り長及び注入長ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 土質区分 土質による区分は、以下の通りとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> 二重管ストレーナー <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">├ <li style="margin-right: 10px;">├ <li style="margin-right: 10px;">└ レキ質土 砂質土 粘性土 </div> <div style="margin-left: 20px; margin-top: 10px;"> 二重管ダブルバッカー <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">├ <li style="margin-right: 10px;">├ <li style="margin-right: 10px;">└ レキ質土 砂質土 粘性土 </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(4) 規格 薬液注入工に使用する薬液の種類とし、1本当りの注入量も算出する。</p> <p>二重管ストレーナ工法に必要な注入材料は次式による。</p> <p>$Q_v = V \times \lambda \times 1000$</p> <p>Q_v：二重管ストレーナ工法の1本当り注入量 (ℓ)</p> <p>V：二重管ストレーナ工法の1本当り対象注入土量 (m³)</p> <p>λ：注入率</p> <p>注) 注入率は現場の土質状況により設定するものとする。</p> </div> <p style="text-align: center;">1-8-12</p>	項目	区 分	削孔長	土質	規 格	単 位	数 量	備 考	施 工 本 数	○	○	○	○	本			注 入 設 備 の 移 設	×	×	×	×	回		注) 2	<div style="text-align: right; font-size: 2em; margin-bottom: 50px;">}</div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th colspan="3" style="width: 30%;"><u>3次元モデル</u></th> <th colspan="4" style="width: 32%;">属性情報</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>削孔長</th> <th>土質</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施 工 本 数</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注 入 設 備 の 移 設</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;"><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</u></p> <p>注) 1. 足場が必要な場合は、「第1編 (共通編) 11章 11.4足場工」により算出する。 2. 注入設備の移設は、注入設備を中心に50mを超える場合、または同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合に、移設必要回数を算出する。</p> </div> <div style="text-align: right; font-size: 2em; margin-top: 50px;">}</div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p> <p style="text-align: center;">1-8-13</p>	項目	区 分	<u>3次元モデル</u>			属性情報						削孔長	土質	規 格	単 位	数 量	備 考	施 工 本 数	B	○	○	○	本			注 入 設 備 の 移 設	C	×	×	×	回		注) 2	記載の追加
項目	区 分	削孔長	土質	規 格	単 位	数 量	備 考																																																				
施 工 本 数	○	○	○	○	本																																																						
注 入 設 備 の 移 設	×	×	×	×	回		注) 2																																																				
項目	区 分	<u>3次元モデル</u>			属性情報																																																						
		削孔長	土質	規 格	単 位	数 量	備 考																																																				
施 工 本 数	B	○	○	○	本																																																						
注 入 設 備 の 移 設	C	×	×	×	回		注) 2																																																				

積算上の注意事項		(控え頁)
		1/2

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	現 行	改 正	備 考
	<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>二重管ダブルバッカー工法における注入材料使用量は次式による。</p> <p>1) グラウト注入材料 $Q_G = \gamma_s \times L$ Q_G: グラウト注入の1本当り注入量 (t) γ_s: グラウト注入の単位使用量=12 (t/m) L: 削孔長 (m)</p> <p>2) 一次注入材料 $Q_{P1} = V \times \lambda \times 1000$ Q_{P1}: 二重管ダブルバッカー工法の一次注入の1本当り注入量 (t) V: 二重管ダブルバッカー工法の一次注入の1本当り注入対象土量 (m³) λ: 注入率 注) 注入率は現場の土質状況により設定するものとする。</p> <p>3) 二次注入材料 $Q_{P2} = V \times \lambda \times 1000$ Q_{P2}: 二重管ダブルバッカー工法の二次注入の1本当り注入量 (t) V: 二重管ダブルバッカー工法の二次注入の1本当り注入対象土量 (m³) λ: 注入率 注) 注入率は現場の土質状況により設定するものとする。</p> <p>●「薬液注入工」の1本あたりの対象土量の算出方法は、全体計画対象土量を計画施工本数で按分すること。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【数量算出イメージ】</p>  <p>対象土量 $V = 4m \times 4m \times 3m = 48m^3$ 削孔本数 $n = 16$本 1本当り対象土量: $48m^3 \div 16本 = 3m^3/本$</p> </div> <p style="text-align: center;">1-8-13</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(4) 規格 薬液注入工に使用する薬液の種類とし、1本当りの注入量も算出する。</p> <p>二重管ストレナ工法に必要な注入材料は次式による。 $Q_s = V \times \lambda \times 1000$ Q_s: 二重管ストレナ工法の1本当り注入量 (t) V: 二重管ストレナ工法の1本当り対象注入土量 (m³) λ: 注入率 注) 注入率は現場の土質状況により設定するものとする。</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">1-8-14</p>	
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																						
現 行		改 正																																																																																																																						
<p>9章 基礎工</p> <p>9.1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工</p> <p>1. 適用</p> <p>無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込砕石工及び基礎・裏込栗石工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>基礎砕石、基礎栗石の面積、裏込砕石、裏込栗石の体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、砕石の厚さ、砕石の種類、栗石の厚さ、栗石の種類、作業区分、敷並べ間隙充填材料とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">栗石の厚さ</th> <th rowspan="2">栗石の種類</th> <th rowspan="2">作業区分</th> <th rowspan="2">敷並べ間隙充填材料</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>砕石の厚さ</th> <th>砕石の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎砕石</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>注1</td> </tr> <tr> <td>裏込砕石</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎栗石</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>注2</td> </tr> <tr> <td>裏込栗石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 基礎砕石の敷均し厚は30cmを上限とする。 2. 基礎栗石の敷均し及び敷並べ厚は、30cmを上限とする。</p>		項目	区分		栗石の厚さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙充填材料	単位	数量	備考	砕石の厚さ	砕石の種類	基礎砕石	○	○					m ²		注1	裏込砕石		○					m ³			基礎栗石			○	○	○	○	m ²		注2	裏込栗石				○	○		m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="8">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>砕石の厚さ</th> <th>砕石の種類</th> <th>栗石の厚さ</th> <th>栗石の種類</th> <th>作業区分</th> <th>敷並べ間隙充填材料</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎砕石</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>注1</td> </tr> <tr> <td>裏込砕石</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎栗石</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>注2</td> </tr> <tr> <td>裏込栗石</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>注) 1. 基礎砕石の敷均し厚は30cmを上限とする。 2. 基礎栗石の敷均し及び敷並べ厚は、30cmを上限とする。</p>		項目	区分	属性情報								3次元モデル	砕石の厚さ	砕石の種類	栗石の厚さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙充填材料	単位	数量	備考	基礎砕石	A	○	○					m ²		注1	裏込砕石	B		○					m ³			基礎栗石	A			○	○	○	○	m ²		注2	裏込栗石	B				○	○		m ³			記載の追加
項目	区分		栗石の厚さ	栗石の種類								作業区分	敷並べ間隙充填材料	単位	数量	備考																																																																																																								
	砕石の厚さ	砕石の種類																																																																																																																						
基礎砕石	○	○					m ²		注1																																																																																																															
裏込砕石		○					m ³																																																																																																																	
基礎栗石			○	○	○	○	m ²		注2																																																																																																															
裏込栗石				○	○		m ³																																																																																																																	
項目	区分	属性情報																																																																																																																						
		3次元モデル	砕石の厚さ	砕石の種類	栗石の厚さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙充填材料	単位	数量	備考																																																																																																													
基礎砕石	A	○	○					m ²		注1																																																																																																														
裏込砕石	B		○					m ³																																																																																																																
基礎栗石	A			○	○	○	○	m ²		注2																																																																																																														
裏込栗石	B				○	○		m ³																																																																																																																
積算上の注意事項	1-9-2		(控え頁) 1/1																																																																																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																								
現 行		改 正																																																																								
<p>9.2 鋼矢板工</p> <p>1. 適用</p> <p>構造物及び護岸の基礎工事における鋼矢板工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鋼矢板工の延長、枚数、質量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、工種、規格、矢板長とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>工種</th> <th>規格</th> <th>矢板長</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>枚数</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格及び矢板長区分 矢板の材質、型式、1枚当り長さごとに区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 施工枚数は、鋼矢板の中心線の長さを1枚当りの幅で除した値とし、小数以下の端数は切上げて整数にまとめるものとする。 異型矢板及び継ぎ矢板は組数を算出し、施工略図を示すこと。</p>  <p>◎ 鋼矢板の質量算出例 施工延長 L=23.6m、Ⅲ型 H=10m の場合</p> <p>工事数量総括表 23m 積 算 35.4t</p> $\left[\begin{array}{l} 23.6 \div 0.4 = 59 \\ 59 \text{枚} \times 0.06 \text{t/m} \times 10 = 35.4 \text{t} \end{array} \right]$ <p>1-9-3</p>		項目	区分	工種	規格	矢板長	単位	数量	備 考	延長					m			枚数		○	○	○	枚			質量					t			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="6">運行情報</th> </tr> <tr> <th>工種</th> <th>規格</th> <th>矢板長</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>枚数</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p>		項目	3次元 モデル	運行情報						工種	規格	矢板長	単位	数量	備 考	延長	B				m			枚数	B	○	○	○	枚			質量	C				t			記載の追加
項目	区分	工種	規格	矢板長	単位	数量	備 考																																																																			
延長					m																																																																					
枚数		○	○	○	枚																																																																					
質量					t																																																																					
項目	3次元 モデル	運行情報																																																																								
		工種	規格	矢板長	単位	数量	備 考																																																																			
延長	B				m																																																																					
枚数	B	○	○	○	枚																																																																					
質量	C				t																																																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																							

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	現 行	改 正	
	<p>9.3 既製杭工</p> <p>1. 適用</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">土木構造物の既製杭工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">既製コンクリート杭、鋼管杭、回転杭等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>(1) 杭の種類……RC杭、PHC杭、SC杭、SC+PHC杭、鋼管杭、H鋼杭、回転杭</p> <p>3. 区分</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、構造物、杭種、杭径、杭長とする。</p> <p>(1) 数量算出項目および区分一覧表</p> <p>1) 既製コンクリート杭 (RC杭、PHC杭、SC杭、SC+PHC杭) ……別紙-1参照</p> <p>2) 鋼管杭……別紙-2参照</p> <p>3) 回転杭……別紙-2参照</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) RC杭、PHC杭、SC杭、SC+PHC杭(別紙-1参照)</p> <p>1) パイルハンマ工 別紙-1の数量のほか杭打込長及び掘削層の加重平均N値(別紙-3参照)を算出する。 また、杭打込長の最小単位は、0.5mを標準とする。</p> <p>2) 中掘工 別紙-1の数量のほか掘削長及び掘削層の加重平均N値(別紙-3参照)を算出する。 また、掘削長の最小単位は、0.5mを標準とする。</p> <p>(2) 鋼管杭(別紙-2参照)</p> <p>1) パイルハンマ工 別紙-2の数量のほか杭打込長及び掘削層の加重平均N値(別紙-3参照)を算出する。 また、杭打込長の最小単位は、0.5mを標準とする。</p> <p>2) 中掘工 別紙-2の数量のほか掘削長及び掘削層の加重平均N値(別紙-3参照)を算出する。 また、掘削長の最小単位は、0.5mを標準とする。</p> <p>(3) 回転杭(別紙-2参照)</p> <p>別紙-2の数量のほか掘削長及び掘削層の加重平均N値(別紙-3参照)を算出する。</p> <p style="text-align: center;">1-9-5</p>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">既製コンクリート杭、鋼管杭、回転杭等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>(1) 杭の種類……RC杭、PHC杭、SC杭、SC+PHC杭、鋼管杭、H鋼杭、回転杭</p> <p>3. 区分</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、構造物、杭種、杭径、杭長とする。</p> <p>(1) 数量算出項目および区分一覧表</p> <p>1) 既製コンクリート杭 (RC杭、PHC杭、SC杭、SC+PHC杭) ……別紙-1参照</p> <p>2) 鋼管杭……別紙-2参照</p> <p>3) 回転杭……別紙-2参照</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) RC杭、PHC杭、SC杭、SC+PHC杭(別紙-1参照)</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	<p>記載の削除</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の削除</p>
積算上の注意事項			(控え頁) 1/4

改正理由	一部改正	改 正 現 行	
------	------	------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

別紙-2

(2) 鋼管杭・回転杭

工 種	種 別	杭 径	材 質	上 杭			中 杭			下 杭			計			杭 1 本 当 り											杭 総 本 数	備 考						
				板 厚	杭 長	質 量	板 厚	杭 長	質 量	板 厚	杭 長	質 量	板 厚	杭 長	質 量	端 部 補 強 溶 接 長	端 部 補 強 溶 接 長	杭 頭 鉄 筋	中 部 コ ン ク リ ー ト 種 類	中 部 コ ン ク リ ー ト 種 類	ズ レ 止 め リ ン グ 質 量	ズ レ 止 め リ ン グ 質 量	現 場 円 周 溶 接 部 材	() 補 強 材	丸 産 量	つ り 金 具			鉄 筋 溶 接 長	ズ レ 止 め リ ン グ 溶 接 長	そ の 他 附 属 品			
種 門	本 体			mm	n	kg	mm	n	kg	mm	n	kg	mm	n	kg	kg	n	kg	m ³	kg	個	kg	kg	kg	kg	n	n	kg						
種 管	胸 壁																																	
水 門	翼 壁																																	
排 機	水 印																																	
	調 水 槽																																	
	沈 砂 池																																	
橋 梁	橋 台																																	
	橋 脚																																	
擁 壁																																		

- 注) 1. 継ぎ杭の場合は合わせて1本として算出する。
 2. 杭径、長さごとに集計する。
 3. 端部補強材の溶接長は、杭先端に補強バンドを溶接する場合に算出する。
 4. 現場円周補強材には、裏当てリング及びストッパーが含まれる。
 5. 補強材には、十字、二十字、井桁の種類を記入する。
 6. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 7. 鉄筋溶接長は、杭外周に補強鉄筋を溶接する場合に算出する。
 8. ズレ止めリングの溶接長は、ズレ止めリング上側一面の全周を算出する。
 9. その他附属品には、チャッキングプレート、回転防止板等の附属品を算出する。
 10. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 11. 掘削残土については別途算出する。

1-9-7

別紙-2

(2) 鋼管杭・回転杭

工 種	種 別	杭 径	材 質	上 杭			中 杭			下 杭			計			杭 1 本 当 り											杭 総 本 数	備 考							
				板 厚	杭 長	質 量	板 厚	杭 長	質 量	板 厚	杭 長	質 量	板 厚	杭 長	質 量	端 部 補 強 溶 接 長	端 部 補 強 溶 接 長	杭 頭 鉄 筋	中 部 コ ン ク リ ー ト 種 類	中 部 コ ン ク リ ー ト 種 類	ズ レ 止 め リ ン グ 質 量	ズ レ 止 め リ ン グ 質 量	現 場 円 周 溶 接 部 材	() 補 強 材	丸 産 量	つ り 金 具			鉄 筋 溶 接 長	ズ レ 止 め リ ン グ 溶 接 長	そ の 他 附 属 品				
種 門	本 体			B	mm	n	kg	mm	n	kg	mm	n	kg	mm	n	kg	kg	n	kg	m ³	kg	個	kg	kg	n	n	kg								
種 管	胸 壁			B																															
水 門	翼 壁			B																															
排 機	水 印			B																															
	調 水 槽			B																															
	沈 砂 池			B																															
橋 梁	橋 台			B																															
	橋 脚			B																															
擁 壁				B																															

- 3次元モデルの基本的な変現方法は、コンクリート構造を参考とする。
 注) 1. 継ぎ杭の場合は合わせて1本として算出する。
 2. 杭径、長さごとに集計する。
 3. 端部補強材の溶接長は、杭先端に補強バンドを溶接する場合に算出する。
 4. 現場円周補強材には、裏当てリング及びストッパーが含まれる。
 5. 補強材には、十字、二十字、井桁の種類を記入する。
 6. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 7. 鉄筋溶接長は、杭外周に補強鉄筋を溶接する場合に算出する。
 8. ズレ止めリングの溶接長は、ズレ止めリング上側一面の全周を算出する。
 9. その他附属品には、チャッキングプレート、回転防止板等の附属品を算出する。
 10. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 11. 掘削残土については別途算出する。

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

別紙-3

(3) 加重平均N値

工種	種別	杭規格				土質層No	土質区分								計	加重平均N値	備考
		種	別径 (mm)	長さ(m)	板厚(mm)		本数	1	2	3	4	5	6	7			
						土質											
						N値											
						層厚L (m)											
						N×L											

注) 板厚は鋼管杭のみ記入し、鋼管杭で板厚の異なる継杭の場合には、薄い板厚とする。

1-9-8

別紙-3

(3) 加重平均N値

工種	種別	属性情報															備考
		杭規格				土質層No	土質区分								計	加重平均N値	
種	別径 (mm)	長さ(m)	板厚(mm)	本数	1		2	3	4	5	6	7	8				
						土質											
						N値											
						層厚L (m)											
						N×L											

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照とする。
注) 板厚は鋼管杭のみ記入し、鋼管杭で板厚の異なる継杭の場合には、薄い板厚とする。

記載の追加

積算上の注意事項


(控え頁)

改正理由	一部改正	改正 現行																																		
現行		改正																																		
<p>9.4 木杭打工</p> <p>1. 適用</p> <p>木杭打工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>杭の本数を区分により算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、杭長、末口の大きさとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>杭長</th> <th>末口の大きさ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>杭</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td>杭材質を記載する。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	杭長	末口の大きさ	単位	数量	備考	杭	○	○	○	本		杭材質を記載する。	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>杭長</th> <th>末口の大きさ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>杭</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td>杭材質を記載する。</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p>	項目	区分	属性情報				備考	3次元モデル	杭長	末口の大きさ	単位	数量	杭	○	B	○	○	本	杭材質を記載する。	備考
項目	区分	杭長	末口の大きさ	単位	数量	備考																														
杭	○	○	○	本		杭材質を記載する。																														
項目	区分	属性情報				備考																														
		3次元モデル	杭長	末口の大きさ	単位		数量																													
杭	○	B	○	○	本	杭材質を記載する。																														
積算上の注意事項	1-9-9		(控え頁) 1/1																																	

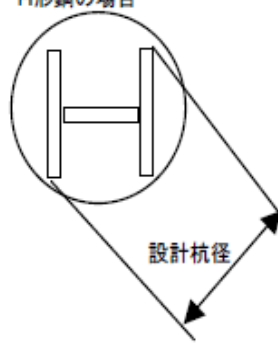
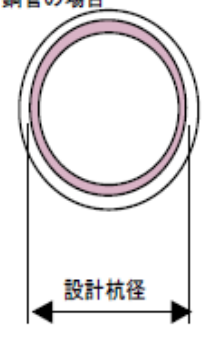


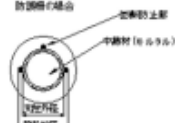
記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																														
現	行	改	正																													
<p>9.5 場所打杭工、深礎工</p> <p>1. 適用 土木構造物の場所打杭工、深礎杭工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 場所打杭、深礎杭の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、構造物、杭種、杭径、杭長とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>1) 場所打杭……別紙-1参照 2) 深礎杭……別紙-2参照</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(1) オールケーシング工 別紙-1の数量のほか下記の項目について算出する。</p> <p>1) 土質別の掘削長及び土質係数 杭打込長の最小単位は、0.1mを標準とする。 土質による区分は、以下の通りとする。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">土質</td> <td>レキ質土、粘性土、砂及び砂質土</td> </tr> <tr> <td></td> <td>岩塊・玉石、軟岩</td> </tr> <tr> <td></td> <td>硬岩・中硬岩</td> </tr> </table> <p>土質係数は掘削する土質毎の係数を加重平均して算出する。なお土質係数は、小数第2位を四捨五入し小数第1位とする。</p> $\alpha = \frac{(\alpha_1 \times L_1) + (\alpha_2 \times L_2) + \dots}{L_1 + L_2 + \dots}$ <p style="margin-left: 20px;">α_n: 各土質の土質係数 (次表) L_n: 各土質の掘削長 (m)</p> <p style="text-align: center;">掘削区分別土質係数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">掘削機</th> <th colspan="2">揺動式オールケーシング掘削機</th> <th colspan="2">全回転式オールケーシング掘削機</th> </tr> <tr> <th>レキ質土 粘性土 砂及び砂質土</th> <th>レキ質土 粘性土 砂及び砂質土</th> <th>岩塊・玉石 軟岩</th> <th>硬岩 中硬岩</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土質係数</td> <td style="text-align: center;">1.00</td> <td style="text-align: center;">1.00</td> <td style="text-align: center;">1.80</td> <td style="text-align: center;">2.80</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="text-align: right;">次頁より移動</p>		土質	レキ質土、粘性土、砂及び砂質土		岩塊・玉石、軟岩		硬岩・中硬岩	掘削機	揺動式オールケーシング掘削機		全回転式オールケーシング掘削機		レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石 軟岩	硬岩 中硬岩	土質係数	1.00	1.00	1.80	2.80	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">削除</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(1) 全回転式オールケーシング工 別紙-1の数量のほか下記の項目について算出する。</p> <p>1) 土質別の掘削長及び土質係数 杭打込長の最小単位は、0.1mを標準とする。 土質による区分は、以下の通りとする。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">土質</td> <td>レキ質土、粘性土、砂及び砂質土</td> </tr> <tr> <td></td> <td>岩塊・玉石、軟岩 I</td> </tr> <tr> <td></td> <td>軟岩 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td>硬岩 I・中硬岩</td> </tr> </table> <p>2) コンクリート量 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q: 杭1本当りのコンクリート使用量 (m³/本) D: 設計杭径 (m) L: 設計杭長 (m)</p> <p>3) 杭頭処理取壊コンクリート量 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q: 杭頭処理取壊コンクリート量 (m³/本) D: 設計杭径 (m) L: 設計杭頭処理延長 (m)</p> </div>		土質	レキ質土、粘性土、砂及び砂質土		岩塊・玉石、軟岩 I		軟岩 II		硬岩 I・中硬岩	<p>記載の追加、削除</p> <p>記載の削除</p>
土質	レキ質土、粘性土、砂及び砂質土																															
	岩塊・玉石、軟岩																															
	硬岩・中硬岩																															
掘削機	揺動式オールケーシング掘削機		全回転式オールケーシング掘削機																													
	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石 軟岩	硬岩 中硬岩																												
土質係数	1.00	1.00	1.80	2.80																												
土質	レキ質土、粘性土、砂及び砂質土																															
	岩塊・玉石、軟岩 I																															
	軟岩 II																															
	硬岩 I・中硬岩																															
積算上の注意事項	1-9-10		(控え頁) 1/8																													

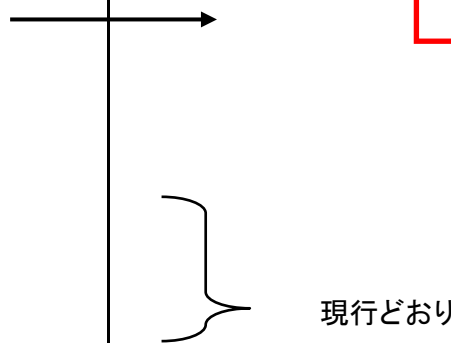
改正理由	一部改正	改正 現行	備考															
	現 行	改 正	備 考															
	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>2) コンクリート量 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q: 杭1本当りのコンクリート使用量 (m³/本) D: 設計杭径 (m) L: 設計杭長 (m)</p> <p>3) 杭頭処理取壊コンクリート量 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q: 杭頭処理取壊コンクリート量 (m³/本) D: 設計杭径 (m) L: 設計杭頭処理延長 (m)</p> </div> <p>(2) リバースサーキュレーション工 別紙-1の数量のほか下記の項目について算出する。</p> <p>1) コンクリート量 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q: 杭1本当りのコンクリート使用量 (m³/本) D: 設計杭径 (m) L: 設計杭長 (m)</p> <p>(3) アースオーガ・硬質地盤用アースオーガ工 別紙-1の数量のほか下記の項目について算出する。</p> <p>1) 土質別の掘削長及び土質係数 杭打込長の最小単位は、0.1mを標準とする。 土質による区分は、以下の通りとする。</p> <p>土質 — 土 (レキ質土、粘性土、砂及び砂質土) — 岩塊玉石 — 軟岩 (I)、軟岩 (II)</p> <p>土質係数は掘削する土質毎の係数を加重平均して算出する。なお土質係数は、少数第2位を四捨五入して少数第1位とする。</p> $\alpha = \frac{(\alpha_1 \times L_1) + (\alpha_2 \times L_2) + \dots}{L_1 + L_2 + \dots}$ <p style="text-align: center;">αn: 各土質の土質係数 (次表) Ln: 各土質の掘削長 (m)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption style="text-align: center;">土質係数</caption> <thead> <tr> <th style="border: none;">N値</th> <th style="border: none;">土質</th> <th style="border: none;">土</th> <th style="border: none;">岩塊玉石</th> <th style="border: none;">軟岩 I 軟岩 II</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">20未満</td> <td style="border: none;"></td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">3.2</td> <td style="text-align: center;">1.8</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">20以上</td> <td style="border: none;"></td> <td style="text-align: center;">1.1</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> </tr> </tbody> </table>	N値	土質	土	岩塊玉石	軟岩 I 軟岩 II	20未満		1.0	3.2	1.8	20以上		1.1			<p>前頁へ移動</p> <p>現行どおり</p>	
N値	土質	土	岩塊玉石	軟岩 I 軟岩 II														
20未満		1.0	3.2	1.8														
20以上		1.1																
	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>2) アースオーガによるモルタル杭 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L \times 10$ Q: 杭10本当りのモルタル使用量 (m³/10本) D: 杭径 (m) L: 杭長 (m)</p> </div> <p style="text-align: right;">次頁より移動</p>	<p>2) アースオーガによるモルタル杭 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L \times 10$ Q: 杭10本当りのモルタル使用量 (m³/10本) D: 杭径 (m) L: 杭長打設長 (m)</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>3) 鉄筋かご等 鉄筋かご等は、下表のとおり区分して算出する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="border: none;"></th> <th style="border: none;">長さ (m)</th> <th style="border: none;">質量 (t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">鉄筋かご</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">H形鋼</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table> </div>		長さ (m)	質量 (t)	鉄筋かご	○	○	H形鋼	○	○	記載の修正						
	長さ (m)	質量 (t)																
鉄筋かご	○	○																
H形鋼	○	○																
積算上の注意事項	1-9-11		(控え頁) 2/8															

改正理由	一部改正	改正 現行													
現行		改正													
<div data-bbox="409 562 1083 772" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>3) 鉄筋かご等 鉄筋かご等は、下表のとおり区分して算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>長さ (m)</th> <th>質量 (t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋かご</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>H 鋼</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>その他鋼材</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> </div>			長さ (m)	質量 (t)	鉄筋かご	○	○	H 鋼	○	○	その他鋼材	○	○	 前頁へ移動	
	長さ (m)	質量 (t)													
鉄筋かご	○	○													
H 鋼	○	○													
その他鋼材	○	○													
積算上の注意事項		(控え頁) 3/8													

1-9-12

改正理由	一部改正	改正 現 行																																																																								
現	行	改	正																																																																							
<p>(5) ダウンザホールハンマ工 別紙-1の数量のほか下記項目について算出する。</p> <p>1) H形鋼を使用する場合は、H形鋼の対角線長とし、鋼管を使用する場合は設計杭径は鋼管の外径とし、数量を算出する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>H形鋼の場合</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>鋼管の場合</p>  </div> </div> <p>※杭長=材料長、掘削長=打設長</p> <p>2) 土質区別掘削長（1本当たり） 杭打設長の最小単位は、0.1mを標準とする。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">杭種別</th> <th colspan="7">土質区分</th> </tr> <tr> <th>モルタル杭 (H形鋼)</th> <th>モルタル杭 (鋼管)</th> <th>コンクリート杭 (鋼管)</th> <th>砂質土</th> <th>レキ質土</th> <th>粘性土</th> <th>岩塊・玉石</th> <th>軟岩</th> <th>中岩</th> <th>硬岩</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削長 (m)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>3) モルタル杭使用における杭1本当たりモルタル使用量は以下の通りとする。 a) H形鋼又は鋼管を使用する場合 $Q = \pi / 4 \times D^2 \times L$ Q: モルタル使用量 (m³/本) D: 設計杭径 (m) L: 打設長 (m)</p> <p>4) コンクリート杭使用におけるモルタル、コンクリート (生コン) 杭1本当たり使用量は以下のとおりとする。 $Q1 = \pi / 4 \times (D_1^2 - D_2^2) \times L$ $Q2 = \pi / 4 \times D_2^2 \times L$ Q1: モルタル使用量 (m³/本) Q2: 中詰めコンクリート使用量 (m³/本) D: 設計杭径 (m) D1: 削孔径 (m) L: 打設長 (m)</p> <p>5) H形鋼等 H形鋼・鋼管材料長 (m) を算出する。</p>		区分	杭種別			土質区分							モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	砂質土	レキ質土	粘性土	岩塊・玉石	軟岩	中岩	硬岩	掘削長 (m)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>(5) ダウンザホールハンマ工 別紙-1の数量のほか下記項目について算出する。</p> <p>1) H形鋼を使用する場合は、H形鋼の対角線長とし、鋼管 (防護層を含む) を使用する場合は設計杭径は鋼管の外径とし、数量を算出する。なお、設計杭径については小数第1位以下を四捨五入して算出する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>2) 土質区別掘削長（1本当たり） 杭打設長の最小単位は、0.1mを標準とする。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">杭種別</th> </tr> <tr> <th>モルタル杭 (H形鋼)</th> <th>モルタル杭 (鋼管)</th> <th>コンクリート杭 (鋼管)</th> <th>H形鋼杭 (土砂埋戻し)</th> <th>鋼管杭 (土砂埋戻し)</th> <th>防護層 (モルタル杭)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削長 (m)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">土質区分</th> </tr> <tr> <th>砂質土</th> <th>粘性土</th> <th>レキ質土 岩塊・玉石 軟岩 中硬岩</th> <th>硬岩</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削長 (m)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>3) モルタル杭使用における杭1本当たりモルタル使用量は以下のとおりとする。 $Q = \pi / 4 \times D_1^2 \times \varnothing$ Q: モルタル使用量 (m³/本) D₁: 削孔径 (m) ∅: 打設長 (m)</p> <p>4) コンクリート杭使用におけるモルタル、コンクリート (生コン) 杭1本当たり使用量は以下のとおりとする。 $Q_1 = \pi / 4 \times (D_1^2 - D_2^2) \times \varnothing$ $Q_2 = \pi / 4 \times D_2^2 \times \varnothing$ Q₁: モルタル使用量 (m³/本) Q₂: 中詰めコンクリート使用量 (m³/本) D₁: 削孔径 (m) D₂: 設計杭径 (m) ∅: 打設長 (m)</p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p>		区分	杭種別						モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	H形鋼杭 (土砂埋戻し)	鋼管杭 (土砂埋戻し)	防護層 (モルタル杭)	掘削長 (m)	○	○	○	○	○	○	区分	土質区分				砂質土	粘性土	レキ質土 岩塊・玉石 軟岩 中硬岩	硬岩	掘削長 (m)	○	○	○	○	記載の追加	図の追加	記載の修正	記載の修正	記載の修正
区分	杭種別			土質区分																																																																						
	モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	砂質土	レキ質土	粘性土	岩塊・玉石	軟岩	中岩	硬岩																																																																
掘削長 (m)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																
区分	杭種別																																																																									
	モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	H形鋼杭 (土砂埋戻し)	鋼管杭 (土砂埋戻し)	防護層 (モルタル杭)																																																																				
掘削長 (m)	○	○	○	○	○	○																																																																				
区分	土質区分																																																																									
	砂質土	粘性土	レキ質土 岩塊・玉石 軟岩 中硬岩	硬岩																																																																						
掘削長 (m)	○	○	○	○																																																																						
積算上の注意事項	1-9-15	1-9-14		(控え頁)	4/8																																																																					

改正理由	一部改正		改正 現行	
現 行	改 正			備 考
	現行なし →	5) 土砂埋戻しにおける購入土(砂)杭1本当たり使用量は以下のとおりとする。 $Q = \pi / 4 \times D_1^2 \times \ell$ Q : 購入土(砂)使用量 (m ³ /本) D ₁ : 削孔径 (m) ℓ : 打設長 (m)		記載の追加
	前頁より移動 →	6) H形鋼等 H形鋼・鋼管・防護樫材料長 (m) を算出する。		
積算上の注意事項				(控え頁) 5/8

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改 正	備 考
<p>3) コンクリート及びグラウト量</p> $V = \pi / 4 \times D^2 \times L1$ <p>V : 杭1本当りのコンクリート使用量 (m³/本) D : 杭径 (公称径) (m) L1 : 打設長 (m)</p> $G = 0.08 \pi (D + 0.08) L2$ <p>G : 杭1本当りグラウト使用量 (m³/本) L2 : 杭1本当りグラウト必要長さ (m)</p> <p>注) 1. 土留材と地山の間隙をグラウトにより間詰する場合のグラウト使用量は、上式を標準とするが、土質等特別な条件によりこれにより難い場合は、別途考慮する。また、グラウトパイプは、必要量を算出する。</p> <p>(7) 鉄筋工 鉄筋の数量は、「4章コンクリート工 4. 3. 1鉄筋工」により算出する。</p>		<p>3) コンクリート及びグラウト量</p> $V = \pi / 4 \times D^2 \times L1$ <p>V : 杭1本当りのコンクリート使用量 (m³/本) D : 杭径 (公称径) (m) L1 : 打設長 (m)</p> <p>注) 1. 数量算出項目、区分および数量算出方法は「4章コンクリート工 4. 1コンクリート工」による。</p> $G = 0.08 \pi (D + 0.08) L2$ <p>G : 杭1本当りグラウト使用量 (m³/本) L2 : 杭1本当りグラウト必要長さ (m)</p> <p>注) 1. 土留材と地山の間隙をグラウトにより間詰する場合のグラウト使用量は、上式を標準とするが、土質等特別な条件によりこれにより難い場合は、別途考慮する。また、グラウトパイプは、必要量を算出する。</p>	記載の追加
1-9-17		 <p>現行どおり</p>	
積算上の注意事項			(控え頁) 6/8

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

別紙-1

(1) 場所打杭

工 種	種 別	杭径	杭長	杭 1 本 当 り													杭 総 本 数						
				鉄 筋										コン クリ ト	鉄 骨	中 部 材 規 格 使 用 量		日 形 鋼 規 格 単 位 重 量	鋼 規 格 単 位 重 量	杭 頭 処 理 取 付 有 無	建 材 の 有 無		
				D=13	D=16	16SD25	29SD32	D=35	D=38	D=41	D=51	計	種 類									種 類	種 類
樋 門	本 体	mm	m	Kg	Kg	Kg	Kg	Kg	kg	Kg	Kg	Kg	Kg	m ³	m ³							m ³	本
樋 管	胸 壁																						
水 門	翼 壁																						
排 水 機	水 叩																						
	調 圧 水 槽																						
	沈砂池																						
橋 梁	橋 台																						
	橋 脚																						
擁 壁																							
山 留																							
地すべ り抑止																							
基礎杭																							

- 注) 1. 杭の種類に応じて必要材料の算出を行う。
 2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 3. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 4. 掘削残土については、第1編2章土工により別途算出する。
 5. 泥水については別途算出する。

1-9-18

別紙-1

(1) 場所打杭

工 種	種 別	杭径	杭長	属 性 情 報													杭 総 本 数							
				鉄 筋										コン クリ ト	鉄 骨	中 部 材 規 格 使 用 量		日 形 鋼 規 格 単 位 重 量	鋼 規 格 単 位 重 量	杭 頭 処 理 取 付 有 無	建 材 の 有 無			
				D=13	D=16	16SD25	29SD32	D=35	D=38	D=41	D=51	計	種 類									種 類	種 類	種 類
樋 門	本 体	mm	m	B	Kg	Kg	Kg	Kg	Kg	Kg	kg	Kg	Kg	Kg	m ³	m ³							m ³	本
樋 管	胸 壁			B																				
水 門	翼 壁			B																				
排 水 機	水 叩			B																				
	調 圧 水 槽			B																				
	沈砂池			B																				
橋 梁	橋 台			B																				
	橋 脚			B																				
擁 壁				B																				
山 留				B																				
地すべ り抑止				B																				
基礎杭				B																				

- 3次元モデルの基本的な取扱いについては、コンクリート構造を参考とする。
 注) 1. 杭の種類に応じて必要材料の算出を行う。
 2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 3. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 4. 掘削残土については、第1編2章土工により別途算出する。
 5. 泥水については別途算出する。

記載の追加

積算上の注意事項

(控え頁)

7/8

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

別紙-2

(2) 深礎杭

工 種	種 別	杭径	杭長	杭 1 本 当 り											杭 総 本 数				
				鉄 筋										コンクリート		杭頭処理 コンクリート			
				D=13	D=16	1650/25	2950/32	D=35	D=38	D=41	D=51	計	種 類				種 類	種 類	種 類
樋 門	本 体	mm	m	Kg	Kg	Kg	Kg	Kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	m3	m3	m	m3	本
樋 管	胸 壁																		
水 門	翼 壁																		
排 水 機	水 叩																		
	調 圧 弁																		
構 梁	橋 台																		
	橋 脚																		
擁 壁																			
山 留																			
地すべり 抑止																			

- 注) 1. 杭の種類に応じて必要材料の算出を行う。
 2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 3. 構梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 4. 掘削残土については、第1編2章土工により別途算出する。
 5. 杭1本当たり掘削に際し、中硬岩もしくは硬岩の掘削がある場合は、備考欄に中硬岩もしくは硬岩と明記し、泥水については別途算出する。
 6. 掘削残土については別途算出する。

1-9-19

1-9-19

別紙-2

(2) 深礎杭

工 種	種 別	杭径	杭長	属 性 情 報											杭 総 本 数					
				杭 1 本 当 り										コンクリート		杭頭処理 コンクリート				
				D=13	D=16	1650/25	2950/32	D=35	D=38	D=41	D=51	計	種 類				種 類	種 類	種 類	種 類
樋 門	本 体	mm	m	B	Kg	Kg	Kg	Kg	Kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	m3	m3	m	m3	本
樋 管	胸 壁			B																
水 門	翼 壁			B																
排 水 機	水 叩			B																
	調 圧 弁			B																
構 梁	橋 台			B																
	橋 脚			B																
擁 壁				B																
山 留				B																
地すべり 抑止				B																

- 3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参照する。
 注) 1. 杭の種類に応じて必要材料の算出を行う。
 2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 3. 構梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 4. 掘削残土については、第1編2章土工により別途算出する。
 5. 杭1本当たり掘削に際し、中硬岩もしくは硬岩の掘削がある場合は、備考欄に中硬岩もしくは硬岩と明記し、泥水については別途算出する。
 6. 掘削残土については別途算出する。

1-9-19

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																								
現 行		改 正																																																								
<p>9.6 ニューマチックケーソン基礎工</p> <p>1. 適用</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ニューマチックケーソン基礎工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">刃口金物据付、沈下掘削、コンクリート、鉄筋、型枠、足場、沈下促進、中詰充填等の数量を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>適 用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>刃口金物据付</td><td></td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>沈下掘削</td><td></td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コンクリート</td><td></td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鉄筋</td><td></td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>型枠</td><td></td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>足場</td><td></td><td>掛m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>沈下促進</td><td></td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>H形鋼</td><td></td><td>t</td><td></td><td>撤去しない埋設支保用</td></tr> <tr><td>中詰充填</td><td></td><td>t 又は m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コンタクト グラウト充填</td><td></td><td>t 又は m³</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 刃口金物据付 質量は、「第3編(道路編) 4章鋼橋上部工 4.1 鋼材」を参照の上算出する。</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	適 用	刃口金物据付		t			沈下掘削		m ²			コンクリート		m ³			鉄筋		t			型枠		m ²			足場		掛m ²			沈下促進		t			H形鋼		t		撤去しない埋設支保用	中詰充填		t 又は m ³			コンタクト グラウト充填		t 又は m ³			<p>現行どおり</p> <p>→</p> <p>現行どおり</p>	<p>記載の追加</p>
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	適 用																																																						
刃口金物据付		t																																																								
沈下掘削		m ²																																																								
コンクリート		m ³																																																								
鉄筋		t																																																								
型枠		m ²																																																								
足場		掛m ²																																																								
沈下促進		t																																																								
H形鋼		t		撤去しない埋設支保用																																																						
中詰充填		t 又は m ³																																																								
コンタクト グラウト充填		t 又は m ³																																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																							

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

9.7 鋼管矢板基礎工

1. 適用

鋼管矢板工の仮締切兼用方式に適用する。

2. 数量算出項目

鋼管矢板、鋼管内掘削工、鋼管内コンクリート、継手管内排土、継手管内モルタル、継手管内止水材、井筒内掘削工、敷砂、底盤コンクリート、導枠、井筒内支保、井筒内支保間詰コンクリート、コネクタ、鋼管矢板切断を算出する。

注) 導枠、導枠については、「第1編（共通編）11.1土留・仮締切工」によるものとする。

3. 区分

区分は、規格、根入れ長、土質係数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	属性情報				数量	備考
		規格	根入れ長	土質係数	単位		
鋼管矢板	○	○	○	○	本	注) 1	
鋼管内掘削	×	×	×	×	m ²		
鋼管内コンクリート	○	×	×	×	m ³		
継手管内排土	×	×	×	×	m		
継手管内モルタル	○	×	×	×	m	注) 2	
継手管内止水材	○	×	×	×	m	注) 3	
井筒内掘削	×	×	×	×	m ²		
敷砂	×	×	×	×	m ²		
底盤コンクリート	○	×	×	×	m ³		
導枠、井筒内支保	○	×	×	×	t	注) 5	
井筒内支保間詰コンクリート	○	×	×	×	m ³	注) 6	
コネクタ（鉄筋スタッド）	○	×	×	×	段		
コネクタ（プレートブラケット）	×	×	×	×	t		
鋼管矢板切断	○	×	×	×	本		

- 注) 1. 鋼管矢板打込みにあたって、補強材が必要な場合は、鋼管矢板1本当りに必要な補強材（本）を算出する。
 2. 継手管内モルタルは、継手100m当りモルタル使用量（m³）を備考欄に記入する。
 3. 継手管内止水材は、継手100m当り注入材使用量（m³）及び止水袋使用量（m）を備考欄に記入する。
 4. 継手はP-P型を標準とする。
 5. 導枠、井筒内支保（H形鋼250～400）は、円弧部・直線部ごとに区分して算出する。
 なお、支保材料の規格は備考欄に明記する。
 6. 井筒内支保間詰コンクリートの型枠（底板等）が必要な場合は、別途算出する。

1-9-23

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報				数量	備考
			規格	根入れ長	土質係数	単位		
鋼管矢板	B	○	○	○	本	注) 1		
鋼管内掘削	B	×	×	×	m ²			
鋼管内コンクリート	A	○	×	×	m ³			
継手管内排土	B	×	×	×	m			
継手管内モルタル	B	○	×	×	m	注) 2		
継手管内止水材	B	○	×	×	m	注) 3		
井筒内掘削	B	×	×	×	m ²			
敷砂	B	×	×	×	m ²			
底盤コンクリート	A	○	×	×	m ³			
導枠、井筒内支保	B	○	×	×	t	注) 5		
井筒内支保間詰コンクリート	A	○	×	×	m ³	注) 6		
コネクタ（鉄筋スタッド）	C	○	×	×	段			
コネクタ（プレートブラケット）	C	×	×	×	t			
鋼管矢板切断	C	○	×	×	本			

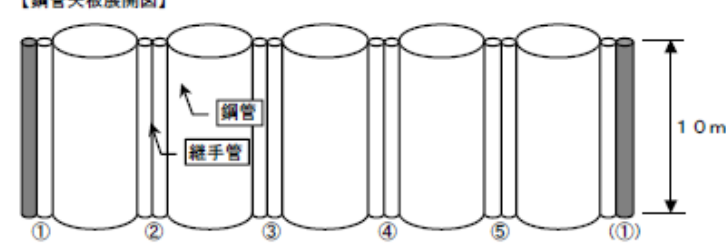
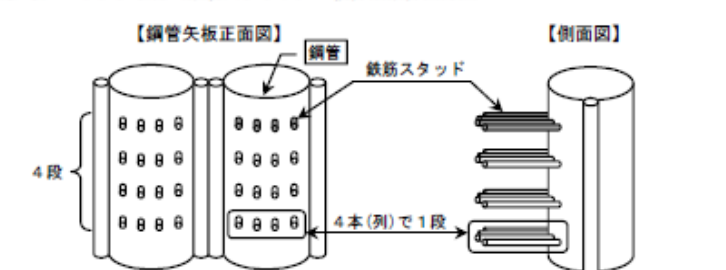
3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 鋼管矢板打込みにあたって、補強材が必要な場合は、鋼管矢板1本当りに必要な補強材（本）を算出する。
 2. 継手管内モルタルは、継手100m当りモルタル使用量（m³）を備考欄に記入する。
 3. 継手管内止水材は、継手100m当り注入材使用量（m³）及び止水袋使用量（m）を備考欄に記入する。
 4. 継手はP-P型を標準とする。

次頁へ移動

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁)	1/2
----------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																				
	現 行	改 正	備 考																				
	<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>(参考) 継手管内排土・継手管内モルタル・継手管内止水材 積算延長算出方法</p> <p>【鋼管矢板展開図】</p>  <p>継手管延長×継手箇所数 10m×5箇所=50m ∴積算数量=50m</p> <p>※注) 2. 3. のとおり、備考欄へは100m当り(継手1箇所=パイプ2本分)の材料使用量を記入する。</p> <p>(参考) コネクタ取付(鉄筋スタッド) 積算段数算出方法</p> <p>【鋼管矢板正面図】 【側面図】</p>  <p>例) 鋼管本数20本の場合・・・4段×20本=80段 ∴積算数量=80段</p> <p>(2) 規格 鋼管矢板は、杭長(m)・杭径(mm)・板厚(mm)ごとに区分して算出する。 また、継杭を行う場合は、杭1本当りの内訳長(上中下杭)を算出し継手管の板厚を明記する。</p> <p>(3) 根入長 鋼管矢板の打込み長(m)ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 土質係数 鋼管矢板の打込層の加重平均N値ごとに区分して算出する。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>打撃工法の場合</td> <td>土質係数</td> <td>N値</td> <td>1～20未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N値</td> <td>20以上</td> </tr> <tr> <td>中掘工法の場合</td> <td>土質係数</td> <td>N値</td> <td>1～20未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N値</td> <td>20～40未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N値</td> <td>40以上</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">1-9-24</p>	打撃工法の場合	土質係数	N値	1～20未満			N値	20以上	中掘工法の場合	土質係数	N値	1～20未満			N値	20～40未満			N値	40以上	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>5. 導棒、井筒内支保(H形鋼250～400)は、円弧部・直線部ごとに区分して算出する。 なお、支保材料の規格は備考欄に明記する。 6. 井筒内支保間詰コンクリートの型枠(底板等)が必要な場合は、別途算出する。</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	
打撃工法の場合	土質係数	N値	1～20未満																				
		N値	20以上																				
中掘工法の場合	土質係数	N値	1～20未満																				
		N値	20～40未満																				
		N値	40以上																				
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																				

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備 考
---	---	---	---	-----

別紙

(1) 鋼管ソイルセメント合成杭工法

工 種	種 別	杭 径	杭 長	鋼管 杭径	鋼管 杭長	掘 進 長			杭 1 本 当 た り				杭 総 本 数
						空堀長	固化体 一般部長	固化体 先端部長	セメント	添加 材料	継手	鋼管規格 単位質量	
樋 門	本 体	mm	m	mm	m	m	m	m	m ²	kg/m ³	箇所	t/m	本
樋 管	胸 壁												
水 門	翼 壁												
排 水 場	水 叩												
	調 圧 槽												
	沈砂池												
橋 梁	橋 台												
	橋 脚												
擁 壁													
山 留													
地すべり 抑止													

注) 1. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
3. 掘削残土については別途算出する。

1-9-27

別紙

(1) 鋼管ソイルセメント合成杭工法

工 種	種 別	3 次元 モデル	属 性 情 報											杭 総 本 数		
			杭 径	杭 長	鋼管 杭径	鋼管 杭長	掘 進 長			杭 1 本 当 た り						
			mm	m	mm	m	m	m	m	m	m	m ²	kg/m ³	箇所	t/m	本
樋 門	本 体	B														
樋 管	胸 壁	B														
水 門	翼 壁	B														
排 水 場	水 叩	B														
	調 圧 槽	B														
	沈砂池	B														
橋 梁	橋 台	B														
	橋 脚	B														
擁 壁		B														
山 留		B														
地すべり 抑止		B														

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
3. 掘削残土については別途算出する。

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

10章 構造物取壊し工

10.1 構造物取壊し工

1. 適用

土木工事におけるコンクリート構造物等の取壊し工に適用する。
ただし、建築物および舗装版の取壊し工及びブロック施工による旧橋撤去には適用しない。

2. 数量算出項目

コンクリート構造物等の取壊しの数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

石積取壊し（人力）とコンクリートはつりの区分は、種別、形状とする。
吹付法面とりこわしの区分は、種別、形状、集積積込の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	種 別	形 状	集積積込の有無	単 位	数 量	備 考
コンクリート 構造物取壊し		無筋構造物	—	—	m ³	()	注)4,5,6
		鉄筋構造物	—	—	m ³	()	注)4,5,6
石 取 壊 し (人 力)	練積	練積	控え 35cm以上 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
			控え 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
		空積	控え 45cm以上 60cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
			控え 60cm以上 90cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
コンクリートはつり	コンクリート 構造物	平均はつり厚さ 3cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3	
		平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3	
積込 (コンクリート殻)	—	—	—	—	m ³	()	注)3
吹付法面 とりこわし	モルタル	厚さ 5cm以上 15cm以下	○	(m ³) m ²	()	注)3 人力施工と機械 施工に区分し数 量を算出する。	

- 注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。
2. Co 塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出し、「第1編（共通編）10.5 搬運」により別途算出する。
3. 石積取壊し（人力）の施工数量は、石積取壊し前の面積とし、積込（コンクリート殻）の施工量は、取壊し構造物の破砕前の体積とする。
4. PC・RC 橋上部、鋼橋床版の取壊しは、コンクリート構造物取壊しの鉄筋構造物を適用する。
5. コンクリート構造物取壊しにおいて、施工基面（機械設置基面）より上下5mを超える場合については、区分して算出する。
6. 乾燥収縮によるひび割れ対策の鉄筋程度を含むものは、無筋構造物とする。

1-10-2

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報				備 考	
			種 別	形 状	集積積込の有無	単 位		
コンクリート 構造物取壊し		C	無筋構造物	—	—	m ³	注)4,5,6	
			鉄筋構造物	—	—	m ³	注)4,5,6	
石 取 壊 し (人 力)	練積	C	練積	控え 35cm以上 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
				控え 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
			空積	控え 45cm以上 60cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
				控え 60cm以上 90cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3
コンクリート は つ り	コンクリート 構造物	C	平均はつり厚さ 3cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3	
			平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3	
積込 (コンクリート 殻)	—	—	—	—	m ³	()	注)3	
吹付法面 とりこわし	モルタル	厚さ 5cm以上 15cm以下	○	(m ³) m ²	()	注)3 人力施工と機械 施工に区分し数 量を算出する。		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

- 注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。
2. Co 塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出し、「第1編（共通編）10.5 搬運」により別途算出する。

次頁へ移動

記載の追加

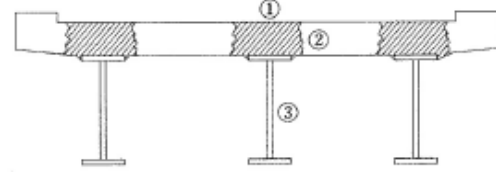
積算上の注意事項		(控え頁)	1/2
----------	--	-------	-----

工 種	構造物取壊し工
-----	---------

改正理由	一部改正		改正 現行	
現 行	改 正			備 考
	<p style="text-align: center;">前頁より移動 →</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>3. 石積取壊し（人力）の施工数量は、石積取壊し前の面積とし、積込（コンクリート殻）の施工量は、取壊し構造物の破砕前の体積とする。</p> <p>4. PC・RC 橋上部、鋼橋床版の取壊しは、コンクリート構造物取壊しの鉄筋構造物を適用する。</p> <p>5. コンクリート構造物取壊しにおいて、施工基面（機械設置基面）より上下5mを超える場合については、区分して算出する。</p> <p>6. 乾燥収縮によるひび割れ対策の鉄筋程度を含むものは、無筋構造物とする。</p> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">1-10-3</p>			
積算上の注意事項				(控え頁) 2 / 2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																																																																						
現行		改正																																																																																																																																																																																																						
<p>10.2 旧橋撤去工</p> <p>1. 適用</p> <p>鋼橋桁（合成桁及び非合成桁）の高欄撤去から舗装版とりこわし、床版分割（ブロック施工）のための1次破砕と撤去及び桁材撤去と床版2次破砕までの一連作業による撤去工に適用する。 高欄撤去およびアスファルト舗装版破砕・積込みはRC及びPC橋にも適用することができる。 なお、横断歩道橋撤去、床版打換え時のブロック施工等には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>高欄撤去、アスファルト舗装版破砕・積込み、床版1次破砕・撤去、床版1次及び2次破砕・撤去、桁1次切断・撤去、桁1次及び2次切断・撤去、アスファルト塊運搬、床版運搬の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、クレーン規格、相吊クレーンの有無、相吊クレーン規格、DID区間の有無、運搬距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>クレーン規格</th> <th>相吊クレーンの有無</th> <th>相吊クレーン規格</th> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高欄撤去</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>アスファルト舗装版破砕・積込み</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> <tr> <td>床版1次破砕・撤去</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 3</td> </tr> <tr> <td>床版1次及び2次破砕・撤去</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 3</td> </tr> <tr> <td>桁1次切断・撤去</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>桁1次及び2次切断・撤去</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト塊運搬</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 4</td> </tr> <tr> <td>床版運搬</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 高欄撤去とは、鋼製、橋梁用ガードレール、アルミ製の高欄であり、コンクリート高欄（壁高欄含む）は除く。なお、高欄延長は、両車線の総撤去延長である。 2. 対象数量は、アスファルト舗装版のみの体積とする。 3. 対象数量は、床版の体積とする。また、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄（壁高欄含む）は、対象数量に含めて算出する。</p> <p>1-10-3</p>		項目	区分	クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考	高欄撤去		×	×	×	×	×	m		注) 1	アスファルト舗装版破砕・積込み		×	×	×	×	×	m ³		注) 2	床版1次破砕・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注) 3	床版1次及び2次破砕・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注) 3	桁1次切断・撤去		○	○	○	×	×	t			桁1次及び2次切断・撤去		○	○	○	×	×	t			アスファルト塊運搬		×	×	×	○	○	m ³		注) 4	床版運搬		×	×	×	×	○	m ³		注) 5	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">属性情報</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>クレーン規格</th> <th>相吊クレーンの有無</th> <th>相吊クレーン規格</th> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高欄撤去</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>アスファルト舗装版破砕・積込み</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> <tr> <td>床版1次破砕・撤去</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 3</td> </tr> <tr> <td>床版1次及び2次破砕・撤去</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 3</td> </tr> <tr> <td>桁1次切断・撤去</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>桁1次及び2次切断・撤去</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト塊運搬</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 4</td> </tr> <tr> <td>床版運搬</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注) 5</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 1. 高欄撤去とは、鋼製、橋梁用ガードレール、アルミ製の高欄であり、コンクリート高欄（壁高欄含む）は除く。なお、高欄延長は、両車線の総撤去延長である。 2. 対象数量は、アスファルト舗装版のみの体積とする。 3. 対象数量は、床版の体積とする。また、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄（壁高欄含む）は、対象数量に含めて算出する。</p> <p>1-10-4</p>		項目	区分	属性情報							数量	備考	3次元モデル	クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格	DID区間の有無	運搬距離	単位	高欄撤去		C	×	×	×	×	×	m		注) 1	アスファルト舗装版破砕・積込み		C	×	×	×	×	×	m ³		注) 2	床版1次破砕・撤去		C	×	×	×	×	×	m ³		注) 3	床版1次及び2次破砕・撤去		C	×	×	×	×	×	m ³		注) 3	桁1次切断・撤去		C	○	○	○	×	×	t			桁1次及び2次切断・撤去		C	○	○	○	×	×	t			アスファルト塊運搬		C	×	×	×	○	○	m ³		注) 4	床版運搬		C	×	×	×	×	○	m ³		注) 5	記載の追加
項目	区分	クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																															
高欄撤去		×	×	×	×	×	m		注) 1																																																																																																																																																																																															
アスファルト舗装版破砕・積込み		×	×	×	×	×	m ³		注) 2																																																																																																																																																																																															
床版1次破砕・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注) 3																																																																																																																																																																																															
床版1次及び2次破砕・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注) 3																																																																																																																																																																																															
桁1次切断・撤去		○	○	○	×	×	t																																																																																																																																																																																																	
桁1次及び2次切断・撤去		○	○	○	×	×	t																																																																																																																																																																																																	
アスファルト塊運搬		×	×	×	○	○	m ³		注) 4																																																																																																																																																																																															
床版運搬		×	×	×	×	○	m ³		注) 5																																																																																																																																																																																															
項目	区分	属性情報							数量	備考																																																																																																																																																																																														
		3次元モデル	クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格	DID区間の有無	運搬距離	単位																																																																																																																																																																																																
高欄撤去		C	×	×	×	×	×	m		注) 1																																																																																																																																																																																														
アスファルト舗装版破砕・積込み		C	×	×	×	×	×	m ³		注) 2																																																																																																																																																																																														
床版1次破砕・撤去		C	×	×	×	×	×	m ³		注) 3																																																																																																																																																																																														
床版1次及び2次破砕・撤去		C	×	×	×	×	×	m ³		注) 3																																																																																																																																																																																														
桁1次切断・撤去		C	○	○	○	×	×	t																																																																																																																																																																																																
桁1次及び2次切断・撤去		C	○	○	○	×	×	t																																																																																																																																																																																																
アスファルト塊運搬		C	×	×	×	○	○	m ³		注) 4																																																																																																																																																																																														
床版運搬		C	×	×	×	×	○	m ³		注) 5																																																																																																																																																																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																																																																																																																																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																		
現	行	改	正																																																																	
備 考																																																																				
<p>(2) クレーン規格、相吊クレーン規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">クレーン規格</td> <td>ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25 t 吊</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">相吊クレーン規格</td> <td>ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35 t 吊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型45 t 吊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型50 t 吊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トラッククレーン油圧伸縮ジブ型100 t 吊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トラッククレーン油圧伸縮ジブ型120 t 吊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トラッククレーン油圧伸縮ジブ型160 t 吊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トラッククレーン油圧伸縮ジブ型200 t 吊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トラッククレーン油圧伸縮ジブ型360 t 吊</td> </tr> </table> <p>(3) 相吊クレーンの有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">相吊クレーンの有無</td> <td>有り</td> </tr> <tr> <td></td> <td>無し</td> </tr> </table> <p>(4) DID 区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">DID 区間の有無</td> <td>無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>有り</td> </tr> </table> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">関連数量算出項目</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場・防護・ベント等</td> <td></td> <td></td> <td>「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照</td> </tr> <tr> <td>現場発成品運搬</td> <td>回</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現場発成品の運搬をする場合は、質量(t)についても算出する。</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p> <p>(参考) ブロック施工(床版分割施工)とは、コンクリート殻を桁下に落とすことができず、ある程度のブロック状に1次破砕後、鉄筋をガス切断したのちクレーン等でブロックを吊り上げて、撤去する工法である。</p> <p>なお、「床版1次破砕・ブロック塊撤去」から「桁1次切断・撤去」の作業順序は、下記のとおりである。</p> <div style="text-align: center;"> <p>① ② ③</p> </div> <p>作業順は、①の斜線部を大型ブレーカで1次破砕後、鉄筋をガス切断、②のブロック塊をホイールクレーンで撤去し、③の桁材切断・撤去を行う。</p> <p style="text-align: center;">1-10-4</p> </div>		クレーン規格	ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25 t 吊	相吊クレーン規格	ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35 t 吊		ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型45 t 吊		ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型50 t 吊		トラッククレーン油圧伸縮ジブ型100 t 吊		トラッククレーン油圧伸縮ジブ型120 t 吊		トラッククレーン油圧伸縮ジブ型160 t 吊		トラッククレーン油圧伸縮ジブ型200 t 吊		トラッククレーン油圧伸縮ジブ型360 t 吊	相吊クレーンの有無	有り		無し	DID 区間の有無	無し		有り	関連数量算出項目				項目	単位	数量	備考	足場・防護・ベント等			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照	現場発成品運搬	回		必要な場合別途計上	<p style="font-size: 2em;">}</p> <p>現行どおり</p>	<p style="font-size: 2em;">→</p> <p>次頁へ移動</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">関連数量算出項目</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="2">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th></th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場・防護・ベント等</td> <td style="background-color: #e0e0e0;">C</td> <td></td> <td></td> <td>「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照</td> </tr> <tr> <td>現場発成品運搬</td> <td style="background-color: #e0e0e0;">C</td> <td>回</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: 0.8em; margin-top: 5px;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。 注) 現場発成品の運搬をする場合は、質量(t)についても算出する。</p> </div> <p style="text-align: right;">記載の追加</p>	関連数量算出項目				項目	3次元 モデル	属 性 情 報			単位	数量	備考	足場・防護・ベント等	C			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照	現場発成品運搬	C	回		必要な場合別途計上
クレーン規格	ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25 t 吊																																																																			
相吊クレーン規格	ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35 t 吊																																																																			
	ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型45 t 吊																																																																			
	ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型50 t 吊																																																																			
	トラッククレーン油圧伸縮ジブ型100 t 吊																																																																			
	トラッククレーン油圧伸縮ジブ型120 t 吊																																																																			
	トラッククレーン油圧伸縮ジブ型160 t 吊																																																																			
	トラッククレーン油圧伸縮ジブ型200 t 吊																																																																			
	トラッククレーン油圧伸縮ジブ型360 t 吊																																																																			
相吊クレーンの有無	有り																																																																			
	無し																																																																			
DID 区間の有無	無し																																																																			
	有り																																																																			
関連数量算出項目																																																																				
項目	単位	数量	備考																																																																	
足場・防護・ベント等			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照																																																																	
現場発成品運搬	回		必要な場合別途計上																																																																	
関連数量算出項目																																																																				
項目	3次元 モデル	属 性 情 報																																																																		
		単位	数量	備考																																																																
足場・防護・ベント等	C			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照																																																																
現場発成品運搬	C	回		必要な場合別途計上																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																																																																	

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行		改 正	
<p>前頁より移動 →</p>		<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p> <p>（参考） ブロック施工（床版分割施工）とは、コンクリート殻を桁下に落とすことができず、ある程度のブロック状に1次破碎後、鉄筋をガス切断したのちクレーン等でブロックを吊り上げて、撤去する工法である。 なお、「床版1次破碎・ブロック塊撤去」から「桁1次切断・撤去」の作業順序は、下記のとおりである。</p>  <p>作業順は、①の斜線部を大型ブレーカで1次破碎後、鉄筋をガス切断、②のブロック塊をホイールクレーンで撤去し、③の桁材切断・撤去を行う。</p> </div>	
積算上の注意事項		1-10-6	備考 (控え頁) 3/3

改正理由	一部改正	改正 現行																													
現 行		改 正																													
<p>10.3 骨材再生工</p> <p>1. 適用</p> <p>自走式破砕機によるコンクリート殻（鉄筋有無）の破砕作業で骨材粒度0～40mmの骨材再生工（自走式）に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>骨材再生の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨 材 再 生 工</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 骨材再生工は、破砕前の殻処理量を規格（殻投入寸法600mm以下、600mm超）ごとに区分して算出する。 2. 骨材再生により、鉄屑が発生する場合は、鉄屑質量（t）を算出する。</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	骨 材 再 生 工		○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨 材 再 生 工</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>注) 1. 骨材再生工は、破砕前の殻処理量を規格（殻投入寸法600mm以下、600mm超）ごとに区分して算出する。 2. 骨材再生により、鉄屑が発生する場合は、鉄屑質量（t）を算出する。</p>		項目	区分	属性情報				規格	単位	数量	備考	骨 材 再 生 工		○	m ³		
項目	区分	規格	単位	数量	備考																										
骨 材 再 生 工		○	m ³																												
項目	区分	属性情報																													
		規格	単位	数量	備考																										
骨 材 再 生 工		○	m ³																												
1-10-5		1-10-7																													
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																												

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																						
現	行	改	正																																																																																					
<p>10.4 コンクリート削孔工</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート構造物の削孔（さし筋、アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等）作業に適用する。</p> <p>削孔機械における適用削孔径及び削孔深</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>削孔機械</th> <th>電動ハンマドリル (38mm)</th> <th>さく岩機[ハンドドリル (空圧式)]質量 15 kg級</th> <th>コンクリート穿孔機[電動式コアボーリングマシン][簡易仕様型]最大穿孔径 φ25 cm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔径 (mm)</td> <td>10 以上 30 未満</td> <td>30 以上 60 以下</td> <td>60 を超え 200 以下</td> </tr> <tr> <td>削孔深 (mm)</td> <td>100 以上 200 以下</td> <td>100 以上 600 以下</td> <td>200 以上 400 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート削孔（電動ハンマドリル38mm）、コンクリート削孔（さく岩機）、コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、削孔深さ、削孔径とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>削孔深さ</th> <th>削孔径</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（電動ハンマドリル38mm）</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート削孔（さく岩機）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>削孔深さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 100mm以上200mm未満 — 200mm以上400mm未満 — 400mm以上600mm以下 <p style="text-align: center;">1-10-6</p>		削孔機械	電動ハンマドリル (38mm)	さく岩機[ハンドドリル (空圧式)]質量 15 kg級	コンクリート穿孔機[電動式コアボーリングマシン][簡易仕様型]最大穿孔径 φ25 cm	削孔径 (mm)	10 以上 30 未満	30 以上 60 以下	60 を超え 200 以下	削孔深 (mm)	100 以上 200 以下	100 以上 600 以下	200 以上 400 以下	項目	区分	削孔深さ	削孔径	単位	数量	備考	コンクリート削孔（電動ハンマドリル38mm）	×	×	孔				コンクリート削孔（さく岩機）	○	×	孔				コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）	×	○	孔				<p>10.4 コンクリート削孔工</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート構造物の削孔（<u>用心鉄筋（さし筋）、あと施工アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等</u>）作業に適用する。</p> <p>削孔機械における適用削孔径及び削孔深</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>削孔機械</th> <th>削孔径</th> <th>削孔深</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電動ハンマドリル</td> <td>10mm 以上 30mm 未満</td> <td>30mm 以上 400mm 以下</td> </tr> <tr> <td>さく岩機（ハンドドリル）</td> <td>30mm 以上 60mm 未満</td> <td>100mm 以上 1,100mm 以下</td> </tr> <tr> <td>コンクリート穿孔機（電動式コアボーリングマシン）</td> <td>60mm 以上 100mm 未満</td> <td>50mm 以上 1,100mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100mm 以上 200mm 以下</td> <td>50mm 以上 400mm 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート削孔（電動ハンマドリル<u>38/40mm</u>）、コンクリート削孔（さく岩機）、コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、削孔深さ、削孔径とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>削孔径</th> <th>削孔深さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（電動ハンマドリル<u>38/40mm</u>）</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×○</td> <td>孔</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート削孔（さく岩機）</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>×○</td> <td>孔</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p> <p style="text-align: center;">1-10-8</p>		削孔機械	削孔径	削孔深	電動ハンマドリル	10mm 以上 30mm 未満	30mm 以上 400mm 以下	さく岩機（ハンドドリル）	30mm 以上 60mm 未満	100mm 以上 1,100mm 以下	コンクリート穿孔機（電動式コアボーリングマシン）	60mm 以上 100mm 未満	50mm 以上 1,100mm 以下		100mm 以上 200mm 以下	50mm 以上 400mm 以下	項目	区分	3次元モデル	属性情報				削孔径	削孔深さ	単位	数量	コンクリート削孔（電動ハンマドリル <u>38/40mm</u> ）	C	×	×○	孔		コンクリート削孔（さく岩機）	C	×	○	孔		コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）	C	○	×○	孔		<p>記載の追加、削除</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の追加、修正</p>
削孔機械	電動ハンマドリル (38mm)	さく岩機[ハンドドリル (空圧式)]質量 15 kg級	コンクリート穿孔機[電動式コアボーリングマシン][簡易仕様型]最大穿孔径 φ25 cm																																																																																					
削孔径 (mm)	10 以上 30 未満	30 以上 60 以下	60 を超え 200 以下																																																																																					
削孔深 (mm)	100 以上 200 以下	100 以上 600 以下	200 以上 400 以下																																																																																					
項目	区分	削孔深さ	削孔径	単位	数量	備考																																																																																		
コンクリート削孔（電動ハンマドリル38mm）	×	×	孔																																																																																					
コンクリート削孔（さく岩機）	○	×	孔																																																																																					
コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）	×	○	孔																																																																																					
削孔機械	削孔径	削孔深																																																																																						
電動ハンマドリル	10mm 以上 30mm 未満	30mm 以上 400mm 以下																																																																																						
さく岩機（ハンドドリル）	30mm 以上 60mm 未満	100mm 以上 1,100mm 以下																																																																																						
コンクリート穿孔機（電動式コアボーリングマシン）	60mm 以上 100mm 未満	50mm 以上 1,100mm 以下																																																																																						
	100mm 以上 200mm 以下	50mm 以上 400mm 以下																																																																																						
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																					
			削孔径	削孔深さ	単位	数量																																																																																		
コンクリート削孔（電動ハンマドリル <u>38/40mm</u> ）	C	×	×○	孔																																																																																				
コンクリート削孔（さく岩機）	C	×	○	孔																																																																																				
コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）	C	○	×○	孔																																																																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																																																					


改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																											
	<p>現 行</p> <div data-bbox="409 512 1145 890" style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>(3) 削孔径による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>積算条件</th> <th>区分</th> <th>参考 (使用ビット径)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔径</td> <td>60mmを超え64mm未満</td> <td>64.7mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>64mm以上77mm未満</td> <td>77.4 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>77mm以上90mm未満</td> <td>90.8 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>90mm以上110mm未満</td> <td>110.0 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>110mm以上128mm未満</td> <td>128.5mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>128mm以上160mm未満</td> <td>160.0mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>160mm以上180mm未満</td> <td>180.0mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>180mm以上200mm以下</td> <td>204.0mm</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="409 989 1145 1077" style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」による。</p> </div> <p style="text-align: right;">前頁より移動</p> <p style="text-align: center;">1-10-7</p>	積算条件	区分	参考 (使用ビット径)	削孔径	60mmを超え64mm未満	64.7mm		64mm以上77mm未満	77.4 mm		77mm以上90mm未満	90.8 mm		90mm以上110mm未満	110.0 mm		110mm以上128mm未満	128.5mm		128mm以上160mm未満	160.0mm		160mm以上180mm未満	180.0mm		180mm以上200mm以下	204.0mm	<p>改 正</p> <div data-bbox="1596 512 2445 1680" style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>(2) 削孔径による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>積算条件</th> <th>区分</th> <th>参考 (使用ビット径)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔径</td> <td>60mmを超え以上64mm未満</td> <td>64.7mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>64mm以上77mm未満</td> <td>77.4 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>77mm以上90mm未満</td> <td>90.8 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>90mm以上110mm未満</td> <td>110.0 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100mm以上110mm未満</td> <td>110.0 mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>110mm以上128mm未満</td> <td>128.5mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>128mm以上160mm未満</td> <td>160.0mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>160mm以上180mm未満</td> <td>180.0mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>180mm以上200mm以下</td> <td>204.0mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>①コンクリート削孔 (電動ハンマドリル 40mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>削孔深さ</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100mm以上200mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>200mm以上400mm未満以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>②コンクリート削孔 (さく岩機)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>削孔深さ</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100mm以上200mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>200mm以上300mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>300mm以上400mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>400mm以上600mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>600mm以上800mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>800mm以上1,000mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1,000mm以上1,100mm以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>③コンクリート削孔 (コンクリート穿孔機)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>削孔深さ</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>50mm以上200mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>200mm以上400mm未満 (削孔径が100mm以上200mm以下の場合、削孔深さは200mm以上400mm以下)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>400mm以上600mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>600mm以上800mm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>800mm以上1,100mm以下</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">次頁へ移動</p> <p style="text-align: center;">1-10-9</p> </div>	積算条件	区分	参考 (使用ビット径)	削孔径	60mmを超え以上64mm未満	64.7mm		64mm以上77mm未満	77.4 mm		77mm以上90mm未満	90.8 mm		90mm以上110mm未満	110.0 mm		100mm以上110mm未満	110.0 mm		110mm以上128mm未満	128.5mm		128mm以上160mm未満	160.0mm		160mm以上180mm未満	180.0mm		180mm以上200mm以下	204.0mm	削孔深さ			100mm以上200mm未満		200mm以上400mm未満以下	削孔深さ			100mm以上200mm未満		200mm以上300mm未満		300mm以上400mm未満		400mm以上600mm未満		600mm以上800mm未満		800mm以上1,000mm未満		1,000mm以上1,100mm以下	削孔深さ			50mm以上200mm未満		200mm以上400mm未満 (削孔径が100mm以上200mm以下の場合、削孔深さは200mm以上400mm以下)		400mm以上600mm未満		600mm以上800mm未満		800mm以上1,100mm以下	<p>備 考</p> <p>記載の修正、追加</p> <p>記載の修正、追加</p>
積算条件	区分	参考 (使用ビット径)																																																																																												
削孔径	60mmを超え64mm未満	64.7mm																																																																																												
	64mm以上77mm未満	77.4 mm																																																																																												
	77mm以上90mm未満	90.8 mm																																																																																												
	90mm以上110mm未満	110.0 mm																																																																																												
	110mm以上128mm未満	128.5mm																																																																																												
	128mm以上160mm未満	160.0mm																																																																																												
	160mm以上180mm未満	180.0mm																																																																																												
	180mm以上200mm以下	204.0mm																																																																																												
積算条件	区分	参考 (使用ビット径)																																																																																												
削孔径	60mmを超え以上64mm未満	64.7mm																																																																																												
	64mm以上77mm未満	77.4 mm																																																																																												
	77mm以上90mm未満	90.8 mm																																																																																												
	90mm以上110mm未満	110.0 mm																																																																																												
	100mm以上110mm未満	110.0 mm																																																																																												
	110mm以上128mm未満	128.5mm																																																																																												
	128mm以上160mm未満	160.0mm																																																																																												
	160mm以上180mm未満	180.0mm																																																																																												
	180mm以上200mm以下	204.0mm																																																																																												
削孔深さ																																																																																														
	100mm以上200mm未満																																																																																													
	200mm以上400mm未満以下																																																																																													
削孔深さ																																																																																														
	100mm以上200mm未満																																																																																													
	200mm以上300mm未満																																																																																													
	300mm以上400mm未満																																																																																													
	400mm以上600mm未満																																																																																													
	600mm以上800mm未満																																																																																													
	800mm以上1,000mm未満																																																																																													
	1,000mm以上1,100mm以下																																																																																													
削孔深さ																																																																																														
	50mm以上200mm未満																																																																																													
	200mm以上400mm未満 (削孔径が100mm以上200mm以下の場合、削孔深さは200mm以上400mm以下)																																																																																													
	400mm以上600mm未満																																																																																													
	600mm以上800mm未満																																																																																													
	800mm以上1,100mm以下																																																																																													
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																																																																																											

工種	コンクリート削孔工
----	-----------

改正理由	一部改正		改正 現行	
現行	改正		備考	
<p>前頁より移動</p>	<p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p>			
積算上の注意事項				<p>(控え頁) 3/3</p>

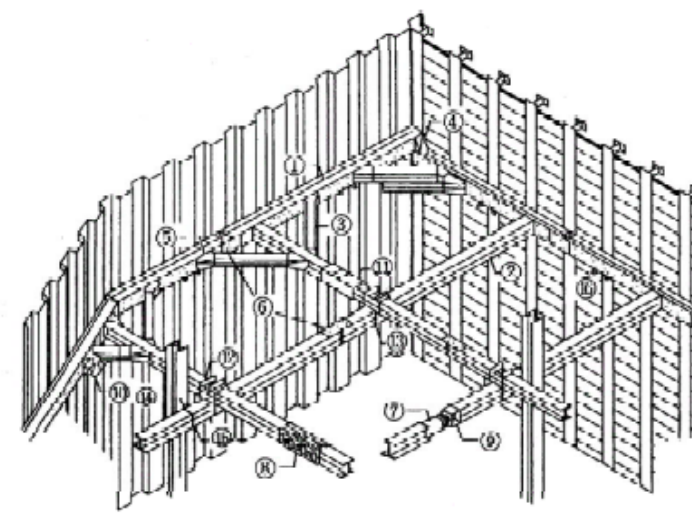
1-10-10

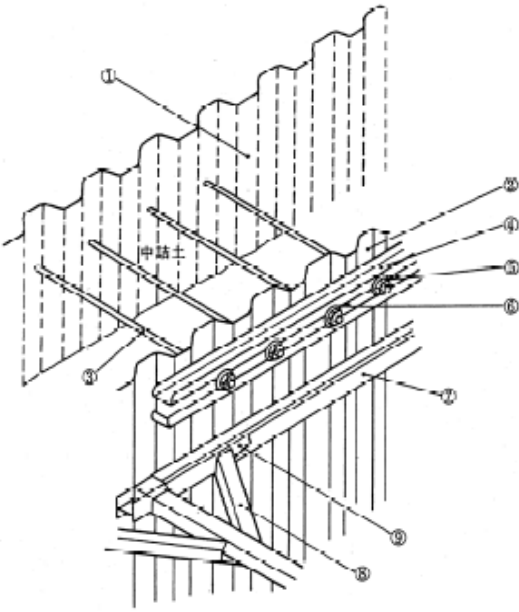
改正理由	一部改正	改正 現行																																								
現	行	改	正																																							
<p>10.5 殻運搬</p> <p>1. 適用 構造物撤去工、舗装版破砕及びモルタルの吹付法面のとりこわし作業における殻運搬に適用する。 ただし、路面切削作業で発生したアスファルト殻の場合、自動車専用道路を利用する場合、運搬距離が60kmを超える場合には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目 運搬体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、殻発生作業、積込工法区分、運搬距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>殻発生作業</th> <th>積込工法区分</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殻 運 搬</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 設計数量は、構造物をとりこわす前の体積とする。</p> <p>(2) 殻発生作業と積込工法区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コンクリート（無筋・鉄筋） <ul style="list-style-type: none"> — 機械積込 — 人力積込 — 構造物とりこわし ②舗装版破砕 <ul style="list-style-type: none"> — 人力積込 — 機械積込（騒音対策不要、舗装版厚 15cm 超） — 機械積込（騒音対策必要） — 機械積込（騒音対策不要、舗装版厚 15cm 以下） — 機械積込（小規模土工） ③吹付法面取壊し（モルタル） <ul style="list-style-type: none"> — 機械積込 <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。</p> <p style="text-align: right;">1-10-8</p>		項目	区分	殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備考	殻 運 搬		○	○	○	m ³			<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">→</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>殻発生作業</th> <th>積込工法区分</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殻 運 搬</td> <td></td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 設計数量は、構造物をとりこわす前の体積とする。</p> <p style="text-align: right;">1-10-11</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報					殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備考	殻 運 搬		C	○	○	○	m ³		記載の追加
項目	区分	殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備考																																			
殻 運 搬		○	○	○	m ³																																					
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																							
			殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備考																																		
殻 運 搬		C	○	○	○	m ³																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																							

改正理由	一部改正	改正 現行	
現行	改正		備考
<p style="text-align: center;">11章 仮設工</p> <ul style="list-style-type: none"> 11.1 土留・仮締切工 11.2 締切排水工 11.3 仮橋・仮栈橋工 11.4 足場工 11.5 支保工 11.6 仮囲い設置撤去工 <ul style="list-style-type: none"> 11.6.1 仮囲い設置撤去工 11.6.2 雪寒仮囲い工 11.7 土のう工 11.8 切土及び発破防護柵工 11.9 汚濁防止フェンス工 11.10 アンカー工（ロータリーパーカッション式） 11.11 鉄筋挿入工（ロックボルト） 11.12 ウェルポイント工 <li style="border: 1px solid red;">11.13 連続地中壁工（柱列式） <li style="border: 1px solid red;">11.14 敷鉄板設置撤去工 <p style="text-align: center;">1-11-1</p>	<div style="text-align: center;">  <p>現行どおり</p> <p>削除</p> </div> <div style="border: 1px solid red; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 2px;"> <p>11.13 敷鉄板設置撤去工</p> </div>	<p>積算基準改定に伴う削除</p> <p>記載の修正</p>	
積算上の注意事項			<p style="text-align: right;">（控え頁）</p> <p style="text-align: right;">1/1</p>

改正理由	一部改正	改正 現行																																																															
現行		改正																																																															
<p>11章 仮設工 11.1 土留・仮締切工</p> <p>1. 適用</p> <p>土留（親杭横矢板工法、鋼矢板工法）、仮締切（一重締切、二重締切）、路面覆工等の仮設工に適用する。</p> <p>2. 矢板工</p> <p>(1) 数量算出項目</p> <p>矢板工の延長、枚数、質量を区分ごとに算出する。</p> <p>(2) 区分</p> <p>区分は、施工箇所、規格、矢板長とする。</p> <p>1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>施工 箇所</th> <th>規格</th> <th>矢板長 (H形鋼長)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>枚数 (本数)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>枚 (本)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) () 書きは、H形鋼に適用する。</p> <p>2) 施工箇所区分 施工箇所（ブロック）ごとに区分して算出する。</p> <p>3) 規格および矢板長（H形鋼長）区分 矢板（H形鋼）の材質、型式、1枚当り長さ（1本当り長さ）ごとに区分して算出する。 なお、親杭（中間杭）に使用するH形鋼は、杭用（生材）を標準とする。</p> <p>(3) 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>1) 枚数 施工枚数は、鋼矢板の中心線の長さを1枚当りの幅で除した値とし、小数以下の端数は切上げて整数にまとめるものとする。 なお、施工場所から矢板置場までの距離について、30m以内の場合と30mを超える場合毎に区分して算出する。</p> <p>2) 継手数 継矢板を施工する場合は、矢板（H形鋼）の規格毎に、1枚(本)当たり継手数(箇所)についても算出する。</p> <p>1-11-2</p>		区分 項目	施工 箇所	規格	矢板長 (H形鋼長)	単位	数量	備考	延長				m			枚数 (本数)	○	○	○	枚 (本)			質量				t			<p>現行どおり</p> <p>1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>施工 箇所</th> <th>規格</th> <th>矢板長 (H形鋼長)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>枚数 (本数)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>枚 (本)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>注) () 書きは、H形鋼に適用する。</p> <p>現行どおり</p> <p>記載の追加</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報					施工 箇所	規格	矢板長 (H形鋼長)	単位	数量	備考	延長	B				m		枚数 (本数)	B	○	○	○	枚 (本)		質量	C				t	
区分 項目	施工 箇所	規格	矢板長 (H形鋼長)	単位	数量	備考																																																											
延長				m																																																													
枚数 (本数)	○	○	○	枚 (本)																																																													
質量				t																																																													
区分 項目	3次元 モデル	属性情報																																																															
		施工 箇所	規格	矢板長 (H形鋼長)	単位	数量	備考																																																										
延長	B				m																																																												
枚数 (本数)	B	○	○	○	枚 (本)																																																												
質量	C				t																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/4																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																															
現 行		改 正																																																																																																															
<p>3. 仮設材設置撤去工</p> <p>(1) 数量算出項目</p> <p>切梁、腹起し、タイロッド、横矢板、覆工板、覆工板受桁等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>(2) 区分</p> <p>区分は、施工箇所、規格とする。</p> <p>1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工箇所</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切梁・腹起し</td> <td></td> <td rowspan="6">○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイロッド・腹起し</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横 矢 板</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆 工 板</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆 工 板 受 桁</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td>設置面積700m²を超える場合</td> </tr> <tr> <td>覆工板受桁用桁受</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td>設置面積700m²を超える場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 施工箇所区分 施工箇所（ブロック）ごとに区分して算出する。</p> <p>3) 規格区分 仮設材の材質、型式、寸法等ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>1) 切梁・腹起し等 切梁・腹起し等の質量は、下表の算出方法により算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部材名</th> <th>部 品 名</th> <th>質量算出方法</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主部材</td> <td>切梁、腹起し、火打梁、補助ベース</td> <td>積上げ</td> <td>ネジ・ナット・火打受ベース(火打ブロック)の長さに相当する部材長の質量を控除すること。</td> </tr> <tr> <td>副部材 (A)</td> <td>隅部ベース、交差部ベース、カバープレート、ネジ・ナット、シヤッキバネ、シヤッキヘッド、火打受ベース、腰掛金物、(火打ブロック)</td> <td>主部材質量 × 0.22 (0.67)</td> <td>ネジ・ナット・火打受ベースの長さは、どちらも50cmとする。火打ブロックを使用する場合は、()内の値とする。</td> </tr> <tr> <td>副部材 (B)</td> <td>ブラケット、ボルト、ナット</td> <td>主部材質量 × 0.04 (0.06)</td> <td>1回毎全損とする。火打ブロックを使用する場合は、()内の値とする。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 運搬質量については、主部材、副部材 (A) (リース材) について計</p>		項目	区分	施工箇所	規格	単位	数量	備考	切梁・腹起し		○	○	t			タイロッド・腹起し		○	t			横 矢 板		○	m ²			覆 工 板		○	m ²			覆 工 板 受 桁		○	t		設置面積700m ² を超える場合	覆工板受桁用桁受		○	t		設置面積700m ² を超える場合	部材名	部 品 名	質量算出方法	備 考	主部材	切梁、腹起し、火打梁、補助ベース	積上げ	ネジ・ナット・火打受ベース(火打ブロック)の長さに相当する部材長の質量を控除すること。	副部材 (A)	隅部ベース、交差部ベース、カバープレート、ネジ・ナット、シヤッキバネ、シヤッキヘッド、火打受ベース、腰掛金物、(火打ブロック)	主部材質量 × 0.22 (0.67)	ネジ・ナット・火打受ベースの長さは、どちらも50cmとする。火打ブロックを使用する場合は、()内の値とする。	副部材 (B)	ブラケット、ボルト、ナット	主部材質量 × 0.04 (0.06)	1回毎全損とする。火打ブロックを使用する場合は、()内の値とする。	<p>現行どおり</p> <p>1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>施工箇所</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切梁・腹起し</td> <td></td> <td>B</td> <td rowspan="6">○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイロッド・腹起し</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横 矢 板</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆 工 板</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆 工 板 受 桁</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td>設置面積700m²を超える場合</td> </tr> <tr> <td>覆工板受桁用桁受</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td>設置面積700m²を超える場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				施工箇所	規格	単位	数量	備考	切梁・腹起し		B	○	○	t		タイロッド・腹起し		B	○	t		横 矢 板		B	○	m ²		覆 工 板		B	○	m ²		覆 工 板 受 桁		B	○	t	設置面積700m ² を超える場合	覆工板受桁用桁受		B	○	t	設置面積700m ² を超える場合	備考
項目	区分	施工箇所	規格	単位	数量	備考																																																																																																											
切梁・腹起し		○	○	t																																																																																																													
タイロッド・腹起し			○	t																																																																																																													
横 矢 板			○	m ²																																																																																																													
覆 工 板			○	m ²																																																																																																													
覆 工 板 受 桁			○	t		設置面積700m ² を超える場合																																																																																																											
覆工板受桁用桁受			○	t		設置面積700m ² を超える場合																																																																																																											
部材名	部 品 名	質量算出方法	備 考																																																																																																														
主部材	切梁、腹起し、火打梁、補助ベース	積上げ	ネジ・ナット・火打受ベース(火打ブロック)の長さに相当する部材長の質量を控除すること。																																																																																																														
副部材 (A)	隅部ベース、交差部ベース、カバープレート、ネジ・ナット、シヤッキバネ、シヤッキヘッド、火打受ベース、腰掛金物、(火打ブロック)	主部材質量 × 0.22 (0.67)	ネジ・ナット・火打受ベースの長さは、どちらも50cmとする。火打ブロックを使用する場合は、()内の値とする。																																																																																																														
副部材 (B)	ブラケット、ボルト、ナット	主部材質量 × 0.04 (0.06)	1回毎全損とする。火打ブロックを使用する場合は、()内の値とする。																																																																																																														
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																														
			施工箇所	規格	単位	数量	備考																																																																																																										
切梁・腹起し		B	○	○	t																																																																																																												
タイロッド・腹起し		B		○	t																																																																																																												
横 矢 板		B		○	m ²																																																																																																												
覆 工 板		B		○	m ²																																																																																																												
覆 工 板 受 桁		B		○	t	設置面積700m ² を超える場合																																																																																																											
覆工板受桁用桁受		B		○	t	設置面積700m ² を超える場合																																																																																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 2/4																																																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行																																		
現行	改正		備考																																	
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>上するものとし、副部材 (B) (1回毎全損とするもの) については運搬重量として計上しない。</p> <p>2) 横矢板 横矢板の数量は、横矢板を施工する壁面積を算出する。 なお、規格には、横矢板厚を表示すること。</p> <p>3) 土留め・締切概念図</p>  <table border="1" data-bbox="504 1260 756 1648"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>部材名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>腹起し</td></tr> <tr><td>2</td><td>切梁</td></tr> <tr><td>3</td><td>火打梁</td></tr> <tr><td>4</td><td>隅部ベース</td></tr> <tr><td>5</td><td>火打受ベース</td></tr> <tr><td>6</td><td>カバープレート</td></tr> <tr><td>7</td><td>キリンジャッキ</td></tr> <tr><td>8</td><td>ジャッキカバー</td></tr> <tr><td>9</td><td>補助ベース</td></tr> <tr><td>10</td><td>自在火打受ベース</td></tr> <tr><td>11</td><td>土圧計</td></tr> <tr><td>12</td><td>交叉部ベース</td></tr> <tr><td>13</td><td>交叉部Uボルト</td></tr> <tr><td>14</td><td>締付用Uボルト</td></tr> <tr><td>15</td><td>切梁ブラケット</td></tr> <tr><td>16</td><td>腹起し部ブラケット</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">1-11-5</p>	No	部材名称	1	腹起し	2	切梁	3	火打梁	4	隅部ベース	5	火打受ベース	6	カバープレート	7	キリンジャッキ	8	ジャッキカバー	9	補助ベース	10	自在火打受ベース	11	土圧計	12	交叉部ベース	13	交叉部Uボルト	14	締付用Uボルト	15	切梁ブラケット	16	腹起し部ブラケット	<p>注) 1. 運搬質量については、主部材、副部材 (A) (リース材) について計上するものとし、副部材 (B) (1回毎全損とするもの) については運搬重量として計上しない。</p> <p>2) タイロッド タイロッドの質量は、本体、ターンバックル、リングジョイントおよび定着ナットの合計とする。</p> <p>3) 横矢板 横矢板の数量は、横矢板を施工する壁面積を算出する。 なお、規格には、横矢板厚を表示すること。</p> <p>4) 土留め・締切概念図</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	<p>記載の追加</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の修正</p>
No	部材名称																																			
1	腹起し																																			
2	切梁																																			
3	火打梁																																			
4	隅部ベース																																			
5	火打受ベース																																			
6	カバープレート																																			
7	キリンジャッキ																																			
8	ジャッキカバー																																			
9	補助ベース																																			
10	自在火打受ベース																																			
11	土圧計																																			
12	交叉部ベース																																			
13	交叉部Uボルト																																			
14	締付用Uボルト																																			
15	切梁ブラケット																																			
16	腹起し部ブラケット																																			
積算上の注意事項			(控え頁) 3/4																																	

改正理由	一部改正	改正 現行																					
現行	改正	備考																					
<p>4) 二重鋼矢板締切概念図</p>  <table border="1" data-bbox="575 1339 884 1556"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>部材名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>外側鋼矢板</td></tr> <tr><td>2</td><td>掘削側鋼矢板</td></tr> <tr><td>3</td><td>タイロッド</td></tr> <tr><td>4</td><td>タイロッド取付用腹起し</td></tr> <tr><td>5</td><td>ナット</td></tr> <tr><td>6</td><td>ワッシャー</td></tr> <tr><td>7</td><td>腹起し</td></tr> <tr><td>8</td><td>火打梁</td></tr> <tr><td>9</td><td>火打受ピース</td></tr> </tbody> </table> <p>1-11-6</p>	No	部材名称	1	外側鋼矢板	2	掘削側鋼矢板	3	タイロッド	4	タイロッド取付用腹起し	5	ナット	6	ワッシャー	7	腹起し	8	火打梁	9	火打受ピース	<p>5) 二重鋼矢板締切概念図</p> <p>現行どおり</p>	<p>記載の修正</p>	
No	部材名称																						
1	外側鋼矢板																						
2	掘削側鋼矢板																						
3	タイロッド																						
4	タイロッド取付用腹起し																						
5	ナット																						
6	ワッシャー																						
7	腹起し																						
8	火打梁																						
9	火打受ピース																						
積算上の注意事項			(控え頁) 4/4																				

改正理由	一部改正	改正 現行																																			
現行		改正																																			
<p>11.2 締切排水工</p> <p>1. 適用範囲</p> <p>仮設工のうち河川、道路、砂防工事などの水中締切、地中締切の排水工事に適用するものとし、ダム本体工事などの大規模工事には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>締切排水の排水量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は全揚程とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>全揚程</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">締切排水量</td> <td>15m以下</td> <td>m³/h</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15mを超えるもの</td> <td>m³/h</td> <td></td> <td>全揚程 (m) も算出する。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	全揚程	単位	数量	備考	締切排水量	15m以下	m ³ /h			15mを超えるもの	m ³ /h		全揚程 (m) も算出する。	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全揚程</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">締切排水量</td> <td>C</td> <td>15m以下</td> <td>m³/h</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>15mを超えるもの</td> <td>m³/h</td> <td></td> <td>全揚程 (m) も算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p>		項目	3次元モデル	属性情報			備考	全揚程	単位	数量	締切排水量	C	15m以下	m ³ /h			C	15mを超えるもの	m ³ /h		全揚程 (m) も算出する。
項目	全揚程	単位	数量	備考																																	
締切排水量	15m以下	m ³ /h																																			
	15mを超えるもの	m ³ /h		全揚程 (m) も算出する。																																	
項目	3次元モデル	属性情報			備考																																
		全揚程	単位	数量																																	
締切排水量	C	15m以下	m ³ /h																																		
	C	15mを超えるもの	m ³ /h		全揚程 (m) も算出する。																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																		

1-11-7

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

11.3 仮橋・仮栈橋工

1. 適用

鋼製による仮橋及び仮栈橋の上部工（桁、覆工板、高欄）と下部工（橋脚・杭橋脚）に適用する。

2. 数量算出項目

仮橋・仮栈橋上部、覆工板、高欄、橋脚、杭橋脚、定規等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	単位	数量	備考	
上部工	主桁・横桁	○	t		注) 2	
	覆工板	○	m ²			
	高欄	ガードレール	○	m		仮橋
		単管パイプ	○	m		仮栈橋
下部工	橋脚（直接基礎形式）	○	t		注) 3	
	杭橋脚 （杭基礎形式）	○	t		注) 4	
		○	本			
	導杭・導枠	○	本		注) 5	

- 注) 1. コンクリート基礎が必要な場合は別途計上する。
 2. 上部工の対象質量は、主桁、横桁の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 3. 橋脚の対象質量は、橋脚、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 4. 杭橋脚の対象質量は、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 5. 導杭・導枠はH型鋼（300×300）とし、導杭施工本数は杭橋脚打込み10本当たり8本が標準であり、導杭の本数を算出のこと。

1-11-8

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	原 性 情 報			備考	
			規格	単位	数量		
上部工	主桁・横桁	B	○	t		注) 2	
	覆工板	B	○	m ²			
	高欄	ガードレール	B	○	m		仮橋
		単管パイプ	B	○	m		仮栈橋
下部工	橋脚（直接基礎形式）	B	○	t		注) 3	
	杭橋脚 （杭基礎形式）	B	○	t		注) 4	
		○	本				
	導杭・導枠	C	○	本		注) 5	

- 3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
 注) 1. コンクリート基礎が必要な場合は別途計上する。
 2. 上部工の対象質量は、主桁、横桁の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 3. 橋脚の対象質量は、橋脚、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 4. 杭橋脚の対象質量は、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 5. 導杭・導枠はH型鋼（300×300）とし、導杭施工本数は杭橋脚打込み10本当たり8本が標準であり、導杭の本数を算出のこと。

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁)
		1/1

改正理由	一部改正	改正 現行																																							
現行		改正																																							
<p>11.4 足場工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般土木工事の構造物施工にかかる足場工に適用する。 ただし、高さ2m未満の構造物には適用しない。また、鋼橋床版、砂防、ダム、トンネル第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)(2)等には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>足場の掛面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、構造物、工法とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>構造物</th> <th>工法</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 平均設置高さ「30m以下」と「30m超」に区分し算出する。</p> <p>(2) 構造物区分 構造物ごとに区分して数量を算出する。</p> <p>(3) 工法区分 工法による区分は、下表のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>設置場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単管傾斜足場</td> <td>構造物面が傾斜している箇所 (勾配が1分以上)</td> </tr> <tr> <td>手摺先行型 枠組足場</td> <td>構造物が垂直に近く(勾配1分未満)、 設置面が平坦な箇所</td> </tr> <tr> <td>単管足場</td> <td>枠組足場の設置が不適当な箇所</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 転落防止の為の安全ネットは、構造物との離隔が30cm以上の場合原則有りとする。 必要な場合は、明示し区分すること。</p>		区分 項目	構造物	工法	単位	数量	備考	足場	○	○	掛m ²			工法	設置場所	単管傾斜足場	構造物面が傾斜している箇所 (勾配が1分以上)	手摺先行型 枠組足場	構造物が垂直に近く(勾配1分未満)、 設置面が平坦な箇所	単管足場	枠組足場の設置が不適当な箇所	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>構造物</th> <th>工法</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>掛m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>(注) 平均設置高さ「30m以下」と「30m超」に区分し算出する。</p> <p>現行どおり</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報				構造物	工法	単位	数量	備考	足場	C	○	○	掛m ²		記載の追加
区分 項目	構造物	工法	単位	数量	備考																																				
足場	○	○	掛m ²																																						
工法	設置場所																																								
単管傾斜足場	構造物面が傾斜している箇所 (勾配が1分以上)																																								
手摺先行型 枠組足場	構造物が垂直に近く(勾配1分未満)、 設置面が平坦な箇所																																								
単管足場	枠組足場の設置が不適当な箇所																																								
区分 項目	3次元 モデル	属性情報																																							
	構造物	工法	単位	数量	備考																																				
足場	C	○	○	掛m ²																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																						

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

11.5 支保工

1. 適用

一般土木工事の構造物施工の支保工に適用する。
ただし、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)(2)には適用しない。

2. 数量算出項目

支保の空体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造物、工法、設置高、支保耐力とする。

(1) 数量算出項目および区分一覧表

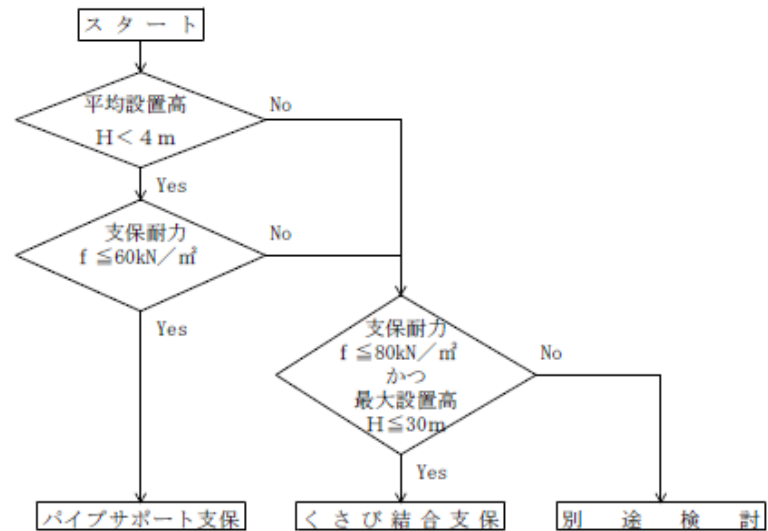
区分 項目	構造物	工 法	支 保 耐 力	設置高	単 位	数 量	備 考
支 保	○	○	○	○	空m ³		

(2) 構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。

(3) 工法区分

工法による区分は、下記工法選定フローによる。



注) 支保耐力80KN/m²を超える場合、又は最大設置高さが30mを超える場合は、別途工法等を検討するものとする。

1-11-22

現行どおり

(1) 数量算出項目および区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属性情報					
		構造物	工 法	支 保 耐 力	設置高	単 位	数 量
支 保	○	○	○	○	空m ³		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																														
現行		改正																														
<p>11.6 仮囲い設置撤去工</p> <p>11.6.1 仮囲い設置撤去工</p> <p>1. 適用</p> <p>建設工事現場における仮囲いの設置及び撤去に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>仮囲いの延長を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>高さ</th> <th>基礎形式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮 囲 い</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>高さ3m、基礎形式は単管による土中打込みを標準とする。これによらない場合は、使用する材料ごとに規格、数量を算出する。</p> <p>3. 参考図（仮囲い概念図）</p>		項目	高さ	基礎形式	単位	数量	備考	仮 囲 い	○	○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>高さ</th> <th>基礎形式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮 囲 い</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>高さ3m、基礎形式は単管による土中打込みを標準とする。これによらない場合は、使用する材料ごとに規格、数量を算出する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	3次元 モデル	属性情報				高さ	基礎形式	単位	数量	備考	仮 囲 い	C	○	○	m		<p>備考</p> <p>記載の追加</p>
項目	高さ	基礎形式	単位	数量	備考																											
仮 囲 い	○	○	m																													
項目	3次元 モデル	属性情報																														
	高さ	基礎形式	単位	数量	備考																											
仮 囲 い	C	○	○	m																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																													

改正理由	一部改正	改正 現行																													
現行		改正																													
<p>11.6.2 雪寒仮囲い工</p> <p>1. 適用</p> <p>積雪寒冷地の冬期における土木構造物の施工において、平均設置高30m以下の「雪寒仮囲い」の設置及び撤去に適用する。なお、Pタイプで設置高4mを超える場合、小型構造物には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>雪寒仮囲いの面積を区分毎に算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、雪寒仮囲いの構造形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造形式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雪寒仮囲い</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造形式区分 下記のとおり、構造形式ごとに区分して算出する。 ①Pタイプ ②Wタイプ ③PWタイプ</p> <p>※さらに、「②Wタイプ、③PWタイプ」については、枠組足場と枠組足場以外で数量を区分すること。</p>		項目	区分	構造形式	単位	数量	備考	雪寒仮囲い	○		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>構造形式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雪寒仮囲い</td> <td>C</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			構造形式	単位	数量	備考	雪寒仮囲い	C		○	m ²	
項目	区分	構造形式	単位	数量	備考																										
雪寒仮囲い	○		m ²																												
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																												
			構造形式	単位	数量	備考																									
雪寒仮囲い	C		○	m ²																											
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>2/2</p>																												

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																										
現行		改正																										
<p>11.7 土のう工</p> <p>1. 適用</p> <p>簡易な仮締切工等に適用するものとする。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>土のう積面積を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>並べ方</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土のう積</td> <td>○</td> <td>m²(袋)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>m²により算出し難い場合は、袋により算出する。</p> <p>(2) 並べ方 並べ方は下記の区分による ①小口並べ ②側面並べ</p> <p>(3) 土のう積面積 土のう積面積は直高×延長より算出する。</p> <p>3. 参考</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>小口並べ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>側面並べ</p> </div> </div> <p>(注) 詰土量は地山土量とする。</p> <p style="text-align: center;">1-11-32</p>		項目	並べ方	単位	数量	備考	土のう積	○	m ² (袋)			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>並べ方</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土のう積</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>m²(袋)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</u> m²により算出し難い場合は、袋により算出する。</p> <p>現行どおり</p>		項目	3次元 モデル	属性情報				並べ方	単位	数量	備考	土のう積	C	○	m ² (袋)	
項目	並べ方	単位	数量	備考																								
土のう積	○	m ² (袋)																										
項目	3次元 モデル	属性情報																										
	並べ方	単位	数量	備考																								
土のう積	C	○	m ² (袋)																									
積算上の注意事項			<p>記載の追加</p> <p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>																									

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																				
現 行		改 正																																																																																				
<p>11.8 切土及び発破防護柵工</p> <p>1. 適用</p> <p>切土及び発破による落石又は飛石を防止するための仮設防護柵の設置・撤去に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>防護柵の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、防護柵形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形 式</th> <th>区 分</th> <th>防護柵形式</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防 護 柵</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 防護柵形式区分 防護柵の形式を下記のとおり区分して算出する。 ①形式1 ②形式2 ③形式3</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 防護柵の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土 留 材</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>金 網</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シート・ネット</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 支柱・横桁・土留材に使用する各鋼材等については、鋼板はt当り、鋼矢板は枚当り、H形鋼は本当りにより算出すること。</p>		形 式	区 分	防護柵形式	単 位	数 量	備 考	防 護 柵		○	m ²			項 目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	土 留 材		○	m ²			金 網		○	m ²			シート・ネット		○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">形 式</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th>3次元モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>防護柵形式</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防 護 柵</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 防護柵の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th>3次元モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土 留 材</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金 網</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シート・ネット</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 支柱・横桁・土留材に使用する各鋼材等については、鋼板はt当り、鋼矢板は枚当り、H形鋼は本当りにより算出すること。</p>		形 式	区 分	3次元モデル	属 性 情 報				防護柵形式	単 位	数 量	備 考	防 護 柵		B	○	m ²		項 目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報				規 格	単 位	数 量	備 考	土 留 材		B	○	m ²		金 網		B	○	m ²		シート・ネット		C	○	m ²		<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
形 式	区 分	防護柵形式	単 位	数 量	備 考																																																																																	
防 護 柵		○	m ²																																																																																			
項 目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																	
土 留 材		○	m ²																																																																																			
金 網		○	m ²																																																																																			
シート・ネット		○	m ²																																																																																			
形 式	区 分	3次元モデル	属 性 情 報																																																																																			
		防護柵形式	単 位	数 量	備 考																																																																																	
防 護 柵		B	○	m ²																																																																																		
項 目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報																																																																																			
		規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																	
土 留 材		B	○	m ²																																																																																		
金 網		B	○	m ²																																																																																		
シート・ネット		C	○	m ²																																																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																			

改正理由	一部改正	改正 現行																							
現行		改正																							
<p>11.9 汚濁防止フェンス工</p> <p>1. 適用</p> <p>河川、海岸工事等に使用する汚濁防止フェンスの据付・撤去に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>汚濁防止フェンスの延長を区分により算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚濁防止フェンス</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 汚濁防止フェンスの延長をカーテン長（規格）ごとに区分して算出する。</p>		項目	区分	規格	単位	備考	汚濁防止フェンス	○		m		<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚濁防止フェンス</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報		規格	単位	汚濁防止フェンス	B		○	m
項目	区分	規格	単位	備考																					
汚濁防止フェンス	○		m																						
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																						
			規格	単位																					
汚濁防止フェンス	B		○	m																					
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>																						

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																
現行		改正																																																																																																
<p>11.10 アンカー工(ロータリーパーカッション式)</p> <p>1. 適用 ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い、引張鋼材にてアンカーを施工し、長期に供用するものに適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 削孔(アンカー)、アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)、グラウト注入(アンカー)、ボーリングマシン移設(アンカー)、足場工(アンカー)を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、足場工の有無、方式、呼び径、土質、防食方式、アンカー鋼材、削孔長、設計荷重、頭部処理の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>足場工の有無</th> <th>方式</th> <th>呼び径</th> <th>土質</th> <th>防食方式</th> <th>アンカー鋼材</th> <th>削孔長</th> <th>設計荷重</th> <th>頭部処理の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔(アンカー)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 呼び径区分 呼び径による区分は、以下のとおりとする。呼び径とは、ドリルパイプ外径(mm)をいう。</p> <p>呼び径</p> <ul style="list-style-type: none"> — φ 90mm (単管方式・二重管方式) — φ 115mm (単管方式・二重管方式) — φ 135mm (単管方式・二重管方式) — φ 146mm (二重管方式) 		項目	区分	足場工の有無	方式	呼び径	土質	防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重	頭部処理の有無	単位	数量	備考	削孔(アンカー)		○	○	○	○						m			アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)						○	○	○	○	○	本			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="11">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>足場工の有無</th> <th>方式</th> <th>呼び径</th> <th>土質</th> <th>防食方式</th> <th>アンカー鋼材</th> <th>削孔長</th> <th>設計荷重</th> <th>頭部処理の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔(アンカー)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)</td> <td></td> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p> <p>記載の追加</p>	項目	区分	属性情報											3次元モデル	足場工の有無	方式	呼び径	土質	防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重	頭部処理の有無	単位	数量	備考	削孔(アンカー)		B	○	○	○	○						m		アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)		C					○	○	○	○	○	本	
項目	区分	足場工の有無	方式	呼び径	土質	防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重	頭部処理の有無	単位	数量	備考																																																																																					
削孔(アンカー)		○	○	○	○						m																																																																																							
アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)						○	○	○	○	○	本																																																																																							
項目	区分	属性情報																																																																																																
		3次元モデル	足場工の有無	方式	呼び径	土質	防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重	頭部処理の有無	単位	数量	備考																																																																																				
削孔(アンカー)		B	○	○	○	○						m																																																																																						
アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)		C					○	○	○	○	○	本																																																																																						
積算上の注意事項	1-11-36		(控え頁) 1/2																																																																																															

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

(3) 土質区分
土質区分は、以下のとおりとする。

土 質 区 分

- 粘性土、砂質土（単管方式・二重管方式）
- レキ質土（単管方式・二重管方式）
- 玉石混り土（単管方式・二重管方式）
- 軟岩（二重管方式）
- 硬岩（二重管方式）

注) 1. 硬岩は、コンクリートを含む。
2. 土砂を貫通して岩部分にアンカーを定着する場合は、二重管削孔を標準とする。

(4) 方式
方式は、以下のとおりとする。

方 式

- 単管
- 二重管

注) 土砂を貫通して岩部分にアンカーを定着する場合は、二重管削孔を標準とする。

4. 数量算出方法
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) アンカーの内訳は下記の項目で算出する。

項目	区分	規格	単位	数量	備考
アンカー鋼材	○		m		
注入パイプ	○		m		
シース	○		m		
防錆材	○		kg		
定着加工用具	○		組		パイロットキャブ スベール等
アンカー定着具	○		組		アンカーヘッド、プレート、 クランプ等
グラウト	○		m ³		
足場	○		空m ³		

(注) 数量は、必要量（ロスを含む）を算出すること。

(2) 削孔長区分
削孔長による区分は、以下のとおりとする。

削 孔 長

- 10m以内
- 10mを超える

1-11-37

現行どおり

(1) アンカーの内訳は下記の項目で算出する。

項目	区分	属性情報				
		3次元 モデル	規格	単位	数量	備考
アンカー鋼材	○	B	○	m		
注入パイプ	○	B	○	m		
シース	○	C	○	m		
防錆材	○	C	○	kg		
定着加工用具	○	C	○	組		パイロットキャブ スベール等
アンカー定着具	○	C	○	組		アンカーヘッド、プレート、 クランプ等
グラウト	○	C	○	m ³		
足場	○	C	○	空m ³		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
(注) 数量は、必要量（ロスを含む）を算出すること。

現行どおり

記載の追加


積算上の注意事項		(控え頁) 2/2
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																							
現行		改正																																																																																																							
<p>11.11 鉄筋挿入工(ロックボルト工)</p> <p>1. 適用</p> <p>鉄筋挿入工(ロックボルト工)に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鉄筋挿入の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、現場条件、規格、垂直高とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>現場条件</th> <th>規格</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋挿入</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鉄筋挿入の内訳は下表の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>現場条件</th> <th>規格</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋挿入</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>注)1</td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>空m³</td> <td></td> <td>注)2</td> </tr> <tr> <td>上下移動</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td>注)2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)1. 鉄筋挿入の施工単位(m)は、削孔長を表す。 注)2. 足場、上下移動については、必要に応じて計上する。</p> <p>(2) 鉄筋挿入は現場条件、規格、垂直高毎に以下の区分で算出する。</p> <p>現場条件</p> <ul style="list-style-type: none"> (I) 削孔に要する重機が搬入可能な場合：削孔長1m以上5m以下、削孔径42mm以上65mm以下、法面垂直高さ30m以下 (II) 削孔が仮設足場(単管足場)または土足場となる場合：削孔長1m以上5m以下、削孔径42mm以上65mm以下、法面垂直高さ40m以下(ただし、機械設置基面から削孔位置までの高さが1m以下) (III) 削孔がロープ足場(命綱)となる場合：削孔長1m以上2m以下、削孔径42mm以上50mm以下、法面垂直高さ40m以下 		区分	現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考	鉄筋挿入	○	○	○	m			区分	現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考	鉄筋挿入	○	○	○	m		注)1	足場	○	×	×	空m ³		注)2	上下移動	○	×	×	回		注)2	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>現場条件</th> <th>規格</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋挿入</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>現行どおり</p> <p>(1) 鉄筋挿入の内訳は下表の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>現場条件</th> <th>規格</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋挿入</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>注)1</td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>空m³</td> <td></td> <td>注)2</td> </tr> <tr> <td>上下移動</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td>注)2</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>注)1. 鉄筋挿入の施工単位(m)は、削孔長を表す。 注)2. 足場、上下移動については、必要に応じて計上する。</p> <p>次頁へ移動</p>	区分	3次元モデル	属性情報						現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考	鉄筋挿入	B	○	○	○	m			区分	3次元モデル	属性情報						現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考	鉄筋挿入	B	○	○	○	m		注)1	足場	C	○	×	×	空m ³		注)2	上下移動	C	○	×	×	回		注)2	<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
区分	現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考																																																																																																			
鉄筋挿入	○	○	○	m																																																																																																					
区分	現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考																																																																																																			
鉄筋挿入	○	○	○	m		注)1																																																																																																			
足場	○	×	×	空m ³		注)2																																																																																																			
上下移動	○	×	×	回		注)2																																																																																																			
区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																							
		現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考																																																																																																		
鉄筋挿入	B	○	○	○	m																																																																																																				
区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																							
		現場条件	規格	垂直高	単位	数量	備考																																																																																																		
鉄筋挿入	B	○	○	○	m		注)1																																																																																																		
足場	C	○	×	×	空m ³		注)2																																																																																																		
上下移動	C	○	×	×	回		注)2																																																																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																						

改正理由	一部改正	改正 現行													
現 行	改 正	備 考													
<p style="text-align: center;">前頁より移動 →</p> <p>(3) グラウト注入の規格はその配合を1m³当りで算出し、アンカー1本当りのグラウト注入量も算出する。</p> <p style="text-align: center;">アンカー1本当りに必要なグラウト注入量は、次式を標準とする。</p> $V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1+K)$ <p style="text-align: right;">V : グラウト注入量 (m³) D : 削孔径 (mm) L : 削孔長 (m) K : 補正係数 (= 0.4)</p> <p>(4) 垂直高</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項 目</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">法面垂直高による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">現場条件Ⅰ</td> <td style="text-align: center;">①30m以下</td> <td style="text-align: center;">②30mを超える</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">現場条件Ⅱ</td> <td style="text-align: center;">①40m以下</td> <td style="text-align: center;">②40mを超える</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">現場条件Ⅲ</td> <td style="text-align: center;">①40m以下</td> <td style="text-align: center;">②40mを超える</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注) 法面垂直高とは、法面下部からの高さである。</p> <p>(5) 仮設足場 仮設足場は現場条件(Ⅱ)の場合で、必要な場所に計上する。 又、作業面の足場幅は3.0mを標準とする。</p> <p>(6) 削孔機械の上下移動 削孔機械の上下移動は現場条件(Ⅱ)の場合で、必要な場所に計上する。</p> <p style="text-align: center;">1-11-40</p>		項 目	法面垂直高による区分		現場条件Ⅰ	①30m以下	②30mを超える	現場条件Ⅱ	①40m以下	②40mを超える	現場条件Ⅲ	①40m以下	②40mを超える	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>(2) 鉄筋挿入は現場条件、規格、垂直高毎に以下の区分で算出する。</p> <p>現場条件</p> <ul style="list-style-type: none"> (Ⅰ) 削孔に要する重機が搬入可能な場合：削孔長1m以上5m以下、削孔径42mm以上65mm以下、法面垂直高さ30m以下 (Ⅱ) 削孔が仮設足場(単管足場)または土足場となる場合：削孔長1m以上5m以下、削孔径42mm以上65mm以下、法面垂直高さ40m以下(ただし、機械設置基面から削孔位置までの高さが1m以下) (Ⅲ) 削孔がロープ足場(命綱)となる場合：削孔長1m以上2m以下、削孔径42mm以上50mm以下、法面垂直高さ40m以下 </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	
項 目	法面垂直高による区分														
現場条件Ⅰ	①30m以下	②30mを超える													
現場条件Ⅱ	①40m以下	②40mを超える													
現場条件Ⅲ	①40m以下	②40mを超える													
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2												

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																													
現 行		改 正																																																																																													
<p>11.12 ウエルポイント工</p> <p>1. 適用</p> <p>構造物等の掘削工事におけるウエルポイント工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ウエルポイント本数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウエルポイント</td> <td>○</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 ウエルポイント本数をウエルポイントの種類・サンドフィルターの有無に区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ウエルポイントの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウエルポイント</td> <td>○</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ヘッダーライン</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウエルポイントノブ</td> <td>○</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジェット装置</td> <td>○</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	ウエルポイント	○		日			項目	区分	規格	単位	数量	備考	ウエルポイント	○		本			ヘッダーライン	○		m			ウエルポイントノブ	○		日			ジェット装置	○		日			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウエルポイント</td> <td>○</td> <td>C</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) ウエルポイントの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウエルポイント</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ヘッダーライン</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウエルポイントノブ</td> <td>○</td> <td>C</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジェット装置</td> <td>○</td> <td>C</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報			規格	単位	数量	備考	ウエルポイント	○	C		日		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			規格	単位	数量	備考	ウエルポイント	○	B		本		ヘッダーライン	○	B		m		ウエルポイントノブ	○	C		日		ジェット装置	○	C		日		<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																										
ウエルポイント	○		日																																																																																												
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																										
ウエルポイント	○		本																																																																																												
ヘッダーライン	○		m																																																																																												
ウエルポイントノブ	○		日																																																																																												
ジェット装置	○		日																																																																																												
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																																												
			規格	単位	数量	備考																																																																																									
ウエルポイント	○	C		日																																																																																											
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																																												
			規格	単位	数量	備考																																																																																									
ウエルポイント	○	B		本																																																																																											
ヘッダーライン	○	B		m																																																																																											
ウエルポイントノブ	○	C		日																																																																																											
ジェット装置	○	C		日																																																																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																												

改正理由	一部改正	改正 現行															
現 行		改 正															
<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>11.13 連続地中壁工(柱列式)</p> <p>1. 適用 連続地中壁(柱列式) 施工をする場合に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 連続地中壁のセット数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、掘削径、掘削深度、土質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分 項 目</th> <th>掘削径</th> <th>掘削深度</th> <th>土 質</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連 続 地 中 壁</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>セット</td> <td></td> <td>壁面積を記載する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 掘削径区分 連続地中壁のセット数を掘削径ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 掘削深度区分 連続地中壁のセット数を掘削深度ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 土質区分 土質による区分は、以下によるものとする。</p> <p>土質 ——— 砂質土・レキ質土 ————— 粘性土</p> <p>N値 ——— 1.5未満 ————— 1.5以上3.0未満 ————— 3.0以上4.5未満 ————— 4.5以上</p> </div>		区 分 項 目	掘削径	掘削深度	土 質	単 位	数 量	備 考	連 続 地 中 壁	○	○	○	セット		壁面積を記載する。	削除	積算基準改定に伴う削除
区 分 項 目	掘削径	掘削深度	土 質	単 位	数 量	備 考											
連 続 地 中 壁	○	○	○	セット		壁面積を記載する。											
積算上の注意事項	1-11-43		(控え頁) 1/2														

改正理由	一部改正	改正 現行																					
現 行		改 正																					
<div data-bbox="353 606 1243 1115" style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 連続地中壁の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分 項 目</th> <th style="text-align: center;">規 格</th> <th style="text-align: center;">単 位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">芯 材</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">本 kg/本</td> <td></td> <td>1本当り芯材(H形鋼)質量を算出する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">混 練 材</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ガ イ ド</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>標準的な配合の場合の1セット当り混練材使用量(Q)は下記によるものとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">$Q = 0.47 \times L$ (m³/セット)</p> <p style="margin-left: 20px;">L : 掘削混練長 (m)</p> </div>		区 分 項 目	規 格	単 位	数 量	備 考	芯 材	○	本 kg/本		1本当り芯材(H形鋼)質量を算出する。	混 練 材	○	m ³			ガ イ ド	×	m			 削除	積算基準改定に伴う削除
区 分 項 目	規 格	単 位	数 量	備 考																			
芯 材	○	本 kg/本		1本当り芯材(H形鋼)質量を算出する。																			
混 練 材	○	m ³																					
ガ イ ド	×	m																					
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																				

改正理由	一部改正	改正 現行																																								
現 行		改 正																																								
<p>11.14 敷鉄板設置撤去工</p> <p>1. 適用</p> <p>工事用道路工事等において、軟弱地盤等により工事用車両の通行に支障がある場合の敷鉄板設置・撤去作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>敷鉄板の面積、枚数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工箇所、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工箇所</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">敷鉄板</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工箇所区分 施工箇所（ブロック）毎に区分して算出する。</p> <p>(3) 規格区分 敷鉄板の種類、寸法（厚さ×幅×長さ）毎に区分して算出する。</p> <p>1-11-45</p>		項目	区分	施工箇所	規格	単位	数量	備考	敷鉄板	○	○	○	m ²			枚			<p>11.13 敷鉄板設置撤去工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>施工箇所</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">敷鉄板</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">C</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>1-11-43</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				施工箇所	規格	単位	数量	敷鉄板	○	C	○	○	m ²		枚			<p>記載の修正</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	施工箇所	規格	単位	数量	備考																																				
敷鉄板	○	○	○	m ²																																						
				枚																																						
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																							
			施工箇所	規格	単位	数量																																				
敷鉄板	○	C	○	○	m ²																																					
					枚																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																							

工 種	構造物補修工
-----	--------

改正理由	新規制定	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<p style="text-align: center;">現行なし</p>	<p style="text-align: center;">→</p> <p style="text-align: center;">12 章 構造物補修工</p> <p style="text-align: center;">12.1 ひび割れ補修工（充てん工法） 12.2 ひび割れ補修工（低圧注入工法） 12.3 断面修復工（左官工法）</p> <p style="text-align: right;">1-12-1</p>		<p>積算基準改定に伴う新規追加</p>
積算上の注意事項			<p style="text-align: right;">（控え頁）</p> <p style="text-align: right;">1 / 1</p>

改正理由	新規制定	改正 現行																									
現	行	改 正	備 考																								
<p>現行なし</p>		<p>12章 構造物補修工 12.1 ひび割れ補修工(充てん工法)</p> <p>1. 適用 コンクリート構造物のひび割れ補修における1構造物当りの充てん作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 ひび割れ補修工(充てん工法)を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ひび割れ補修工 (充てん工法)</td> <td>補修延べ延長</td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>充てん材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。 3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> <p>1-12-2</p>		項 目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報				規 格	単 位	数 量	備 考	ひび割れ補修工 (充てん工法)	補修延べ延長	B		m			充てん材	B	○	kg		
項 目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報																								
			規 格	単 位	数 量	備 考																					
ひび割れ補修工 (充てん工法)	補修延べ延長	B		m																							
	充てん材	B	○	kg																							
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																								

積算基準改定に伴う新規追加

改正理由	新規制定	改正 現行																																					
現 行		改 正																																					
<p>現行なし</p>		<p>12.2 ひび割れ補修工(低圧注入工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート構造物のひび割れ補修における1構造物当りの低圧注入作業(圧縮空気、ゴムやパネの復元力などを利用して加圧できる専用器具を用いて注入を行うもの)に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ひび割れ補修工(低圧注入工法)を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">ひび割れ補修工 (低圧注入工法)</td> <td>補修延べ延長</td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低圧注入器具</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> <p>1-12-3</p>		項 目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報				規 格	単 位	数 量	備 考	ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	補修延べ延長	B		m			注入材	B	○	kg			シール材	B	○	kg			低圧注入器具	B	○	個		
項 目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報																																				
			規 格	単 位	数 量	備 考																																	
ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	補修延べ延長	B		m																																			
	注入材	B	○	kg																																			
	シール材	B	○	kg																																			
	低圧注入器具	B	○	個																																			
積算上の注意事項		<p>積算基準改定に伴う新規追加</p> <p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>																																					

改正理由	新規制定	改正 現行																				
現 行		改 正																				
<p>現行なし →</p>		<p>12.3 断面修復工(左官工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート構造物の断面修復における1構造物当りの左官作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>断面補修工(左官工法)を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>鉄筋ケレン ・鉄筋防錆 処理の有無</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>断面補修工 (左官工法)</td> <td>修復延べ体積</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。 3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> <p>1-12-4</p>		項 目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報				規 格	鉄筋ケレン ・鉄筋防錆 処理の有無	単 位	数 量	備 考	断面補修工 (左官工法)	修復延べ体積	B		○	m ³	
項 目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報																			
			規 格	鉄筋ケレン ・鉄筋防錆 処理の有無	単 位	数 量	備 考															
断面補修工 (左官工法)	修復延べ体積	B		○	m ³																	
積算上の注意事項		<p>積算基準改定に伴う新規追加</p> <p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>																				

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																			
現	行	改	正																																																																		
<p>1章 護岸根固め工</p> <p>1.1 消波根固めブロック工</p> <p>1.1.1 消波根固めブロック工</p> <p>1. 適用</p> <p>河川、砂防、海岸、道路工事に使用する11.0t以下（実質量とする）の消波根固めブロック工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①消波根固めブロック製作</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ブロック規格</th> <th>型枠の種類</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>1個当りコンクリート設計量</th> <th>1個当り型枠面積</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック製作</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>②消波根固めブロック横取り、積込、荷卸</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ブロック規格</th> <th>クレーン機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック横取り</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固めブロック積込</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固めブロック荷卸</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 横取り作業は、クレーンによるブロックの移動距離 50m未満の範囲とする。</p>		項目	区分	ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート設計量	1個当り型枠面積	養生工の種類	単位	数量	備考	消波根固めブロック製作		○	○	○	○	○	○	個			項目	区分	ブロック規格	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固めブロック横取り		○	○	個			消波根固めブロック積込		○	○	個			消波根固めブロック荷卸		○	○	個			<p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p>															
項目	区分	ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート設計量	1個当り型枠面積	養生工の種類	単位	数量	備考																																																											
消波根固めブロック製作		○	○	○	○	○	○	個																																																													
項目	区分	ブロック規格	クレーン機種	単位	数量	備考																																																															
消波根固めブロック横取り		○	○	個																																																																	
消波根固めブロック積込		○	○	個																																																																	
消波根固めブロック荷卸		○	○	個																																																																	
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①消波根固めブロック製作</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="9">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>ブロック規格</th> <th>型枠の種類</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>1個当りコンクリート設計量</th> <th>1個当り型枠面積</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック製作</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>②消波根固めブロック横取り、積込、荷卸</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>ブロック規格</th> <th>クレーン機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック横取り</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固めブロック積込</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固めブロック荷卸</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 横取り作業は、クレーンによるブロックの移動距離 50m未満の範囲とする。</p>		項目	区分	属性情報									3次元モデル	ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート設計量	1個当り型枠面積	養生工の種類	単位	数量	備考	消波根固めブロック製作		B	○	○	○	○	○	○	個		項目	区分	属性情報					3次元モデル	ブロック規格	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固めブロック横取り		B	○	○	個		消波根固めブロック積込		B	○	○	個		消波根固めブロック荷卸		B	○	○	個		<p>記載の追加</p>	
項目	区分			属性情報																																																																	
		3次元モデル	ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート設計量	1個当り型枠面積	養生工の種類	単位	数量	備考																																																										
消波根固めブロック製作		B	○	○	○	○	○	○	個																																																												
項目	区分	属性情報																																																																			
		3次元モデル	ブロック規格	クレーン機種	単位	数量	備考																																																														
消波根固めブロック横取り		B	○	○	個																																																																
消波根固めブロック積込		B	○	○	個																																																																
消波根固めブロック荷卸		B	○	○	個																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																																		

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

項目	区分	ブロック規格	据付場所	ブロック10個 当り 連結 金具 設置 数量	据付 方法	クレーン 機種	単位	数量	備考
消波根固め ブロック据付	○	○	○	実数	○	○	個		
項目	区分	ブロック規格	作業区分	トラック1台 当りブロック 積載個数	トラック 1台当り 運搬距離	単位	数量	備考	
消波根固め ブロック運搬	○	○	○	○	○	個			

4. 数量算出方法
 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 乱積
 乱積の場合は、横断面図より空体積を計算し、コンクリートブロックの空隙率を考慮し、次式より算出する。

$$N = \frac{V(1-a)}{v}$$

N = 個数(個)
 V = 空体積 (m^3)
 v = 1個当り空体積 (m^3 /個)
 a = 空隙率

(2) 層積
 層積における設置間隔については、ブロックメーカーのカタログによるものとする。

(3) トラック1台当りブロック積載個数(n)は、ブロックの形状、寸法及びトラック等の荷台寸法、積載質量を考慮して決定するが、一般の場合は、下記による。
 $n = X/W$ (小数以下切り捨て)
 X : トラック等の積載質量 (t)
 W : ブロック1個当りの質量(実質量) (#)

2-1-3

項目	区分	3次元 モデル	属性情報							
			ブロック規格	据付場所	ブロック10個 当り 連結 金具 設置 数量	据付 方法	クレーン 機種	単位	数量	備考
消波根固め ブロック据取り	○	B	○	○	実数	○	○	個		
項目	区分	3次元 モデル	属性情報					単位	数量	備考
			ブロック規格	作業区分	トラック1台 当り ブロック 積載個数	トラック 1台当り 運搬距離				
消波根固め ブロック運搬	○	B	○	○	○	○	個			

現行どおり

記載の追加

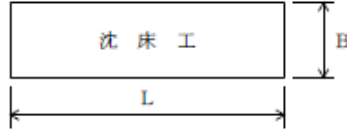
記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁)	2/3
----------	--	-------	-----

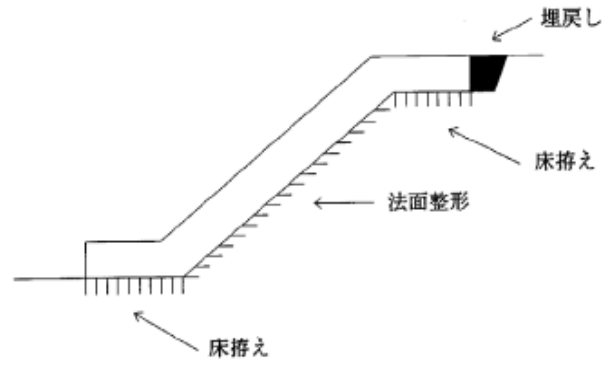
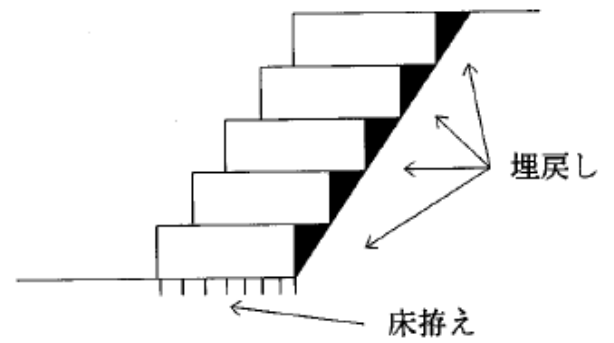
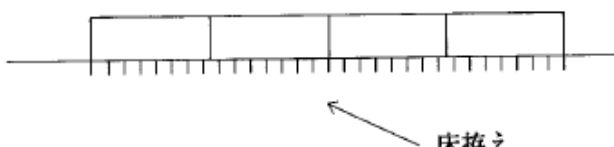
改正理由	一部改正	改正 現行																																													
現行		改正																																													
<p>1. 1. 2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)(0.25t以上35.5t以下)</p> <p>1. 適用 根固め工における根固めブロック撤去到適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、ブロック質量、作業区分、堆砂の有無、クレーン機種とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ブロック質量</th> <th>作業区分</th> <th>堆砂の有無</th> <th>クレーン機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固め ブロック撤去</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ブロック質量は、ブロック実質量とする。</p> <p>(2) 作業区分 作業区分は、撤去・仮置き、撤去・据付け(乱積)、撤去・据付け(層積)、撤去・積込みに区分して算出する。</p>		項目	区分	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固め ブロック撤去		○	○	○	○	個			<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>ブロック質量</th> <th>作業区分</th> <th>堆砂の有無</th> <th>クレーン機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固め ブロック撤去</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. ブロック質量は、ブロック実質量とする。</p>		項目	区分	属性情報							3次元モデル	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固め ブロック撤去		B	○	○	○	○	個	
項目	区分	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考																																							
消波根固め ブロック撤去		○	○	○	○	個																																									
項目	区分	属性情報																																													
		3次元モデル	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考																																						
消波根固め ブロック撤去		B	○	○	○	○	個																																								
積算上の注意事項		(控え頁) 3/3																																													

2-1-5

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																							
現行		改正																																																																							
<p>1.2 沈床工</p> <p>1. 適用</p> <p>河床洗掘防止としての沈床工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>粗朶単床、粗朶沈床、木工沈床、改良沈床の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工箇所、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>施工 箇所</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粗朶単床</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>粗朶沈床</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>懸段設置撤去の有無明記</td> </tr> <tr> <td>木工沈床</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>木工沈床○層建</td> </tr> <tr> <td>改良沈床</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工箇所区分 点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 規格区分 各沈床工の形状寸法ごとに区分して算出する。なお、木杭または丸太の材質（杉・松）については明記する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 一般的には次式により設置又は撤去面積を算出する。</p> <p>面積 (A) = 縦長 (L) × 幅 (B)</p>  <p>(2) 使用する木杭・粗朶・玉石および沈石等も、各々数量を算出する。</p>		区分 項目	施工 箇所	規 格	単 位	数 量	備 考	粗朶単床	○	○	m ²			粗朶沈床	○	○	m ²		懸段設置撤去の有無明記	木工沈床	○	○	m ²		木工沈床○層建	改良沈床	○	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>施 工 箇 所</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粗朶単床</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>粗朶沈床</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>懸段設置撤去の有無明記</td> </tr> <tr> <td>木工沈床</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>木工沈床○層建</td> </tr> <tr> <td>改良沈床</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報				備 考	施 工 箇 所	規 格	単 位	数 量	粗朶単床	B	○	○	m ²			粗朶沈床	B	○	○	m ²		懸段設置撤去の有無明記	木工沈床	B	○	○	m ²		木工沈床○層建	改良沈床	B	○	○	m ²			記載の追加
区分 項目	施工 箇所	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																				
粗朶単床	○	○	m ²																																																																						
粗朶沈床	○	○	m ²		懸段設置撤去の有無明記																																																																				
木工沈床	○	○	m ²		木工沈床○層建																																																																				
改良沈床	○	○	m ²																																																																						
区分 項目	3次元 モデル	属性情報				備 考																																																																			
		施 工 箇 所	規 格	単 位	数 量																																																																				
粗朶単床	B	○	○	m ²																																																																					
粗朶沈床	B	○	○	m ²		懸段設置撤去の有無明記																																																																			
木工沈床	B	○	○	m ²		木工沈床○層建																																																																			
改良沈床	B	○	○	m ²																																																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																						

改正理由	一部改正	改正 現行																																											
現 行		改 正																																											
<p>1.3 かご工</p> <p>1. 適用</p> <p>地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設におけるかご工を除くかご工のうち、じゃかご（径45, 60cm）、ふとんかご（パネル式、高さ40～60cm、幅120cm）及びかごマット（厚さ30, 50cm）の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>じゃかご、ふとんかご、かごマット等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、作業区分、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目および区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>じゃかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>長さは総延長を記入</td> </tr> <tr> <td>ふとんかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>＃</td> </tr> <tr> <td>止杭打込</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td>必要に応じて</td> </tr> <tr> <td>かごマット</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>面積は総面積を記入</td> </tr> <tr> <td>掘削・盛土</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 設置、撤去に区分して算出する。</p> <p>(3) 規格区分 じゃかごについては、径、鉄線の規格（線径、網目、材料等）ごとに区分し、ふとんかごについては、ふとんかご種別（スロープ式、階段式）、高さ、幅、鉄線の規格ごとに区分して算出する。かごマットについては、厚さ、かご本体材質、詰石の種類・規格、鉄線の規格ごとに区分して算出する。 なお、曲線部の施工等で特別製作するものは、別途区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) じゃかご及びふとんかごについては、総延長、かごマットについては、総面積を上記区分ごとに算出する。 なお、じゃかごにおいて止杭を使用する場合は、必要本数を算出する。</p> <p>(2) 止杭打込は、1本当たり松丸太末口9cm、長さ1.5mを標準とする。</p>		項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考	じゃかご		○	○	m		長さは総延長を記入	ふとんかご		○	○	m		＃	止杭打込		×	×	本		必要に応じて	かごマット		○	○	m ²		面積は総面積を記入	掘削・盛土		×	×	m ²			<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>	<p>記載の追加</p>
項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考																																							
じゃかご		○	○	m		長さは総延長を記入																																							
ふとんかご		○	○	m		＃																																							
止杭打込		×	×	本		必要に応じて																																							
かごマット		○	○	m ²		面積は総面積を記入																																							
掘削・盛土		×	×	m ²																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																										

改正理由	一部改正	改正 現行	
現行	改正		備考
<p>5. 参考図</p> <p>1. じゃかご</p>  <p>2. ふとんかご (階段式)</p>  <p>3. ふとんかご (スロープ式)</p>  <p>2-1-8</p>	<p>前頁より移動</p> <div data-bbox="1611 562 2362 625" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(2) 止杭打込は、1本当たり松丸太末口9cm、長さ1.5mを標準とする。</p> </div> <p>現行どおり</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																												
現行		改正																																												
<p>1.4 捨石工(河川海岸)</p> <p>1. 適用範囲</p> <p>河川及び海岸工事における護岸の根固めを目的とした、捨石工の陸上からの施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>捨石投入の体積、表面均しの面積を算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、最大作業半径とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>最大作業半径</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>捨石投入</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>表面均し</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 最大作業半径 最大作業半径は以下の区分で算出する。 最大作業半径 — 9m以下 9mを超え24m以下</p> <p>(3) 表面均し 表面均しは以下の区分で算出する。 表面均し — 施工期間中の平均水位以上の陸上部 施工期間中の平均水位未満の水中部</p>		項目	規格	最大作業半径	単位	数量	備考	捨石投入	○	○	m ³			表面均し	○	×	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>最大作業半径</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>捨石投入</td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>表面均し</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	3次元モデル	属性情報				備考	規格	最大作業半径	単位	数量	捨石投入	土構造	○	○	m ³			表面均し	B	○	×	m ²		
項目	規格	最大作業半径	単位	数量	備考																																									
捨石投入	○	○	m ³																																											
表面均し	○	×	m ²																																											
項目	3次元モデル	属性情報				備考																																								
		規格	最大作業半径	単位	数量																																									
捨石投入	土構造	○	○	m ³																																										
表面均し	B	○	×	m ²																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																											

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																										
現行	改正																																																												
<p>1.5 護岸基礎ブロック工</p> <p>1. 適用 河川における護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック製品長2m、3.3m、4m、5m）の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、中詰材の種類、ブロック製品長、ブロック下幅、生コンクリート規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>中詰材の種類</th> <th>ブロック製品長</th> <th>ブロック下幅</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャスト基礎ブロック</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリート打設</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 中詰材区分 中詰材の種類区分は、下記のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中詰材の種類 <ul style="list-style-type: none"> ○ コンクリート ○ その他または無し <p>(3) ブロック製品長区分 中詰材の種類ごとに区分して算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロック製品長(中詰材の種類がコンクリートの場合) <ul style="list-style-type: none"> ○ 2,000mm ○ 3,300mm ○ 5,000mm ブロック製品長(中詰材の種類がその他または無しの場合) <ul style="list-style-type: none"> ○ 2,000mm ○ 3,300mm ○ 4,000mm ○ 5,000mm <p>(4) ブロック下幅区分 中詰材の種類ごとに区分して算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロック製品長(中詰材の種類がコンクリートの場合) <ul style="list-style-type: none"> ○ 500mm以上 600mm未満 ○ 600mm以上 700mm未満 ○ 700mm以上 900mm未満 ○ 900mm以上 1,100mm未満 ○ 1,100mm ブロック製品長(中詰材の種類がその他または無しの場合) <ul style="list-style-type: none"> ○ 400mm以上 500mm未満 ○ 500mm以上 600mm未満 ○ 600mm以上 700mm未満 ○ 700mm以上 900mm未満 ○ 900mm以上 1,100mm未満 ○ 1,100mm <p style="text-align: center;">2-1-10</p>	項目	区分	中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	生コンクリート規格	単位	数量	備考	プレキャスト基礎ブロック	○	○	○	○	○	m			中詰コンクリート打設	×	×	×	○	○	m ³			<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p>	<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>中詰材の種類</th> <th>ブロック製品長</th> <th>ブロック下幅</th> <th>生コンクリート規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャスト基礎ブロック</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリート打設</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p style="text-align: center;">記載の追加</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考	中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック	B	○	○	○	○	m			中詰コンクリート打設	B	×	×	×	○	m ³		
項目	区分	中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	生コンクリート規格	単位	数量	備考																																																					
プレキャスト基礎ブロック	○	○	○	○	○	m																																																							
中詰コンクリート打設	×	×	×	○	○	m ³																																																							
項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考																																																				
			中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	生コンクリート規格																																																							
プレキャスト基礎ブロック	B	○	○	○	○	m																																																							
中詰コンクリート打設	B	×	×	×	○	m ³																																																							
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																										

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
現	行	改 正	備 考
	前頁より移動 →	<p>(4) ブロック下幅区分 中詰材の種類ごとに区分して算出する。 ブロック製品長(中詰材の種類が コンクリートの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 500mm 以上 600mm 未満 600mm 以上 700mm 未満 700mm 以上 900mm 未満 900mm 以上 1,100mm 未満 1,100mm <p>ブロック製品長(中詰材の種類が その他または無しの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 400mm 以上 500mm 未満 500mm 以上 600mm 未満 600mm 以上 700mm 未満 700mm 以上 900mm 未満 900mm 以上 1,100mm 未満 1,100mm 	
積算上の注意事項	2-1-11		(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

3章 浚渫工

3.1 浚渫工(ポンプ式浚渫船)

1. 適用

河川及び湖沼におけるポンプ式浚渫船による浚渫工事に適用する。

2. 数量算出項目

浚渫土量、排砂管、受枠、フロータ、水上管用ジョイント、仕切弁、曲管、分岐管の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、管径、設置高さ、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	管径	設置高さ	規格	数量	備 考
浚渫土量		×	×	×	m ³	
浚渫面積		×	×	×	m ²	
浚渫深さ		×	×	×	m	
排砂管		○	○	○	m本	露上部と水上部に分けて算出し、使用本数についても算出する。
受 枠		○	○	○	m本	露上部排砂管設置延長を算出し、使用本数についても算出する。
フ ロ ー タ		○	×	○	組	
水上管用ジョイント		○	×	○	個	
仕 切 弁		○	×	○	個	
曲 管		○	×	○	本	
分 岐 管		○	×	○	本	

※排砂管は、1本当たり6mを標準とする。
受枠間隔は、排砂管6mもの1本につき受枠を2組とし、その間隔は3mを標準とする。

(2) 設置高さ区分

設置高さによる区分は、以下によるものとする。

- 設置高さ
 - 笠木のみ
 - 地上より0mを超え～1.5m以下
 - 地上より1.5mを超え～2.5m以下
 - 地上より2.5mを超え～3.5m以下

(注) 設置高さとは、笠木の地上からの高さである。

2-3-2

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報				備 考
			管径	設置高さ	規格	数量	
浚渫土量		土構造	×	×	×	m ³	
浚渫面積		B	×	×	×	m ²	
浚渫深さ		B	×	×	×	m	
排砂管		B	○	○	○	m本	露上部と水上部に分けて算出し、使用本数についても算出する。
受 枠		B	○	○	○	m本	露上部排砂管設置延長を算出し、使用本数についても算出する。
フ ロ ー タ		B	○	×	○	組	
水上管用ジョイント		B	○	×	○	個	
仕 切 弁		B	○	×	○	個	
曲 管		B	○	×	○	本	
分 岐 管		B	○	×	○	本	

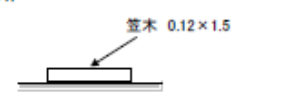
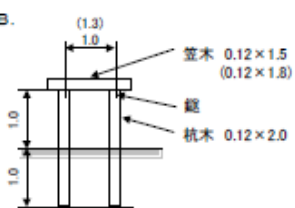
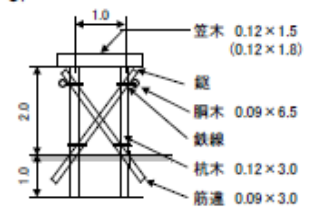
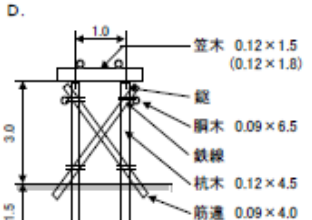
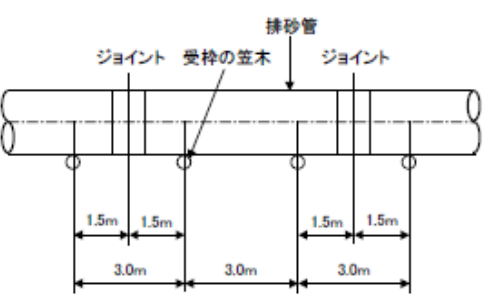
3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

※排砂管は、1本当たり6mを標準とする。
受枠間隔は、排砂管6mもの1本につき受枠を2組とし、その間隔は3mを標準とする。

次頁へ移動

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
現	行	改 正	備 考
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>4. 参 考</p> <p style="text-align: center;">受 枠 の 構 造 図</p> <p>A. </p> <p>B. </p> <p>C. </p> <p>D. </p> <p>注) 単位は「m」とし、()は管径が350mm~560mmの場合の使用材とする。</p> <p style="text-align: center;">受 枠 の 間 隔</p> <p></p> <p style="text-align: center;">2-3-3</p>		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(2) 設置高さ区分 設置高さによる区分は、以下によるものとする。</p> <p>設置高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 笠木のみ — 地上より0mを超え~1.5m以下 — 地上より1.5mを超え~2.5m以下 — 地上より2.5mを超え~3.5m以下 <p>(注) 設置高さとは、笠木の地上からの高さである。</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																												
現 行		改 正																																												
<p>3.2 浚渫工(バックホウ浚渫船)</p> <p>1. 適用</p> <p>河川及びダムにおけるバックホウ浚渫船による浚渫工の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>浚渫土量の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、N値とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>N値</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">浚渫土量</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	N値	数量	備 考	浚渫土量	○	m ³			○	m ²			○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>N値</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">浚渫土量</td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			N値	数量	備 考	浚渫土量	土構造	○	m ³			B	○	m ²			B	○	m		
項目	区分	N値	数量	備 考																																										
浚渫土量	○	m ³																																												
	○	m ²																																												
	○	m																																												
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																											
			N値	数量	備 考																																									
浚渫土量	土構造	○	m ³																																											
	B	○	m ²																																											
	B	○	m																																											
2-3-4		記載の追加																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																											

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4章 河川維持工
4.1 堤防除草工

1. 適用

河川堤防及び高水敷等の除草、集草、梱包、積込・荷卸及び運搬に適用する。
芝育成を目的とした芝堤除草（芝刈）、芝養生（抜取り）、薬剤散布は含まない。

2. 数量算出項目

除草、集草、梱包、積込・荷卸、運搬（堤防除草）、除草、集草（人力）、梱包、積込・荷卸（総合）、除草、集草（機械）、梱包、積込・荷卸（総合）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、除草機種、飛散防止措置、集草機種、機種、運搬機械、梱包の有無、DID区間の有無、運搬距離（片道）とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工箇所	除草機種	飛散防止措置	集草機種	機種	運搬機械	梱包の有無	DID区間の有無	運搬距離(片道)	単位	数量	備考
除草		○	○	○	×	×	×	×	×	×	m ²		
集草		○	×	×	○	×	×	×	×	×	m ²		
梱包		×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²		
積込・荷卸		×	×	×	×	○	×	×	×	×	m ²		
運搬(堤防除草)		×	×	×	×	○	○	○	○	○	m ²		
除草、集草(人力)、梱包、積込・荷卸(総合)		○	○	○	×	×	○	○	×	×	m ²		
除草、集草(機械)、梱包、積込・荷卸(総合)		○	○	×	×	×	○	○	×	×	m ²		

注) 1. 除草面積を作業内容（除草、集草、梱包、積込・荷卸）ごとに区分して算出する。
 なお、運搬が必要な場合、運搬経路に応じて、運搬距離を算出する。
 2. 施工箇所毎に工法を区分して算出する。
 3. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報								単位	数量	備考
			施工箇所	除草機種	飛散防止措置	集草機種	機種	運搬機械	梱包の有無	DID区間の有無			
除草		B	○	○	○	×	×	×	×	×	×	m ²	
集草		B	○	×	×	○	×	×	×	×	×	m ²	
梱包		B	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²	
積込・荷卸		B	×	×	×	×	○	×	×	×	×	m ²	
運搬(堤防除草)		B	×	×	×	×	×	○	○	○	○	m ²	
除草、集草(人力)、梱包、積込・荷卸(総合)		B	○	○	○	×	×	○	○	×	×	m ²	
除草、集草(機械)、梱包、積込・荷卸(総合)		B	○	○	×	×	×	○	○	×	×	m ²	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 除草面積を作業内容（除草、集草、梱包、積込・荷卸）ごとに区分して算出する。
 なお、運搬が必要な場合、運搬経路に応じて、運搬距離を算出する。
 2. 施工箇所毎に工法を区分して算出する。
 3. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

記載の追加

2-4-2

積算上の注意事項

(控え頁)

改正理由	一部改正	改正 現行																																					
現行		改正																																					
<p>4.2 堤防天端補修工</p> <p>1. 適用</p> <p>河川堤防の管理用通路における堤防天端補修に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>不陸整正・締固めの面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、補修材敷均しの有無、補修材の種類、補修材平均厚さとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>補修材敷均しの有無</th> <th>補修材の種類</th> <th>補修材平均厚さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不陸整正・締固め</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 不陸整正・締固めの補修材敷均しの有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>補修材敷均しの有無</p> <ul style="list-style-type: none"> — 無し — 有り <p>(3) 不陸整正・締固めの補修材平均厚さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>補修材平均厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 25mm 未満 — 25mm 以上 75mm 未満 — 75mm 以上 125mm 未満 — 125mm 以上 175mm 未満 — 175mm 以上 225mm 未満 — 225mm 以上 275mm 未満 — 275mm 以上 325mm 未満 <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p> <p>2-4-5</p>		項目	区分	補修材敷均しの有無	補修材の種類	補修材平均厚さ	単位	数量	備考	不陸整正・締固め		○	○	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>補修材敷均しの有無</th> <th>補修材の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不陸整正・締固め</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	属性情報			単位	数量	備考	3次元モデル	補修材敷均しの有無	補修材の種類	不陸整正・締固め		B	○	○	m ²			備考
項目	区分	補修材敷均しの有無	補修材の種類	補修材平均厚さ	単位	数量	備考																																
不陸整正・締固め		○	○	○	m ²																																		
項目	区分	属性情報			単位	数量	備考																																
		3次元モデル	補修材敷均しの有無	補修材の種類																																			
不陸整正・締固め		B	○	○	m ²																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																				

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																										
現 行		改 正																																																																										
<p>4.3 堤防芝養生工</p> <p>1. 適用</p> <p>主に芝の繁茂している河川堤防及び高水敷等において、芝育成を目的とした芝養生工のうち、施肥工、抜根工、集草・積込運搬に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>抜根、施肥の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐根</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施肥</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 危険物、空き缶、流木、石等の除去は、塵芥処理等で別途考慮する。 2. 積込運搬は、運搬距離15km(片道)以下に適用し、15km(片道)を超える場合は別途考慮する。 3. 化学肥料の散布量が300~1,000kg/10,000m²の場合に適用し、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>(2) 伐根の作業区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 伐根 <ul style="list-style-type: none"> — 抜根+集草+積込運搬 — 抜根+集草 — 抜根のみ — 集草のみ — 積込運搬のみ <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処分費</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>塵芥処理工</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第2編(河川・砂防編)4.5塵芥処理工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p>		項目	区分	作業区分	単位	数量	備考	伐根	○		m ²			施肥	×		m ²			項目	単位	数量	備考	処分費	m ²		必要な場合別途計上	塵芥処理工	m ²		「第2編(河川・砂防編)4.5塵芥処理工」参照	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐根</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施肥</td> <td>×</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 危険物、空き缶、流木、石等の除去は、塵芥処理等で別途考慮する。 2. 積込運搬は、運搬距離15km(片道)以下に適用し、15km(片道)を超える場合は別途考慮する。 3. 化学肥料の散布量が300~1,000kg/10,000m²の場合に適用し、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>備考</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処分費</td> <td>C</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塵芥処理工</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第2編(河川・砂防編)4.5塵芥処理工」参照</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報			作業区分	単位	数量	備考	伐根	○	B		m ²		施肥	×	B		m ²		項目	3次元モデル	単位	数量	属性情報		備考		処分費	C	m ²		必要な場合別途計上		塵芥処理工	B	m ²		「第2編(河川・砂防編)4.5塵芥処理工」参照		<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	作業区分	単位	数量	備考																																																																							
伐根	○		m ²																																																																									
施肥	×		m ²																																																																									
項目	単位	数量	備考																																																																									
処分費	m ²		必要な場合別途計上																																																																									
塵芥処理工	m ²		「第2編(河川・砂防編)4.5塵芥処理工」参照																																																																									
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																									
			作業区分	単位	数量	備考																																																																						
伐根	○	B		m ²																																																																								
施肥	×	B		m ²																																																																								
項目	3次元モデル	単位	数量	属性情報																																																																								
				備考																																																																								
処分費	C	m ²		必要な場合別途計上																																																																								
塵芥処理工	B	m ²		「第2編(河川・砂防編)4.5塵芥処理工」参照																																																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																									

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																														
現 行		改 正																																																																																														
<p>4.4 伐木除根工</p> <p>1. 適用</p> <p>河川堤防、高水敷又は中州等に繁茂している樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場内小運搬、積込み、現場外搬出に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>伐木・伐竹（伐木除根）、除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）、運搬（伐木除根）、伐木・伐竹（複合）の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、樹木・竹の区分 樹木密集度、除根作業の有無、積込条件、DID区間の有無、運搬距離、集積積込み作業の区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①伐木・伐竹（伐木除根）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>樹木・竹の区分 樹木密集度</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐木・伐竹 （伐木除根）</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>除根 （伐木除根）</td> <td></td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>整地 （伐木除根）</td> <td></td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 刈草及び伐木・伐竹の集積は含まない。 2. 除根した根の集積は含まない。</p> <p>②集積積込み（機械施工）（伐木除根）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>除根作業の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集積積込み （機械施工） （伐木除根）</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③集積積込み（人力施工）（伐木除根）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集積 （人力施工） （伐木除根）</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>積込み （人力施工） （伐木除根）</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現場外搬出時の積込作業は含まない。</p>		項目	区分	樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量	備考	伐木・伐竹 （伐木除根）		○	m ²			除根 （伐木除根）		×	m ²			整地 （伐木除根）		×	m ²			項目	区分	除根作業の有無	単位	数量	備考	集積積込み （機械施工） （伐木除根）		○	m ²			項目	単位	数量	備考	集積 （人力施工） （伐木除根）	m ²			積込み （人力施工） （伐木除根）	m ²			<p>現行どおり</p> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①伐木・伐竹（伐木除根）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>樹木・竹の区分 樹木密集度</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐木・伐竹 （伐木除根）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>除根 （伐木除根）</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>整地 （伐木除根）</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 刈草及び伐木・伐竹の集積は含まない。 2. 除根した根の集積は含まない。</p> <p>②集積積込み（機械施工）（伐木除根）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>除根作業の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集積積込み （機械施工） （伐木除根）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量	備考	伐木・伐竹 （伐木除根）		B	○	m ²		除根 （伐木除根）		B	×	m ²		整地 （伐木除根）		B	×	m ²		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			除根作業の有無	単位	数量	備考	集積積込み （機械施工） （伐木除根）		B	○	m ²		<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量	備考																																																																																											
伐木・伐竹 （伐木除根）		○	m ²																																																																																													
除根 （伐木除根）		×	m ²																																																																																													
整地 （伐木除根）		×	m ²																																																																																													
項目	区分	除根作業の有無	単位	数量	備考																																																																																											
集積積込み （機械施工） （伐木除根）		○	m ²																																																																																													
項目	単位	数量	備考																																																																																													
集積 （人力施工） （伐木除根）	m ²																																																																																															
積込み （人力施工） （伐木除根）	m ²																																																																																															
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																																													
			樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量	備考																																																																																										
伐木・伐竹 （伐木除根）		B	○	m ²																																																																																												
除根 （伐木除根）		B	×	m ²																																																																																												
整地 （伐木除根）		B	×	m ²																																																																																												
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																																													
			除根作業の有無	単位	数量	備考																																																																																										
集積積込み （機械施工） （伐木除根）		B	○	m ²																																																																																												
積算上の注意事項			<p>（控え頁）</p> <p>1/3</p>																																																																																													

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

前頁より移動

項目	区分	積込条件	除根作業の有無	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
運搬 (伐木除根)		○	○	○	○	m ²		

項目	区分	樹木・竹の区分 樹木密集度	除根作業の有無	集積積込み作 業の区分	単位	数量	備考
伐木・伐竹 (複合)		○	○	○	m ²		

- (2) 樹木・竹の区分 樹木密集度による区分は、以下のとおりとする。
- 樹木・竹の区分 樹木密集度
 - 伐木（粗）（10本/100m²未満）
 - 伐木（中）（10本/100m²以上50本/100m²未満）
 - 伐木（密）（50本/100m²以上）
 - 伐竹
- (3) 除根作業の有無による区分は、以下のとおりとする。
- 除根作業の有無
 - 有り
 - 無し
- (4) 積込条件による区分は、以下のとおりとする。
(除根作業が必要（有り）な場合は、機械施工となる)
- 積込条件
 - 人力施工
 - 機械施工

(5) 除根作業の有無による区分は、以下のとおりとする。
(積込条件が機械施工の場合のみ)

- 除根作業の有無
 - 有り
 - 無し

(6) DID区間の有無による区分は、以下のとおりとする。

- DID区間の有無
 - 無し
 - 有り

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
処分費	m ³		必要な場合別途計上

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）の対象面積は、伐木、伐竹（伐木除根）面積と同面積とする。

(2) 運搬（伐木除根）の運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とし、自動車専用道路を利用する場合には別途考慮する。

項目	3次元 モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
集積 (人力施工) (伐木除根)	B	m ²		
積込み (人力施工) (伐木除根)	B	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 現場外搬出時の積込作業は含まない。

項目	区分	3次元 モデル	属性情報				単位	数量	備考
			積込条件	除根作業の有無	DID区間の有無	運搬距離			
運搬 (伐木除根)		B	○	○	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

項目	区分	3次元 モデル	属性情報				単位	数量	備考
			樹木・竹の区 分樹木密集度	除根作業 の有無	集積積込み作 業の区分				
伐木・伐竹 (複合)		B	○	○	○	m ²			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

現行どおり

次頁へ移動

記載の追加

記載の追加

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁)	2/3
----------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 現行														
現 行		改 正														
<p>前頁より移動 →</p>		<p>(5) 除根作業の有無による区分は、以下のとおりとする。 (積込条件が機械施工の場合のみ)</p> <p>除根作業の有無 — 有り — 無し</p> <p>(6) DID区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>DID区間の有無 — 無し — 有り</p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処分費</td> <td>C</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）の対象面積は、伐木、伐竹（伐木除根）面積と同面積とする。</p> <p>(2) 運搬（伐木除根）の運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とし、自動車専用道路を利用する場合には別途考慮する。</p>		項目	3次元 モデル	属性情報			単位	数量	備考	処分費	C	m ²		必要な場合別途計上
項目	3次元 モデル	属性情報														
		単位	数量	備考												
処分費	C	m ²		必要な場合別途計上												
積算上の注意事項		<p>記載の追加</p> <p>2-4-9</p> <p>(控え頁)</p> <p>3/3</p>														

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																			
現 行		改 正																																																																																			
<p>4.5 塵芥処理工</p> <p>1. 適用 河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、現場外搬出に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 散在塵芥の収集面積、堆積塵芥の収集体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、作業区分、塵芥の種類、DID区間の有無、運搬距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>作業区分</th> <th>塵芥の種類</th> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>ダンプトラック 持込・貸与</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>散在塵芥収集</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥収集 (機械処理)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥収集 (人力処理)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 項目分類 塵芥量が1m³/1000m²程度以下の場合は、散在塵芥収集とし、それ以上の場合は、堆積塵芥収集を標準とする。</p> <p>(3) 作業区分 作業区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業区分 <ul style="list-style-type: none"> — 収集・集積のみ — 収集・集積・運搬 — 運搬のみ <p>(4) 塵芥の種類区分 堆積塵芥の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 塵芥の種類 <ul style="list-style-type: none"> — 木片、空缶、枯草等のかさ高物 — コンクリート塊等の重量物 <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。</p>		項 目	作業区分	塵芥の種類	DID区間の有無	運搬距離	ダンプトラック 持込・貸与	単位	数量	備考	散在塵芥収集	○	×	○	○	○	m ²			堆積塵芥収集 (機械処理)	○	○	○	○	○	m ³			堆積塵芥収集 (人力処理)	○	○	○	○	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="6">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>作業区分</th> <th>塵芥の種類</th> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>ダンプトラック 持込・貸与</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>散在塵芥収集</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥収集 (機械処理)</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥収集 (人力処理)</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>	項 目	3次元 モデル	属 性 情 報						単位	数量	備考	作業区分	塵芥の種類	DID区間の有無	運搬距離	ダンプトラック 持込・貸与	散在塵芥収集	B	○	×	○	○	○	m ²			堆積塵芥収集 (機械処理)	C	○	○	○	○	○	m ³			堆積塵芥収集 (人力処理)	C	○	○	○	○	○	m ³			記載の追加
項 目	作業区分	塵芥の種類	DID区間の有無	運搬距離	ダンプトラック 持込・貸与	単位	数量	備考																																																																													
散在塵芥収集	○	×	○	○	○	m ²																																																																															
堆積塵芥収集 (機械処理)	○	○	○	○	○	m ³																																																																															
堆積塵芥収集 (人力処理)	○	○	○	○	○	m ³																																																																															
項 目	3次元 モデル	属 性 情 報						単位	数量	備考																																																																											
		作業区分	塵芥の種類	DID区間の有無	運搬距離	ダンプトラック 持込・貸与																																																																															
散在塵芥収集	B	○	×	○	○	○	m ²																																																																														
堆積塵芥収集 (機械処理)	C	○	○	○	○	○	m ³																																																																														
堆積塵芥収集 (人力処理)	C	○	○	○	○	○	m ³																																																																														
	2-4-9		2-4-10																																																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																		

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

4.6 ボーリンググラウト工

1. 適用

注入設備2セット施工により、河川構造物（樋管・樋門・水門・堤防等）周辺の止水、空洞充填等を目的にセメントベントナイトを注入するボーリンググラウト工に適用する。

2. 数量算出項目

削孔、注入、注入設備据付・解体の数量を区分ごとに算出する。

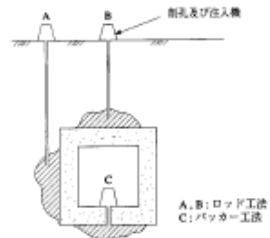
3. 区分

区分は、削孔工法、削孔長、土質係数（ α ）、注入工1m³当り注入日数（S）、注入材料の配合、セメントの種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

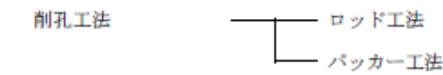
項目	区分									
	削孔工法	削孔長	土質係数 (α)	注入工 1m ³ 当り 注入日数 (S)	注入 材料の 配合	セメント の種類	単位	数量	備考	
削孔	○	○	○	×	×	×	孔			
注入	○	×	×	○	○	○	m ³			
注入設備据付・解体	×	×	×	×	×	×	回			

注) 1. 工法による区分は、以下を参考とする。



2. 削孔径はロッド工法がφ46mm、パッカー工法がφ52mm（2インチ）を標準とする。
3. 注入設備2セット分の回数とする。

(2) 削孔工法による区分は、以下のとおりとする。



2-4-10

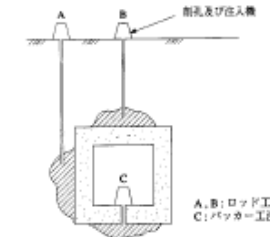
現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	属性情報								
		3次元モデル	削孔工法	削孔長	土質係数 (α)	注入工 1m ³ 当り 注入日数 (S)	注入 材料の 配合	セメント の種類	単位	数量
削孔		B	○	○	○	×	×	×	孔	
注入		C	○	×	×	○	○	○	m ³	
注入設備据付・解体		C	×	×	×	×	×	×	回	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 工法による区分は、以下を参考とする。



2. 削孔径はロッド工法がφ46mm、パッカー工法がφ52mm（2インチ）を標準とする。
3. 注入設備2セット分の回数とする。

現行どおり

2-4-11

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																										
現行		改正																										
<p>4.7 木杭打工</p> <p>1. 適用 河川における多自然型護岸工の施工で、杭長3.5m以下の木杭の打込みに適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 木杭打の数量を算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木杭打</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p> <p>2-4-15</p>		項目	規格	単位	数量	備考	木杭打	○	本			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木杭打</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p> <p>2-4-16</p>		項目	3次元 モデル	属性情報			備考	規格	単位	数量	木杭打	B	○	本		
項目	規格	単位	数量	備考																								
木杭打	○	本																										
項目	3次元 モデル	属性情報			備考																							
		規格	単位	数量																								
木杭打	B	○	本																									
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>																									

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																			
現 行		改 正																																			
<p>4.8 袋詰玉石工</p> <p>1. 適用 袋材（袋規格 2 t 用及び 3 t 用）に詰石（50mm～300mm 程度の玉石、割栗石、コンクリート殻）したものを現地で製作し、築堤・護岸の根固め・床固めとして据付ける場合に適用する。なお、積み方法は、平積み、乱積み及び多段積みとする。</p> <p>2. 数量算出項目 区分は、袋材規格、施工条件、中詰材とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>袋材規格</th> <th>施工条件</th> <th>中詰材</th> <th>単 位</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>袋 詰 玉 石</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>袋</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 袋材規格 袋材規格による区分は下記のとおりとする。 ① 2 t 用 ② 3 t 用</p> <p>(3) 施工条件 施工条件による区分は下記のとおりとする。（3 t 用は除く） ① 据付深さ 4m 以下及び作業半径 5m 以内 ② 据付深さ 4m を超え 9m 以下又は作業半径 5m を超え 18m 以下</p> <p>(4) 中詰材 中詰材による区分は下記のとおりとする。 ① 購入材 ② 流用又は採取材</p> <p>2-4-16</p>		項目	区分	袋材規格	施工条件	中詰材	単 位	備 考	袋 詰 玉 石		○	○	○	袋		<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>袋材規格</th> <th>施工条件</th> <th>中詰材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>袋詰玉石</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>袋</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>2-4-17</p>		項目	区分	属性情報				単 位	備 考	3次元モデル	袋材規格	施工条件	中詰材	袋詰玉石		B	○	○	○	袋	
項目	区分	袋材規格	施工条件	中詰材	単 位	備 考																															
袋 詰 玉 石		○	○	○	袋																																
項目	区分	属性情報				単 位	備 考																														
		3次元モデル	袋材規格	施工条件	中詰材																																
袋詰玉石		B	○	○	○	袋																															
積算上の注意事項			記載の追加																																		
			(控え頁) 1/1																																		

改正理由	一部改正	改正 現行																																									
現 行		改 正																																									
<p>4.9 笠コンクリートブロック据付工</p> <p>1. 適用</p> <p>矢板護岸工に使用する1.1t未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの据付に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>笠コンクリートブロックの延長、中詰コンクリートの体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、中詰コンクリート型枠の有無、中詰コンクリート規格、中詰コンクリート100m当り設計量とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>中詰コンクリート 型枠の有無</th> <th>中詰コンクリート 規格</th> <th>中詰コンクリート 100m当り 設計量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>笠コンクリートブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 基礎砕石の敷均し厚は、10 cm以下を標準とし、材料の種別・規格を問わない。</p> <p>(2) 規格区分</p> <p>1. 笠コンクリートブロック</p> <p>規格には、笠コンクリートブロック 1個当りの寸法を記載する。 注) 100m当りのブロック個数も算出すること。</p> <p>2. 中詰コンクリート</p> <p>使用するコンクリートの規格を記載する。 注) 100m当りの設計量 (m³) も算出すること。</p> <p>2-4-17</p>		項目	区 分	中詰コンクリート 型枠の有無	中詰コンクリート 規格	中詰コンクリート 100m当り 設計量	単位	数量	備 考	笠コンクリートブロック		○	○	○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="5">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元 モデル</th> <th>中詰コンクリート 型枠の有無</th> <th>中詰コンクリート 規格</th> <th>中詰コンクリート 100m当り 設計量</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>笠コンクリートブロック</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な取扱い方法は、コンクリート構造を参考とする。 注) 基礎砕石の敷均し厚は、10 cm以下を標準とし、材料の種別・規格を問わない。</p> <p>現行どおり</p> <p>記載の追加</p> <p>2-4-18</p>		項目	区 分	属性情報					単位	数量	備考	3次元 モデル	中詰コンクリート 型枠の有無	中詰コンクリート 規格	中詰コンクリート 100m当り 設計量		笠コンクリートブロック		B	○	○	○	m		
項目	区 分	中詰コンクリート 型枠の有無	中詰コンクリート 規格	中詰コンクリート 100m当り 設計量	単位	数量	備 考																																				
笠コンクリートブロック		○	○	○	m																																						
項目	区 分	属性情報					単位	数量	備考																																		
		3次元 モデル	中詰コンクリート 型枠の有無	中詰コンクリート 規格	中詰コンクリート 100m当り 設計量																																						
笠コンクリートブロック		B	○	○	○	m																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																								

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																																																																																								
現行		改正																																																																																																																																																																																																																								
<p>5章 砂防工</p> <p>5.1 土工</p> <p>1. 適用</p> <p>砂防工（本ダム、副ダム、床固、帯工、水叩、側壁、護岸）の土工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>掘削、土砂等運搬、押土（ルーズ）、積込（ルーズ）、盛土、床掘り、埋戻し、残土処理、法面整形の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>(1) 土砂等運搬は、片道の運搬距離を算出する。往路と復路が異なるときは、平均値とする。また、必要に応じて土量配分図を作成する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、土質、構造物、施工形態、施工幅とする。土砂等運搬の区分は、運搬距離、土質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目および区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">運搬距離</th> <th rowspan="2">土質</th> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">施工形態</th> <th rowspan="2">施工幅</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">土工</td> <td>掘削</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>土砂等運搬</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>押土（ルーズ）</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>積込（ルーズ）</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">作土業工</td> <td>床掘り</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>残土処理</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法整形</td> <td>掘削部</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土部</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土質区分</p> <p>土質による区分は、「第1編（共通編）2章土工2.1土工」による。なお、破砕を要する転石の場合は、粒径0.5m未満・以上で区分して算出する。</p> <p>(3) 構造物区分</p> <p>構造物ごとに区分して算出する。</p>		項目	区分	運搬距離	土質	構造物	施工形態	施工幅	単位	数量	備考		土工	掘削	×	○	×	○	×	m ³			土砂等運搬	○	○	×	×	×	m ³			押土（ルーズ）	×	○	×	×	×	m ³			積込（ルーズ）	×	○	×	×	×	m ³			盛土	×	○	○	○	○	m ³			作土業工	床掘り	×	○	○	○	×	m ³			埋戻し	×	○	○	○	○	m ³				残土処理	×	○	○	○	×	m ³			法整形	掘削部	×	○	○	○	×	m ²			盛土部	×	○	○	○	×	m ²			<p>現行どおり</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>掘削、土砂等運搬、押土（ルーズ）積込（ルーズ）、盛土、床掘り、埋戻し、残土処理、法面整形の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目および区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>運搬距離</th> <th>土質</th> <th>構造物</th> <th>施工形態</th> <th>施工幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">土工</td> <td>掘削</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>土砂等運搬</td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>積込（ルーズ）</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土工作業</td> <td>床掘り</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>残土処理</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">整形法面</td> <td>掘削部</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土部</td> <td>土構造</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報					単位	数量	備考	運搬距離	土質	構造物	施工形態	施工幅	土工	掘削	土構造	×	○	×	○	×	m ³			土砂等運搬	土構造	○	○	×	×	×	m ³			積込（ルーズ）	土構造	×	○	×	×	×	m ³			盛土	土構造	×	○	○	○	○	m ³			土工作業	床掘り	土構造	×	○	○	○	×	m ³			埋戻し	土構造	×	○	○	○	○	m ³				残土処理	土構造	×	○	○	○	×	m ³			整形法面	掘削部	土構造	×	○	○	○	×	m ²			盛土部	土構造	×	○	○	○	×	m ²			<p>記載の削除</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分											運搬距離		土質	構造物	施工形態	施工幅	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																						
土工	掘削	×	○	×	○	×	m ³																																																																																																																																																																																																																			
	土砂等運搬	○	○	×	×	×	m ³																																																																																																																																																																																																																			
	押土（ルーズ）	×	○	×	×	×	m ³																																																																																																																																																																																																																			
	積込（ルーズ）	×	○	×	×	×	m ³																																																																																																																																																																																																																			
	盛土	×	○	○	○	○	m ³																																																																																																																																																																																																																			
作土業工	床掘り	×	○	○	○	×	m ³																																																																																																																																																																																																																			
	埋戻し	×	○	○	○	○	m ³																																																																																																																																																																																																																			
	残土処理	×	○	○	○	×	m ³																																																																																																																																																																																																																			
法整形	掘削部	×	○	○	○	×	m ²																																																																																																																																																																																																																			
	盛土部	×	○	○	○	×	m ²																																																																																																																																																																																																																			
項目	区分	3次元モデル	属性情報					単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																
			運搬距離	土質	構造物	施工形態	施工幅																																																																																																																																																																																																																			
土工	掘削	土構造	×	○	×	○	×	m ³																																																																																																																																																																																																																		
	土砂等運搬	土構造	○	○	×	×	×	m ³																																																																																																																																																																																																																		
	積込（ルーズ）	土構造	×	○	×	×	×	m ³																																																																																																																																																																																																																		
	盛土	土構造	×	○	○	○	○	m ³																																																																																																																																																																																																																		
土工作業	床掘り	土構造	×	○	○	○	×	m ³																																																																																																																																																																																																																		
	埋戻し	土構造	×	○	○	○	○	m ³																																																																																																																																																																																																																		
	残土処理	土構造	×	○	○	○	×	m ³																																																																																																																																																																																																																		
整形法面	掘削部	土構造	×	○	○	○	×	m ²																																																																																																																																																																																																																		
	盛土部	土構造	×	○	○	○	×	m ²																																																																																																																																																																																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																																																																																																																																							

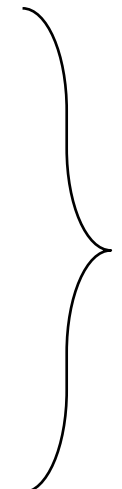
改正理由	一部改正	改正 現行																																				
現 行		改 正																																				
<p>5.2 コンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <p>砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）のコンクリート工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート、型枠及び足場（キャットウォーク）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、構造物、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造物</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場(キャットウォーク)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>止 水 板</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造物区分</p> <p>1) コンクリート コンクリートの数量は、各構造物ごとに区分して算出するものとするが、側壁又は護岸については基礎部と壁部を区分して算出する。</p> <p>2) 型枠 型枠の数量は、各構造物ごとに区分して算出すると共に、外部型枠、内部型枠に区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。なお、コンクリート、型枠の数量は、必要に応じて「第1編（共通編）4章コンクリート工」により算出する。</p> <p>(1) コンクリート 堤体コンクリートについては、一般部と堤冠部を区分し、年度区分の数量が容易に算出出来るようにブロックごと（施工高は1m又は基礎の変化点、延長は止水板位置等を標準とする）にも算出する。</p> <p>(2) 型枠 1) 型枠面積の算出のうち、外部型枠の対象面は各構造物の引き取り対象となる面とする。</p>		項目	区分	構造物	規格	単位	数量	備考	コンクリート		○	○	m ³			型 枠		○	○	m ²			足場(キャットウォーク)		○	×	m			止 水 板		○	○	m			<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>	<p>記載の追加</p>
項目	区分	構造物	規格	単位	数量	備考																																
コンクリート		○	○	m ³																																		
型 枠		○	○	m ²																																		
足場(キャットウォーク)		○	×	m																																		
止 水 板		○	○	m																																		
積算上の注意事項	2-5-4		(控え頁) 1/2																																			

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改	正
	<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>ただし、側壁、護岸の裏面及び本体と間詰を同時に施工する場合の間詰の接する面等を除く。また、内部型枠の対象面は、側壁、護岸の裏面、間仕切り面(日々の打ち止め面)等とする。</p> <p>2) 化粧型枠を使用する場合は、化粧型枠の種類(使い捨てタイプ、一体型等)ごとに区分して算出する</p> <p>(3) 足場(キャットウォーク)の適用範囲</p> <p>1) 足場(キャットウォーク)の適用範囲は、型枠の組立、解体用足場を設置する場合とし、基礎地盤より2m上から対象とする。ただし、間詰を施工(本体と同時に施工)する場合は、間詰天端より2m上から対象とする。</p> <p>2) 継続工事で間詰、埋戻、水叩等が完成している場合は、その天端より2m上からを対象とする。</p> <p>(4) 足場(キャットウォーク)延長</p> <p>足場延長の算出方法は、足場の高さ方向の標準設置間隔を1.8mとして段数を決定し算出する。</p> <p>[足場延長算定式]</p> $L a = \frac{A a}{1.8}$ <p> $L a$: 足場延長 (m) $A a$: 足場対象面積 (m²) 足場対象面積は垂直投影面積とし、足場の不要となる基礎地盤より2.0m分は控除するものとする。 1.8 : 足場の上下据付(垂直)間隔 (m) </p> <p>(注) 足場の不要となる基礎地盤とは、平垣(i=1/10以内)が5.0m以上の箇所(砂防堰堤等上・下流基礎、半川施工部基礎、同時打間詰天端等)、打設ブロック間の下段コンクリート面をいう。</p> <p>(5) 水抜暗渠の数量算出</p> <p>数量は、延長(m)を算出する。ヒューム管の場合の延長は外周下端延長(m)を算出する。暗渠部のコンクリート控除数量は、ヒューム管の外周面積に中心延長を乗じたものとする。</p> <p>注) 1. コンクリート控除数量は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(2) 型枠</p> <p>1) 型枠面積の算出のうち、外部型枠の対象面は各構造物の引き取り対象となる面とする</p> </div> <p>現行どおり</p>	
2-5-5			
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																										
現 行		改 正																																																										
<p>5.3 残存型枠工</p> <p>1. 適用</p> <p>砂防工事の構造物施工にかかる残存型枠及び残存化粧型枠に適用する。 本工法は、プレキャストのコンクリート二次製品による型枠を使用し、コンクリート打設・養生後の型枠の撤去を必要としない型枠工のことをいう。 また、残存化粧型枠とは意匠を目的とした平面・凹凸面の型枠材のことをいう。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>残存型枠、残存化粧型枠の面積、水抜きパイプの延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、構造物、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>構造物</th> <th>規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残 存 型 枠</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>(注)1, 2</td> </tr> <tr> <td>残 存 化 粧 型 枠</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>(注)1, 2</td> </tr> <tr> <td>水 抜 き パ イ プ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>※100m²当り数量を算出</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 平均設置高さ「30m以下」と「30m超」に区分し算出する。なお、「30m超」の場合はその設置高さを備考欄に明記すること。 2. 型枠材の100m²当り使用枚数及び1枚当り質量を備考欄に明記する。</p> <p>(2) 構造物区分 構造物ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 規格区分 型枠の規格ごとに区分して算出する。</p>		項目	区分		単位	数量	備 考	構造物	規 格	残 存 型 枠	○	○	m ²		(注)1, 2	残 存 化 粧 型 枠	○	○	m ²		(注)1, 2	水 抜 き パ イ プ	○	○	m		※100m ² 当り数量を算出	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>構造物</th> <th>規格</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残 存 型 枠</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td>(注)1, 2</td> </tr> <tr> <td>残 存 化 粧 型 枠</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td>(注)1, 2</td> </tr> <tr> <td>水 抜 き パ イ プ</td> <td>C</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td>※100m²当り数量を算出</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>(注) 1. 平均設置高さ「30m以下」と「30m超」に区分し算出する。なお、「30m超」の場合はその設置高さを備考欄に明記すること。 2. 型枠材の100m²当り使用枚数及び1枚当り質量を備考欄に明記する。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報			備 考	構造物	規格	単位	残 存 型 枠	B		○	○	m ²	(注)1, 2	残 存 化 粧 型 枠	B		○	○	m ²	(注)1, 2	水 抜 き パ イ プ	C		○	○	m	※100m ² 当り数量を算出
項目	区分		単位	数量				備 考																																																				
	構造物	規 格																																																										
残 存 型 枠	○	○	m ²		(注)1, 2																																																							
残 存 化 粧 型 枠	○	○	m ²		(注)1, 2																																																							
水 抜 き パ イ プ	○	○	m		※100m ² 当り数量を算出																																																							
項目	区分	3次元モデル	属性情報			備 考																																																						
			構造物	規格	単位																																																							
残 存 型 枠	B		○	○	m ²	(注)1, 2																																																						
残 存 化 粧 型 枠	B		○	○	m ²	(注)1, 2																																																						
水 抜 き パ イ プ	C		○	○	m	※100m ² 当り数量を算出																																																						
積算上の注意事項		備考																																																										
		記載の追加																																																										
		(控え頁)																																																										
		1/1																																																										

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																					
現	行	改	正																																																																																																				
<p>5.4 仮設備工(砂防工)</p> <p>5.4.1 ケーブルクレーン設備</p> <p>1. 適用</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">砂防工の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ケーブルクレーンの数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケーブルクレーン</td> <td></td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格 ケーブルクレーンの規格は、以下のとおりとする。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> スパン <ul style="list-style-type: none"> — 7.5m以下 — 7.6~12.5m — 12.6~17.5m — 17.6~22.5m — 22.6~27.5m — 27.6~32.5m — 32.6~37.5m — 37.6~42.5m — 42.6~50.0m </td> <td style="width: 50%;"> リフト規格 <ul style="list-style-type: none"> — 2t未満 — 3t未満 — 4t未満 — 5t未満 </td> </tr> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ケーブルクレーンの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ベースコンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主 索</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻 上 索</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横 行 索</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	ケーブルクレーン		○	基			スパン <ul style="list-style-type: none"> — 7.5m以下 — 7.6~12.5m — 12.6~17.5m — 17.6~22.5m — 22.6~27.5m — 27.6~32.5m — 32.6~37.5m — 37.6~42.5m — 42.6~50.0m 	リフト規格 <ul style="list-style-type: none"> — 2t未満 — 3t未満 — 4t未満 — 5t未満 	項目	区分	規格	単位	数量	備考	ベースコンクリート		○	m ³			主 索		○	m			巻 上 索		○	m			横 行 索		○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケーブルクレーン</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ケーブルクレーンの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ベースコンクリート</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主 索</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻 上 索</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横 行 索</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p>		項目	3次元 モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	ケーブルクレーン	B	○	基			項目	区分	3次元 モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	ベースコンクリート		A	○	m ³			主 索		C	○	m			巻 上 索		C	○	m			横 行 索		C	○	m			<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																		
ケーブルクレーン		○	基																																																																																																				
スパン <ul style="list-style-type: none"> — 7.5m以下 — 7.6~12.5m — 12.6~17.5m — 17.6~22.5m — 22.6~27.5m — 27.6~32.5m — 32.6~37.5m — 37.6~42.5m — 42.6~50.0m 	リフト規格 <ul style="list-style-type: none"> — 2t未満 — 3t未満 — 4t未満 — 5t未満 																																																																																																						
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																		
ベースコンクリート		○	m ³																																																																																																				
主 索		○	m																																																																																																				
巻 上 索		○	m																																																																																																				
横 行 索		○	m																																																																																																				
項目	3次元 モデル	属性情報																																																																																																					
		規格	単位	数量	備考																																																																																																		
ケーブルクレーン	B	○	基																																																																																																				
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																																																				
			規格	単位	数量	備考																																																																																																	
ベースコンクリート		A	○	m ³																																																																																																			
主 索		C	○	m																																																																																																			
巻 上 索		C	○	m																																																																																																			
横 行 索		C	○	m																																																																																																			
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																				

改正理由	一部改正	改正 現行																																					
現 行		改 正																																					
<p>5.5 鋼製砂防工</p> <p>1. 適用</p> <p>鋼製砂防工の透過型のうち、格子形鋼製砂防堰堤、鋼製スリット堰堤B型の設置に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鋼製砂防の組立・据付総質量、本締めボルト本数、アンカーボルト本数、無収縮モルタルの体積、現場塗装面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼製砂防堰堤</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本締めボルト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td>格子形鋼製砂防堰堤の場合</td> </tr> <tr> <td>無収縮モルタル</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> <td>格子形鋼製砂防堰堤の場合</td> </tr> <tr> <td>現 場 塗 装</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鋼製砂防堰堤</p> <p>組立・据付質量にはアンカーボルト、ボルト、ナット、ワッシャを除く鋼製部材の総質量とする。</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備 考	鋼製砂防堰堤	○	t				本締めボルト	○	本				アンカーボルト	○	本			格子形鋼製砂防堰堤の場合	無収縮モルタル	○	m ³			格子形鋼製砂防堰堤の場合	現 場 塗 装	○	m ²				<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p>	備考
項目	区分	規格	単位	数量	備 考																																		
鋼製砂防堰堤	○	t																																					
本締めボルト	○	本																																					
アンカーボルト	○	本			格子形鋼製砂防堰堤の場合																																		
無収縮モルタル	○	m ³			格子形鋼製砂防堰堤の場合																																		
現 場 塗 装	○	m ²																																					
積算上の注意事項		(控え頁) 1/1																																					



現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			備 考
			規格	単位	数量	
鋼製砂防堰堤	I	○	t			
本締めボルト	II	○	本			
アンカーボルト	II	○	本		格子形鋼製砂防堰堤の場合	
無収縮モルタル	B	○	m ³		格子形鋼製砂防堰堤の場合	
現 場 塗 装	III	○	m ²			

3次元モデルの基本的な表現方法は、鋼構造を参考とする。
無収縮モルタルの3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																						
現 行		改 正																																						
<p>5.6 砂防ソイルセメント工</p> <p>1. 適用</p> <p>砂防工(本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸)の基礎及び中詰において施工位置周辺ヤードにて現地発生土とセメントをバックホウにて攪拌混合し、運搬、敷均し、締固めを行い、構造物を構築する砂防ソイルセメント工の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>粒径処理、攪拌混合、混合材料敷均し・締固めの数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、粒径処理率(%)、セメント100m³当り使用量(t/100m³)とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>粒径処理率 (%)</th> <th>セメント100m³当り使用量 (t/100m³)</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粒径処理</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>攪拌混合</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>混合材料敷均し・締固め</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 粒径処理の土量は、粒径処理後の土量(ほぐし土量)である。 2. 攪拌混合の土量は、締固め状態における土量である。 3. 混合材料敷均し・締固めの土量は、締固め状態における土量である。</p> <p>(2) 粒径処理率による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>粒径処理率 (%)</p> <ul style="list-style-type: none"> — 40を超え45以下 — 45を超え50以下 — 50を超え60以下 — 60を超え80以下 — 80を超え100以下 <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>砂防ソイルセメント(粒径処理土積込・運搬)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 粒径処理率は次式による。 粒径処理率(%) = (粒径処理後土量) / (粒径処理前土量)</p>		項目	区 分	粒径処理率 (%)	セメント100m ³ 当り使用量 (t/100m ³)	単 位	数 量	備 考	粒径処理		○	×	m ³			攪拌混合		×	○	m ³			混合材料敷均し・締固め		×	×	m ³			項目	単 位	数 量	備 考	砂防ソイルセメント(粒径処理土積込・運搬)	m ³		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>		備考
項目	区 分	粒径処理率 (%)	セメント100m ³ 当り使用量 (t/100m ³)	単 位	数 量	備 考																																		
粒径処理		○	×	m ³																																				
攪拌混合		×	○	m ³																																				
混合材料敷均し・締固め		×	×	m ³																																				
項目	単 位	数 量	備 考																																					
砂防ソイルセメント(粒径処理土積込・運搬)	m ³		必要な場合別途計上																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																					

記載の追加

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報			単 位	数 量	備 考
			粒径処理率 (%)	セメント 100 m ³ 当り 使用量(t/100 m ³)				
粒径処理		B	○	×	m ³			
攪拌混合		B	×	○	m ³			
混合材料敷均し・締固め		B	×	×	m ³			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 粒径処理の土量は、粒径処理後の土量(ほぐし土量)である。
2. 攪拌混合の土量は、締固め状態における土量である。
3. 混合材料敷均し・締固めの土量は、締固め状態における土量である。

工 種	砂防ソイルセメント工
-----	------------

改正理由	一部改正	改正 現行		
現 行		改 正		備 考
<p style="text-align: center;">前頁より移動 →</p>		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 粒径処理率は次式による。 $\text{粒径処理率}(\%) = (\text{粒径処理後土量}) / (\text{粒径処理前土量})$</p> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">2-5-10</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2	

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																														
現 行		改 正																																																																																																																														
<p>6章 斜面对策工</p> <p>6.1 集水井工</p> <p>6.1.1 集水井工(ライナープレート土留工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>ライナープレート土留工法による集水井の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>集水井掘削、コンクリート、井戸蓋、昇降用設備等を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、土質、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表 (1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集水井掘削</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>井戸蓋</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>枚(基)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>昇降用設備</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土質区分 土質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>土質 ———— 砂・砂質土、粘性土、レキ質土 岩塊・玉石混じり土、軟岩、中硬岩</p> <p>(3) 規格区分 集水井1基ごとに区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 集水井掘削の土留材料の内訳は下記の項目で算出する。(1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ライナープレート</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補強リング</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補強材</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td>必要な場合算出</td> </tr> </tbody> </table>		区分 項目	土質	規格	単位	数量	備考	集水井掘削	○	×	m			コンクリート	×	○	m ³			井戸蓋	×	○	枚(基)			昇降用設備	×	○	m			区分 項目	土質	規格	単位	数量	備考	ライナープレート	×	○	m			補強リング	×	○	個			補強材	×	○	t		必要な場合算出	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表 (1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集水井掘削</td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>井戸蓋</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>枚(基)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>昇降用設備</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 集水井掘削の土留材料の内訳は下記の項目で算出する。(1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ライナープレート</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補強リング</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補強材</td> <td>I</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td>必要な場合算出</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする 補強材の3次元モデルの基本的な表現方法は、鋼構造を参考とする</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報				備考	土質	規格	単位	数量	集水井掘削	土構造	○	×	m			コンクリート	A	×	○	m ³			井戸蓋	B	×	○	枚(基)			昇降用設備	C	×	○	m			区分 項目	3次元 モデル	属性情報				備考	土質	規格	単位	数量	ライナープレート	B	×	○	m			補強リング	B	×	○	個			補強材	I	×	○	t		必要な場合算出
区分 項目	土質	規格	単位	数量	備考																																																																																																																											
集水井掘削	○	×	m																																																																																																																													
コンクリート	×	○	m ³																																																																																																																													
井戸蓋	×	○	枚(基)																																																																																																																													
昇降用設備	×	○	m																																																																																																																													
区分 項目	土質	規格	単位	数量	備考																																																																																																																											
ライナープレート	×	○	m																																																																																																																													
補強リング	×	○	個																																																																																																																													
補強材	×	○	t		必要な場合算出																																																																																																																											
区分 項目	3次元 モデル	属性情報				備考																																																																																																																										
		土質	規格	単位	数量																																																																																																																											
集水井掘削	土構造	○	×	m																																																																																																																												
コンクリート	A	×	○	m ³																																																																																																																												
井戸蓋	B	×	○	枚(基)																																																																																																																												
昇降用設備	C	×	○	m																																																																																																																												
区分 項目	3次元 モデル	属性情報				備考																																																																																																																										
		土質	規格	単位	数量																																																																																																																											
ライナープレート	B	×	○	m																																																																																																																												
補強リング	B	×	○	個																																																																																																																												
補強材	I	×	○	t		必要な場合算出																																																																																																																										
積算上の注意事項		備考																																																																																																																														
		(控え頁) 1/2																																																																																																																														

記載の追加

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																
現行		改正																																																																																
<p>6.1.2 集水井工(プレキャスト土留工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>プレキャスト土留工法による集水井の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>集水井掘削、コンクリート、井戸蓋、昇降用設備等を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、土質、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表 (1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集水井掘削</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>井戸蓋</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>枚(基)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>昇降用設備</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土質区分 土質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>土質 ——— 粘性土、レキ質土 └─── 軟岩</p> <p>(3) 規格区分 集水井1基ごとに区分して算出する。</p> <p>2-6-3</p>		項目	区分	土質	規格	単位	数量	備考	集水井掘削		○	×	m			コンクリート		×	○	m ³			井戸蓋		×	○	枚(基)			昇降用設備		×	○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表 (1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集水井掘削</td> <td></td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>井戸蓋</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>枚(基)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>昇降用設備</td> <td></td> <td>C</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報				土質	規格	単位	数量	備考	集水井掘削		土構造	○	×	m			コンクリート		B	×	○	m ³			井戸蓋		B	×	○	枚(基)			昇降用設備		C	×	○	m		
項目	区分	土質	規格	単位	数量	備考																																																																												
集水井掘削		○	×	m																																																																														
コンクリート		×	○	m ³																																																																														
井戸蓋		×	○	枚(基)																																																																														
昇降用設備		×	○	m																																																																														
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																															
			土質	規格	単位	数量	備考																																																																											
集水井掘削		土構造	○	×	m																																																																													
コンクリート		B	×	○	m ³																																																																													
井戸蓋		B	×	○	枚(基)																																																																													
昇降用設備		C	×	○	m																																																																													
積算上の注意事項			備考 記載の追加																																																																															
			(控え頁) 2/2																																																																															

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

6.2 集排水ボーリング工

1. 適用

地表及び集水井内において、ロータリーパーカッション式ボーリングマシン（二重管方式）にて集排水ボーリング工を施工するものであり、呼び径90～135 mm、削孔長80m以下、削孔角度は水平±10 度以内の作業に適用する。

2. 数量算出項目

ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材、足場（地表）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工場所、土質区分、呼び径、削孔長区分、保孔管種別、ストレーナ現場加工の有無、保孔管種類、製品区分とする。

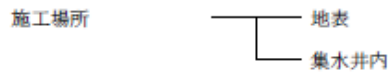
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	施工 場所	土質 区分	呼び 径	削孔長 区分	保孔管 種別	ストレー ナ現場加 工の有無	保孔管 種類	製品 区分	単位	数量	備考
ボーリング	○	○	○	○	×	×	×	×	m		
保孔管	○	×	×	×	○	○	○	○	m		
ボーリング 仮設機材	○	×	×	×	×	×	×	×	回		
足場（地表）	○	×	×	×	×	×	×	×	空m ³		

注) 1. 呼び径とは、ドリルパイプ外径(mm)をいう。
2. 同一足場上の移動はボーリングに含む。
3. 作業足場の幅は4.5mとする。

(2) 施工場所による区分は、以下のとおりとする。

①ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材の場合



②足場（地表）の場合



2-6-4

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次 元モ デル	属 性 情 報									単位	数量	備考
		施工 場所	土質 区分	呼び 径	削孔 長区 分	保孔管 種別	ストレー ナ現場加 工の有無	保孔管 種類	製品 区分				
ボーリング	B	○	○	○	○	×	×	×	×	m			
保孔管	B	○	×	×	×	○	○	○	○	m			
ボーリング 仮設機材	C	○	×	×	×	×	×	×	×	回			
足場（地 表）	C	○	×	×	×	×	×	×	×	空m ³			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 呼び径とは、ドリルパイプ外径(mm)をいう。
2. 同一足場上の移動はボーリングに含む。
3. 作業足場の幅は4.5mとする。

現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 1/1
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																															
現行		改正																																																																																																																																																															
<p>6.3 地すべり防止工(山腹水路工)</p> <p>1. 適用</p> <p>地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における山腹水路工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>施工数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、掘削断面積、内空積、製品質量とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>掘削断面</th> <th>内空積</th> <th>製品質量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>山腹U形側溝</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹コブトフォーム</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹U形側溝明暗渠</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹コブトフォーム明暗渠</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹暗渠</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>集水柵</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>基</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>プレキャスト集水柵</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>○</td><td>基</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 掘削断面積、内空積、製品質量</p> <p>掘削断面積、内空積、製品質量による区分は、以下によるものとする。</p> <p>掘削断面積</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.5m²以下 0.5m²を超え1.0m²以下 1.0m²を超え2.0m²以下 2.0m²を超え3.0m²以下 3.0m²を超え4.0m²以下 <p>内空積</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.4m³以下 0.4m³を超え0.8m³以下 0.8m³を超え1.0m³以下 <p>製品質量</p> <ul style="list-style-type: none"> 150kgを超え500kg以下 500kgを超え1,000kg以下 1,000kgを超え1,500kg以下 1,500kgを超え1,700kg以下 		項目	区分	規格	掘削断面	内空積	製品質量	単位	数量	備考	山腹U形側溝	○	○	-	-	m				山腹コブトフォーム	○	○	-	-	m				山腹U形側溝明暗渠	○	○	-	-	m				山腹コブトフォーム明暗渠	○	○	-	-	m				山腹暗渠	○	○	-	-	m				集水柵	○	-	○	-	基				プレキャスト集水柵	○	-	-	○	基				<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>掘削断面</th> <th>内空積</th> <th>製品質量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>山腹U形側溝</td><td>○</td><td>B</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹コブトフォーム</td><td>○</td><td>B</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹U形側溝明暗渠</td><td>○</td><td>B</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹コブトフォーム明暗渠</td><td>○</td><td>B</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>山腹暗渠</td><td>○</td><td>B</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>集水柵</td><td>○</td><td>B</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>基</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>プレキャスト集水柵</td><td>○</td><td>B</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>○</td><td>基</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報					数量	備考	規格	掘削断面	内空積	製品質量	単位	山腹U形側溝	○	B	○	○	-	-	m			山腹コブトフォーム	○	B	○	○	-	-	m			山腹U形側溝明暗渠	○	B	○	○	-	-	m			山腹コブトフォーム明暗渠	○	B	○	○	-	-	m			山腹暗渠	○	B	○	○	-	-	m			集水柵	○	B	○	-	○	-	基			プレキャスト集水柵	○	B	○	-	-	○	基			備考
項目	区分	規格	掘削断面	内空積	製品質量	単位	数量	備考																																																																																																																																																									
山腹U形側溝	○	○	-	-	m																																																																																																																																																												
山腹コブトフォーム	○	○	-	-	m																																																																																																																																																												
山腹U形側溝明暗渠	○	○	-	-	m																																																																																																																																																												
山腹コブトフォーム明暗渠	○	○	-	-	m																																																																																																																																																												
山腹暗渠	○	○	-	-	m																																																																																																																																																												
集水柵	○	-	○	-	基																																																																																																																																																												
プレキャスト集水柵	○	-	-	○	基																																																																																																																																																												
項目	区分	3次元モデル	属性情報					数量	備考																																																																																																																																																								
			規格	掘削断面	内空積	製品質量	単位																																																																																																																																																										
山腹U形側溝	○	B	○	○	-	-	m																																																																																																																																																										
山腹コブトフォーム	○	B	○	○	-	-	m																																																																																																																																																										
山腹U形側溝明暗渠	○	B	○	○	-	-	m																																																																																																																																																										
山腹コブトフォーム明暗渠	○	B	○	○	-	-	m																																																																																																																																																										
山腹暗渠	○	B	○	○	-	-	m																																																																																																																																																										
集水柵	○	B	○	-	○	-	基																																																																																																																																																										
プレキャスト集水柵	○	B	○	-	-	○	基																																																																																																																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																														
現行		改正																																																																														
<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 各項目に必要なに応じて、下記の項目を算出する。 (10mもしくは1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>砕石</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>遮水シート</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出防止材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 上表の各項目の規格区分は、使用材料ごとに算出する。</p> <p>5. 参考図(地すべり防止工(山腹水路工)構造概念図)</p> <p>(1) 山腹集水路・排水路</p> <p>(2) 山腹明暗渠</p> <p>2-6-7</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	生コンクリート	○		m ³			アスファルト	○		t			砕石	○		m ³			遮水シート	○		m ²			吸出防止材	○		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 各項目に必要なに応じて、下記の項目を算出する。 (10mもしくは1基当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生コンクリート</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>砕石</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>遮水シート</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出防止材</td> <td>○</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			規格	単位	数量	備考	生コンクリート	○	B		m ³		アスファルト	○	B		t		砕石	○	B		m ³		遮水シート	○	B		m ²		吸出防止材	○	B		m ²		備考
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																											
生コンクリート	○		m ³																																																																													
アスファルト	○		t																																																																													
砕石	○		m ³																																																																													
遮水シート	○		m ²																																																																													
吸出防止材	○		m ²																																																																													
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																													
			規格	単位	数量	備考																																																																										
生コンクリート	○	B		m ³																																																																												
アスファルト	○	B		t																																																																												
砕石	○	B		m ³																																																																												
遮水シート	○	B		m ²																																																																												
吸出防止材	○	B		m ²																																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																																																																													

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																												
現行		改正																																												
<p>6.4 かご工(斜面对策)</p> <p>1. 適用</p> <p>地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、じゃかご及びふとんかご（階段式、パネル式）の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>じゃかご、ふとんかごの施工延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>じゃかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ふとんかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分</p> <p>じゃかご、ふとんかごの規格ごとに区分して算出する。</p> <p>じゃかごの規格</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄線じゃかご (径45cm) # (径60cm) <p>ふとんかごの規格</p> <ul style="list-style-type: none"> 高さ(D)=40cm 幅(B)=120cm 高さ(D)=50cm 幅(B)=120cm 高さ(D)=50cm 幅(B)=200cm 高さ(D)=60cm 幅(B)=120cm 高さ(D)=100cm 幅(B)=120cm 高さ(D)=100cm 幅(B)=200cm <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 必要に応じて、止杭や吸出防止材を別途考慮して算出する。 なお、止杭は、松丸太末口9cm、長さ1.5mを標準とする。</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	じゃかご		○	m			ふとんかご		○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>じゃかご</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ふとんかご</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報			規格	単位	数量	備考	じゃかご		B	○	m			ふとんかご		B	○	m			備考
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																									
じゃかご		○	m																																											
ふとんかご		○	m																																											
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																											
			規格	単位	数量	備考																																								
じゃかご		B	○	m																																										
ふとんかご		B	○	m																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																											

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																						
現行		改正																																						
<p>7章 消波工</p> <p>7.1 消波工(捨石)</p> <p>1. 適用</p> <p>海岸工事における離岸堤、消波堤、突堤等の海上作業における捨石工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>捨石投入の体積、捨石均しの面積を算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>捨石投入</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>捨石均し</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 捨石投入の規格区分 捨石に使用する材料を砂利及び岩石に区分して算出する。</p> <p>(3) 捨石均しの規格区分 捨石均しの規格の区分は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 捨石均し <ul style="list-style-type: none"> — 本均し (精度±5cm) — 荒均し (精度±30cm) — 荒均し (精度±50cm) — 被覆均し(精度±30cm) — 被覆均し(精度±50cm) 		項目	規格	単位	数量	備考	捨石投入	○	m ³			捨石均し	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>捨石投入</td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>捨石均し</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p>	項目	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	捨石投入	土構造	○	m ³			捨石均し	B	○	m ²			備考
項目	規格	単位	数量	備考																																				
捨石投入	○	m ³																																						
捨石均し	○	m ²																																						
項目	3次元モデル	属性情報																																						
		規格	単位	数量	備考																																			
捨石投入	土構造	○	m ³																																					
捨石均し	B	○	m ²																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																					

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																				
現 行	改 正	備 考																																				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>7.2 消波工(ブロック製作・据付)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">海岸工事における離岸堤、消波堤、突堤等の海上作業におけるブロック製作・据付工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ブロックの個数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、作業区分、規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">個</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 型枠の種類(プラスチック・鋼製等)について、備考欄に明記する。 2. ブロックの積込場所から据付場所までの片道運搬距離(km)についても算出する。</p> <p>(2) 作業区分 作業区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> ブロック据付作業区分 <ul style="list-style-type: none"> — 陸上設置 — 水中設置 </div> <p>注) 陸上設置とは、ブロックを平均干潮面より上に設置する場合を言い、平均干潮面が設定されていないところでは、平均水面と壱望平均干潮面との1/2とする。</p> <p>(3) ブロックの規格区分 ブロックの規格区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> ブロック製作 ブロック1個当りの実質量とする。 </div> <div style="margin-left: 20px;"> ブロック据付 ブロック1個当りの実質量 <ul style="list-style-type: none"> — 4.5t以下 — 4.5tを超え7.5t以下 — 7.5tを超え12.5t以下 — 12.5tを超え22.0t以下 — 22.0tを超え31.0t以下 — 31.0tを超え37.5t以下 — 37.5tを超え50.0t以下 </div> <p style="text-align: center;">2-7-3</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <div style="margin-top: 20px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>作業区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック</td> <td></td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">個</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; color: red;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 1. 型枠の種類(プラスチック・鋼製等)について、備考欄に明記する。 2. ブロックの積込場所から据付場所までの片道運搬距離(km)についても算出する。</p> </div> </div> <div style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>記載の追加</p> </div> </div>				項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考	ブロック		○	○	個		注) 1	項目	区分	属性情報					3次元モデル	作業区分	規格	単位	数量	備考	ブロック		B	○	○	個		注) 1
項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考																																
ブロック		○	○	個		注) 1																																
項目	区分	属性情報																																				
		3次元モデル	作業区分	規格	単位	数量	備考																															
ブロック		B	○	○	個		注) 1																															
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																			

改正理由	一部改正	改正 現行																																					
現 行		改 正																																					
<p>8章 光ケーブル工</p> <p>8.1 光ケーブル配管工</p> <p>8.1.1 適用</p> <p>1. 適用</p> <p>河川堤防に布設する光ケーブル配管工事に適用する。</p> <p>8.1.2 土工</p> <p>1. 適用</p> <p>光ケーブル配管工事の土工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>掘削、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、なし。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削 (光ケーブル配管)</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し締固め</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td>レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。 2. 埋戻し締固めの土量は、締固め後の土量とする。</p>		項目	区分	単位	数量	備 考	掘削 (光ケーブル配管)		m ³			埋戻し締固め		m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>3次元 モデル</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削 (光ケーブル配管)</td> <td></td> <td>土構造</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し締固め</td> <td></td> <td>土構造</td> <td>m³</td> <td></td> <td>レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。 2. 埋戻し締固めの土量は、締固め後の土量とする。</p>	項目	区分	属 性 情 報			3次元 モデル	単位	数量	備 考	掘削 (光ケーブル配管)		土構造	m ³			埋戻し締固め		土構造	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用	備考
項目	区分	単位	数量	備 考																																			
掘削 (光ケーブル配管)		m ³																																					
埋戻し締固め		m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用																																			
項目	区分	属 性 情 報																																					
		3次元 モデル	単位	数量	備 考																																		
掘削 (光ケーブル配管)		土構造	m ³																																				
埋戻し締固め		土構造	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																				

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

8.1.3 配管設置

1. 適用

配管及び付属品の設置に適用する。

2. 数量算出項目

配管の設置延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、多孔保護管の有無、配管材設計数量/対象延長、設置条数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分		設置条数	単位	数量	備 考
	多孔保護管の有無	配管材設計数量/対象延長				
配管設置 (埋設部)	○	×	○	m		注) 1
配管設置 (露出部)	×	○	○	m		注) 2, 3
配管支持金具 (材料費)	×	×	×	個		
プルボックス (材料費)	×	×	×	個		
可とう電線管 (材料費)	×	×	×	m		
伸縮継手 (材料費)	×	×	×	個		
ノーマルバンド (材料費)	×	×	×	個		
多孔保護管 (材料費)	×	×	×	m		

注) 1. 埋設部の対象延長 (設計数量) は、配管設置箇所の掘削延長 (継手含む) とし、配管の条数に関係なく算出する。
 2. 露出部の対象延長 (設計数量) は、継手材及び配管付属品類を含んだ区間延長とし、配管の条数に関係なく算出する。
 3. 配管材設計数量/対象延長の条件区分は、参考図 2 における a/(a+b) の比率による。

(2) 施工区分

1. 埋設部、露出部ごとに算出する。

注) 露出部とは、管路を構造物等に添架して設置する部分をいう。

2-8-3

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	3次元モデル	属性情報				数量	備 考
			多孔保護管の有無 配管材種類	配管材設計数量/対象延長	設置条数	単位		
配管設置 (埋設部)	B	○	×	○	m		注) 1	
配管設置 (露出部)	B	×	○	○	m		注) 2, 3	
配管支持金具 (材料費)	C	×	×	×	個			
プルボックス (材料費)	C	×	×	×	個			
可とう電線管 (材料費)	C	×	×	×	m			
伸縮継手 (材料費)	C	×	×	×	個			
ノーマルバンド (材料費)	C	×	×	×	個			
多孔保護管 (材料費)	C	×	×	×	m			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 埋設部の対象延長 (設計数量) は、配管設置箇所の掘削延長 (継手含む) とし、配管の条数に関係なく算出する。
 2. 露出部の対象延長 (設計数量) は、継手材及び配管付属品類を含んだ区間延長とし、配管の条数に関係なく算出する。
 3. 配管材設計数量/対象延長の条件区分は、参考図 2 における a/(a+b) の比率による。

現行どおり

記載の追加
区分の修正

積算上の注意事項			(控え頁) 2/3
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																									
現 行		改 正																																									
<p>8.1.4 ハンドホール設置</p> <p>1. 適用</p> <p>ハンドホール、蓋等の設置に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ハンドホール、蓋を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格・仕様とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハンドホール</td> <td></td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>蓋</td> <td></td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備考	ハンドホール		○	個			蓋		○	枚			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハンドホール</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蓋</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p>	項目	区分	属性情報				3次元モデル	規格・仕様	単位	数量	ハンドホール		B	○	個		蓋		C	○	枚		備考
項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備考																																						
ハンドホール		○	個																																								
蓋		○	枚																																								
項目	区分	属性情報																																									
		3次元モデル	規格・仕様	単位	数量																																						
ハンドホール		B	○	個																																							
蓋		C	○	枚																																							
積算上の注意事項		(控え頁) 3/3																																									

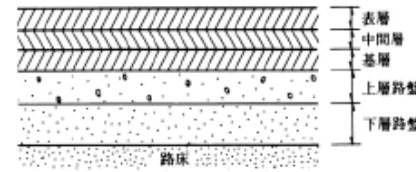
2-8-4

記載の追加

改正理由	一部改正		改正 現行	
現行	改正			備考
<p style="text-align: center;">1 章 舗装工</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 不陸修正 1.2 路盤工 1.3 アスファルト舗装工 1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工 1.5 コンクリート舗装工 1.6 転圧コンクリート舗装工 1.7 連続鉄筋コンクリート舗装工 1.8 排水性アスファルト舗装工 1.9 透水性アスファルト舗装工 1.10 グースアスファルト舗装工 1.11 薄層カラー舗装工 1.12 橋面防水工 1.13 踏掛版工 <p style="text-align: center;">3-1-1</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1.6 連続鉄筋コンクリート舗装工 1.7 排水性アスファルト舗装工 1.8 透水性アスファルト舗装工 1.9 グースアスファルト舗装工 1.10 薄層カラー舗装工 1.11 橋面防水工 1.12 踏掛版工 	<p>積算基準改定に伴う削除</p> <p>記載の修正</p>	
積算上の注意事項				<p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>

改正理由	一部改正	改正 現行																																																							
現行		改正																																																							
<p>1章 舗装工</p> <p>1.1 不陸整正</p> <p>1. 適用</p> <p>アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の不陸整正に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>路床及び路盤の不陸整正の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、補足材料の有無、補足材料平均厚さ、補足材料の規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>補足材料の有無</th> <th>補足材料平均厚さ</th> <th>補足材料の規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不陸整正</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>不陸整正 (ICT)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに3次元設計データ若しくは不陸整正の3次元計測データがある場合における補修材の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。 平均厚さ=体積/面積 体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 3次元モデルの基本的な表現方法によることを標準とする。</p>		項目	区分	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格	単位	数量	備考	不陸整正		○	○	○	m ²			不陸整正 (ICT)		○	○	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>補足材料の有無</th> <th>補足材料平均厚さ</th> <th>補足材料の規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不陸整正</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>不陸整正 (ICT)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格	不陸整正		B	○	○	○	m ²			不陸整正 (ICT)		B	○	○	○	m ²		
項目	区分	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格	単位	数量	備考																																																		
不陸整正		○	○	○	m ²																																																				
不陸整正 (ICT)		○	○	○	m ²																																																				
項目	区分	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考																																																	
			補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格																																																				
不陸整正		B	○	○	○	m ²																																																			
不陸整正 (ICT)		B	○	○	○	m ²																																																			
積算上の注意事項			備考 記載の追加																																																						
			(控え頁) 1/1																																																						

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																																
現 行		改 正																																																																																																																																																																
<p>1.2 路盤工</p> <p>1. 適用</p> <p>アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>下層路盤、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、平均厚さ、規格、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>一層当り平均仕上り厚 (mm)</th> <th>全仕上り厚 (mm)</th> <th>施工区分</th> <th>規格 (材料)</th> <th>平均幅員</th> <th>瀝青材料種類・締固め後密度</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下層路盤 (車道・路肩部)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤 (歩道部)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤 (車道・路肩部)</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤 (歩道部)</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 平均厚さ区分及び規格区分 路盤の平均厚さ及び材料の規格（粒調砕石40～0、クラッシュラン40～0等）ごとに区分して算出する。</p> <p>(アスファルト舗装の構成例)</p> <p>3-1-3</p>		項目	区分	一層当り平均仕上り厚 (mm)	全仕上り厚 (mm)	施工区分	規格 (材料)	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考	下層路盤 (車道・路肩部)			○	○	○	-	-	m ²			下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)			○	○	○	-	-	m ²			下層路盤 (歩道部)			○	○	○	-	-	m ²			上層路盤 (車道・路肩部)		○		○	○	○	○	m ²			上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)		○		○	○	○	-	m ²			上層路盤 (歩道部)		○		○	○	-	-	m ²			<p>現行どおり</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、<u>平均仕上り</u>厚さ、規格、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">項目</th> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">3次元モデル (材料)</th> <th colspan="2">仕上り厚</th> <th rowspan="3">施工区分</th> <th rowspan="3">平均幅員</th> <th rowspan="3">瀝青材料種類・締固め後密度</th> <th rowspan="3">単位</th> <th rowspan="3">数量</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th>一層当り平均仕上り厚 (mm)</th> <th>全仕上り厚 (mm)</th> </tr> <tr> <th>規格 (材料)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下層路盤 (車道・路肩部)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤 (歩道部)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤 (車道・路肩部)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤 (歩道部)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。 注) 上層路盤 (車道・路肩部) における仕上り厚区分について、規格 (材料) が瀝青安定処理材の場合は「一層当り平均仕上り厚」、粒度調整砕石の場合は「全仕上り厚」を適用する。</p> <p>(2) <u>平均仕上り</u>厚さ区分及び規格区分 路盤の<u>平均仕上り</u>厚さ及び材料の規格（粒調砕石40～0、クラッシュラン40～0等）ごとに区分して算出する。</p> <p>次頁へ移動</p>		項目	区分	3次元モデル (材料)	仕上り厚		施工区分	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考	一層当り平均仕上り厚 (mm)	全仕上り厚 (mm)	規格 (材料)		下層路盤 (車道・路肩部)	B	○	-	○	○	-	-	m ²			下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)	B	○	-	○	○	-	-	m ²			下層路盤 (歩道部)	B	○	-	○	○	-	-	m ²			上層路盤 (車道・路肩部)	B	○	○	○	○	○	○	m ²			上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)	B	○	-	○	○	○	-	m ²			上層路盤 (歩道部)	B	○	-	○	○	-	-	m ²			<p>備考</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の修正</p>
項目	区分	一層当り平均仕上り厚 (mm)	全仕上り厚 (mm)	施工区分	規格 (材料)	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考																																																																																																																																																								
下層路盤 (車道・路肩部)			○	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)			○	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
下層路盤 (歩道部)			○	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
上層路盤 (車道・路肩部)		○		○	○	○	○	m ²																																																																																																																																																										
上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)		○		○	○	○	-	m ²																																																																																																																																																										
上層路盤 (歩道部)		○		○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
項目	区分	3次元モデル (材料)	仕上り厚		施工区分	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考																																																																																																																																																								
			一層当り平均仕上り厚 (mm)	全仕上り厚 (mm)																																																																																																																																																														
			規格 (材料)																																																																																																																																																															
下層路盤 (車道・路肩部)	B	○	-	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)	B	○	-	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
下層路盤 (歩道部)	B	○	-	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
上層路盤 (車道・路肩部)	B	○	○	○	○	○	○	m ²																																																																																																																																																										
上層路盤 (車道・路肩部) (ICT)	B	○	-	○	○	○	-	m ²																																																																																																																																																										
上層路盤 (歩道部)	B	○	-	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																																																																															

改正理由	一部改正	改正 現行	
現行	改正		備考
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(3) 平均幅員区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1.4m未満 ② 1.4m以上 </div> <p>(4) 施工区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1層施工 ② 2層施工 ③ 3層施工 ④ 4層施工 ⑤ 5層施工 ⑥ 6層施工 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(5) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。</p> <p>平均厚さ＝体積/面積</p> <p>体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 3次元モデルの基本的な表現方法によることを標準とする。</p> </div> <p style="text-align: center;">3-1-4</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>(アスファルト舗装の構成例)</p>  </div> <p>(3) 平均幅員区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1.4m未満 ② 1.4m以上 <u>3.0m以下</u> ③ <u>3.0m超</u> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(5) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。</p> <p><u>平均仕上り</u>厚さ＝体積/面積</p> <p>体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 3次元モデルの基本的な表現方法によることを標準とする。</p>		<p>記載の追加</p> <p>記載の修正</p>
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p style="text-align: center;">2/2</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

1.3 アスファルト舗装工

1. 適用

アスファルト舗装工における基層・中間層・表層及び緑石工におけるアスカーブに適用する。なお、アスファルト混合物が現地プラント方式の場合、アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m³未満、2.50t/m³以上の場合を除く。

2. 数量算出項目

車道・路肩部、歩道部の別に基層、中間層、表層の面積を、アスカーブの延長をそれぞれ区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

3. 区分

区分は、基層・中間層・表層1層当りは平均仕上り厚、平均幅員、規格、選青材料種類とし、アスカーブは断面積、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	1層当り平均仕上り厚 (mm)	平均幅員	断面積	規格 (材料)	選青材料種類	単位	数量	備考
基層 (車道・路肩部)	○	○	—	○	○	○	m ²		
中間層 (車道・路肩部)	○	○	—	○	○	○	m ²		
表層 (車道・路肩部)	○	○	—	○	○	○	m ²		
基層 (歩道部)	○	○	—	○	○	○	m ²		
中間層 (歩道部)	○	○	—	○	○	○	m ²		
表層 (歩道部)	○	○	—	○	○	○	m ²		
アスカーブ	—	—	○	○	—	—	m		

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

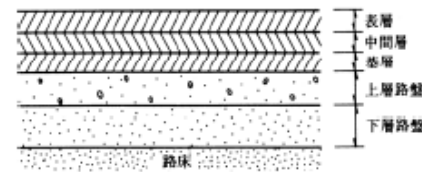
項目	区分	3次元モデル	属性情報						
			1層当り平均仕上り厚 (mm)	平均幅員	断面積	規格 (材料)	選青材料種類	単位	数量
基層 (車道・路肩部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
中間層 (車道・路肩部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
表層 (車道・路肩部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
基層 (歩道部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
中間層 (歩道部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
表層 (歩道部)	B	○	○	—	○	○	m ²		
アスカーブ	B	—	—	○	○	—	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

記載の追加

3-1-5

積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改 正	備 考
<p>(2) 1層当り平均仕上り厚及び規格・瀝青材料種類区分 舗装の厚さ及び材料の規格（再生密粒 As13、再生粗粒 As20、再生 As 安定処理路盤等）、瀝青材料種類（タックコート、プライムコート等）ごとに区分して算出する。 材料の規格は締固め後密度も示す。</p> <p>(アスファルト舗装の構成例)</p>  <p>(3) 平均幅員区分 平均幅員による区分は、下記のとおりとする。 ①1.4m 未満 ②1.4m 以上</p>	<p style="text-align: center;">現 行 ど お り</p>	<p>(3) 平均幅員区分 平均幅員による区分は、下記のとおりとする。 ①1.4m 未満 ②1.4m 以上 <u>3.0m 以下</u> ③<u>3.0m 超</u></p>	記載の追加
積算上の注意事項	3-1-6		(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																						
現	行	改	正																																																					
<p>1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工</p> <p>1. 適用</p> <p>開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。 なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>セメントミルク浸透の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工厚さ、浸透用セメントミルク種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工厚さ</th> <th>浸透用セメントミルク種類</th> <th>浸透用セメントミルク使用量 (kg/100m²)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメントミルク浸透</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>施工厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 50mm — 100mm — 各種 		項目	区分	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	浸透用セメントミルク使用量 (kg/100m ²)	単位	数量	備考	セメントミルク浸透		○	○	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>施工厚さ</th> <th>浸透用セメントミルク種類</th> <th>浸透用セメントミルク使用量 (kg/100m²)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメントミルク浸透</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>(3) 浸透用セメントミルク種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>浸透用セメントミルク種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 超速硬型 — 普通型 — 早強型 <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表層(車道、路肩部)</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)1.3アスファルト舗装工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p>		項目	区分	属性情報						3次元モデル	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	浸透用セメントミルク使用量 (kg/100m ²)	単位	数量	備考	セメントミルク浸透		B	○	○	○	m ²		項目	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	表層(車道、路肩部)	B	m ²		「第3編(道路編)1.3アスファルト舗装工」参照	<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	浸透用セメントミルク使用量 (kg/100m ²)	単位	数量	備考																																																	
セメントミルク浸透		○	○	○	m ²																																																			
項目	区分	属性情報																																																						
		3次元モデル	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	浸透用セメントミルク使用量 (kg/100m ²)	単位	数量	備考																																																
セメントミルク浸透		B	○	○	○	m ²																																																		
項目	3次元モデル	属性情報																																																						
		単位	数量	備考																																																				
表層(車道、路肩部)	B	m ²		「第3編(道路編)1.3アスファルト舗装工」参照																																																				
積算上の注意事項	3-1-7	次頁より移動	(控え頁) 1/2																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行									
現行		改正									
<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>(3) 浸透用セメントミルク種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>浸透用セメントミルク種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 超速硬型 — 普通型 — 早強型 <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表層(車道、路肩部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)1.3 アスファルト舗装工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p> </div>		項目	単位	数量	備考	表層(車道、路肩部)	m ²		「第3編(道路編)1.3 アスファルト舗装工」参照	<p>→ 前頁へ移動</p>	
項目	単位	数量	備考								
表層(車道、路肩部)	m ²		「第3編(道路編)1.3 アスファルト舗装工」参照								
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2								

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

1.5 コンクリート舗装工

1. 適用

コンクリート舗装工（連続鉄筋コンクリート舗装工・転圧コンクリート舗装工は除く。）に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地、横目地の数量を区分ごとに算出する。
なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1. 2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1. 3 アスファルト舗装工」により算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工方法とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
コンクリート舗装		○	○	○	○	m ²		舗100m ² 分
鉄筋鉄筋						t		#
舗装鉄筋						t		#

2) 縦目地

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
タイパー						本		舗1000m ² 分
ねじ付タイパー						本		#
クロスパー						kg		#
チェア						個		#
目地板						m		#
注入目地材						kg		#
シーリング材						kg		#
木材又はL型プラスチック材						m		#

3) 横目地

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
スリップパー						本		舗1000m ² 分
キャップ付						本		#
スリップパー						kg		#
クロスパー						kg		#
チェア						個		#
目地板						m		#
注入目地材						kg		#

3-1-9

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法			
コンクリート舗装		B	○	○	○	○	m ²		舗100m ² 分
鉄筋鉄筋		B					t		#
舗装鉄筋		B					t		#

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

2) 縦目地

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法			
タイパー		B			○		本		舗1000m ² 分
ねじ付タイパー		B			○		本		#
クロスパー		B			○		kg		#
チェア		B	○	○	○	○	個		#
目地板		B			○		m		#
注入目地材		B			○		kg		#
シーリング材		B			○		kg		#
木材又はL型プラスチック材		B			○		m		#

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

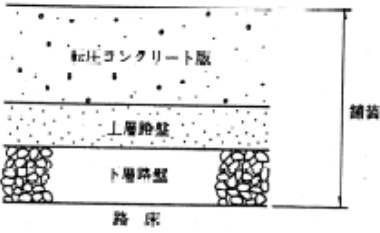
3) 横目地

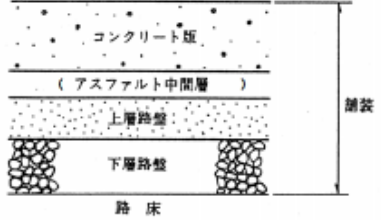
項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法			
スリップパー		B			○		本		舗1000m ² 分
キャップ付		B			○		本		#
スリップパー		B			○		kg		#
クロスパー		B			○		kg		#
チェア		B			○		個		#
目地板		B			○		m		#
注入目地材		B			○		kg		#

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

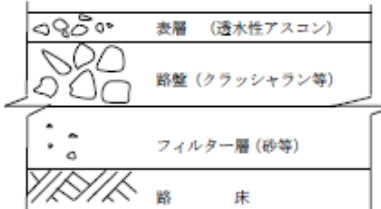
3-1-8

積算上の注意事項				(控え頁) 1/1
----------	--	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																		
現 行		改 正																		
<p>1.6 転圧コンクリート舗装工</p> <p>1. 適用</p> <p>転圧コンクリート舗装工（RCCP）に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>転圧コンクリート舗装の面積を区分ごとに算出する。 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工箇所、舗装厚、規格、作業とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>施 工 箇 所</th> <th>舗 装 厚</th> <th>規 格 (材料)</th> <th>作 業</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転圧コン リート舗装</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 型枠が必要な場合は設置延長 (m) を算出する。</p> <p>(2) 施工箇所区分 本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>(RCCP舗装の構成)</p>  <p>3-1-11</p>		区分 項目	施 工 箇 所	舗 装 厚	規 格 (材料)	作 業	単 位	数 量	備 考	転圧コン リート舗装	○	○	○	○	m ²			<p>削除</p>		<p>備考</p> <p>積算基準改定に伴う削除</p>
区分 項目	施 工 箇 所	舗 装 厚	規 格 (材料)	作 業	単 位	数 量	備 考													
転圧コン リート舗装	○	○	○	○	m ²															
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																	

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																								
現 行		改 正																																																																								
<p>1.7 連続鉄筋コンクリート舗装工</p> <p>1. 適用</p> <p>連続鉄筋コンクリート舗装工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート舗装、縦目地の数量を区分ごとに算出する。 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工箇所、舗装厚、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">1) コンクリート舗装</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工箇所</th> <th>舗装厚</th> <th>規格(材料)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート舗装</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td>※100m²/t</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 縦目地 縦目地については、「第3編（道路編）1.5 コンクリート舗装工」によるものとする。</p> <p>3) 横目地 横目地については、必要に応じて「第3編（道路編）1.5 コンクリート舗装工」によるものとする。</p> <p>(2) 施工箇所区分 本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>(連続鉄筋コンクリート舗装の構成)</p>  <p>3-1-12</p>		1) コンクリート舗装								項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	単位	数量	備考	コンクリート舗装		○	○	○	m ²			鉄筋		○	○	○	t		※100m ² /t	<p>1.6 連続鉄筋コンクリート舗装工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">1) コンクリート舗装</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>施工箇所</th> <th>舗装厚</th> <th>規格(材料)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート舗装</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td>※100m²/t</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>3-1-10</p>		1) コンクリート舗装								項目	区分	3次元モデル	属性情報					施工箇所	舗装厚	規格(材料)	単位	数量	備考	コンクリート舗装		B	○	○	○	m ²		鉄筋		B	○	○	○	t	※100m ² /t	記載の修正
1) コンクリート舗装																																																																										
項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	単位	数量	備考																																																																			
コンクリート舗装		○	○	○	m ²																																																																					
鉄筋		○	○	○	t		※100m ² /t																																																																			
1) コンクリート舗装																																																																										
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																							
			施工箇所	舗装厚	規格(材料)	単位	数量	備考																																																																		
コンクリート舗装		B	○	○	○	m ²																																																																				
鉄筋		B	○	○	○	t	※100m ² /t																																																																			
積算上の注意事項			記載の追加																																																																							
			(控え頁) 1/1																																																																							

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																														
現 行		改 正																																																																														
<p>1.8 排水性アスファルト舗装工</p> <p>1. 適用 車道における排水性アスファルト舗装工事に適用する。 なお、平均施工幅員が1.4m未満の場合において、1層当り平均仕上り厚が50mmを超える場合、平均施工幅員が2.4m以上の場合において、1層当り平均仕上り厚が65mm以上の場合を除く。</p> <p>2. 数量算出項目 排水性アスファルト舗装面積、導水パイプ延長を区分ごとに算出する。面積=本線+すりつけ部+非常駐車帯を算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、平均施工幅員、1層当り平均仕上り厚、導水パイプの設置の有無、片側車線数、規格、瀝青材料の規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均施工幅員</th> <th>1層当り平均仕上り厚 (mm)</th> <th>導水パイプの設置の有無</th> <th>片側車線数</th> <th>規格 (材料)</th> <th>瀝青材料の規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排水性舗装・表層 (車道・路肩部)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>導水パイプ</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>平均施工幅員1.4m未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 平均施工幅員 平均施工幅員による区分は、下記のとおりとする。 ① 1.4m未満 ② 2.4m以上</p> <p>(3) 規格区分 材料の規格を示すとともに、締固め後密度も示す。</p>		項目	区分	平均施工幅員	1層当り平均仕上り厚 (mm)	導水パイプの設置の有無	片側車線数	規格 (材料)	瀝青材料の規格	単位	数量	備考	排水性舗装・表層 (車道・路肩部)	○	○	○	○	○	○	○	m ²			導水パイプ			-			○		m		平均施工幅員1.4m未満	<p>1.7 排水性アスファルト舗装工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="9">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>平均施工幅員</th> <th>1層当り平均仕上り厚 (mm)</th> <th>導水パイプの設置の有無</th> <th>片側車線数</th> <th>規格 (材料)</th> <th>瀝青材料の規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排水性舗装・表層 (車道・路肩部)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>導水パイプ</td> <td>B</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>平均施工幅員1.4m未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	属性情報									3次元モデル	平均施工幅員	1層当り平均仕上り厚 (mm)	導水パイプの設置の有無	片側車線数	規格 (材料)	瀝青材料の規格	単位	数量	備考	排水性舗装・表層 (車道・路肩部)	B	○	○	○	○	○	○	m ²			導水パイプ	B		-			○		m		平均施工幅員1.4m未満	記載の修正
項目	区分	平均施工幅員	1層当り平均仕上り厚 (mm)	導水パイプの設置の有無	片側車線数	規格 (材料)	瀝青材料の規格	単位	数量	備考																																																																						
排水性舗装・表層 (車道・路肩部)	○	○	○	○	○	○	○	m ²																																																																								
導水パイプ			-			○		m		平均施工幅員1.4m未満																																																																						
項目	区分	属性情報																																																																														
		3次元モデル	平均施工幅員	1層当り平均仕上り厚 (mm)	導水パイプの設置の有無	片側車線数	規格 (材料)	瀝青材料の規格	単位	数量	備考																																																																					
排水性舗装・表層 (車道・路肩部)	B	○	○	○	○	○	○	m ²																																																																								
導水パイプ	B		-			○		m		平均施工幅員1.4m未満																																																																						
3-1-13		3-1-11																																																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																													

改正理由	一部改正	改正 現行																																																											
現 行		改 正																																																											
<p>1.9 透水性アスファルト舗装工</p> <p>1. 適用 歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2路盤工」により算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、平均幅員、1層当り平均仕上り厚、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格(材料)</th> <th>平均幅員</th> <th>1層当り平均仕上り厚</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィルター層</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>透水性アスファルト舗装</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 材料の規格を示すとともに、空隙率（フィルター層は除く）、締固め後密度も示す。</p> <p>(3) 平均幅員区分 透水性アスファルト舗装の平均幅員（W）による区分は、下記のとおりとする。 ① W≧1.4m ② W<1.4m</p> <p>(透水性アスファルト舗装の構成例)</p>  <p>3-1-14</p>		項目	区分	規格(材料)	平均幅員	1層当り平均仕上り厚	単位	数量	備考	フィルター層		○		○	m ²			透水性アスファルト舗装		○	○	○	m ²			<p>1.8 透水性アスファルト舗装工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格(材料)</th> <th>平均幅員</th> <th>1層当り平均仕上り厚</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィルター層</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>透水性アスファルト舗装</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p> <p>3-1-12</p>		項目	区分	属性情報						3次元モデル	規格(材料)	平均幅員	1層当り平均仕上り厚	単位	数量	備考	フィルター層		B	○		○	m ²			透水性アスファルト舗装		B	○	○	○	m ²			記載の修正
項目	区分	規格(材料)	平均幅員	1層当り平均仕上り厚	単位	数量	備考																																																						
フィルター層		○		○	m ²																																																								
透水性アスファルト舗装		○	○	○	m ²																																																								
項目	区分	属性情報																																																											
		3次元モデル	規格(材料)	平均幅員	1層当り平均仕上り厚	単位	数量	備考																																																					
フィルター層		B	○		○	m ²																																																							
透水性アスファルト舗装		B	○	○	○	m ²																																																							
積算上の注意事項			記載の追加																																																										
			(控え頁) 1/1																																																										

改正理由	一部改正	改正 現行																																																															
現 行		改 正																																																															
<p>1. 10 グースアスファルト舗装工</p> <p>1. 適用 グースアスファルト舗装に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 グースアスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、舗装厚、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>舗装厚</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グースアスファルト舗装</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレコート砕石</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 舗装厚区分 グースアスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) プレコート砕石・目地材の数量は、グースアスファルト舗装100㎡当り必要量を算出する。</p> <p>3-1-15</p>		項目	区分	舗装厚	規格	単位	数量	備考	グースアスファルト舗装		○	○	m ²			プレコート砕石		—	○	kg			目地材		—	○	m			<p>1. 9 グースアスファルト舗装工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">3次元モデル</th> </tr> <tr> <th>舗装厚</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グースアスファルト舗装</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレコート砕石</td> <td></td> <td>B</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>B</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p> <p>3-1-13</p>		項目	区分	3次元モデル					舗装厚	規格	単位	数量	備考	グースアスファルト舗装		B	○	○	m ²		プレコート砕石		B	—	○	kg		目地材		B	—	○	m		<p>記載の修正</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	舗装厚	規格	単位	数量	備考																																																											
グースアスファルト舗装		○	○	m ²																																																													
プレコート砕石		—	○	kg																																																													
目地材		—	○	m																																																													
項目	区分	3次元モデル																																																															
		舗装厚	規格	単位	数量	備考																																																											
グースアスファルト舗装		B	○	○	m ²																																																												
プレコート砕石		B	—	○	kg																																																												
目地材		B	—	○	m																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																													
	<p>1.11 薄層カラー舗装工</p> <p>1. 適用 薄層カラー舗装工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格・舗装厚とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格・舗装厚</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薄層カラー舗装</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 薄層カラー舗装は以下の区分により算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 薄層カラー舗装 <ul style="list-style-type: none"> 加熱混合形 <ul style="list-style-type: none"> 樹脂モルタル <ul style="list-style-type: none"> 厚 6mm以下 厚 6mmを超え 8mm以下 厚 8mmを超え10mm以下 景観透水性 <ul style="list-style-type: none"> 厚10mm以下 厚10mmを超え15mm以下 樹脂系すべり止め <ul style="list-style-type: none"> 車道 (RPN-101~402、RPN601~602) 歩道 (RPN-501~502) <p>(注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様別に区分して算出する。 2. 樹脂モルタルについては、一般部と階段ステップ部に区分して算出する。</p> <p>(2) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「第3編（道路編）1章舗装工 1.3アスファルト舗装工」による。</p> <p style="text-align: center;">3-1-16</p>	項目	区分	規格・舗装厚	単位	数量	備考	薄層カラー舗装		○	m ²			<p>1.10 薄層カラー舗装工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・舗装厚</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薄層カラー舗装</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p> <p style="text-align: center;">3-1-14</p>	項目	区分	属性情報				3次元モデル	規格・舗装厚	単位	数量	備考	薄層カラー舗装		B	○	m ²		<p>記載の修正</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	規格・舗装厚	単位	数量	備考																											
薄層カラー舗装		○	m ²																													
項目	区分	属性情報																														
		3次元モデル	規格・舗装厚	単位	数量	備考																										
薄層カラー舗装		B	○	m ²																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																													

改正理由	一部改正	改正 現行																																																						
現行		改正																																																						
<p>1.12 橋面防水工</p> <p>1. 適用 シート系防水（アスファルト系）、塗膜系防水（アスファルト系）による橋面の防水工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 施工面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋面防水</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ドレーン材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>防水100m²当たり</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>#</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 シート系防水及び塗膜系防水ごとに区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 施工面積には、端部処理の立上り面積は含めない。</p> <p>3-1-17</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	橋面防水	○		m ²			ドレーン材	○		m		防水100m ² 当たり	目地材	○		m		#	<p>1.11 橋面防水工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋面防水</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ドレーン材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>防水100m²当たり</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>#</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p> <p>3-1-15</p>		項目	3次元 モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	橋面防水	B	○	m ²			ドレーン材	B	○	m		防水100m ² 当たり	目地材	B	○	m		#	<p>記載の修正</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																			
橋面防水	○		m ²																																																					
ドレーン材	○		m		防水100m ² 当たり																																																			
目地材	○		m		#																																																			
項目	3次元 モデル	属性情報																																																						
		規格	単位	数量	備考																																																			
橋面防水	B	○	m ²																																																					
ドレーン材	B	○	m		防水100m ² 当たり																																																			
目地材	B	○	m		#																																																			
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																														
現 行		改 正																																														
<p>1.13 踏掛版工</p> <p>1. 適用 厚さ0.35m以上0.6m以下の現場打ちの踏掛版の設置に適用する。 ただし、主たる鉄筋が太径鉄筋（D38以上D61以下）の場合には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目 コンクリート体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、コンクリート規格、鉄筋量、ゴム支承の有無、鉄筋材料規格・径とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>コンクリート規格</th> <th>鉄筋量</th> <th>ゴム支承の有無</th> <th>鉄筋材料規格・径</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>踏掛版</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。 2. 鉄筋量は、踏掛版1箇所当りの鉄筋量とする（スパイラル筋は含まない）。 3. 路盤材の敷設は含まない。 4. コンクリートのロスを含む。</p> <p>(2) 鉄筋量区分 ①0.08t/m³以上0.10t/m³未満 ②0.10t/m³以上0.12t/m³未満 ③0.12t/m³以上0.14t/m³未満 ④0.14t/m³以上0.16t/m³未満 ⑤0.16t/m³以上0.18t/m³未満 ⑥0.18t/m³以上0.20t/m³未満 ⑦0.20t/m³以上0.22t/m³未満 ⑧0.22t/m³以上0.24t/m³未満 ⑨0.24t/m³以上0.26t/m³未満 ⑩0.26t/m³以上0.28t/m³未満 ⑪0.28t/m³以上0.30t/m³未満 ⑫0.30t/m³以上0.32t/m³未満 ⑬0.32t/m³以上0.34t/m³未満</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 作業土工は、「第1編（共通編）2章土工」によるものとする。</p> <p>3-1-18</p>		項目	区分	コンクリート規格	鉄筋量	ゴム支承の有無	鉄筋材料規格・径	単位	数量	備考	踏掛版	○	○	○	○	○	m ³			<p>1.12 踏掛版工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">属性情報</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>コンクリート規格</th> <th>鉄筋量</th> <th>ゴム支承の有無</th> <th>鉄筋材料規格・径</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>踏掛版</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。 2. 鉄筋量は、踏掛版1箇所当りの鉄筋量とする（スパイラル筋は含まない）。 3. 路盤材の敷設は含まない。 4. コンクリートのロスを含む。</p> <p>現行どおり</p> <p>3-1-16</p>		項目	区分	属性情報						数量	備考	3次元モデル	コンクリート規格	鉄筋量	ゴム支承の有無	鉄筋材料規格・径	単位	踏掛版	○	B	○	○	○	○	m ³			記載の修正
項目	区分	コンクリート規格	鉄筋量	ゴム支承の有無	鉄筋材料規格・径	単位	数量	備考																																								
踏掛版	○	○	○	○	○	m ³																																										
項目	区分	属性情報						数量	備考																																							
		3次元モデル	コンクリート規格	鉄筋量	ゴム支承の有無	鉄筋材料規格・径	単位																																									
踏掛版	○	B	○	○	○	○	m ³																																									
積算上の注意事項		記載の追加																																														
		(控え頁)																																														
		1/1																																														

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																											
現	行	改	正																																																																										
<p>2章 付属施設工</p> <p>2.1 排水構造物工</p> <p>2.1.1 排水構造物工(プレキャスト製品)</p> <p>1. 適用</p> <p>排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝(落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む)、L形側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、PC管、自由勾配側溝(プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する)、暗渠排水管(硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管)、管(函)渠型側溝、集水料、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>排水構造物工の延長、又は設置基数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①ヒューム管(B形管)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>管径</th> <th>固定基礎</th> <th>基礎砕石</th> <th>規格</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒューム管(B形管)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ヒューム管、B形管(ソケット管)の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。 3. 基礎砕石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>②ボックスカルバート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>製品長</th> <th>内空幅・内空高</th> <th>基礎材種別</th> <th>PC鋼材による締固め</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボックスカルバート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート(内空断面が台形タイプの物を含む)の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。 3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする。 4. 縦締めは、直線部のみ適用する。 5. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 6. 基礎砕石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。</p>		項目	区分	作業区分	管径	固定基礎	基礎砕石	規格	生コンクリート規格	単位	数量	備考	ヒューム管(B形管)		○	○	○	○	○	○	m			項目	区分	作業区分	製品長	内空幅・内空高	基礎材種別	PC鋼材による締固め	単位	数量	備考	ボックスカルバート		○	○	○	○	○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①ヒューム管(B形管)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="8">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>作業区分</th> <th>管径</th> <th>固定基礎</th> <th>基礎砕石</th> <th>規格</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒューム管(B形管)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート標準を参照とする。</p> <p>注) 1. ヒューム管、B形管(ソケット管)の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。 3. 基礎砕石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>次頁へ移動</p>	項目	区分	属性情報								3次元モデル	作業区分	管径	固定基礎	基礎砕石	規格	生コンクリート規格	単位	数量	備考	ヒューム管(B形管)		B	○	○	○	○	○	○	m			備考
項目	区分	作業区分	管径	固定基礎	基礎砕石	規格	生コンクリート規格	単位	数量	備考																																																																			
ヒューム管(B形管)		○	○	○	○	○	○	m																																																																					
項目	区分	作業区分	製品長	内空幅・内空高	基礎材種別	PC鋼材による締固め	単位	数量	備考																																																																				
ボックスカルバート		○	○	○	○	○	m																																																																						
項目	区分	属性情報																																																																											
		3次元モデル	作業区分	管径	固定基礎	基礎砕石	規格	生コンクリート規格	単位	数量	備考																																																																		
ヒューム管(B形管)		B	○	○	○	○	○	○	m																																																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 1/7																																																																										

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

前頁より移動

項目	区分	作業区分	管種別	呼び径	継手材料費	単位	数量	備考
暗渠排水管		○	○	○	○	m		

注) 1. 硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 暗渠排水管の敷設であり、埋設を行わない地上露出配管の敷設は、別途考慮する。

項目	区分	フィルター材の種類	単位	数量	備考
フィルター材		○	m ²		

注) 1. 暗渠排水管の敷設に伴うフィルター材（クラッシュラン・単粒度砕石等）の敷設の場合である。

項目	区分	作業区分	内径又は内空幅	基礎砕石の有無	単位	数量	備考
管（函）渠型側溝		○	○	○	m ²		

注) 1. 車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎砕石は含まない。
4. 基礎砕石は、材料の種類・規格にかかわらず適用できる。

項目	区分	作業区分	製品質量	基礎砕石の有無	単位	数量	備考
プレキャスト集水樹		○	○	○	基		

注) 1. プレキャスト製集水樹の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 蓋版の有無にかかわらず適用できる。
3. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎砕石は含まない。
5. 基礎砕石は、材料の種類・規格にかかわらず適用できる。

項目	区分	作業区分	管径	単位	数量	備考
鉄筋コンクリート台付管		○	○	m		

注) 1. 管断面の内側の形状が円形又は卵形であって、かつ、管断面の外側の下部もしくは上下部の一部がフラットになっている（管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む）プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 断面が卵形の場合の管径は、内幅とする。
3. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎砕石は含まない。
5. 基礎砕石は、材料の種類・規格にかかわらず適用できる。

3-2-3

項目	区分	3次元モデル	属性情報							
			作業区分	製品長	内空幅・内空高	基礎材種別	PC鋼材による締固め	単位	数量	備考
ボックスカルバート		B	○	○	○	○	○	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート（内空断面が台形タイプの物を含む）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
3. 内空断面が台形タイプの場合やインパート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする。
4. 締固めは、直線部にのみ適用する。
5. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
6. 基礎砕石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。

項目	区分	3次元モデル	作業区分	管種別	呼び径	継手材料費	単位	数量	備考
暗渠排水管		B	○	○	○	○	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 暗渠排水管の敷設であり、埋設を行わない地上露出配管の敷設は、別途考慮する。

項目	区分	3次元モデル	フィルター材の種類	単位	数量	備考
フィルター材		B	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 暗渠排水管の敷設に伴うフィルター材（クラッシュラン・単粒度砕石等）の敷設の場合である。

項目	区分	3次元モデル	作業区分	内径又は内空幅	基礎砕石の有無	単位	数量	備考
管（函）渠型側溝		B	○	○	○	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. 車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎砕石は含まない。
4. 基礎砕石は、材料の種類・規格にかかわらず適用できる。

次頁へ移動

積算上の注意事項			(控え頁) 2/7
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改 正 現 行	
------	------	------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

前頁より移動

⑧プレキャストL形側溝

項目	属性情報						
	区分	作業区分	基礎碎石の有無	L型側溝の種類	単位	数量	備考
プレキャストL形側溝	○	○	○	○	m		

注) 1. プレキャスト製L形側溝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑨プレキャストマンホール

項目	属性情報						
	区分	作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
プレキャストマンホール	○	○	○	○	基		

注) 1. プレキャスト製マンホールの据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑩PC管

項目	属性情報							
	区分	作業区分	管径	固定基礎	生コンクリート規格	単位	数量	備考
PC管	○	○	○	○	○	m		

注) 1. PC管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 撤去作業、据付・撤去作業は、PC管のみを対象としている。

⑪コルゲートパイプ

項目	属性情報							
	区分	作業区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考
コルゲートパイプ	○	○	○	○	○	m		

注) 1. コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑫コルゲートフリューム

項目	属性情報					
	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考
コルゲートフリューム	○	○	○	m		

注) 1. コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

(2) 施工箇所区分
施工箇所区分は、下表のとおりとする。

項 目	施 工 箇 所 区 分
U 型 側 溝	一 般 部
	法 面 小 段 面 部
	法 面 縦 排 水 部
蓋 版	一 般 部
	法 面 小 段 面 部

3-2-4

⑥プレキャスト集水橋

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			作業区分	製品質量	基礎碎石の有無				
プレキャスト集水橋	B	○	○	○	○	基			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. プレキャスト製集水橋の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 蓋版の有無にかかわらず適用できる。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑦鉄筋コンクリート台付管

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			作業区分	管径					
鉄筋コンクリート台付管	B	○	○	○	m				

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 管断面の内側の形状が円形又は卵形であって、かつ、管断面の外側の下部もしくは下部の一部がフラットになっている（管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む）プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 断面が卵形の場合の管径は、内幅とする。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑧プレキャストL形側溝

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			作業区分	基礎碎石の有無	L型側溝の種類				
プレキャストL形側溝	B	○	○	○	○	m			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. プレキャスト製L形側溝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑨プレキャストマンホール

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			作業区分	製品質量	基礎碎石の有無				
プレキャストマンホール	B	○	○	○	○	基			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. プレキャスト製マンホールの据付、撤去、据付・撤去の場合である。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

次頁へ移動

積算上の注意事項		(控え頁)	3/7
----------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

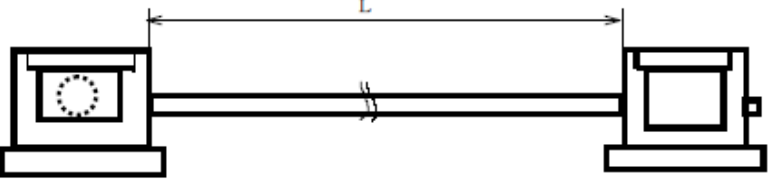
現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

前頁より移動

(3) 基礎区分
 必要性の有無：基礎砕石、均し（基礎）コンクリートについて判定する。
 数 量：必要に応じて、基礎砕石、均し（基礎）コンクリートの数量を算出する。
 ・基礎砕石は、「第1編（共通編）9. 1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」により数量を算出する。
 ・均し（基礎）コンクリートは、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」により数量を算出する。
 ・コルゲートパイプ、コルゲートフリュームの場合は、必要に応じて敷砂の数量も算出する。

4. 数量算出方法
 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。



(2) 各項目の土工（床掘り・埋戻し）、自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は、別途算出する。

⑩PC管

項目	区分	3次元モデル	属性情報						
			作業区分	管径	固定基礎	生コルゲート規格	単位	数量	備考
PC管		B	○	○	○	○	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
 注) 1. PC管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 撤去作業、据付・撤去作業は、PC管のみを対象としている。

⑪コルゲートパイプ

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			規格	パイプ径	形式				
コルゲートパイプ		B	○	○	○	○	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
 注) 1. コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑫コルゲートフリューム

項目	区分	3次元モデル	属性情報				
			作業区分	規格	単位	数量	備考
コルゲートフリューム		B	○	○	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
 注) 1. コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

(2) 施工箇所区分
 施工箇所区分は、下表のとおりとする。

項 目	施 工 箇 所 区 分
U 型 側 溝	一 般 部
	法 面 小 段 面 部
	法 面 縦 排 水 部
蓋 版	一 般 部
	法 面 小 段 面 部

(3) 基礎区分
 必要性の有無：基礎砕石、均し（基礎）コンクリートについて判定する。
 数 量：必要に応じて、基礎砕石、均し（基礎）コンクリートの数量を算出する。
 ・基礎砕石は、「第1編（共通編）9. 1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」により数量を算出する。
 ・均し（基礎）コンクリートは、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」により数量を算出する。
 ・コルゲートパイプ、コルゲートフリュームの場合は、必要に応じて敷砂の数量も算出する。

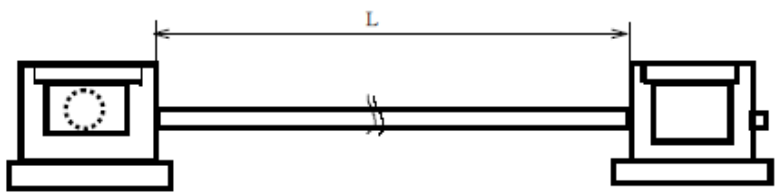
次頁へ移動

記載の追加

記載の追加

記載の追加

3-2-5

改正理由	一部改正		改正 現行	
現 行	改 正			備 考
	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px;">前頁より移動</div> <div style="margin-right: 20px;">→</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px; width: 80%;"> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(2) 各項目の土工（床掘り・埋戻し）、自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は、別途算出する。</p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">3-2-6</p>			
積算上の注意事項				(控え頁) 5/7

改正理由	一部改正	改正 現行																																														
現 行		改 正																																														
<p>2. 1. 2 排水構造物工(現場打ち水路)</p> <p>1. 適用</p> <p>現場打ちのU型側溝(本体)(落蓋型を含む)に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>現場打ち水路(本体)の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、コンクリート規格、内空高、10m当りコンクリート使用量、養生工の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>コンクリート規格</th> <th>内空高</th> <th>10m当り コンクリート 使用量</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打ち水路(本体)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。</p>		項目	区分	コンクリート規格	内空高	10m当り コンクリート 使用量	養生工の種類	単位	数量	備考	現場打ち水路(本体)		○	○	○	○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元 モデル</th> <th>コンクリート 規格</th> <th>内 空 高</th> <th>10m当り コンクリート 使用量</th> <th>養生工の 種類</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打ち水路(本体)</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。</p>		項目	区分	属性情報						単位	数量	備考	3次元 モデル	コンクリート 規格	内 空 高	10m当り コンクリート 使用量	養生工の 種類		現場打ち水路(本体)		A	○	○	○	○	m		
項目	区分	コンクリート規格	内空高	10m当り コンクリート 使用量	養生工の種類	単位	数量	備考																																								
現場打ち水路(本体)		○	○	○	○	m																																										
項目	区分	属性情報						単位	数量	備考																																						
		3次元 モデル	コンクリート 規格	内 空 高	10m当り コンクリート 使用量	養生工の 種類																																										
現場打ち水路(本体)		A	○	○	○	○	m																																									
3-2-6		3-2-7																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 6/7																																													

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																								
現行		改正																																								
<p>2. 1. 3 排水構造物工(現場打ち集水溝・街渠溝)</p> <p>1. 適用</p> <p>現場打ちの集水溝・街渠溝(本体)に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>現場打ち集水溝・街渠溝(本体)の箇所数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、コンクリート規格、1箇所当りコンクリート使用量、養生工の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>コンクリート規格</th> <th>1箇所当り コンクリート使用量</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打ち 集水溝・街渠溝(本体)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。</p>		項目	区分	コンクリート規格	1箇所当り コンクリート使用量	養生工の種類	単位	数量	備考	現場打ち 集水溝・街渠溝(本体)	○	○	○	○	箇所			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元 モデル</th> <th>コンクリート 規格</th> <th>1箇所当り コンクリート 使用量</th> <th>養生工の 種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打ち 集水溝・街渠溝(本体)</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。</p>	項目	区分	属性情報						3次元 モデル	コンクリート 規格	1箇所当り コンクリート 使用量	養生工の 種類	単位	数量	備考	現場打ち 集水溝・街渠溝(本体)		A	○	○	○	箇所		記載の追加
項目	区分	コンクリート規格	1箇所当り コンクリート使用量	養生工の種類	単位	数量	備考																																			
現場打ち 集水溝・街渠溝(本体)	○	○	○	○	箇所																																					
項目	区分	属性情報																																								
		3次元 モデル	コンクリート 規格	1箇所当り コンクリート 使用量	養生工の 種類	単位	数量	備考																																		
現場打ち 集水溝・街渠溝(本体)		A	○	○	○	箇所																																				
3-2-7		3-2-8																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 7/7																																							

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																				
現	行	改	正																																																																																			
<p>2.2 防護柵設置工</p> <p>2.2.1 防護柵工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ガードレール、ガードパイプ、ガードケーブル、ボックスビーム及び横断・転落防止柵の設置工及撤去工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ガードレール、ガードパイプ、ガードケーブル、ボックスビーム及び横断・転落防止柵の延長を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">区分は、規格、設置形式とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>規格</th> <th>設置形式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガードレール</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガードパイプ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガードケーブル</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボックスビーム</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横断防止柵</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>支柱間隔別に算出</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 設置形式区分</p> <p>1) ガードレール、ガードパイプ、ガードケーブル、ボックスビームの設置形式による区分は、下記のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 土中建込用 ② コンクリート建込用 <p>2) 横断・転落防止柵の設置形式による区分は、下記のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 土中建込用 ② コンクリート建込用 ③ プレキャストコンクリートブロック建込用 (基礎ブロック質量100kg/個未満) ④ プレキャストコンクリートブロック建込用 (基礎ブロック質量100kg/個以上) ⑤ アンカーボルト固定用 <p style="text-align: center;">3-2-8</p>		項目 \ 区分	規格	設置形式	単位	数量	備考	ガードレール	○	○	m			ガードパイプ	○	○	m			ガードケーブル	○	○	m			ボックスビーム	○	○	m			横断防止柵	○	○	m		支柱間隔別に算出	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">→</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目 \ 区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>設置形式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガードレール</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガードパイプ</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガードケーブル</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボックスビーム</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横断防止柵</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>支柱間隔別に算出</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">3-2-9</p>		項目 \ 区分	3次元モデル	属性情報				備考	規格	設置形式	単位	数量	ガードレール	B	○	○	m			ガードパイプ	B	○	○	m			ガードケーブル	B	○	○	m			ボックスビーム	B	○	○	m			横断防止柵	B	○	○	m		支柱間隔別に算出	記載の追加
項目 \ 区分	規格	設置形式	単位	数量	備考																																																																																	
ガードレール	○	○	m																																																																																			
ガードパイプ	○	○	m																																																																																			
ガードケーブル	○	○	m																																																																																			
ボックスビーム	○	○	m																																																																																			
横断防止柵	○	○	m		支柱間隔別に算出																																																																																	
項目 \ 区分	3次元モデル	属性情報				備考																																																																																
		規格	設置形式	単位	数量																																																																																	
ガードレール	B	○	○	m																																																																																		
ガードパイプ	B	○	○	m																																																																																		
ガードケーブル	B	○	○	m																																																																																		
ボックスビーム	B	○	○	m																																																																																		
横断防止柵	B	○	○	m		支柱間隔別に算出																																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/8																																																																																			

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																												
現	行	改	正																																																																																																																											
<p>2.2.2 立入防止柵工</p> <p>1. 適用</p> <p>柵高2m以下、支柱間隔2mの人力建込みによる立入防止柵（金網柵）の設置・撤去・再利用設置に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>立入防止柵の基礎ブロックの個数、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）の延長、支柱の本数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ブロック（立入防止柵）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 支柱のみを設置、撤去、撤去・再設置する場合は、支柱で算出する。</p> <p>(2) 作業区分</p> <p>①基礎ブロック（立入防止柵）、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）、支柱 作業区分は、下記のとおりとする。</p> <p>①設置 ②撤去 ③再利用設置</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 基礎ブロック（立入防止柵）については総個数、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）については総延長、支柱工については総本数を上記作業区分ごとに算出する。</p>		項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考	基礎ブロック（立入防止柵）		○	○	個			金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）		○	○	m			支柱		○	○	本			<p>2.2.2 立入防止柵工</p> <p>1. 適用</p> <p>柵高2m以下、支柱間隔2mの人力建込みによる立入防止柵（金網柵）の基礎ブロック、鋼管基礎、金網・支柱、支柱、門扉の設置・撤去・再利用設置に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>立入防止柵の基礎ブロック、鋼管基礎の個数、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）の延長、支柱の本数、門扉の基数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、<u>規格、作業区分数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。</u></p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①基礎ブロック、鋼管基礎</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>構造物種別</th> <th>支柱欄高 門柱高</th> <th>基礎砕石の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ブロック</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼管基礎</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>②金網・支柱（立入防止柵）、支柱（立入防止柵）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>基礎種別</th> <th>支柱欄高 支柱間隔</th> <th>支柱間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金網・支柱（立入防止柵）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱（立入防止柵）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>③門扉</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>門扉種別</th> <th>門柱高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">門扉</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">B</td> <td rowspan="2">○</td> <td>片開き</td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>両開き</td> <td>-</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考	規格	構造物種別	支柱欄高 門柱高	基礎砕石の有無	基礎ブロック		B	○	○	-	○	基			鋼管基礎		B	○	-	○	-	基			項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考	規格	基礎種別	支柱欄高 支柱間隔	支柱間隔	金網・支柱（立入防止柵）		B	○	○	○	○	m			支柱（立入防止柵）		B	○	○	○	-	本			項目	区分	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	規格	門扉種別	門柱高	門扉		B	○	片開き	○	基			両開き	-	基			<p>記載の削除、追加</p> <p>記載の削除、修正、追加</p> <p>記載の削除、追加</p> <p>記載の削除、追加</p>
項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考																																																																																																																								
基礎ブロック（立入防止柵）		○	○	個																																																																																																																										
金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）		○	○	m																																																																																																																										
支柱		○	○	本																																																																																																																										
項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考																																																																																																																					
			規格	構造物種別	支柱欄高 門柱高	基礎砕石の有無																																																																																																																								
基礎ブロック		B	○	○	-	○	基																																																																																																																							
鋼管基礎		B	○	-	○	-	基																																																																																																																							
項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考																																																																																																																					
			規格	基礎種別	支柱欄高 支柱間隔	支柱間隔																																																																																																																								
金網・支柱（立入防止柵）		B	○	○	○	○	m																																																																																																																							
支柱（立入防止柵）		B	○	○	○	-	本																																																																																																																							
項目	区分	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考																																																																																																																						
			規格	門扉種別	門柱高																																																																																																																									
門扉		B	○	片開き	○	基																																																																																																																								
				両開き	-	基																																																																																																																								
3-2-10	3-2-11																																																																																																																													
積算上の注意事項		(控え頁) 2/8																																																																																																																												

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改	正
	前頁より移動	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>(2) 作業区分構造物種別 ①基礎ブロック(立入防止柵)、金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)、支柱 作業区分構造物種別は、下記のとおりとする。 ①設置金網柵 ②撤去門扉 ③再利用設置</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>(3) 支柱柵高、門柱高 支柱柵高、門柱高は、下記のとおりとする。 ①2 m以下 ②2 mを超え2.5m以下</p> <p>(4) 基礎砕石の有無 基礎砕石の有無については、下記のとおりとする。 ①無し ②有り(敷均し厚10cm) ③有り(敷均し厚20cm)</p> <p>(5) 基礎種別 基礎種別は、下記のとおりとする。 ①基礎ブロック ②鋼管基礎</p> <p>(6) 支柱間隔 支柱間隔は、下記のとおりとする。 ①1.5m ②2 m</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。 (1) 基礎ブロック、鋼管基礎(立入防止柵)については総個基数、金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)については総延長、支柱工については総本数、門扉については総基数を上記作業区分ごとに算出する。</p> </div>	<p>記載の削除、追加</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の削除、修正、追加</p>
積算上の注意事項		3-2-12	(控え頁) 3/8

改正理由	一部改正	改正 現行																																	
現行		改正																																	
<p>2.2.3 車止めポスト設置工</p> <p>1. 適用</p> <p>車止めポストの設置工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>車止めポストの本数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車止めポスト</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 基礎ブロックの設置は、含まない。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> <p>3-2-11</p>		項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考	車止めポスト		○	○	本			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車止めポスト</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 基礎ブロックの設置は、含まない。</p> <p>3-2-13</p> <p>記載の追加</p>		項目	区分	属性情報				備考	規格	作業区分	単位	数量	車止めポスト		○	○	本		
項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考																													
車止めポスト		○	○	本																															
項目	区分	属性情報				備考																													
		規格	作業区分	単位	数量																														
車止めポスト		○	○	本																															
積算上の注意事項			(控え頁) 4/8																																

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																						
現 行		改 正																																																																						
<p>2.2.4 防雪柵設置・撤去工</p> <p>1. 適用</p> <p>防雪柵の設置及び撤去に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>防雪柵、防雪柵（材料費）の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、作業区分、形式、取付方式、柵高とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>形式</th> <th>取付方式</th> <th>柵高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防雪柵</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防雪柵（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 防雪柵の作業区分は、以下のとおりとする。</p> <p>作業区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 設置 撤去 <p>(3) 防雪柵の形式による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 吹溜式 吹払式 <p>(4) 防雪柵の取付方式による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>取付方式</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮設式(支柱+張立柱) 仮設式(張立柱のみ) 固定式(支柱+張立柱) 固定式(張立柱のみ) <p>(5) 防雪柵の柵高による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>柵高</p> <ul style="list-style-type: none"> 3.5m 以下材 (吹溜式 仮設式) 3.5m 超え 6.0m 以下 (吹溜式 仮設式) 5.0m 以下 (吹溜式 固定式) 4.0m 以下 (吹払式 仮設・固定式) <p>3-2-12</p>		項目	区分	規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考	防雪柵		○	○	○	○	○	m			防雪柵（材料費）		○	×	×	×	×	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="7">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>形式</th> <th>取付方式</th> <th>柵高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防雪柵</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防雪柵（材料費）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>3-2-14</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報							規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考	防雪柵		B	○	○	○	○	○	m		防雪柵（材料費）		B	○	×	×	×	×	m		備考
項目	区分	規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考																																																															
防雪柵		○	○	○	○	○	m																																																																	
防雪柵（材料費）		○	×	×	×	×	m																																																																	
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																																					
			規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考																																																														
防雪柵		B	○	○	○	○	○	m																																																																
防雪柵（材料費）		B	○	×	×	×	×	m																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 5/8																																																																					

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																						
現 行		改 正																																																																																																																																																						
<p>2.2.5 雪崩予防柵設置工</p> <p>1. 適用</p> <p>雪崩予防柵設置工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>雪崩予防柵、雪崩予防柵(材料費)、吊橋アンカー、パイプアンカー(材料費)、樹脂アンカー(材料費)、簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、柵種類、クレーン機種、持上範囲、吊橋アンカー規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>柵種類</th> <th>クレーン機種</th> <th>持上範囲</th> <th>吊橋アンカー規格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雪崩予防柵</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>雪崩予防柵(材料費)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吊橋アンカー</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パイプアンカー(材料費)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>樹脂アンカー(材料費)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 雪崩予防柵の柵種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>柵種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 固定柵 吊橋 <p>(3) 雪崩予防柵のクレーン機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>クレーン機種</p> <ul style="list-style-type: none"> トラッククレーン ラフテレーンクレーン 簡易ケーブルクレーン <p>3-2-15</p>		項目	区 分	規 格	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊橋アンカー規格	単 位	数 量	備 考	雪崩予防柵		○	○	○	○	×	基			雪崩予防柵(材料費)		○	×	×	×	×	基			吊橋アンカー		○	×	×	×	○	本			パイプアンカー(材料費)		○	×	×	×	×	本			樹脂アンカー(材料費)		○	×	×	×	×	本			簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去		×	×	×	×	×	基			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="7">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>柵種類</th> <th>クレーン機種</th> <th>持上範囲</th> <th>吊橋アンカー規格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雪崩予防柵</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>雪崩予防柵(材料費)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>吊橋アンカー</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パイプアンカー(材料費)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>樹脂アンカー(材料費)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>3-2-17</p>		項目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報							規 格	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊橋アンカー規格	単 位	数 量	備 考	雪崩予防柵		B	○	○	○	○	×	基		雪崩予防柵(材料費)		B	○	×	×	×	×	基		吊橋アンカー		B	○	×	×	×	○	本		パイプアンカー(材料費)		B	○	×	×	×	×	本		樹脂アンカー(材料費)		B	○	×	×	×	×	本		簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去		B	×	×	×	×	×	基		備考
項目	区 分	規 格	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊橋アンカー規格	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																															
雪崩予防柵		○	○	○	○	×	基																																																																																																																																																	
雪崩予防柵(材料費)		○	×	×	×	×	基																																																																																																																																																	
吊橋アンカー		○	×	×	×	○	本																																																																																																																																																	
パイプアンカー(材料費)		○	×	×	×	×	本																																																																																																																																																	
樹脂アンカー(材料費)		○	×	×	×	×	本																																																																																																																																																	
簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去		×	×	×	×	×	基																																																																																																																																																	
項目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報																																																																																																																																																					
			規 格	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊橋アンカー規格	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																														
雪崩予防柵		B	○	○	○	○	×	基																																																																																																																																																
雪崩予防柵(材料費)		B	○	×	×	×	×	基																																																																																																																																																
吊橋アンカー		B	○	×	×	×	○	本																																																																																																																																																
パイプアンカー(材料費)		B	○	×	×	×	×	本																																																																																																																																																
樹脂アンカー(材料費)		B	○	×	×	×	×	本																																																																																																																																																
簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去		B	×	×	×	×	×	基																																																																																																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 6/8																																																																																																																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																																														
現 行		改 正																																																														
<p>(4) 雪崩予防柵の持上範囲による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>持上範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> — 15m 未満 — 15m 以上 20m 未満 — 20m 以上 45m 以下 — 130m 以下 <p>(5) 吊柵アンカーの吊柵アンカー規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>吊柵アンカー規格</p> <ul style="list-style-type: none"> — パイプアンカー — 樹脂アンカー <table border="1" style="border: 2px solid red;"> <thead> <tr> <th colspan="4">関連数量算出項目</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工 (固定基礎工事)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート (固定基礎工事)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>型枠 (固定基礎工事)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工 (固定基礎工事・法面作業等)</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>基礎材 (固定基礎工事)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 雪崩予防柵(材料費)は、規格ごとに基数を算出する。</p> <p>(2) パイプアンカー(材料費)又は樹脂アンカー(材料費)は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(3) 持上範囲は、トラッククレーン及びびラフテレーンクレーンの場合は機械設置地盤からの最大持上げ高までの直高とし、簡易ケーブルクレーンの場合は資材仮置面から最大持上げ高までの直高とする。</p> <p>(4) 簡易ケーブルクレーンの設置基数は、現場条件又は、布設箇所への現場内小運搬等を考慮して決定する。</p>		関連数量算出項目				項目	単位	数量	備考	土工 (固定基礎工事)	m ³		必要な場合別途計上	コンクリート (固定基礎工事)	m ³		必要な場合別途計上	型枠 (固定基礎工事)	m ²		必要な場合別途計上	足場工 (固定基礎工事・法面作業等)	掛m ²		必要な場合別途計上	基礎材 (固定基礎工事)	m ²		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="border: 2px solid red;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="2">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工 (固定基礎工事)</td> <td>A</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート (固定基礎工事)</td> <td>A</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>型枠 (固定基礎工事)</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工 (固定基礎工事・法面作業等)</td> <td>B</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>基礎材 (固定基礎工事)</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p>		項目	3次元モデル	属性情報		備考	単位	数量	土工 (固定基礎工事)	A	m ³		必要な場合別途計上	コンクリート (固定基礎工事)	A	m ³		必要な場合別途計上	型枠 (固定基礎工事)	B	m ²		必要な場合別途計上	足場工 (固定基礎工事・法面作業等)	B	掛m ²		必要な場合別途計上	基礎材 (固定基礎工事)	B	m ²		必要な場合別途計上	備考
関連数量算出項目																																																																
項目	単位	数量	備考																																																													
土工 (固定基礎工事)	m ³		必要な場合別途計上																																																													
コンクリート (固定基礎工事)	m ³		必要な場合別途計上																																																													
型枠 (固定基礎工事)	m ²		必要な場合別途計上																																																													
足場工 (固定基礎工事・法面作業等)	掛m ²		必要な場合別途計上																																																													
基礎材 (固定基礎工事)	m ²		必要な場合別途計上																																																													
項目	3次元モデル	属性情報		備考																																																												
		単位	数量																																																													
土工 (固定基礎工事)	A	m ³		必要な場合別途計上																																																												
コンクリート (固定基礎工事)	A	m ³		必要な場合別途計上																																																												
型枠 (固定基礎工事)	B	m ²		必要な場合別途計上																																																												
足場工 (固定基礎工事・法面作業等)	B	掛m ²		必要な場合別途計上																																																												
基礎材 (固定基礎工事)	B	m ²		必要な場合別途計上																																																												
3-2-16		3-2-18																																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 7/8																																																													

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																	
現	行	改 正	備 考																																																
<p>2.2.6 防雪柵現地張出し・収納工</p> <p>1. 適用</p> <p>現地収納式防雪柵の現地張出し及び現地収納に適用する。</p> <p>適用できる範囲</p> <p>・下表に示す種類、収納方式、柵高、支間長の場合 防雪柵の種類及び高さ・支間長</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>収納方式</th> <th>柵高</th> <th>支間長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吹払式 又は 吹止式</td> <td>支柱・防雪板下部収納 (連動型・単動型)</td> <td>4.3 m以下</td> <td>4.0 m以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 数量算出項目</p> <p>防雪柵現地張出し・収納の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、柵高 (m)、支間長 (m) 及び作業内容とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>柵高(m)</th> <th>支間長(m)</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防雪柵 現地張出し・収納</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 防雪柵現地張出し・収納の作業区分は以下とする。</p> <p>作業区分 — 張出し — 収納</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 柵高は、張出し状態における支柱固定端から支柱・防雪板を問わず最上端となるまでの高さとする。</p> <p>(2) 支間長は、支柱の中心間長さとする。</p> <p>3-2-18</p>		種類	収納方式	柵高	支間長	吹払式 又は 吹止式	支柱・防雪板下部収納 (連動型・単動型)	4.3 m以下	4.0 m以下	項目	区分	柵高(m)	支間長(m)	作業区分	単位	数量	備考	防雪柵 現地張出し・収納		○	○	○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>柵高(m)</th> <th>支間長(m)</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防雪柵 現地張出し・収納</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p> <p>3-2-20</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報					柵高(m)	支間長(m)	作業区分	単位	数量	備考	防雪柵 現地張出し・収納		B	○	○	○	m			<p>記載の追加</p>
種類	収納方式	柵高	支間長																																																
吹払式 又は 吹止式	支柱・防雪板下部収納 (連動型・単動型)	4.3 m以下	4.0 m以下																																																
項目	区分	柵高(m)	支間長(m)	作業区分	単位	数量	備考																																												
防雪柵 現地張出し・収納		○	○	○	m																																														
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																
		柵高(m)	支間長(m)	作業区分	単位	数量	備考																																												
防雪柵 現地張出し・収納		B	○	○	○	m																																													
積算上の注意事項			(控え頁) 8/8																																																

改正理由	一部改正	改正 現行																																									
現	行	改	正																																								
<p>2.3 落石防止工</p> <p>2.3.1 落石防止網工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">落石防止網（覆式、ポケット式）の設置工及び撤去工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">金網・ロープ、アンカー、ポケット支柱等の数量を算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">設</td> <td>金網・ロープ</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td>金網線径・亜鉛メッキ規格を明記</td> </tr> <tr> <td>岩盤用アンカー</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>アンカー径・長さを明記</td> </tr> <tr> <td>羽根付アンカー</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>アンカー径・長さを明記</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">置</td> <td>高耐久アンカー</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>アンカー有効長を明記</td> </tr> <tr> <td>ポケット式支柱</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>注) 3. 支柱高さを明記</td> </tr> <tr> <td>撤 去</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 数量は個々の落石防止網の施工箇所ごとに取りまとめる。なお、直高も明記する。 2. 覆式、ポケット式ごとに取りまとめる。 3. 支柱設置用アンカーは、岩盤用及び土中用に区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 金網・ロープ 金網・ロープ面積は、材料ロス、縦ぎ重ねによる割増を考慮しない金網の設置面積とする。</p> <p style="text-align: right;">3-2-20</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	設	金網・ロープ	○	m ²	金網線径・亜鉛メッキ規格を明記	岩盤用アンカー	○	箇所	アンカー径・長さを明記	羽根付アンカー	○	箇所	アンカー径・長さを明記	置	高耐久アンカー	○	箇所	アンカー有効長を明記	ポケット式支柱	○	箇所	注) 3. 支柱高さを明記	撤 去		m ²			<p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p>							
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																							
設	金網・ロープ	○	m ²	金網線径・亜鉛メッキ規格を明記																																							
	岩盤用アンカー	○	箇所	アンカー径・長さを明記																																							
	羽根付アンカー	○	箇所	アンカー径・長さを明記																																							
置	高耐久アンカー	○	箇所	アンカー有効長を明記																																							
	ポケット式支柱	○	箇所	注) 3. 支柱高さを明記																																							
撤 去		m ²																																									
<p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">設</td> <td>金網・ロープ</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td>金網線径・亜鉛メッキ規格を明記</td> </tr> <tr> <td>岩盤用アンカー</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>アンカー径・長さを明記</td> </tr> <tr> <td>羽根付アンカー</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>アンカー径・長さを明記</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">置</td> <td>高耐久アンカー</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>アンカー有効長を明記</td> </tr> <tr> <td>ポケット式支柱</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td>注) 3. 支柱高さを明記</td> </tr> <tr> <td>撤 去</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 数量は個々の落石防止網の施工箇所ごとに取りまとめる。なお、直高も明記する。 2. 覆式、ポケット式ごとに取りまとめる。 3. 支柱設置用アンカーは、岩盤用及び土中用に区分して算出する。</p> <p style="text-align: right;">3-2-22</p> <p>現行どおり</p>		項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			備 考	規格・仕様	単 位	数 量	設	金網・ロープ	B	○	m ²	金網線径・亜鉛メッキ規格を明記	岩盤用アンカー	B	○	箇所	アンカー径・長さを明記	羽根付アンカー	B	○	箇所	アンカー径・長さを明記	置	高耐久アンカー	B	○	箇所	アンカー有効長を明記	ポケット式支柱	B	○	箇所	注) 3. 支柱高さを明記	撤 去	B		m ²		
項 目	3次元 モデル			属 性 情 報				備 考																																			
		規格・仕様	単 位	数 量																																							
設	金網・ロープ	B	○	m ²	金網線径・亜鉛メッキ規格を明記																																						
	岩盤用アンカー	B	○	箇所	アンカー径・長さを明記																																						
	羽根付アンカー	B	○	箇所	アンカー径・長さを明記																																						
置	高耐久アンカー	B	○	箇所	アンカー有効長を明記																																						
	ポケット式支柱	B	○	箇所	注) 3. 支柱高さを明記																																						
撤 去	B		m ²																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																								

改正理由	一部改正	改正 現行																																	
現行		改正																																	
<p>2.3.2 落石防止網(繊維網)設置工</p> <p>1. 適用</p> <p>落石防止網(繊維網)の設置工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>落石防止網の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>項目</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>落石防止網</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区分	規格	単位	数量	備考	項目					落石防止網	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>落石防止網</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報			規格	単位	数量	備考	落石防止網		B	○	m ²			備考
区分	規格	単位	数量	備考																															
項目																																			
落石防止網	○	m ²																																	
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																
			規格	単位	数量	備考																													
落石防止網		B	○	m ²																															
積算上の注意事項		(控え頁) 2/3																																	

3-2-22

3-2-24

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																												
現 行		改 正																																																																																																												
<p>2.3.3 落石防護柵工</p> <p>1. 適用</p> <p>落石防護柵の設置工及び撤去工に適用する。但し、落雪の抑止効果を目的とする落雪（せり出し）防護柵には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>落石防護柵の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、柵高、支柱間隔・ロープ数、メッキの有無、間隔保持材の有無、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>落石防護柵の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>柵高 (m)</th> <th>支柱間隔・ ロープ数 メッキの有無</th> <th>間隔保 持材の 有無</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間支柱</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>端 末 支 柱</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>落 石 防 護 柵</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐雪型落石防護柵 (上弦材付き)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス テ ー ロ ー プ</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td>岩盤用 アンカーを 含む</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 数量は個々の落石防護柵の施工箇所ごとに取りまとめる。 2. 数量は、除石開閉口（排土口）を含めた数量を算出する。 3. 落石防護柵の撤去は、撤去する柵延長を各規格毎に算出し、対象となる鋼材質量を算出すること。 4. 柵の支柱を曲支柱とする場合は、区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 支柱の基礎部 「第1編（共通編）4章コンクリート工4. 1コンクリート工」による。</p> <p>3-2-23</p>		区分 項目	柵高 (m)	支柱間隔・ ロープ数 メッキの有無	間隔保 持材の 有無	規格	単位	数量	備 考	中間支柱	○	△	△	○	本			端 末 支 柱	○	△	△	○	本			落 石 防 護 柵	○	○	○	○	m			耐雪型落石防護柵 (上弦材付き)	○	○	△	○	m			ス テ ー ロ ー プ	△	△	△	○	本		岩盤用 アンカーを 含む	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>落石防護柵の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>柵高 (m)</th> <th>支柱間隔・ ロープ数 メッキの有無</th> <th>間隔保 持材の 有無</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間支柱</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>端 末 支 柱</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>落 石 防 護 柵</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐雪型落石防護柵 (上弦材付き)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス テ ー ロ ー プ</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td>岩盤用 アンカーを 含む</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 数量は個々の落石防護柵の施工箇所ごとに取りまとめる。 2. 数量は、除石開閉口（排土口）を含めた数量を算出する。 3. 落石防護柵の撤去は、撤去する柵延長を各規格毎に算出し、対象となる鋼材質量を算出すること。 4. 柵の支柱を曲支柱とする場合は、区分して算出する。</p> <p>現行どおり</p> <p>3-2-25</p>		区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報				規格	単位	数量	備 考	柵高 (m)	支柱間隔・ ロープ数 メッキの有無	間隔保 持材の 有無		中間支柱	B	○	△	△	○	本			端 末 支 柱	B	○	△	△	○	本			落 石 防 護 柵	B	○	○	○	○	m			耐雪型落石防護柵 (上弦材付き)	B	○	○	△	○	m			ス テ ー ロ ー プ	B	△	△	△	○	本		岩盤用 アンカーを 含む
区分 項目	柵高 (m)	支柱間隔・ ロープ数 メッキの有無	間隔保 持材の 有無	規格	単位	数量	備 考																																																																																																							
中間支柱	○	△	△	○	本																																																																																																									
端 末 支 柱	○	△	△	○	本																																																																																																									
落 石 防 護 柵	○	○	○	○	m																																																																																																									
耐雪型落石防護柵 (上弦材付き)	○	○	△	○	m																																																																																																									
ス テ ー ロ ー プ	△	△	△	○	本		岩盤用 アンカーを 含む																																																																																																							
区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報				規格	単位	数量	備 考																																																																																																					
		柵高 (m)	支柱間隔・ ロープ数 メッキの有無	間隔保 持材の 有無																																																																																																										
中間支柱	B	○	△	△	○	本																																																																																																								
端 末 支 柱	B	○	△	△	○	本																																																																																																								
落 石 防 護 柵	B	○	○	○	○	m																																																																																																								
耐雪型落石防護柵 (上弦材付き)	B	○	○	△	○	m																																																																																																								
ス テ ー ロ ー プ	B	△	△	△	○	本		岩盤用 アンカーを 含む																																																																																																						
積算上の注意事項			記載の追加																																																																																																											
			(控え頁) 3/3																																																																																																											

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

2.4 標識工

1. 適用

道路標識の標識柱、標識板、標識基礎の設置工及び撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

標識柱、標識板、標識基礎の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造・種類、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	構造・種類	規格・仕様	単位	数量	備考
標識柱	路側式	○	○	基		
	片持式	×	×	基		※1
	門型式	×	○		※1	
標識板	案内標識	×	○	枚		※2
	警告・規制・指示・路線番号	○	×	枚		
標識基礎	路側式	○	×	基		
	片持式	×	×	基		※3
	門型式	×	×		※3	
添架式標識板取付金具	○	×	基			※4

注) 1. 備考欄に※1があるものは、標識柱の1基当り質量 (kg/基) も算出すること。
 2. 備考欄に※2があるものは、標識板の1枚当り面積 (m²/基) も算出すること。
 3. 備考欄に※3があるものは、標識基礎の1基当り体積 (m³/基) も算出すること。
 4. 添架式標識板取付金具の単位 (基) は、標識板枚数で算出すること。
 また、取付金具の段数を区分して算出すること。

3-2-25

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考
			構造・種類	規格・仕様	単位	数量	
標識柱	路側式	B	○	○	基		
	片持式	B	×	×	基		※1
	門型式	B	×	○		※1	
標識板	案内標識	B	×	○	枚		※2
	警告・規制・指示・路線番号	B	○	×	枚		
標識基礎	路側式	B	○	×	基		
	片持式	B	×	×	基		※3
	門型式	B	×	×		※3	
添架式標識板取付金具		B	○	×	基		※4

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 備考欄に※1があるものは、標識柱の1基当り質量 (kg/基) も算出すること。
 2. 備考欄に※2があるものは、標識板の1枚当り面積 (m²/基) も算出すること。
 3. 備考欄に※3があるものは、標識基礎の1基当り体積 (m³/基) も算出すること。
 4. 添架式標識板取付金具の単位 (基) は、標識板枚数で算出すること。
 また、取付金具の段数を区分して算出すること。

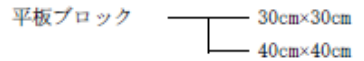
3-2-27

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁)
		1/1

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																				
現 行		改 正																																																																																																				
<p>2.5 道路附属施設工</p> <p>2.5.1 区画線工、高視認性区画線工</p> <p>1. 適用</p> <p>道路に設置する区画線、道路標示の設置及び消去に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>区画線の設置延長および消去延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工方法、規格・仕様、施工区間、色、厚さとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工方法</th> <th>規格仕様</th> <th>施工区間</th> <th>色</th> <th>厚さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区画線設置</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>区画線消去</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>1.5cm換算</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工方法区分 施工方法区分は以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td>施工方法</td> <td>区 画 線</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 溶融式・手動 溶剤型ペイント式・自走 (加熱式) 溶剤型ペイント式・自走 (常温式) 水性型ペイント式・自走 (加熱式) 水性型ペイント式・自走 (常温式) </td> </tr> <tr> <td></td> <td>高視認性区画線</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> リップ式 (溶融式) リップ式 (2液反応式) 非リップ式 (溶融式) </td> </tr> <tr> <td></td> <td>区画線消去</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 貼付式 削り取り式 ウォータージェット式 </td> </tr> </table> <p>(3) 規格・仕様区分 規格・仕様の区分は線種、施工幅毎に区分して算出する</p> <table border="0"> <tr> <td>区画線の種類</td> <td>実 線</td> <td>施工幅</td> <td>1.5cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>破 線</td> <td></td> <td>2.0cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ゼブラ</td> <td></td> <td>3.0cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4.5cm</td> </tr> <tr> <td>道路表示の種類</td> <td>矢印・記号・文字</td> <td>施工幅</td> <td>1.5cm換算</td> </tr> </table> <p>注) 1. 矢印・記号・文字は、構成する線幅が10cm未満のものについて、区分して算出する。 2. 区画線の溶融式・手動及び高視認性区画線の非リップ式 (溶融式) の横断線はゼブラを適用する。</p>		項目	区分	施工方法	規格仕様	施工区間	色	厚さ	単位	数量	備考	区画線設置	○	○	○	○	○	○	m			区画線消去	○	×	○	×	×	×	m		1.5cm換算	施工方法	区 画 線	<ul style="list-style-type: none"> 溶融式・手動 溶剤型ペイント式・自走 (加熱式) 溶剤型ペイント式・自走 (常温式) 水性型ペイント式・自走 (加熱式) 水性型ペイント式・自走 (常温式) 		高視認性区画線	<ul style="list-style-type: none"> リップ式 (溶融式) リップ式 (2液反応式) 非リップ式 (溶融式) 		区画線消去	<ul style="list-style-type: none"> 貼付式 削り取り式 ウォータージェット式 	区画線の種類	実 線	施工幅	1.5cm		破 線		2.0cm		ゼブラ		3.0cm				4.5cm	道路表示の種類	矢印・記号・文字	施工幅	1.5cm換算	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="7">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>施工方法</th> <th>規格仕様</th> <th>施工区間</th> <th>色</th> <th>厚さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区画線設置</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>区画線消去</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>1.5cm換算</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報							備考	施工方法	規格仕様	施工区間	色	厚さ	単位	数量	区画線設置	○	B	○	○	○	○	○	m			区画線消去	○	B	○	×	○	×	×	m		1.5cm換算	記載の追加
項目	区分	施工方法	規格仕様	施工区間	色	厚さ	単位	数量	備考																																																																																													
区画線設置	○	○	○	○	○	○	m																																																																																															
区画線消去	○	×	○	×	×	×	m		1.5cm換算																																																																																													
施工方法	区 画 線	<ul style="list-style-type: none"> 溶融式・手動 溶剤型ペイント式・自走 (加熱式) 溶剤型ペイント式・自走 (常温式) 水性型ペイント式・自走 (加熱式) 水性型ペイント式・自走 (常温式) 																																																																																																				
	高視認性区画線	<ul style="list-style-type: none"> リップ式 (溶融式) リップ式 (2液反応式) 非リップ式 (溶融式) 																																																																																																				
	区画線消去	<ul style="list-style-type: none"> 貼付式 削り取り式 ウォータージェット式 																																																																																																				
区画線の種類	実 線	施工幅	1.5cm																																																																																																			
	破 線		2.0cm																																																																																																			
	ゼブラ		3.0cm																																																																																																			
			4.5cm																																																																																																			
道路表示の種類	矢印・記号・文字	施工幅	1.5cm換算																																																																																																			
項目	区分	3次元モデル	属性情報							備考																																																																																												
			施工方法	規格仕様	施工区間	色	厚さ	単位	数量																																																																																													
区画線設置	○	B	○	○	○	○	○	m																																																																																														
区画線消去	○	B	○	×	○	×	×	m		1.5cm換算																																																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/6																																																																																																			

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																				
	現 行	改 正																					
	<p>前頁より移動</p> <p>(4) 施工区間区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 区画線設置 施工区間区分は供用区間、未供用区間を区分して算出する。 排水性舗装区間については、上記区分に追加して区分する。 区画線消去 排水性舗装区間については、区分して算出する。 <p>(5) 色、厚さの区分</p> <p>色については、白色又は黄色に区分する。 厚さについては、1.5mm又は1.0mmに区分する。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 区画線設置</p> <p>実線・破線・ゼブラについては塗布幅毎の延長を、矢印・記号・文字等については、面積・箇所ごとに15cm換算した延長を算出する。ただし、構成する線幅が10cm未満の矢印・記号及び文字については、区分して算出する。 なお、破線については、実際に塗布する延長とする。</p> <p>(2) 区画線消去</p> <p>消去面積を15cm換算した延長を算出する。</p> <p style="text-align: right;">3-2-28</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(3) 規格・仕様区分</p> <p>規格・仕様の区分は線種、施工幅毎に区分して算出する</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">区画線の種類</td> <td style="width: 30%;">実 線</td> <td style="width: 30%;">施工幅</td> <td style="width: 10%;">15cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>破 線</td> <td></td> <td>20cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ゼブラ</td> <td></td> <td>30cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>45cm</td> </tr> <tr> <td>道路表示の種類</td> <td>矢印・記号・文字</td> <td>施工幅</td> <td>15cm換算</td> </tr> </table> <p>注) 1. 矢印・記号・文字は、構成する線幅が10cm未満のものについて、区分して算出する。 2. <u>区画線の溶解式・手動及び高視認性区画線の非リブ式（溶解式）の横断線工における横断歩道・停止線等はゼブラを適用する。</u></p> </div> <p>現行どおり</p> <p style="text-align: right;">3-2-30</p>	区画線の種類	実 線	施工幅	15cm		破 線		20cm		ゼブラ		30cm				45cm	道路表示の種類	矢印・記号・文字	施工幅	15cm換算	記載の修正
区画線の種類	実 線	施工幅	15cm																				
	破 線		20cm																				
	ゼブラ		30cm																				
			45cm																				
道路表示の種類	矢印・記号・文字	施工幅	15cm換算																				
積算上の注意事項			(控え頁) 2/6																				

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																	
現	行	改	正																																																																																
<p>2.5.2 路側工</p> <p>1. 適用</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロック、インターロッキングブロック、ブロック規格が30cm×30cm及び40cm×40cmの平板ブロック（透水性ブロック含む）及び視覚障害者誘導用ブロック（点状ブロック、線状ブロック）の設置工及び撤去工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロックの延長、及びインターロッキングブロック、平板ブロック及び視覚障害者誘導用ブロックの面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、作業区分、基礎碎石の有無、均し基礎コンクリート規格、養生工の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>基礎碎石の有無</th> <th>均し基礎コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>100m当り 使用量 (個/100m)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩車道境界ブロック</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地先境界ブロック</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インターロッキング ブロック</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>敷材料の厚さと種類を明記</td> </tr> <tr> <td>平板ブロック</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>視覚障害者誘導用 ブロック</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分</p> <p>平板ブロック </p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 土工（床掘り・埋戻し）、基礎（碎石・コンクリート等）、舗装版切断等が必要な場合は、別途算出する。</p> <p style="text-align: center;">3-2-29</p>		項目	区分	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	100m当り 使用量 (個/100m)	単位	数量	備考	歩車道境界ブロック	○	○	○	○	○	○	○	m			地先境界ブロック	○	○	○	○	○	○	○	m			インターロッキング ブロック	○	×	×	×	×	×		m ²		敷材料の厚さと種類を明記	平板ブロック	○	×	×	×	×	×		m ²			視覚障害者誘導用 ブロック	○	×	×	×	×	×		m ²			<p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p>													
項目	区分	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	100m当り 使用量 (個/100m)	単位	数量	備考																																																																									
歩車道境界ブロック	○	○	○	○	○	○	○	m																																																																											
地先境界ブロック	○	○	○	○	○	○	○	m																																																																											
インターロッキング ブロック	○	×	×	×	×	×		m ²		敷材料の厚さと種類を明記																																																																									
平板ブロック	○	×	×	×	×	×		m ²																																																																											
視覚障害者誘導用 ブロック	○	×	×	×	×	×		m ²																																																																											
<p>積算上の注意事項</p>		<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>基礎碎石の有無</th> <th>均し基礎コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>100m当り 使用量 (個/100m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩車道境界ブロック</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地先境界ブロック</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インターロッキング ブロック</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td>敷材料の厚さと種類を明記</td> </tr> <tr> <td>平板ブロック</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>視覚障害者誘導用 ブロック</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><small>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</small></p> <p style="text-align: center;">3-2-31</p>		項目	区分	属性情報							単位	数量	備考	3次元モデル	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	100m当り 使用量 (個/100m)	歩車道境界ブロック	○	B	○	○	○	○	○	○	m			地先境界ブロック	○	B	○	○	○	○	○	○	m			インターロッキング ブロック	○	B	○	×	×	×	×	×	m ²		敷材料の厚さと種類を明記	平板ブロック	○	B	○	×	×	×	×	×	m ²			視覚障害者誘導用 ブロック	○	B	○	×	×	×	×	×	m ²			<p>現行どおり</p>
項目	区分	属性情報							単位	数量	備考																																																																								
		3次元モデル	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	100m当り 使用量 (個/100m)																																																																											
歩車道境界ブロック	○	B	○	○	○	○	○	○	m																																																																										
地先境界ブロック	○	B	○	○	○	○	○	○	m																																																																										
インターロッキング ブロック	○	B	○	×	×	×	×	×	m ²		敷材料の厚さと種類を明記																																																																								
平板ブロック	○	B	○	×	×	×	×	×	m ²																																																																										
視覚障害者誘導用 ブロック	○	B	○	×	×	×	×	×	m ²																																																																										
			(控え頁)																																																																																
			3/6																																																																																

改正理由	一部改正	改正 現行																	
現	行	改	正																
<p>2.5.3 境界工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">境界杭（河川境界杭を含む）、境界紙の設置工及び撤去工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">境界杭、境界紙の数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">区分は、規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分 項目</th> <th style="text-align: center;">規 格</th> <th style="text-align: center;">単 位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">境 界 杭</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">境 界 紙</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">枚</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 境界杭で根巻基礎ありと根巻基礎なしは分けて算出する。</p>		区分 項目	規 格	単 位	数 量	備 考	境 界 杭	○	本			境 界 紙	○	枚			<p>現行どおり</p> <p>→</p> <p>現行どおり</p>		<p>備考</p> <p style="text-align: center;">記載の追加</p>
区分 項目	規 格	単 位	数 量	備 考															
境 界 杭	○	本																	
境 界 紙	○	枚																	
3-2-30		3-2-32																	
積算上の注意事項			(控え頁) 4/6																

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																											
現 行		改 正																																																																																											
<p>2.5.4 道路附属物工</p> <p>1. 適用</p> <p>視線誘導標、距離標、道路紙、車線分離標の設置工及び撤去工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>視線誘導標、距離標、道路紙、車線分離標の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、設置形式、作業区分、施工区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>設置形式</th> <th>作業区分</th> <th>施工区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視線誘導標</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>距離標</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路紙</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車線分離標</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 視線誘導標は、標準型とスノーボール併用型に区分して算出する。</p> <p>(2) 規格区分 規格による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>1) 視線誘導標 [標準型・スノーボール併用型]</p> <p>(1) 両面・片面の区分</p> <p>①両面反射</p> <p>②片面反射</p> <p>(2) 反射体の径</p> <p>①φ100mm以下</p> <p>②φ300mm</p> <p>(3) 支柱径 (標準型の反射体径100mm以下のみ)</p> <p>①φ34mm</p> <p>②φ60.5mm</p> <p>③φ89mm</p> <p>土中建込用・コンクリート建込用</p> <p>(4) 取り付け方式 (標準型のみ)</p> <p>①バンド式</p> <p>②ボルト式</p> <p>③かぶせ式</p> <p>④側壁用</p> <p>⑤ベースプレート式</p> <p>防護柵取付用</p> <p>構造物取付用</p> <p>(5) 反射体数 (スノーボール併用型のみ)</p> <p>①1個</p> <p>②2個</p>		区分	規格	設置形式	作業区分	施工区分	単位	数量	備考	視線誘導標	○	○			本			距離標			○	○	本			道路紙	○	○			個			車線分離標	○	○			本			<p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、設置形式、作業区分、<u>基準</u>形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>設置 形式</th> <th>作業 区分</th> <th><u>基準</u> 形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視線誘導標</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>距離標</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路紙</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>車線分離標</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 視線誘導標は、標準型とスノーボール併用型に区分して算出する。</p>		項目	区分	3次元 モデル	属 性 情 報				単位	数量	備考	規格	設置 形式	作業 区分	<u>基準</u> 形式	視線誘導標		B	○	○			本		距離標		B			○	○	本		道路紙		B	○	○			個		車線分離標		B	○	○			本	
区分	規格	設置形式	作業区分	施工区分	単位	数量	備考																																																																																						
視線誘導標	○	○			本																																																																																								
距離標			○	○	本																																																																																								
道路紙	○	○			個																																																																																								
車線分離標	○	○			本																																																																																								
項目	区分	3次元 モデル	属 性 情 報				単位	数量	備考																																																																																				
			規格	設置 形式	作業 区分	<u>基準</u> 形式																																																																																							
視線誘導標		B	○	○			本																																																																																						
距離標		B			○	○	本																																																																																						
道路紙		B	○	○			個																																																																																						
車線分離標		B	○	○			本																																																																																						
3-2-31		3-2-33																																																																																											
積算上の注意事項		(控え頁) 5/6																																																																																											

現行どおり

現行どおり

記載の削除

記載の追加、削除
修正

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																								
現	行	改 正	備 考																								
	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>2) 距離標 (1) 距離標種別 ①キロ標 ②百米標</p> <p>3) 道路紙 (1) 道路紙の種類 ①大型紙 (高さ 30mm を超え 50mm 以下) ②小型紙 (高さ 30mm 以下)</p> <p>(2) 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射</p> <p>(3) 材質 ①アルミ製 ②樹脂製</p> <p>(4) 設置幅区分 ①30cm } 大型紙 ②20cm } ③15cm } 小型紙 ④10cm } ※設置幅は、道路上に設置したときの幅であり、材料本体の幅ではない。</p> <p>4) 車線分離標 (1) 高さ ①400mm ②650mm ③800mm</p> <p>(3) 設置形式区分 設置形式による区分は、下記のとおりとする。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1) 視線誘導標</td> <td style="width: 50%;">2) 距離標</td> </tr> <tr> <td>①土中埋込用</td> <td>①土中埋込用</td> </tr> <tr> <td>②コンクリート埋込用 (削孔含む)</td> <td>②コンクリート埋込用</td> </tr> <tr> <td>③コンクリート埋込用 (削孔含まない)</td> <td>③構造物取付用</td> </tr> <tr> <td>④防護柵取付用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤構造物取付用</td> <td></td> </tr> </table> <p>3) 道路紙 ①穿孔式 ②貼付式</p> <p>4) 車線分離標 ①可変式 ②着脱式 ③固定式</p> </div>	1) 視線誘導標	2) 距離標	①土中埋込用	①土中埋込用	②コンクリート埋込用 (削孔含む)	②コンクリート埋込用	③コンクリート埋込用 (削孔含まない)	③構造物取付用	④防護柵取付用		⑤構造物取付用		<p style="text-align: center;">削除</p> <p>→2) 道路紙 (1) 道路紙の種類 ①大型紙 (高さ 30mm を超え 50mm 以下) ②小型紙 (高さ 30mm 以下)</p> <p>(2) 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射</p> <p>(3) 材質 ①アルミ製 ②樹脂製</p> <p>(4) 設置幅区分 ①30cm } 大型紙 ②20cm } ③15cm } 小型紙 ④10cm } ※設置幅は、道路上に設置したときの幅であり、材料本体の幅ではない。</p> <p>→3) 車線分離標 (1) 高さ ①400mm ②650mm ③800mm</p> <p>(3) 設置形式区分 設置形式による区分は、下記のとおりとする。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1) 視線誘導標</td> <td style="width: 50%;">→) 距離標</td> </tr> <tr> <td>①土中埋込用</td> <td>①土中埋込用</td> </tr> <tr> <td>②コンクリート埋込用 (削孔含む)</td> <td>②コンクリート埋込用</td> </tr> <tr> <td>③コンクリート埋込用 (削孔含まない)</td> <td>③構造物取付用</td> </tr> <tr> <td>④防護柵取付用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤構造物取付用</td> <td></td> </tr> </table> <p>→2) 道路紙 ①穿孔式 ②貼付式</p> <p>→3) 車線分離標 ①可変式 ②着脱式 ③固定式</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(4) 形式区分 形式による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>1) 距離標種別 ①パネル式 (アンカー固定) ②パネル式 (金具固定) ③パネル式 (土中埋込)</p> </div>	1) 視線誘導標	→) 距離標	①土中埋込用	①土中埋込用	②コンクリート埋込用 (削孔含む)	②コンクリート埋込用	③コンクリート埋込用 (削孔含まない)	③構造物取付用	④防護柵取付用		⑤構造物取付用		<p>記載の削除</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の追加</p>
1) 視線誘導標	2) 距離標																										
①土中埋込用	①土中埋込用																										
②コンクリート埋込用 (削孔含む)	②コンクリート埋込用																										
③コンクリート埋込用 (削孔含まない)	③構造物取付用																										
④防護柵取付用																											
⑤構造物取付用																											
1) 視線誘導標	→) 距離標																										
①土中埋込用	①土中埋込用																										
②コンクリート埋込用 (削孔含む)	②コンクリート埋込用																										
③コンクリート埋込用 (削孔含まない)	③構造物取付用																										
④防護柵取付用																											
⑤構造物取付用																											
	3-2-32	現行どおり	3-2-34																								
積算上の注意事項			(控え頁) 6/6																								

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

2.6 しゃ音壁設置工

1. 適用

しゃ音壁支柱製作工及びしゃ音壁設置工に適用する。

2. 数量算出項目

支柱アンカー、支柱アンカー（材料費）、支柱建込、支柱（材料費）、土留板取付、土留板（材料費）、しゃ音板・透光板取付、しゃ音板・透光板（材料費）、落下防止索（材料費）、下段パネル（材料費）、笠木取付、笠木（材料費）、外装板取付、外装板（材料費）、水切板取付、水切板（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、形式、支柱間隔、設置高さ、支柱材料種類、施工区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	形式	支柱間隔	設置高さ	支柱材料種類	施工区分	単位	数量	備考
支柱アンカー		×	○	○	○	×	×	m		
支柱アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	×	m		注1)
支柱建込		×	○	○	○	×	×	m		
支柱（材料費）		○	×	×	×	○	×	t		注2)
土留板取付		×	×	×	○	×	×	m ²		
土留板（材料費）		○	×	×	×	×	×	m ²		注3)
しゃ音板・透光板取付		×	×	×	○	×	○	m ²		
しゃ音板・透光板（材料費）		○	×	×	×	×	×	m ²		注4)
落下防止索（材料費）		○	×	×	×	×	×	個		
下段パネル（材料費）		○	×	×	×	×	×	m		
笠木取付		×	×	×	○	×	×	m		
笠木（材料費）		○	×	×	×	×	×	m		
外装板取付		×	×	×	○	×	×	m ²		
外装板取付（材料費）		○	×	×	×	×	×	m ²		注5)
水切板取付		×	×	×	○	×	×	m		
水切板（材料費）		○	×	×	×	×	×	m		

注1) しゃ音壁 1m当り使用本数も算出する。
注2) 鋼材質量を支柱材料種類ごとに区分して算出する。

3-2-33

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属 性 情 報							単位	数量	備考
			規格	形式	支柱間隔	設置高さ	支柱材料種類	施工区分				
支柱アンカー		B	×	○	○	○	×	×	m			
支柱アンカー（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m		注1)	
支柱建込		B	×	○	○	○	×	×	m			
支柱（材料費）		B	○	×	×	×	○	×	t		注2)	
土留板取付		B	×	×	×	○	×	×	m ²			
土留板（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m ²		注3)	
しゃ音板・透光板取付		B	×	×	×	○	×	○	m ²			
しゃ音板・透光板（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m ²		注4)	
落下防止索（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	個			
下段パネル（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m			
笠木取付		B	×	×	×	○	×	×	m			
笠木（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m			
外装板取付		B	×	×	×	○	×	×	m ²			
外装板取付（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m ²		注5)	
水切板取付		B	×	×	×	○	×	×	m			
水切板（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注1) しゃ音壁 1m当り使用本数も算出する。
注2) 鋼材質量を支柱材料種類ごとに区分して算出する。

3-2-35

記載の追加

積算上の注意事項

(控え頁)

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																								
現 行		改 正																																																																																																																								
<p>2.7 組立歩道工</p> <p>1. 適用</p> <p>プレキャスト床版の支柱式（斜柱を含む）又は片持式組立歩道及び現場打設コンクリート床版の支柱式（斜柱を含む）組立歩道の組立・据付作業に適用する。</p> <p>組立歩道組立据付 構造形式一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形式区分</th> <th>床版形式</th> <th>支柱形式</th> <th>受桁形式</th> <th>支柱（受桁）間隔</th> <th>幅員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">支柱式</td> <td rowspan="5">プレキャスト コンクリート製</td> <td colspan="2">鋼製</td> <td rowspan="4">3m</td> <td>1.0m</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">プレキャストコンクリート製 又は鋼製</td> <td>1.5m</td> </tr> <tr> <td>2.0m</td> </tr> <tr> <td>2.5m</td> </tr> <tr> <td colspan="2">プレキャストコンクリート製</td> <td>5m</td> <td>2.0m</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">片持式 （鋼製受桁形式）</td> <td rowspan="3">プレキャスト コンクリート製</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">鋼製</td> <td rowspan="3">3m</td> <td>1.0m</td> </tr> <tr> <td>1.5m</td> </tr> <tr> <td>2.0m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">片持式</td> <td rowspan="2">プレキャスト コンクリート製</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">-</td> <td>1.5m</td> </tr> <tr> <td>2.0m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">支柱式</td> <td rowspan="2">現場打</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">鋼製</td> <td rowspan="2">3m</td> <td>1.5m</td> </tr> <tr> <td>2.0m</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 数量算出項目</p> <p>組立歩道組立据付、組立歩道（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、形式区分、床版形式、支柱（受桁）間隔、幅員、作業内容区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>形式区分</th> <th>床版形式</th> <th>支柱（受桁）間隔</th> <th>幅員</th> <th>作業内容区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>組立歩道組立据付</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>組立歩道（材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 形式区分は、以下のとおりとする。</p> <p>形式区分 — 支柱式 — 片持式</p> <p>(3) 床版形式による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>床版形式 — プレキャストコンクリート製 — 現場打</p> <p>3-2-38</p>		形式区分	床版形式	支柱形式	受桁形式	支柱（受桁）間隔	幅員	支柱式	プレキャスト コンクリート製	鋼製		3m	1.0m	プレキャストコンクリート製 又は鋼製	1.5m	2.0m	2.5m	プレキャストコンクリート製		5m	2.0m	片持式 （鋼製受桁形式）	プレキャスト コンクリート製	-	鋼製	3m	1.0m	1.5m	2.0m	片持式	プレキャスト コンクリート製	-	-	-	1.5m	2.0m	支柱式	現場打	-	鋼製	3m	1.5m	2.0m	項目	区分	規格	形式区分	床版形式	支柱（受桁）間隔	幅員	作業内容区分	単位	数量	備考	組立歩道組立据付	×	○	○	○	○	○	○	m			組立歩道（材料費）	○	×	×	×	×	×	×	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="9">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格</th> <th>形式区分</th> <th>床版形式</th> <th>支柱（受桁）間隔</th> <th>幅員</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>組立歩道組立据付</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>組立歩道（材料費）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p> <p>3-2-40</p>		項目	区分	属性情報									3次元モデル	規格	形式区分	床版形式	支柱（受桁）間隔	幅員	作業区分	単位	数量	備考	組立歩道組立据付		B	×	○	○	○	○	○	m		組立歩道（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m		備考
形式区分	床版形式	支柱形式	受桁形式	支柱（受桁）間隔	幅員																																																																																																																					
支柱式	プレキャスト コンクリート製	鋼製		3m	1.0m																																																																																																																					
		プレキャストコンクリート製 又は鋼製	1.5m																																																																																																																							
			2.0m																																																																																																																							
			2.5m																																																																																																																							
		プレキャストコンクリート製		5m	2.0m																																																																																																																					
片持式 （鋼製受桁形式）	プレキャスト コンクリート製	-	鋼製	3m	1.0m																																																																																																																					
					1.5m																																																																																																																					
					2.0m																																																																																																																					
片持式	プレキャスト コンクリート製	-	-	-	1.5m																																																																																																																					
					2.0m																																																																																																																					
支柱式	現場打	-	鋼製	3m	1.5m																																																																																																																					
					2.0m																																																																																																																					
項目	区分	規格	形式区分	床版形式	支柱（受桁）間隔	幅員	作業内容区分	単位	数量	備考																																																																																																																
組立歩道組立据付	×	○	○	○	○	○	○	m																																																																																																																		
組立歩道（材料費）	○	×	×	×	×	×	×	m																																																																																																																		
項目	区分	属性情報																																																																																																																								
		3次元モデル	規格	形式区分	床版形式	支柱（受桁）間隔	幅員	作業区分	単位	数量	備考																																																																																																															
組立歩道組立据付		B	×	○	○	○	○	○	m																																																																																																																	
組立歩道（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m																																																																																																																	
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																																							

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																							
現	行	改 正	備 考																																							
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>(4) 支柱(受桁)間隔による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>支柱(受桁)間隔</p> <ul style="list-style-type: none"> 3m 5m 無し <p>(5) 幅員による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>幅員</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.0m 1.5m 2.0m 2.5m <p>(6) 作業内容区分は、以下のとおりとする。</p> <p>作業内容区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 支柱受桁、床版据付、高欄据付 支柱受桁、床版据付 高欄据付 <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>関連数量算出項目</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)11.4足場工」参照</td> </tr> <tr> <td>支柱等基礎</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>現場打床版コンクリート打設等</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 足場は原則として高さ(地盤面より床版までの高さ)が2m以上の場合に計上する。足場は単管傾斜足場を標準とする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p> <p>5. 参考図</p> <div style="text-align: center;"> <p>(参考図)</p> </div> <p style="text-align: center;">3-2-39</p> </div>		項目	単位	数量	備考	足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照	支柱等基礎	m ³		必要な場合別途計上	現場打床版コンクリート打設等	m ³		必要な場合別途計上	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>(3) 床版形式による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>床版形式</p> <ul style="list-style-type: none"> プレキャストコンクリート製 現場打 </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>関連数量算出項目</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td>B</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)11.4足場工」参照</td> </tr> <tr> <td>支柱等基礎</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>現場打床版コンクリート打設等</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(注) 足場は原則として高さ(地盤面より床版までの高さ)が2m以上の場合に計上する。足場は単管傾斜足場を標準とする。</p> <p style="text-align: center;">3-2-41</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	項目	3次元 モデル	属性情報			単位	数量	備考	足場	B	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照	支柱等基礎	C	m ³		必要な場合別途計上	現場打床版コンクリート打設等	C	m ³		必要な場合別途計上	記載の追加
項目	単位	数量	備考																																							
足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照																																							
支柱等基礎	m ³		必要な場合別途計上																																							
現場打床版コンクリート打設等	m ³		必要な場合別途計上																																							
項目	3次元 モデル	属性情報																																								
		単位	数量	備考																																						
足場	B	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照																																						
支柱等基礎	C	m ³		必要な場合別途計上																																						
現場打床版コンクリート打設等	C	m ³		必要な場合別途計上																																						
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																																							

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																												
現 行		改 正																																																																												
<p>2.8 道路植栽工</p> <p>2.8.1 道路植栽工</p> <p>1. 適用</p> <p>道路の植樹に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>植樹を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、樹木の種類、支柱の種類、施工場所とする。</p> <p>(1) 数量算出項目区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>樹木種類</th> <th>支柱種類</th> <th>施工場所</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植 樹</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 柱</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本・m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地被類植付</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>鉢</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 単位の「本」は樹木1本当たりとし、単位の「m」は、支柱設置延長とする。 2. 高木とは樹高3m以上、中木とは樹高60cm以上3m未満、低木とは樹高60cm未満とする。また、幹周とは根鉢の上端から高さ1.2mでの幹の周囲長とし幹が枝分かれている場合の幹周は各々の総和の70%とする。</p> <p>(2) 施工場所区分 植樹を施工場所ごとに区分して算出する。 なお、施工場所の定義は、以下のとおりとする。 ①供用区間：車両、自転車、歩行者等一般交通の影響を受ける現道上の施工場所で、下記のとおり区分する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>歩 道</th> <th>歩道又は、車道と歩道間に設置した植栽地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交 通 島</td> <td>交差点において車両を導流するための導流島及び歩行者の安全を確保するために設けられた安全島及び植栽地</td> </tr> <tr> <td>中央分離帯</td> <td>交通の分流制御を目的とした中央分離帯等に設けられた植栽地</td> </tr> <tr> <td>環境緑地帯</td> <td>幹線道路の沿道の生活環境を保全するための環境施設帯（駐車帯・道の駅等）に設けられた植栽地</td> </tr> </tbody> </table> <p>②未供用区間：バイパス施工中等で、車両、自転車、歩行者等一般交通の影響を受けない施工場所 (注) 現道上であっても、一般交通の影響をほとんど受けずに作業実施可能な施工場所（通行止区間等）は未供用区間とする。</p> <p>3-2-40</p>		区分 項目	樹木種類	支柱種類	施工場所	単位	数 量	備 考	植 樹	○	×	○	本			支 柱	×	○	○	本・m			地被類植付	×	×	○	鉢			歩 道	歩道又は、車道と歩道間に設置した植栽地	交 通 島	交差点において車両を導流するための導流島及び歩行者の安全を確保するために設けられた安全島及び植栽地	中央分離帯	交通の分流制御を目的とした中央分離帯等に設けられた植栽地	環境緑地帯	幹線道路の沿道の生活環境を保全するための環境施設帯（駐車帯・道の駅等）に設けられた植栽地	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>樹木種類</th> <th>支柱種類</th> <th>施工場所</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植 樹</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 柱</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本・m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地被類植付</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>鉢</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 単位の「本」は樹木1本当たりとし、単位の「m」は、支柱設置延長とする。 2. 高木とは樹高3m以上、中木とは樹高60cm以上3m未満、低木とは樹高60cm未満とする。また、幹周とは根鉢の上端から高さ1.2mでの幹の周囲長とし幹が枝分かれている場合の幹周は各々の総和の70%とする。</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p> <p>3-2-42</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報						樹木種類	支柱種類	施工場所	単位	数 量	備 考	植 樹	B	○	×	○	本			支 柱	B	×	○	○	本・m			地被類植付	B	×	×	○	鉢			備考
区分 項目	樹木種類	支柱種類	施工場所	単位	数 量	備 考																																																																								
植 樹	○	×	○	本																																																																										
支 柱	×	○	○	本・m																																																																										
地被類植付	×	×	○	鉢																																																																										
歩 道	歩道又は、車道と歩道間に設置した植栽地																																																																													
交 通 島	交差点において車両を導流するための導流島及び歩行者の安全を確保するために設けられた安全島及び植栽地																																																																													
中央分離帯	交通の分流制御を目的とした中央分離帯等に設けられた植栽地																																																																													
環境緑地帯	幹線道路の沿道の生活環境を保全するための環境施設帯（駐車帯・道の駅等）に設けられた植栽地																																																																													
区分 項目	3次元 モデル	属性情報																																																																												
		樹木種類	支柱種類	施工場所	単位	数 量	備 考																																																																							
植 樹	B	○	×	○	本																																																																									
支 柱	B	×	○	○	本・m																																																																									
地被類植付	B	×	×	○	鉢																																																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																											

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																											
現 行	改 正		備 考																										
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>(3) 樹木の種類区分 項目別の樹木の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="439 653 905 1020"> <tr> <td rowspan="2">植 樹</td> <td>低 木</td> <td>樹高60cm未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中 木</td> <td>樹高60cm以上100cm未満</td> </tr> <tr> <td>樹高100cm以上200cm未満</td> </tr> <tr> <td>樹高200cm以上300cm未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高 木</td> <td>幹周20cm未満</td> </tr> <tr> <td>幹周20cm以上40cm未満</td> </tr> <tr> <td>幹周40cm以上60cm未満</td> </tr> <tr> <td>幹周60cm以上90cm未満</td> </tr> </table> <p>注) 低木には、株物、一本立を含む。</p> <p>(4) 支柱の種類区分 項目別の支柱の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="439 1136 1029 1682"> <tr> <td rowspan="5">支 柱</td> <td rowspan="5">中 木</td> <td>二脚鳥居 添木付 樹高250cm以上</td> </tr> <tr> <td>八ッ掛(竹) 樹高100cm以上</td> </tr> <tr> <td>添柱形(1本形・竹) 樹高100cm以上</td> </tr> <tr> <td>布掛(竹) 樹高100cm以上</td> </tr> <tr> <td>生垣形 樹高100cm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">高 木</td> <td>二脚鳥居 添木付 幹周30cm未満</td> </tr> <tr> <td>二脚鳥居 添木無 幹周30cm以上40cm未満</td> </tr> <tr> <td>三脚鳥居 幹周30cm以上60cm未満</td> </tr> <tr> <td>十字鳥居 幹周30cm以上</td> </tr> <tr> <td>二脚鳥居組合せ 幹周50cm以上</td> </tr> <tr> <td>八ッ掛 幹周40cm未満</td> </tr> <tr> <td>八ッ掛 幹周40cm以上</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">3-2-41</p>	植 樹	低 木	樹高60cm未満	中 木	樹高60cm以上100cm未満	樹高100cm以上200cm未満	樹高200cm以上300cm未満	高 木	幹周20cm未満	幹周20cm以上40cm未満	幹周40cm以上60cm未満	幹周60cm以上90cm未満	支 柱	中 木	二脚鳥居 添木付 樹高250cm以上	八ッ掛(竹) 樹高100cm以上	添柱形(1本形・竹) 樹高100cm以上	布掛(竹) 樹高100cm以上	生垣形 樹高100cm以上	高 木	二脚鳥居 添木付 幹周30cm未満	二脚鳥居 添木無 幹周30cm以上40cm未満	三脚鳥居 幹周30cm以上60cm未満	十字鳥居 幹周30cm以上	二脚鳥居組合せ 幹周50cm以上	八ッ掛 幹周40cm未満	八ッ掛 幹周40cm以上	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>②未供用区間：バイパス施工中等で、車両、自転車、歩行者等一般交通の影響を受けない 施工場所 (注) 現道上であっても、一般交通の影響をほとんど受けずに作業実施可能な施工場所(通 行止区間等)は未供用区間とする。</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">3-2-43</p>	
植 樹		低 木	樹高60cm未満																										
	中 木	樹高60cm以上100cm未満																											
樹高100cm以上200cm未満																													
樹高200cm以上300cm未満																													
高 木	幹周20cm未満																												
	幹周20cm以上40cm未満																												
	幹周40cm以上60cm未満																												
	幹周60cm以上90cm未満																												
支 柱	中 木	二脚鳥居 添木付 樹高250cm以上																											
		八ッ掛(竹) 樹高100cm以上																											
		添柱形(1本形・竹) 樹高100cm以上																											
		布掛(竹) 樹高100cm以上																											
		生垣形 樹高100cm以上																											
高 木	二脚鳥居 添木付 幹周30cm未満																												
	二脚鳥居 添木無 幹周30cm以上40cm未満																												
	三脚鳥居 幹周30cm以上60cm未満																												
	十字鳥居 幹周30cm以上																												
	二脚鳥居組合せ 幹周50cm以上																												
	八ッ掛 幹周40cm未満																												
	八ッ掛 幹周40cm以上																												
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																										

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																
現行		改正																																																																
<p>3章 道路維持修繕工</p> <p>3.1 路面切削工</p> <p>1. 適用</p> <p>路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>切削面積、平均切削深、切削量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工区分、段差すりつけの撤去作業、DID区間の有無、運搬距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工区分</th> <th>段差すりつけの撤去作業</th> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路面切削</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>搬運 (路面切削)</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工区分：平均切削深さ区分 施工区分：平均切削深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>施工区分： 平均切削深さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 全面切削 6cm 以下 (4000m²以下) — 全面切削 6cm 以下 (4000m²を超え) — 全面切削 6cm を超え 12cm 以下 — 帯状切削 3cm 以下 <p>3-3-2</p>		項目	区分	施工区分	段差すりつけの撤去作業	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考	路面切削		○	○	×	×	m ²			搬運 (路面切削)		×	×	○	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>施工区分</th> <th>段差すりつけの撤去作業</th> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路面切削</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>搬運 (路面切削)</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報					単位	数量	備考	施工区分	段差すりつけの撤去作業	DID区間の有無	運搬距離	路面切削		B	○	○	×	×	m ²			搬運 (路面切削)		B	×	×	○	○	m ³			備考
項目	区分	施工区分	段差すりつけの撤去作業	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考																																																										
路面切削		○	○	×	×	m ²																																																												
搬運 (路面切削)		×	×	○	○	m ³																																																												
項目	区分	3次元モデル	属性情報					単位	数量	備考																																																								
			施工区分	段差すりつけの撤去作業	DID区間の有無	運搬距離																																																												
路面切削		B	○	○	×	×	m ²																																																											
搬運 (路面切削)		B	×	×	○	○	m ³																																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																															

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																														
現 行		改 正																																																														
		備 考																																																														
<p>3.2 舗装版破砕工</p> <p>1. 適用 機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版、または人力によるアスファルト舗装版の破砕作業及び掘削・積込の作業に適用する。 ただし、急速施工、橋梁舗装版撤去の場合、人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込の場合、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において全体厚が45cmを超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が50%を超える場合を除く。</p> <p>2. 数量算出項目 舗装版破砕面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、舗装版種類、舗装版破砕厚さとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">舗装版種類</th> <th colspan="2">舗装版破砕厚さ</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>アスファルト舗装</th> <th>コンクリート舗装</th> <th>アスファルト舗装</th> <th>コンクリート舗装</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版破砕面積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>注) 3</td> </tr> <tr> <td>舗装版破砕量</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>(t) m³</td> <td>()</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 舗装版破砕量は、舗装版破砕前の体積として算出する。 2. アスファルト殻、コンクリート殻の運搬が必要な場合は、運搬距離 (km) を算出する。 殻運搬は「第I編 (共通編) 10.5 殻運搬」により別途算出する。 3. コンクリート+アスファルト (カバー) 舗装版の場合は、備考欄に全体厚を明記する。</p> <p>(2) 舗装版種類区分 ① アスファルト舗装版 ② コンクリート舗装版 ③ コンクリート+アスファルト (カバー) 舗装版</p> <p>(3) 舗装版破砕厚さ区分 アスファルト舗装版 (障害物無し 騒音振動対策不要) ① 10cm以下 ② 10cmを超え15cm以下 ③ 15cmを超え40cm以下 アスファルト舗装版 (障害物無し 騒音振動対策必要) ① 15cm以下 ② 15cmを超え35cm以下</p>		項目	区分	舗装版種類		舗装版破砕厚さ		単位	数量	備考	アスファルト舗装	コンクリート舗装	アスファルト舗装	コンクリート舗装	舗装版破砕面積		○	○	○	○	m ²		注) 3	舗装版破砕量		○	○	○	○	(t) m ³	()		<p>1. 適用 機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版、または人力によるアスファルト舗装版の破砕作業及び掘削・積込の作業に適用する。 ただし、急速施工（舗装版とりこわしから舗装までを1日で完了する施工）、機械による橋梁舗装版撤去の場合、人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込の場合、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において全体厚が45cmを超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が50%を超える場合を除く。</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">項目</th> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">舗装版種類</th> <th colspan="2">舗装版破砕厚さ</th> <th rowspan="3">単位</th> <th rowspan="3">数量</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>アスファルト舗装</th> <th>コンクリート舗装</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版破砕面積</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>注) 3</td> </tr> <tr> <td>舗装版破砕量</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>(t) m³</td> <td>()</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 1. 舗装版破砕量は、舗装版破砕前の体積として算出する。 2. アスファルト殻、コンクリート殻の運搬が必要な場合は、運搬距離 (km) を算出する。 殻運搬は「第I編 (共通編) 10.5 殻運搬」により別途算出する。 3. コンクリート+アスファルト (カバー) 舗装版の場合は、備考欄に全体厚を明記する。</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">次頁へ移動</p>		項目	区分	舗装版種類	舗装版破砕厚さ		単位	数量	備考	属性情報		アスファルト舗装	コンクリート舗装	舗装版破砕面積		B	○	○	m ²		注) 3	舗装版破砕量		B	○	○	(t) m ³	()		記載の追加	記載の追加
項目	区分			舗装版種類		舗装版破砕厚さ					単位	数量	備考																																																			
		アスファルト舗装	コンクリート舗装	アスファルト舗装	コンクリート舗装																																																											
舗装版破砕面積		○	○	○	○	m ²		注) 3																																																								
舗装版破砕量		○	○	○	○	(t) m ³	()																																																									
項目	区分	舗装版種類	舗装版破砕厚さ		単位	数量	備考																																																									
			属性情報																																																													
			アスファルト舗装	コンクリート舗装																																																												
舗装版破砕面積		B	○	○	m ²		注) 3																																																									
舗装版破砕量		B	○	○	(t) m ³	()																																																										
積算上の注意事項	3-3-4		(控え頁) 1/2																																																													

改正理由	一部改正	改正 現行	
現行	改正		備考
<p>アスファルト舗装版（障害物有り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 4cm以下 ② 4cmを超え10cm以下 ③ 10cmを超え15cm以下 ④ 15cmを超え30cm以下 <p>コンクリート舗装版（障害物無し 騒音振動対策不要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 10cm以下 ② 10cmを超え15cm以下 ③ 15cmを超え35cm以下 <p>コンクリート舗装版（障害物無し 騒音振動対策必要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 15cm以下 ② 15cmを超え35cm以下 <p>コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版</p> <p>全体厚</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 15cm以上35cm以下 <p>アスファルト（カバー）舗装</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 15cm以下 ② 15cmを超え22.5cm以下 	<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>(3) 舗装版破碎厚さ区分</p> <p>アスファルト舗装版（障害物無し 騒音振動対策不要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 10cm以下 ② 10cmを超え15cm以下 ③ 15cmを超え40cm以下 <p>アスファルト舗装版（障害物無し 騒音振動対策必要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 15cm以下 ② 15cmを超え35cm以下 </div> <p>現行どおり</p> <p>コンクリート舗装版（障害物無し 騒音振動対策不要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 10cm以下 ② 10cmを超え15cm以下 ③ 15cmを超え35cm以下 <p>現行どおり</p>		<p>記載の削除、修正</p> <p>記載の削除、修正</p>
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>2/2</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.3 舗装版切断工

1. 適用
 コンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の切断工に適用する。
 ただし、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、舗装版厚のうちアスファルト舗装版が占める割合が50%を超える場合を除く。

2. 数量算出項目
 舗装版切断の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分
 区分は、舗装版種別、舗装版切断厚さとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	舗装版切断厚さ (cm)		数量 (m)	備考
		全体厚	全体厚の内コンクリート舗装版厚 注)2		
舗装版切断	○	t=0cm以下	tc=0cm以下	t= (tc=)	L=
				{	{
		t=0cm以下	tc=0cmを超え tc=0cm以下	t= (tc=)	L=
				{	{
計				L=	
合計				ΣL =	m

注) 1. 区分ごとに上表を集計する。
 2. コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、必要となる。

(2) 舗装版種別区分及び厚さ区分
 ① アスファルト舗装版のみ切断
 1) 15cm以下
 2) 15cmを超え30cm以下
 3) 30cmを超え40cm以下
 ② コンクリート舗装版のみ切断
 1) 15cm以下
 2) 15cmを超え30cm以下

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表



項目	区分	3次元モデル	舗装版種別	属性情報		数量 (m)	備考
				全体厚	全体厚の内コンクリート舗装版厚 注)2		
舗装版切断	B	○	○	t=0cm以下	tc=0cm以下	t= (tc=)	L=
						{	{
				t=0cm以下	tc=0cmを超え tc=0cm以下	t= (tc=)	L=
						{	{
計				L=			
合計				ΣL =	m		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 区分ごとに上表を集計する。
 2. コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、必要となる。

次頁へ移動

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改	正
<p>③ コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の切断 全体厚</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 15cm 以下 2) 15cm を超え 30cm 以下 3) 30cm を超え 40cm 以下 <p>全体厚の内コンクリート舗装厚</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 15cm 以下 2) 15cm を超え 30cm 以下 	<p>前頁より移動</p> 	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(2) 舗装版種別区分及び厚さ区分</p> <p>① アスファルト舗装版のみ切断</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 15cm 以下 2) 15cm を超え 30cm 以下 3) 30cm を超え 40cm 以下 <p>② コンクリート舗装版のみ切断</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 15cm 以下 2) 15cm を超え 30cm 以下 </div>	<p>現行どおり</p> 
3-3-7			
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

3.4 道路打換え工

1. 適用

維持・修繕アスファルト舗装工の内、舗装版とりこわしから舗設までを急速施工する日当り平均作業量が50㎡以上420㎡以下の現道打換え工事に適用する。
舗装版とは、コンクリート層及びアスファルト層を総称している。

2. 数量算出項目

舗装版とりこわし面積、厚さ、とりこわし量及び舗装工の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、打換構成、打換種類、打換面積、材料規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	打換構成	打換種類	打換面積	材料規格	単位	数量	備考
舗装版とりこわし面積					×	㎡		
舗装版とりこわし厚さ					×	cm		
舗装版とりこわし量					×	(t) ㎡		
表層					○	㎡		
中間層		○	○	○	○	㎡		
基層					○	㎡		
上層路盤					○	㎡		
下層路盤					○	㎡		
(舗装版+路盤+路床厚さ)					×	cm		
(路盤掘削土量)					×	㎡		
(路床掘削土量)					×	㎡		

注) 1. 舗装版とりこわし積込みと、路盤・路床の掘削積込みを同時に行う場合は、() 書き項目である舗装版+路盤+路床厚さ及び掘削土量を算出する。
2. カッター切断は、別途「第3編(道路編) 3. 3 舗装版切断工」により計上する。

(2) 打換構成区分
打換の舗装構成ごとに各数量を取りまとめる。

(3) 打換種類区分
打換種類による区分は、下記のとおりとする。
① 全層打換え (下層路盤又は路床まで打換える場合)
② 舗装版のみの打換え (舗装版のみ打換える場合)

3-3-8

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	属性情報						
		3次元モデル	打換構成	打換種類	打換面積	材料規格	単位	数量
舗装版とりこわし面積		B				×	㎡	
舗装版とりこわし厚さ		B				×	cm	
舗装版とりこわし量		B				×	(t) ㎡	
表層		B				○	㎡	
中間層		B	○	○	○	○	㎡	
基層		B				○	㎡	
上層路盤		B				○	㎡	
下層路盤		B				○	㎡	
(舗装版+路盤+路床厚さ)		B				×	cm	
(路盤掘削土量)		B				×	㎡	
(路床掘削土量)		B				×	㎡	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 1. 舗装版とりこわし積込みと、路盤・路床の掘削積込みを同時に行う場合は、() 書き項目である舗装版+路盤+路床厚さ及び掘削土量を算出する。
2. カッター切断は、別途「第3編(道路編) 3. 3 舗装版切断工」により計上する。

現行どおり

次頁へ移動

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改	正
<p>(4) 打換面積区分 打換面積による区分は、下記のとおりとする。 ① 幅員2.5mかつ作業延長20m以上 ② 幅員2.5mかつ作業延長20m未満</p> <p>(5) 材料規格区分 材料規格による区分は、表層～下層路盤の材料種類（密粒度As20・粗粒度As20等）及び厚さとする。</p> <p style="text-align: right;">3-3-9</p>	<p>前頁より移動</p>	<p>(3) 打換種類区分 打換種類による区分は、下記のとおりとする。 ① 全層打換え（下層路盤又は路床まで打換える場合） ② 舗装版のみの打換え（舗装版のみ打換える場合）</p>	
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																													
現行		改正																													
<p>3.5 路上路盤再生工</p> <p>1. 適用</p> <p>スタビライザによる路上混合作業で混合深さ40cm以下の再生路盤工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>路上路盤再生の施工面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路上路盤再生</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 路上路盤再生の施工面積を混合深さ、添加剤及び混合用乳剤の種類、使用量ごとに区分して算出する。</p> <p>3-3-10</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	路上路盤再生		○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路上路盤再生</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p> <p>記載の追加</p>		項目	3次元 モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	路上路盤再生	B	○	m ²		
項目	区分	規格	単位	数量	備考																										
路上路盤再生		○	m ²																												
項目	3次元 モデル	属性情報																													
		規格	単位	数量	備考																										
路上路盤再生	B	○	m ²																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																												

改正理由	一部改正	改正 現行																																			
現 行		改 正																																			
備 考																																					
<p>3.6 欠損部補修工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道路維持における加熱合材（日施工量 20t 未満）及び常温合材（日施工量 0.3t 未満）による舗装面の欠損部補修作業に適用する。 ただし、舗装版等の取り壊し、残土処理作業は含まない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 欠損部補修の質量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、規格とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>日施工量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加熱合材補修工</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>常温合材補修工</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 路面補修の面積を使用する材料ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 加熱合材補修工は、日施工量により区分する。</p> <div style="margin-left: 20px;"> 日施工量 ———— 1t未満 ——— 1t以上2t未満 ——— 2t以上5t未満 ——— 5t以上20t未満 </div> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 欠損部補修の内訳は、下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルト合材</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	日施工量	単位	数量	備考	加熱合材補修工		○	○	t			常温合材補修工		○	×	t			項目	区分	規格	単位	数量	備考	アスファルト合材		○	t			<p>現行どおり</p> <p>→</p> <p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	日施工量	単位	数量	備考																															
加熱合材補修工		○	○	t																																	
常温合材補修工		○	×	t																																	
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																
アスファルト合材		○	t																																		
積算上の注意事項		(控え頁) 1/1																																			

改正理由	一部改正	改正 現行																																																
現行		改正																																																
<p>3.7 アスファルト注土工</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート舗装版およびオーバーレイされたコンクリート舗装版のアスファルト注土工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>削孔数、注入材量、注入面積を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔</td> <td>φ50mm</td> <td>穴</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>アスファルト</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入面積</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	規格・仕様	単位	数量	備考	削孔	φ50mm	穴			注入材	アスファルト	t			注入面積		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔</td> <td>B</td> <td>φ50mm</td> <td>穴</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>B</td> <td>アスファルト</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入面積</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p>	項目	3次元モデル	属性情報			備考	規格・仕様	単位	数量	削孔	B	φ50mm	穴			注入材	B	アスファルト	t			注入面積	B		m ²			備考
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																														
削孔	φ50mm	穴																																																
注入材	アスファルト	t																																																
注入面積		m ²																																																
項目	3次元モデル	属性情報			備考																																													
		規格・仕様	単位	数量																																														
削孔	B	φ50mm	穴																																															
注入材	B	アスファルト	t																																															
注入面積	B		m ²																																															
3-3-12																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																															

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																					
現 行		改 正																																																																					
<p>3.8 舗装版クラック補修工</p> <p>1. 適用 コンクリート舗装版のクラックの補修及びコンクリート舗装版・アスファルト舗装版のクラック防止シート張に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 クラック補修、注入材（材料費）、クラック防止シート張、クラック防止シート（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラック補修</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>クラック防止シート張</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>クラック防止シート（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 注入材（材料費）は、クラック補修延長（m）当りの質量（kg）も算出する。なお、標準的な注入材の使用量は次式による。</p> $G = [g \times W \times D \times (1 + \text{割増率})] / 10$ <p>G：補修延長m当り数量（kg） g：注入材の比重（kg/l） W：補修幅（cm） D：補修深さ（cm） 割増率は+0.23とする。</p> <p>(2) クラック防止シート（材料費）は、諸雑費率を考慮した数量を算出する。なお、諸雑費率は+0.11とする。</p>		項 目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	クラック補修		×	m			注入材（材料費）		○	m			クラック防止シート張		×	m			クラック防止シート（材料費）		○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラック補修</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材（材料費）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>クラック防止シート張</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>クラック防止シート（材料費）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p>		項 目	区 分	3次元 モデル	属性情報			備 考	規 格	単 位	数 量	クラック補修		B	×	m			注入材（材料費）		B	○	m			クラック防止シート張		B	×	m			クラック防止シート（材料費）		B	○	m		
項 目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																		
クラック補修		×	m																																																																				
注入材（材料費）		○	m																																																																				
クラック防止シート張		×	m																																																																				
クラック防止シート（材料費）		○	m																																																																				
項 目	区 分	3次元 モデル	属性情報			備 考																																																																	
			規 格	単 位	数 量																																																																		
クラック補修		B	×	m																																																																			
注入材（材料費）		B	○	m																																																																			
クラック防止シート張		B	×	m																																																																			
クラック防止シート（材料費）		B	○	m																																																																			
積算上の注意事項	3-3-13	記載の追加																																																																					
		(控え頁) 1/1																																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																																
現 行		改 正																																																
備 考																																																		
<p>3.9 道路附属構造物塗替工</p> <p>1. 適用 道路標識柱、道路照明柱、防護柵等の道路附属構造物の現地塗替作業に適用するものであり、その内容は3種ケレン及び下塗、中塗、上塗の各作業である。 なお、橋梁（横断歩道橋を含む）については別途算出する。</p> <p>2. 数量算出項目 道路附属物塗替の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、塗装種別、構造物区分、ペイント100m²/回当り使用量、塗装回数、機械使用区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>塗装種別</th> <th>構造物区分</th> <th>ペイント100m²/回当り使用量</th> <th>塗装回数</th> <th>機械使用区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>素地調整</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>附属構造物塗替</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 素地調整作業の種別は、3種ケレンを標準とする。 2. 塗装作業の施工方法は、下塗、中塗、上塗とも刷毛塗りとする。</p> <p>(2) 対象構造物区分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>構造物名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポール類</td> <td>道路標識柱、道路照明柱等</td> </tr> <tr> <td>防護柵類</td> <td>ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等</td> </tr> <tr> <td>落石防止柵類</td> <td>防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 規格区分 道路附属物塗替の面積を塗料の種類と色ごとに区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ポール類は、下記の区分で算出する。</p> <table border="1"> <tr> <td>ポール類高さ</td> <td>4m未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4m以上10m未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10m以上12m以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12mを越えるもの</td> </tr> </table> <p>なお、ポール類の高さは、路面からの高さとする。</p>		項目	区分	塗装種別	構造物区分	ペイント100m ² /回当り使用量	塗装回数	機械使用区分	単位	数量	備考	素地調整			○			○	m ²			附属構造物塗替		○	○	○	○	○	m ²			名称	構造物名	ポール類	道路標識柱、道路照明柱等	防護柵類	ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等	落石防止柵類	防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等	ポール類高さ	4m未満		4m以上10m未満		10m以上12m以下		12mを越えるもの	現行どおり		記載の追加
項目	区分	塗装種別	構造物区分	ペイント100m ² /回当り使用量	塗装回数	機械使用区分	単位	数量	備考																																									
素地調整			○			○	m ²																																											
附属構造物塗替		○	○	○	○	○	m ²																																											
名称	構造物名																																																	
ポール類	道路標識柱、道路照明柱等																																																	
防護柵類	ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等																																																	
落石防止柵類	防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等																																																	
ポール類高さ	4m未満																																																	
	4m以上10m未満																																																	
	10m以上12m以下																																																	
	12mを越えるもの																																																	
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="8">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>塗装種別</th> <th>構造物区分</th> <th>ペイント100m²/回当り使用量</th> <th>塗装回数</th> <th>機械使用区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>素地調整</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>附属構造物塗替</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>注) 1. 素地調整作業の種別は、3種ケレンを標準とする。 2. 塗装作業の施工方法は、下塗、中塗、上塗とも刷毛塗りとする。</p>		項目	区分	属性情報								3次元モデル	塗装種別	構造物区分	ペイント100m ² /回当り使用量	塗装回数	機械使用区分	単位	数量	備考	素地調整		B		○			○	m ²		附属構造物塗替		B	○	○	○	○	○	m ²		現行どおり									
項目	区分			属性情報																																														
		3次元モデル	塗装種別	構造物区分	ペイント100m ² /回当り使用量	塗装回数	機械使用区分	単位	数量	備考																																								
素地調整		B		○			○	m ²																																										
附属構造物塗替		B	○	○	○	○	○	m ²																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																															

改正理由	一部改正	改正 現行																																																						
現	行	改	正																																																					
<p>3.10 張紙防止塗装工</p> <p>1. 適用</p> <p>構造物への張紙を防止する塗装工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>張紙防止塗装、張紙防止塗装（材料費）の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、素地調整の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>素地調整の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>張紙防止塗装工</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>張紙防止塗装（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ケレン作業の種別と程度は「第3編（道路編）3.9道路付属構造物塗替工」によるものとする。</p> <p>(2) 張紙防止塗装工の素地調整の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td>素地調整の有無</td> <td>—</td> <td>無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└</td> <td>有り</td> </tr> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通工）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 張紙防止塗装（材料費）の塗料は、種類ごとに、1m²当りの使用量（kg）を算出する。</p> <p>(2) 複数層の塗装を行う場合は、素地調整無しで塗装の必要回数を算出するものとする。</p>		項目	区分	規格	素地調整の有無	単位	数量	備考	張紙防止塗装工		×	○	m ²			張紙防止塗装（材料費）		○	×	m ²			素地調整の有無	—	無し		└	有り	<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>素地調整の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>張紙防止塗装工</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>張紙防止塗装（材料費）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) ケレン作業の種別と程度は「第3編（道路編）3.9道路付属構造物塗替工」によるものとする。</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	素地調整の有無	単位	数量	備考	張紙防止塗装工		B	×	○	m ²		張紙防止塗装（材料費）		B	○	×	m ²		<p>備考</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	素地調整の有無	単位	数量	備考																																																		
張紙防止塗装工		×	○	m ²																																																				
張紙防止塗装（材料費）		○	×	m ²																																																				
素地調整の有無	—	無し																																																						
	└	有り																																																						
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																					
			規格	素地調整の有無	単位	数量	備考																																																	
張紙防止塗装工		B	×	○	m ²																																																			
張紙防止塗装（材料費）		B	○	×	m ²																																																			
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

3.11 道路除草工

1. 適用

現道及び道路予定地の除草・集草・積込運搬の作業に適用する。

2. 数量算出項目

除草、集草、積込運搬、機械除草（肩掛式）・集草・積込運搬、機械除草（肩掛式）・集草、機械除草（ハンドガイド式）・集草・積込運搬、機械除草（ハンドガイド式）・集草の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工場所、作業形態、飛び石防護の有無、運搬機械選定、ダンプトラック運搬距離、パッカー車運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工場所	作業形態	飛び石防護の有無	運搬機械選定	ダンプトラック運搬距離	パッカー車運搬距離	単位	数量	備考
除草		○	○	○	×	×	×	m ²		
集草		×	×	×	×	×	×	m ²		
積込運搬		×	×	×	○	○	○	m ²		
機械除草（肩掛式）・集草・積込運搬		○	×	○	○	○	○	m ²		
機械除草（肩掛式）・集草		○	×	○	×	×	×	m ²		
機械除草（ハンドガイド式）・集草・積込運搬		○	×	×	○	○	○	m ²		
機械除草（ハンドガイド式）・集草		○	×	×	×	×	×	m ²		

注) 1. 運搬機械はダンプトラックを標準とし、処分場等の受入側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合には、パッカー車を選定する。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とする。
3. DID 区間の有無に関係なく適用出来る。

3-3-16

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報						単位	数量	備考
			施工場所	作業形態	飛び石防護の有無	運搬機械選定	ダンプトラック運搬距離	パッカー車運搬距離			
除草		C	○	○	○	×	×	×	m ²		
集草		C	×	×	×	×	×	×	m ²		
積込運搬		C	×	×	×	○	○	○	m ²		
機械除草（肩掛式）・集草・積込運搬		C	○	×	○	○	○	○	m ²		
機械除草（肩掛式）・集草		C	○	×	○	×	×	×	m ²		
機械除草（ハンドガイド式）・集草・積込運搬		C	○	×	×	○	○	○	m ²		
機械除草（ハンドガイド式）・集草		C	○	×	×	×	×	×	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
注) 1. 運搬機械はダンプトラックを標準とし、処分場等の受入側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合には、パッカー車を選定する。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とする。
3. DID 区間の有無に関係なく適用出来る。

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																		
現	行	改	正																																	
<p>3.12 路肩整正工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">道路維持作業における路肩整正（人力による土はね、厚さ10 cmまで、幅1.0mまで）作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路肩整正（人力による土はね）の面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、DID区間の有無、運搬距離とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路肩整正 (人力による土はね)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。</p> <p>(2) 路肩整正（人力による土はね）のDID区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">DID区間の有無 — 無し — 有り</p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残土処分費</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 残土は、5m³/100m²とする。</p>		項目	区分		単位	数量	備考	DID区間の有無	運搬距離	路肩整正 (人力による土はね)	○	○	m ²			項目	単位	数量	備考	残土処分費	m ³		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p>										
項目	区分		単位	数量				備考																												
	DID区間の有無	運搬距離																																		
路肩整正 (人力による土はね)	○	○	m ²																																	
項目	単位	数量	備考																																	
残土処分費	m ³		必要な場合別途計上																																	
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路肩整正 (人力による土はね)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。</p> <p>(2) 路肩整正（人力による土はね）のDID区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">DID区間の有無 — 無し — 有り</p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残土処分費</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考	路肩整正 (人力による土はね)	○	○	m ²				項目	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	残土処分費	C	m ³		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p>
項目	区分				3次元モデル	属性情報																														
		DID区間の有無	運搬距離	単位		数量	備考																													
路肩整正 (人力による土はね)	○	○	m ²																																	
項目	3次元モデル	属性情報																																		
		単位	数量	備考																																
残土処分費	C	m ³		必要な場合別途計上																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																	

改正理由	一部改正	改正 現行																																				
現 行		改 正																																				
<p>3.13 道路清掃工</p> <p>3.13.1 路面清掃工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">車道、路肩部、歩道、横断歩道橋、地下道、中央分離帯の道路清掃作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路面清掃の延長、または面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、作業区分、施工場所、塵埃量とする。</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>作業区分</th> <th>施工場所</th> <th>塵埃量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路面清掃 (車道)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td>km</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃 (歩道)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td>km</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃 (路肩部・人力)</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>km</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃 (歩道等・人力)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 機械による作業区分は、以下のとおりとする。 ①塵埃量 0.1m³/km 未満 ②塵埃量 0.1m³/km 以上 0.2m³/km 未満 ③塵埃量 0.2m³/km 以上 1.0m³/km 未満</p> <p>人力による作業区分は、別表を標準とする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は、実作業延長と移動距離を算出する。 ただし、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が50m未満の場合は、清掃延長に含めて算出するものとする。</p> </div>		項 目	作業区分	施工場所	塵埃量	単位	数量	備考	路面清掃 (車道)	○			km		(機械)	路面清掃 (歩道)	○			km		(機械)	路面清掃 (路肩部・人力)			○	km		(人力)	路面清掃 (歩道等・人力)		○	○	m ²		(人力)	<p>現行どおり</p>	<p>現行どおり</p>
項 目	作業区分	施工場所	塵埃量	単位	数量	備考																																
路面清掃 (車道)	○			km		(機械)																																
路面清掃 (歩道)	○			km		(機械)																																
路面清掃 (路肩部・人力)			○	km		(人力)																																
路面清掃 (歩道等・人力)		○	○	m ²		(人力)																																
積算上の注意事項		(控え頁) 1/2																																				

記載の追加

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	3次元モデル	属 性 情 報				備考
		作業区分	施工場所	塵埃量	単位	
路面清掃 (車道)	c	○			km	(機械)
路面清掃 (歩道)	c	○			km	(機械)
路面清掃 (路肩部・人力)	c			○	km	(人力)
路面清掃 (歩道等・人力)	c		○	○	m ²	(人力)

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

改正理由	一部改正	改正 現行																																												
現行		改正																																												
<p>3.13.2 道路付属物清掃工</p> <p>1. 適用</p> <p>ガードレール、ガードパイプ、視線誘導標の清掃作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ガードレール等の清掃の延長などを算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガードレール清掃</td> <td>○</td> <td>km</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>ガードパイプ清掃</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>視線誘導標清掃</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分</p> <p>ガードレールの作業区分は以下のとおりとする。</p> <p>①支柱清掃なし ②支柱清掃あり</p> <p>視線誘導標の作業区分は支柱付とガードレール用及び頭部のみの2つとする</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は実作業延長と移動距離を算出する。 ただし、ガードレール清掃について、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が50m未満の場合は清掃延長に含めて算出するものとする。</p>		項目	作業区分	単位	数量	備考	ガードレール清掃	○	km		(機械)	ガードパイプ清掃	×	m		(人力)	視線誘導標清掃	○	本		(人力)	<p>3.13.2 道路付属物清掃工</p> <p>1. 適用</p> <p><u>ガードパイプ</u>、視線誘導標の清掃作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p><u>ガードパイプ</u>等の清掃の延長などを算出する。</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガードパイプ清掃</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>視線誘導標清掃</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>(2) 作業区分</p> <p>視線誘導標の作業区分は支柱付とガードレール用及び頭部のみの2つとする。</p> <p>現行どおり</p> <p>削除</p>		項目	3次元モデル	属性情報				作業区分	単位	数量	備考	ガードパイプ清掃	C	×	m		(人力)	視線誘導標清掃	C	○	本		(人力)	<p>記載の修正</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の削除、追加</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の削除</p>
項目	作業区分	単位	数量	備考																																										
ガードレール清掃	○	km		(機械)																																										
ガードパイプ清掃	×	m		(人力)																																										
視線誘導標清掃	○	本		(人力)																																										
項目	3次元モデル	属性情報																																												
		作業区分	単位	数量	備考																																									
ガードパイプ清掃	C	×	m		(人力)																																									
視線誘導標清掃	C	○	本		(人力)																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																																											

改正理由	一部改正	改正 現行																																																						
現 行	改 正	備 考																																																						
<p>3.14 排水施設清掃工</p> <p>3.14.1 側溝清掃工、管渠清掃工、集水樹清掃工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">管渠清掃、側溝清掃、集水樹清掃作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">側溝清掃、管渠清掃の延長、集水樹の清掃個数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、作業区分、泥土堆積厚、側溝蓋規格とする。</div>		<p>現行どおり</p>																																																						
<p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>作業区分</th> <th>泥土堆積厚</th> <th>側溝蓋規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管渠清掃</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>集水樹清掃</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">個</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>単独作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃 (人力清掃工)</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 管渠と、管渠と組合せの側溝清掃の区分は、以下による。</p> <p>管渠</p> <ul style="list-style-type: none"> — 管径φ200mm以上φ400mm未満 — 管径φ400mm以上φ800mm未満 — 管径φ800mm以上φ1000mm以下 <p>側溝</p> <ul style="list-style-type: none"> — 断面積 0.125m²未満 — 断面積 0.125m²以上 0.5m²未満 <p>堆積率</p> <ul style="list-style-type: none"> — 50%未満 — 50%以上 <p>(管渠清掃) 堆積率 (%) = 堆積土厚 / 管径 × 100 (側溝清掃) " " = 堆積土厚 / 側溝深さ × 100</p> <p>(3) 集水樹清掃の場合は、泥土堆積厚の区分は、以下による。</p> <p>集水樹</p> <ul style="list-style-type: none"> — 25cm未満 — 25cm以上 		項目	作業区分	泥土堆積厚	側溝蓋規格	単位	数量	備考	管渠清掃	○			m		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	○			m		組合せ作業 (機械)	集水樹清掃		○		個		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	○			m		単独作業 (機械)	側溝清掃 (人力清掃工)			○	m		(人力)	<p>現行どおり</p>												
項目	作業区分	泥土堆積厚	側溝蓋規格	単位	数量	備考																																																		
管渠清掃	○			m		組合せ作業 (機械)																																																		
側溝清掃	○			m		組合せ作業 (機械)																																																		
集水樹清掃		○		個		組合せ作業 (機械)																																																		
側溝清掃	○			m		単独作業 (機械)																																																		
側溝清掃 (人力清掃工)			○	m		(人力)																																																		
<p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>作業区分</th> <th>泥土堆積厚</th> <th>側溝蓋規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管渠清掃</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>集水樹清掃</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">個</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>単独作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃 (人力清掃工)</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; color: red;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p>		項目	3次元モデル	属性情報					備考	作業区分	泥土堆積厚	側溝蓋規格	単位	数量	管渠清掃	C	○			m		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	C	○			m		組合せ作業 (機械)	集水樹清掃	C		○		個		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	C	○			m		単独作業 (機械)	側溝清掃 (人力清掃工)	C			○	m		(人力)	<p>記載の追加</p>	
項目	3次元モデル			属性情報						備考																																														
		作業区分	泥土堆積厚	側溝蓋規格	単位	数量																																																		
管渠清掃	C	○			m		組合せ作業 (機械)																																																	
側溝清掃	C	○			m		組合せ作業 (機械)																																																	
集水樹清掃	C		○		個		組合せ作業 (機械)																																																	
側溝清掃	C	○			m		単独作業 (機械)																																																	
側溝清掃 (人力清掃工)	C			○	m		(人力)																																																	
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改 正	備 考
	<p>(4) 機械による単独の側溝清掃</p> <p style="margin-left: 20px;">蓋 ———— 有蓋 — 無蓋</p> <p>有蓋の場合は、下記の蓋質量により区分する。</p> <p>①蓋質量 40kg 未満 ②蓋質量 40kg 以上 80 kg 以下 ③蓋質量 80 kg を超え 120 kg 以下</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(5) 側溝蓋規格区分 側溝蓋規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">側溝蓋規格 ———— 無蓋 — 有蓋 コンクリート蓋 — 有蓋 鋼蓋</p> </div> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は、清掃延長(m)と移動距離(km)を算出する。 ただし、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が50m未満の場合は、清掃延長に含めて算出するものとする。</p> <p>(2) 機械による単独の側溝清掃の場合は、m当りの平均泥土量(m³/m)を算出する。</p> <p style="text-align: center;">3-3-24</p>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">→</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(5) 側溝蓋規格区分 側溝蓋規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">側溝蓋規格 ———— 無蓋 — 有蓋 コンクリート蓋 — 有蓋 鋼蓋 (ボルト締無) — 有蓋 鋼蓋 (ボルト締有)</p>	記載の追加
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3

改正理由	一部改正	改正 現行																																	
現	行	改	正																																
<p>3. 14. 2 集水樹清掃工(単独作業)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集水樹及び街渠樹の清掃作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集水樹・街渠樹清掃の箇所数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、蓋の有無とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>蓋の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集水樹清掃</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>集水樹清掃</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>街渠樹清掃</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 蓋の有無区分 集水樹、街渠樹の箇所数を蓋の有無で区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は移動距離(km)を算出する。</p> <p>(2) 機械による清掃の場合は、泥土堆積厚の区分は以下を標準とする。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>泥土堆積厚</td> <td>┌ 20cm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└ 20cm以上</td> </tr> </table> <p>(3) 人力による清掃の場合は、土砂厚の区分は以下を標準とする。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>土砂厚</td> <td>┌ 25cm未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└ 25cm以上</td> </tr> </table>		項目	区分	蓋の有無	単位	数量	備考	集水樹清掃		○	箇所		(機械)	集水樹清掃		○	箇所		(人力)	街渠樹清掃		○	箇所		(人力)	泥土堆積厚	┌ 20cm未満		└ 20cm以上	土砂厚	┌ 25cm未満		└ 25cm以上	<p>現行どおり</p> <p>→</p> <p>現行どおり</p>	<p>記載の追加</p>
項目	区分	蓋の有無	単位	数量	備考																														
集水樹清掃		○	箇所		(機械)																														
集水樹清掃		○	箇所		(人力)																														
街渠樹清掃		○	箇所		(人力)																														
泥土堆積厚	┌ 20cm未満																																		
	└ 20cm以上																																		
土砂厚	┌ 25cm未満																																		
	└ 25cm以上																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3																																

改正理由	一部改正	改正 現行																										
現 行		改 正																										
<p>3.15 トンネル清掃工</p> <p>1. 適用</p> <p>トンネル清掃車によるトンネル清掃作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>トンネル清掃の延長を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>清掃回数</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トンネル清掃</td> <td>○</td> <td>km</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) トンネル清掃は施工延長及び移動距離(km)を算出する。 施工延長は、清掃を実施するトンネルの総延長(L)とする。</p> <p>(2) 清掃回数(N) 清掃回数は、次式のとおりとする。</p> $N = N^{\text{左}} + N^{\text{右}}$ <p>$N^{\text{左}}$: 左側清掃壁面(m) ÷ (ブラシ幅-0.1) (少数1位切り上げ) $N^{\text{右}}$: 右側清掃壁面(m) ÷ (ブラシ幅-0.1) (少数1位切り上げ)</p> <p>(3) 清掃作業延長(L1) 清掃作業延長は、次式のとおりとする。</p> $L1 = L \times N$ <p>L : トンネル総延長 N : 清掃回数</p> <p>3-3-26</p>		項 目	清掃回数	単 位	数 量	備 考	トンネル清掃	○	km			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>清掃回数</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トンネル清掃</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>km</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p>	項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			備 考	清掃回数	単 位	数 量	トンネル清掃	C	○	km			備考 記載の追加
項 目	清掃回数	単 位	数 量	備 考																								
トンネル清掃	○	km																										
項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			備 考																							
		清掃回数	単 位	数 量																								
トンネル清掃	C	○	km																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																									

改正理由	一部改正	改正 現行																																		
現 行		改 正																																		
<p>3.16 トンネル照明器具清掃工</p> <p>1. 適用</p> <p>トンネル照明器具の清掃作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>トンネル照明器具の延長、灯数を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トンネル照明器具清掃</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>トンネル照明器具清掃</td> <td></td> <td>灯</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は表面清掃のみ。</p> <p>(2) 人力による清掃の場合は、区分は以下とする。</p> <p>照明器具 ———— 表面清掃のみ └─── 表面及び内面清掃</p> <p>3-3-27</p>		項目	区分	単位	数量	備考	トンネル照明器具清掃		m		(機械)	トンネル照明器具清掃		灯		(人力)	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トンネル照明器具清掃</td> <td>C</td> <td>m</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>トンネル照明器具清掃</td> <td>C</td> <td>灯</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	トンネル照明器具清掃	C	m		(機械)	トンネル照明器具清掃	C	灯		(人力)
項目	区分	単位	数量	備考																																
トンネル照明器具清掃		m		(機械)																																
トンネル照明器具清掃		灯		(人力)																																
項目	3次元モデル	属性情報																																		
		単位	数量	備考																																
トンネル照明器具清掃	C	m		(機械)																																
トンネル照明器具清掃	C	灯		(人力)																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																	

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																													
現 行		改 正																																																													
<p>3.17 トンネル漏水対策工</p> <p>1. 適用 既設道路トンネルの漏水対策のうち導水工法に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 面導水、面導水（材料費）、線導水、線導水（材料費）の数量を算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面導水</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>面導水（材料費）</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>線導水</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>線導水（材料費）</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p>		項 目	規格	単位	数量	備考	面導水	×	m ²			面導水（材料費）	○	m ²			線導水	×	m			線導水（材料費）	○	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面導水</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>面導水（材料費）</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>線導水</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>線導水（材料費）</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p>		項 目	3次元 モデル	属 性 情 報				規格	単位	数量	備考	面導水	C	×	m ²			面導水（材料費）	C	○	m ²			線導水	C	×	m			線導水（材料費）	C	○	m			備考
項 目	規格	単位	数量	備考																																																											
面導水	×	m ²																																																													
面導水（材料費）	○	m ²																																																													
線導水	×	m																																																													
線導水（材料費）	○	m																																																													
項 目	3次元 モデル	属 性 情 報																																																													
		規格	単位	数量	備考																																																										
面導水	C	×	m ²																																																												
面導水（材料費）	C	○	m ²																																																												
線導水	C	×	m																																																												
線導水（材料費）	C	○	m																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																												

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.18 植栽維持工

3.18.1 樹木・芝生管理工

1. 適用

道路の植樹維持（施肥、除草等）に適用する。

2. 数量算出項目

植樹維持を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、維持の種類、樹木種類、支柱種類、施工場所とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	樹木種類	支柱種類	施工場所	単 位	数 量	備 考
せん定	○	×	○	○	本, m ²		
支柱撤去	×	○	○	○	本, m		
支柱補修	×	○	×	×	本, m		
施 肥	○	×	○	○	本, m ²		
抜根除草	○	×	○	○	m ²		
芝 刈	×	×	○	○	m ²		
灌 水	×	×	○	○	m ²		
防 除	○	×	○	○	本, m ²		
移 植	○	×	○	○	本		
補 植	○	×	×	×	本		

注) 1. 単位の「本」は樹木1本当たりとし、「m」は支柱撤去・補修延長、また「m²」は植地面積とする。
 なお、せん定の寄植せん定（中木）は刈り込み後面積（表面積）とし、防除の寄植（中木）は表面積とする。
 2. 高木とは樹高3m以上、中木とは樹高60cm以上3m未満、低木とは樹高60cm未満とする。
 また、幹周とは根鉢の上端から高さ1.2mでの幹の周囲長とし、幹が枝分かれている場合の幹周は各々の総和の70%とする。
 3. 支柱の全取替の場合は、支柱撤去のほか「第3編（道路編）第2章 道路植栽工」により、支柱の設置数量を算出すること。
 4. 移植において、掘取部に埋戻し不足土が生じた場合は、別途必要量を算出すること。
 尚、樹木運搬において運搬距離30kmを超える場合は別途数量を算出すること。

3-3-29

現行どおり

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目	3次元モデル	属性情報					
		樹木種類	支柱種類	施工場所	単 位	数 量	備 考
せん定	C	○	×	○	本, m ²		
支柱撤去	C	×	○	○	本, m		
支柱補修	C	×	○	×	本, m		
施 肥	C	○	×	○	本, m ²		
抜根除草	C	○	×	○	m ²		
芝 刈	C	×	×	○	m ²		
灌 水	C	×	×	○	m ²		
防 除	C	○	×	○	本, m ²		
移 植	C	○	×	○	本		
補 植	C	○	×	×	本		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 単位の「本」は樹木1本当たりとし、「m」は支柱撤去・補修延長、また「m²」は植地面積とする。
 なお、せん定の寄植せん定（中木）は刈り込み後面積（表面積）とし、防除の寄植（中木）は表面積とする。
 2. 高木とは樹高3m以上、中木とは樹高60cm以上3m未満、低木とは樹高60cm未満とする。
 また、幹周とは根鉢の上端から高さ1.2mでの幹の周囲長とし、幹が枝分かれている場合の幹周は各々の総和の70%とする。
 3. 支柱の全取替の場合は、支柱撤去のほか「第3編（道路編）第2章 道路植栽工」により、支柱の設置数量を算出すること。

次頁へ移動

記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 1/2
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行									
現 行	改 正		備 考								
<p style="text-align: center;">前頁より移動</p> <p>(2) 施工場所区分 樹木を施工場所ごとに区分して算出する。 なお、施工場所の定義は、以下のとおりとする。</p> <p>① 供用区間：車両、自転車、歩行者等一般交通の影響を受ける現道上の施工場所で、下記のとおり区分する。</p> <table border="1" data-bbox="457 793 1193 1024"> <tr> <td>歩 道</td> <td>歩道又は、車道と歩道の間に設置した植栽地</td> </tr> <tr> <td>交 通 島</td> <td>交差点において車両を導流するための導流島及び歩行者の安全を確保するために設けられた安全島及び植栽地</td> </tr> <tr> <td>中央分離帯</td> <td>交通の分流制御を目的とした中央分離帯等に設けられた植栽地</td> </tr> <tr> <td>環境緑地帯</td> <td>幹線道路の沿道の生活環境を保全するための環境施設帯（駐車帯・道の駅等）に設けられた植栽地</td> </tr> </table> <p>② 未供用区間：バイパス施工中等で、車両、自転車、歩行者等一般交通の影響を受けない施工場所</p> <p>注）現道上であっても、一般交通の影響をほとんど受けずに作業実施可能な施工場所（通行止区間等）は未供用区間とする。</p> <p style="text-align: center;">3-3-30</p>	歩 道	歩道又は、車道と歩道の間に設置した植栽地	交 通 島	交差点において車両を導流するための導流島及び歩行者の安全を確保するために設けられた安全島及び植栽地	中央分離帯	交通の分流制御を目的とした中央分離帯等に設けられた植栽地	環境緑地帯	幹線道路の沿道の生活環境を保全するための環境施設帯（駐車帯・道の駅等）に設けられた植栽地	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 20px;"> <p>4. 移植において、掘取部に埋戻し不足土が生じた場合は、別途必要量を算出すること。 尚、樹木運搬において運搬距離30kmを超える場合は別途数量を算出すること。</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>		
歩 道	歩道又は、車道と歩道の間に設置した植栽地										
交 通 島	交差点において車両を導流するための導流島及び歩行者の安全を確保するために設けられた安全島及び植栽地										
中央分離帯	交通の分流制御を目的とした中央分離帯等に設けられた植栽地										
環境緑地帯	幹線道路の沿道の生活環境を保全するための環境施設帯（駐車帯・道の駅等）に設けられた植栽地										
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2								

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.19 道路除雪工

1. 適用

道路除雪工に適用する。

2. 数量算出項目

除雪機械等の実作業時間等を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	規 格	単 位	数 量	備 考
除雪トラック	○	時間		
除雪グレーダ	○	時間		
除雪ドーザ	○	時間		
ロータリ除雪車	○	時間		
一車線積込除雪車	○	時間		
ダンプトラック	○	時間		
凍結防止剤散布車	○	時間		
小型除雪機	○	時間		
小型除雪車	○	時間		
氷盤破砕装置	○	時間		
砂散布機架装車	○	時間		
散水車	○	時間		
多目的作業車	○	時間		

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報			備 考
		規 格	単 位	数 量	
除雪トラック	C	○	時間		
除雪グレーダ	C	○	時間		
除雪ドーザ	C	○	時間		
ロータリ除雪車	C	○	時間		
一車線積込除雪車	C	○	時間		
ダンプトラック	C	○	時間		
凍結防止剤散布車	C	○	時間		
小型除雪機	C	○	時間		
小型除雪車	C	○	時間		
砂散布機架装車	C	○	時間		
散水車	C	○	時間		
多目的作業車	C	○	時間		
雪道巡回	C	○	回		4. (2)
凍結防止剤人力散布	C	×	t		4. (3)
スノーボード設置撤去	C	×	本		
待機補償	C	×	各種		別紙集計例 Ea, Fk, D1, D2

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

次頁より移動

3-3-33

記載の追加

記載の削除

改正理由	一部改正	改正 現行																	
現 行		改 正																	
<table border="1" style="border: 2px solid red; margin: 10px;"> <tr> <td>雪道巡回</td> <td>○</td> <td>回</td> <td>4. (2)</td> </tr> <tr> <td>凍結防止剤人力散布</td> <td>×</td> <td>t</td> <td>4. (3)</td> </tr> <tr> <td>スノーボード設置撤去</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>待機補償</td> <td>×</td> <td>各種</td> <td>別紙集計例 E₁, E₂, D₁, D₂</td> </tr> </table> <p>(2) 規格区分 各除雪機械等の規格は、機械種別とする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 各除雪機械等の作業量の算定は実作業時間とする。 (2) 雪道巡回では、巡回1回当りの巡回距離（km）も算出する。 (3) 凍結防止剤は、実散布量にて精算を行うものとする。 (4) 各除雪機械等の作業量及び待機補償の詳細な算出内容は「別紙集計例」を参考とする。</p> <p style="text-align: center;">3-3-34</p>		雪道巡回	○	回	4. (2)	凍結防止剤人力散布	×	t	4. (3)	スノーボード設置撤去	×	本		待機補償	×	各種	別紙集計例 E ₁ , E ₂ , D ₁ , D ₂	<p style="text-align: center;">→ 前頁へ移動</p> <p style="text-align: center;">} 現行どおり</p>	
雪道巡回	○	回	4. (2)																
凍結防止剤人力散布	×	t	4. (3)																
スノーボード設置撤去	×	本																	
待機補償	×	各種	別紙集計例 E ₁ , E ₂ , D ₁ , D ₂																
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																														
現 行		改 正																																																																																														
<p>3.20 床版補強工</p> <p>3.20.1 鋼板接着工</p> <p>1. 適用</p> <p>既設橋梁RC床版の補強工としての鋼板接着工（注入工法）に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鋼板の鋼材質量、鋼板取付、シーラ、注入、塗装、クラック処理の数量を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">鋼 板 接 着</td> <td>鋼板の鋼材質量</td> <td>t</td> <td></td> <td>スプライス質量を含む</td> </tr> <tr> <td>鋼板取付</td> <td>m²</td> <td></td> <td>スプライス面積は含まない</td> </tr> <tr> <td>注 入</td> <td>kg</td> <td></td> <td>3. (1)鋼板接着3)注入</td> </tr> <tr> <td>シ ー ル</td> <td>kg</td> <td></td> <td>3. (1)鋼板接着2)シーラ</td> </tr> <tr> <td>塗 装 面 積</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">クラ ック 処理</td> <td>注 入</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シ ー ル</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>処理</td> <td>クラック処理延長</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鋼板接着</p> <p>1) 鋼板の鋼材質量 鋼材質量は、「第3編（道路編）4章鋼橋上部工 4. 1鋼材」を参照の上、算出する。</p> <p>2) シーラ シーラ材の数量は、縁部、継目部について（スプライス板も含む）積み上げにより算出する。</p> <p>3) 注入 注入材の使用量は、「（鋼板取付面積＋スプライス板取付面積）×注入厚さ×単位質量」により算出する。なお、注入厚は5mmを標準とする。</p> <p>4) 鋼板接着 鋼板接着の面積は、鋼板取付面積とする。</p> <p>5) 塗装 塗装工程別及び塗料種類別に塗装面積を算出する。</p> <p>3-3-36</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	鋼 板 接 着	鋼板の鋼材質量	t		スプライス質量を含む	鋼板取付	m ²		スプライス面積は含まない	注 入	kg		3. (1)鋼板接着3)注入	シ ー ル	kg		3. (1)鋼板接着2)シーラ	塗 装 面 積	m ²			クラ ック 処理	注 入	kg			シ ー ル	kg			処理	クラック処理延長	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">鋼 板 接 着</td> <td>鋼板の鋼材質量</td> <td>I</td> <td>t</td> <td></td> <td>スプライス質量を含む</td> </tr> <tr> <td>鋼板取付</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td>スプライス面積は含まない</td> </tr> <tr> <td>注 入</td> <td>B</td> <td>kg</td> <td></td> <td>3. (1)鋼板接着3)注入</td> </tr> <tr> <td>シ ー ル</td> <td>B</td> <td>kg</td> <td></td> <td>3. (1)鋼板接着2)シーラ</td> </tr> <tr> <td>塗 装 面 積</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">クラ ック 処理</td> <td>注 入</td> <td>B</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シ ー ル</td> <td>B</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>処理</td> <td>クラック処理延長</td> <td>B</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。 鋼板の鋼材質量の3次元モデルの基本的な表現方法は、鋼橋を参考とする。</p> <p>現行どおり</p>		項 目	3次元 モデル	属性情報			備 考	規格・仕様	単 位	数 量	鋼 板 接 着	鋼板の鋼材質量	I	t		スプライス質量を含む	鋼板取付	B	m ²		スプライス面積は含まない	注 入	B	kg		3. (1)鋼板接着3)注入	シ ー ル	B	kg		3. (1)鋼板接着2)シーラ	塗 装 面 積	B	m ²			クラ ック 処理	注 入	B	kg			シ ー ル	B	kg			処理	クラック処理延長	B	m			備考
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																																												
鋼 板 接 着	鋼板の鋼材質量	t		スプライス質量を含む																																																																																												
	鋼板取付	m ²		スプライス面積は含まない																																																																																												
	注 入	kg		3. (1)鋼板接着3)注入																																																																																												
	シ ー ル	kg		3. (1)鋼板接着2)シーラ																																																																																												
	塗 装 面 積	m ²																																																																																														
クラ ック 処理	注 入	kg																																																																																														
	シ ー ル	kg																																																																																														
処理	クラック処理延長	m																																																																																														
項 目	3次元 モデル	属性情報			備 考																																																																																											
		規格・仕様	単 位	数 量																																																																																												
鋼 板 接 着	鋼板の鋼材質量	I	t		スプライス質量を含む																																																																																											
	鋼板取付	B	m ²		スプライス面積は含まない																																																																																											
	注 入	B	kg		3. (1)鋼板接着3)注入																																																																																											
	シ ー ル	B	kg		3. (1)鋼板接着2)シーラ																																																																																											
	塗 装 面 積	B	m ²																																																																																													
クラ ック 処理	注 入	B	kg																																																																																													
	シ ー ル	B	kg																																																																																													
処理	クラック処理延長	B	m																																																																																													
積算上の注意事項			(控え頁) 1/4																																																																																													

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3. 20. 2 増桁架設工

1. 適用

既設橋梁RC床版の補強工としての増桁架設工に適用する。

2. 数量算出項目

既設部材撤去、鋼材の質量、増桁取付質量、ボルト、シール、注入、塗装、クラック処理の数量を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考
増桁架設	既設部材撤去	t		
	鋼材の質量	t		
	増桁取付質量	t		
	ボルト	本		
	シール	kg		
	注 入	kg		3. (5)注入
	塗 装	m ²		
クラック処理	注 入	kg		
	シール	kg		
	クラック処理延長	m		

3. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 既設部材撤去工
鋼材質量は、「第3編（道路編）4章鋼橋上部工 4. 1 鋼材」を参照の上算出する。
- (2) 鋼材の鋼材質量
鋼材質量は、「第3編（道路編）4章鋼橋上部工 4. 1 鋼材」を参照の上算出する。
- (3) 増桁取付
増桁取付の質量は主桁、副部材の質量とする。
また、増桁取付の質量は、障害無しと障害有りに区分して算出し、障害とはガス管、水道管、通信ケーブル等施工上支障をきたす占有物件等をいう。
なお、障害「有り」、「無し」の判断は、各スパンごとに行うものとし、その場合の数量は、当該スパンの全増桁数量を対象とする。
- (4) シール
シール材の数量は、積み上げにより算出する。
- (5) 注入
注入材の数量は、「増桁取付面積×注入厚さ×単位質量」により算出する。
なお、注入厚は8mmを標準とする。
- (6) 塗装
塗装工程別及び塗料種類別に塗装面積を算出する。

3-3-37

現行どおり

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	3次元モデル	属 性 情 報			
		規格・仕様	単 位	数 量	備 考
増桁架設	既設部材撤去 ※1	I		t	
	鋼材の質量 ※1	I		t	
	増桁取付質量 ※1	II		t	
	ボルト	B		本	
	シール	B		kg	
	注 入	B		kg	3. (5)注入
	塗 装	B		m ²	
クラック処理	注 入	B		kg	
	シール	B		kg	
	クラック処理延長	B		m	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする
※1) 3次元モデルの基本的な表現方法は、鋼構造を参考とする

現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 2/4
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3. 20. 3 炭素繊維接着工

1. 適用

既設橋梁RC床版の補強工として、炭素繊維接着工（上向き作業）に適用する。

2. 数量算出項目

炭素繊維シート、下地処理工、プライマー工、不陸修正工、炭素繊維シート接着工、仕上げ塗装工の数量を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目		規格・仕様	単位	数量	備考
炭素繊維接着	炭素繊維シート		m ²		
	下地処理工		m ²		
	プライマー工		kg		
	不陸修正工		kg		
	炭素繊維シート接着工	エポキシ樹脂含浸材	kg		
クラック処理	仕上げ塗装工		m ²		
	注入		kg		
	シール		kg		
	クラック処理延長		m		

※ クラック処理は、必要な場合に計上する。

現行どおり

(1) 数量算出項目一覧表

項目	3次元モデル	属性情報			
		規格・仕様	単位	数量	備考
炭素繊維接着	炭素繊維シート	B		m ²	
	下地処理工	B		m ²	
	プライマー工	B		kg	
	不陸修正工	B		kg	
	炭素繊維シート接着工	B	エポキシ樹脂含浸材	kg	
	仕上げ塗装工	B		m ²	
クラック処理	注入	B		kg	
	シール	B		kg	
	クラック処理延長	B		m	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

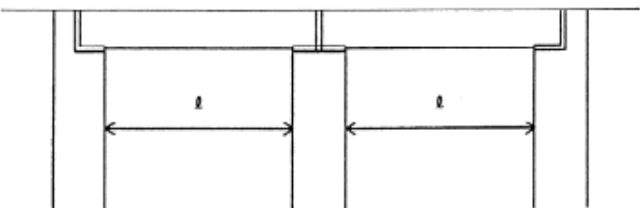
※ クラック処理は、必要な場合に計上する。

記載の追加

3-3-38

積算上の注意事項

(控え頁)

改正理由	一部改正	改正 現行																																																	
現 行		改 正																																																	
<p>3. 20. 4 足場工、朝顔、防護工</p> <p>1. 適用</p> <p>既設橋梁RC床版の補強工の足場工、朝顔、防護工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>足場面積、朝顔面積、防護面積を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足 場</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>3. (1)足場</td> </tr> <tr> <td>朝 顔</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>3. (2)朝顔</td> </tr> <tr> <td>防 護</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>3. (3)防護</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 足場</p> <p>足場は、桁高1.5m以上の場合と、桁高1.5m未満の場合に区分し、必要橋面積は、次式により算出する。</p> $A = W \times \ell$ <p>A : 橋面積 (m²) W : 全幅員 (地覆外縁間距離) (m) ℓ : 足場必要長 (m)</p> <p>①足場必要長 (ℓ) 一般的に径間長とする。</p>  <p>3-3-40</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	足 場		m ²		3. (1)足場	朝 顔		m ²		3. (2)朝顔	防 護		m ²		3. (3)防護	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足 場</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>3. (1)足場</td> </tr> <tr> <td>朝 顔</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>3. (2)朝顔</td> </tr> <tr> <td>防 護</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>3. (3)防護</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			規格・仕様	単 位	数 量	備 考	足 場	B		m ²		3. (1)足場	朝 顔	B		m ²		3. (2)朝顔	防 護	B		m ²		3. (3)防護	備考
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																															
足 場		m ²		3. (1)足場																																															
朝 顔		m ²		3. (2)朝顔																																															
防 護		m ²		3. (3)防護																																															
項 目	3次元 モデル	属 性 情 報																																																	
		規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																														
足 場	B		m ²		3. (1)足場																																														
朝 顔	B		m ²		3. (2)朝顔																																														
防 護	B		m ²		3. (3)防護																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 4/4																																																

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

2. 数量算出項目

鋼板（材料費）、スタッドジベル（材料費）、鋼板巻立て、シール材（材料費）、注入材（材料費）、現場溶接、フーチングアンカー削孔・定着、アンカー材（材料費）、アンカー注入材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

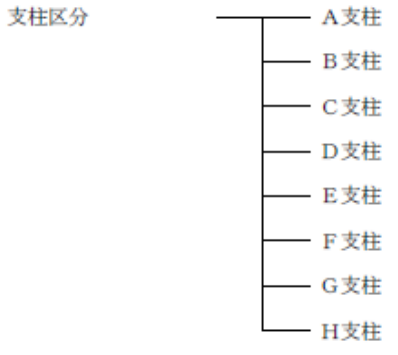
3. 区分

区分は、規格、支柱区分、注入材材質、溶接種別、板厚区分、削孔深とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	支柱区分	注入材材質	溶接種別	板厚区分	削孔深	単位	数量	備考
鋼板（材料費）		○	×	×	×	×	×	t		
スタッドジベル（材料費）		○	×	×	×	×	×	本		
鋼板巻立て		○	○	○	×	×	×	m ²		
シール材（材料費）		○	×	×	×	×	×	m ²		
注入材（材料費）		○	×	×	×	×	×	m ²		
現場溶接		○	×	×	○	○	×	m		
フーチングアンカー削孔・定着		○	×	×	×	×	○	箇所		
アンカー材（材料費）		○	×	×	×	×	×	本		
アンカー注入材（材料費）		○	×	×	×	×	×	本		

(2) 鋼板巻立ての支柱区分は、以下のとおりとする。



3-3-43

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属 性 情 報						単位	数量	備考
			規格	支柱区分	注入材材質	溶接種別	板厚区分	削孔深			
鋼板（材料費）		I	○	×	×	×	×	×	t		
スタッドジベル（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	本		
鋼板巻立て		B	○	○	○	×	×	×	m ²		
シール材（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m ²		
注入材（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	m ²		
現場溶接		B	○	×	×	○	○	×	m		
フーチングアンカー削孔・定着		B	○	×	×	×	○	箇所			
アンカー材（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	本		
アンカー注入材（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	本		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
 鋼板（材料費）の3次元モデルの基本的な表現方法は、鋼構造を参考とする。

現行どおり

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																
現	行	改 正	備 考																																																
<p>(3) 鋼板巻立ての注入材材質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>注入材材質</p> <ul style="list-style-type: none"> — 無収縮モルタル — エポキシ樹脂 <p>(4) 現場溶接の溶接種別による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>溶接種別</p> <ul style="list-style-type: none"> — すみ肉脚長 6mm — 補強鋼板部(V型・L型) <p>(5) 現場溶接の板厚区分は、以下のとおりとする。 (溶接種別が補強鋼板部(V型・L型)の場合のみ)</p> <p>板厚区分</p> <ul style="list-style-type: none"> — 6mm, 9mm, 10mm — 12mm, 13mm — 14mm, 15mm — 16mm, 19mm — 21mm, 22mm <p>(6) フーチングアンカー削孔・定着の削孔深による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>削孔深</p> <ul style="list-style-type: none"> — 0.8m以上 1.0m未満 — 1.0m以上 1.2m未満 — 1.2m以上 1.4m未満 — 1.4m以上 1.6m未満 		<p>現行どおり</p>	<p>記載の追加</p>																																																
<p>3-3-44</p>		<p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場塗装工</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>コンクリート (根巻きコンクリート工)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照</td> </tr> </tbody> </table>		項目	単位	数量	備考	現場塗装工	m ²			鉄筋工	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照	型枠	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照	コンクリート (根巻きコンクリート工)	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照	<p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場塗装工</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>B</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>コンクリート (根巻きコンクリート工)</td> <td>B</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</small></p>	項目	3次元 モデル	属性情報			単位	数量	備考	現場塗装工	B	m ²			鉄筋工	B	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照	型枠	B	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照	コンクリート (根巻きコンクリート工)	B	m ³	
項目	単位	数量	備考																																																
現場塗装工	m ²																																																		
鉄筋工	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照																																																
型枠	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照																																																
コンクリート (根巻きコンクリート工)	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照																																																
項目	3次元 モデル	属性情報																																																	
		単位	数量	備考																																															
現場塗装工	B	m ²																																																	
鉄筋工	B	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照																																															
型枠	B	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照																																															
コンクリート (根巻きコンクリート工)	B	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照																																															
積算上の注意事項			(控え頁) 2/8																																																

改正理由	一部改正	改正 現行																																										
現	行	改	正																																									
<p>3. 21. 1(2) 橋梁補強工(鋼板巻立て)(2)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」が適用できる寸法の範囲を外れた橋脚の鋼板巻立てに適用する。</div> <p>参考(橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)が適用できる寸法の範囲以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矩形、小判型支柱(幅1~10m、奥行き1~6m)、円形支柱(径1~6m)以外の橋脚の場合 <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鋼板(材料費)、鋼板取付、シーラ材(材料費)、注入材(材料費)の数量を区分ごとに算出する。</div> <p>注) 鋼板(材料費)は、「第3編(道路編)3. 21. 1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」によるものとする</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格、注入材材質とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>注入材材質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼板(材料費)</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)3. 21. 1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>鋼板取付</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シーラ材(材料費)</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材(材料費)</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 鋼板取付の注入材材質による区分は、以下のとおりとする。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">注入材材質</td> <td>—</td> <td>無収縮モルタル</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td>エポキシ樹脂</td> </tr> </table>		項目	区分	規格	注入材材質	単位	数量	備考	鋼板(材料費)	○	×	×	t		「第3編(道路編)3. 21. 1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照	鋼板取付	○	○	○	m ²			シーラ材(材料費)	○	×	×	m ²			注入材(材料費)	○	×	×	m ²			注入材材質	—	無収縮モルタル		—	エポキシ樹脂	<p>現行どおり</p>	<p>現行どおり</p>
項目	区分	規格	注入材材質	単位	数量	備考																																						
鋼板(材料費)	○	×	×	t		「第3編(道路編)3. 21. 1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照																																						
鋼板取付	○	○	○	m ²																																								
シーラ材(材料費)	○	×	×	m ²																																								
注入材(材料費)	○	×	×	m ²																																								
注入材材質	—	無収縮モルタル																																										
	—	エポキシ樹脂																																										
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>注入材材質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼板(材料費)</td> <td>I</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)3. 21. 1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>鋼板取付</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シーラ材(材料費)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材(材料費)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><small>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。 鋼板(材料費)の3次元モデルの基本的な表現方法は、鋼構造を参考とする。</small></p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考	規格	注入材材質	単位	数量	鋼板(材料費)	I	○	×	t		「第3編(道路編)3. 21. 1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照	鋼板取付	B	○	○	m ²			シーラ材(材料費)	B	○	×	m ²			注入材(材料費)	B	○	×	m ²			<p>記載の追加</p>		
項目	区分				3次元モデル	属性情報				備考																																		
		規格	注入材材質	単位		数量																																						
鋼板(材料費)	I	○	×	t		「第3編(道路編)3. 21. 1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照																																						
鋼板取付	B	○	○	m ²																																								
シーラ材(材料費)	B	○	×	m ²																																								
注入材(材料費)	B	○	×	m ²																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 3/8																																									

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

関連数量算出項目			
項目	単位	数量	備考
足場工	掛m ²		「第3編(道路編)3.21.2(2)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)」参照
現場溶接	m		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
フーチングアンカー削孔・定着	箇所		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
アンカー材(材料費)	本		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
アンカー注入材(材料費)	本		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
現場塗装工	m ²		
鉄筋工	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照
型枠	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
コンクリート(根巻きコンクリート工)	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照

4. 数量算出方法
 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) シール材(材料費)の数量は、鋼板巻立て面積(m²)当りの質量(kg)とする。
 縁部、パイプ周りについて、下記の式より必要数量を算出する。
 「シール断面積×シール延長×単位質量1,700(kg/m³)×(1+割増率)」
 割増率は下表に示す値とする。

割増率	
注入材が無収縮モルタルの場合	注入材がエポキシ樹脂の場合
0.43	0.36

(2) 注入材(材料費)の数量は、鋼板巻立て面積(m²)当りの質量(kg)とする。

1) 無収縮モルタルの場合
 下記の式より必要数量を算出する。
 「(鋼板取付面積1(m²)×注入厚0.03(m)－裏当て鋼板体積)×単位質量1,850(kg/m³)×(1+割増率)」
 割増率は+0.44とする。

2) エポキシ樹脂の場合
 下記の式より必要数量を算出する。
 「(鋼板取付面積1(m²)×注入厚0.005(m)－裏当て鋼板体積)×単位質量1,200(kg/m³)×(1+割増率)」
 割増率は+0.31とする。

3-3-49

関連数量算出項目				
項目	3次元モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
足場工	B	掛m ²		「第3編(道路編)3.21.2(2)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)」参照
現場溶接	B	m		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
フーチングアンカー削孔・定着	B	箇所		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
アンカー材(材料費)	B	本		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
アンカー注入材(材料費)	B	本		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」参照
現場塗装工	B	m ²		
鉄筋工	B	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照
型枠	B	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
コンクリート(根巻きコンクリート工)	A	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

現行どおり


記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 4/8
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																															
現 行		改 正																																																																																																															
<p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート削孔、アンカー材（材料費）、コンクリート巻立ての数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、アンカー材径、削孔深、支柱区分、施工内容、生コンクリート規格、養生工の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深</th> <th>支柱区分</th> <th>施工内容</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート巻立て</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考	コンクリート削孔		○	○	○	×	×	×	×	箇所			アンカー材（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	本			コンクリート巻立て		○	×	×	○	○	○	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="10">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格</th> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深</th> <th>支柱区分</th> <th>施工内容</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材（材料費）</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート巻立て</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p>		項目	区分	属性情報										3次元モデル	規格	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考	コンクリート削孔		B	○	○	○	×	×	×	×	箇所			アンカー材（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	×	本			コンクリート巻立て		A	○	×	×	○	○	○	○	m ³		
項目	区分	規格	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考																																																																																																						
コンクリート削孔		○	○	○	×	×	×	×	箇所																																																																																																								
アンカー材（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	本																																																																																																								
コンクリート巻立て		○	×	×	○	○	○	○	m ³																																																																																																								
項目	区分	属性情報																																																																																																															
		3次元モデル	規格	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考																																																																																																					
コンクリート削孔		B	○	○	○	×	×	×	×	箇所																																																																																																							
アンカー材（材料費）		B	○	×	×	×	×	×	×	本																																																																																																							
コンクリート巻立て		A	○	×	×	○	○	○	○	m ³																																																																																																							
3-3-51		記載の追加																																																																																																															
積算上の注意事項		(控え頁) 5/8																																																																																																															

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																						
現 行		改 正																																																																						
<p>(3) コンクリート巻立ての支柱区分は、以下のとおりとする。</p> <p>支柱区分</p> <ul style="list-style-type: none"> — A支柱 — B支柱 — C支柱 — D支柱 — E支柱 — F支柱 <p>(4) コンクリート巻立ての施工内容による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>施工内容</p> <ul style="list-style-type: none"> — a 施工 — b 施工 — c 施工 — d 施工 <p>注) 各施工内容に含まれている施工区分・施工内容は、次表とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工区分・施工内容</th> <th>a 施工</th> <th>b 施工</th> <th>c 施工</th> <th>d 施工</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場設置・撤去工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>下地処理工</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>型枠設置・撤去工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>コンクリート打設工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>コンクリート養生工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 「○」が施工内容に含まれている。</p> <p>(5) コンクリート巻立ての養生工の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> — 有り — 無し <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別な養生</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>特別な下地処理</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="text-align: center;">3-3-53</p>		施工区分・施工内容	a 施工	b 施工	c 施工	d 施工	足場設置・撤去工	○	○	—	—	下地処理工	○	—	○	—	型枠設置・撤去工	○	○	○	○	コンクリート打設工	○	○	○	○	コンクリート養生工	○	○	○	○	項目	単位	数量	備考	鉄筋工	t			特別な養生	m ³		必要な場合別途計上	特別な下地処理	m ²		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>B</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別な養生</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>特別な下地処理</td> <td>C</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; color: red;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> </div>	項目	3次元 モデル	属性情報			単位	数量	備考	鉄筋工	B	t			特別な養生	C	m ³		必要な場合別途計上	特別な下地処理	C	m ²		必要な場合別途計上	<p>記載の追加</p>
施工区分・施工内容	a 施工	b 施工	c 施工	d 施工																																																																				
足場設置・撤去工	○	○	—	—																																																																				
下地処理工	○	—	○	—																																																																				
型枠設置・撤去工	○	○	○	○																																																																				
コンクリート打設工	○	○	○	○																																																																				
コンクリート養生工	○	○	○	○																																																																				
項目	単位	数量	備考																																																																					
鉄筋工	t																																																																							
特別な養生	m ³		必要な場合別途計上																																																																					
特別な下地処理	m ²		必要な場合別途計上																																																																					
項目	3次元 モデル	属性情報																																																																						
		単位	数量	備考																																																																				
鉄筋工	B	t																																																																						
特別な養生	C	m ³		必要な場合別途計上																																																																				
特別な下地処理	C	m ²		必要な場合別途計上																																																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 6/8																																																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																									
現	行	改 正	備 考																																								
<p>3.21.2(2) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」が適用範囲外のRC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)のコンクリート巻立て工における足場工、下地処理工、型枠工、コンクリート工に適用する。なお、支柱の断面形状が鉛直方向に一定の構造物を対象とし、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> <p>参考(橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)が適用できる寸法の範囲以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矩形、小判型支柱(幅1.0~15.0m、奥行1.0~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合 ・円形支柱(径1.5~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>足場(適用範囲外コンクリート巻立て)、下地処理(適用範囲外コンクリート巻立て)、型枠(適用範囲外コンクリート巻立て)、コンクリート(適用範囲外コンクリート巻立て)の数量を区分ごとに算出する。</p> </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、型枠種別、生コンクリート規格、養生工の有無とする。</p> </div>		<p>現行どおり</p>																																									
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>型枠種別</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 足場は、枠組足場(手摺先行型)を標準とする。 2. 単管足場及び単管傾斜足場については別途考慮する。 3. 下地処理は、チップングを標準とする。 4. 一般型枠の場合は、小判形支柱の両端部は含むが、円形支柱3m以下の円形部分には適用しない。</p> <p>(2) 型枠(適用範囲外コンクリート巻立て)の型枠種別による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>型枠種別</p> <ul style="list-style-type: none"> └── 一般型枠 └── 合板円形型枠 </div> <p style="text-align: center;">3-3-55</p>		項目	区分	型枠種別	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考	足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	掛m ²			下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	m ²			型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)		○	×	×	m ²			コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	○	○	m ³			<p>現行どおり</p>	
項目	区分	型枠種別	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考																																				
足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	掛m ²																																						
下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	m ²																																						
型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)		○	×	×	m ²																																						
コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	○	○	m ³																																						
積算上の注意事項		記載の追加																																									
			(控え頁) 7/8																																								

改正理由	一部改正	改正 現行																																																														
現 行		改 正																																																														
<p>(3) コンクリート（適用範囲外コンクリート巻立て）の養生工の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の有無 </p> <table border="1" data-bbox="341 714 1240 1060"> <thead> <tr> <th colspan="4">関連数量算出項目</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔工</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー定着工</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別な養生</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>特別な下地処理</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 養生工の有無は、養生工の種類（一般養生、特殊養生（練炭）及び特殊養生（ｼﾞｬｯﾄﾞｰｸﾞ））にかかわらず適用できる。</p> <p>(2) 保温養生等の特別な養生を必要とする場合は養生工無しを選択し、養生は、「第1編（共通編）4.1コンクリート工」により別途考慮する。</p>		関連数量算出項目				項目	単位	数量	備考	コンクリート削孔工	箇所		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照	アンカー定着工	本		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照	鉄筋工	t			特別な養生	m ³		必要な場合別途計上	特別な下地処理	m ²		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p> <table border="1" data-bbox="1626 714 2365 1060"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔工</td> <td>B</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー定着工</td> <td>B</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>B</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別な養生</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>特別な下地処理</td> <td>C</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p>	項目	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	コンクリート削孔工	B	箇所		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照	アンカー定着工	B	本		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照	鉄筋工	B	t			特別な養生	C	m ³		必要な場合別途計上	特別な下地処理	C	m ²		必要な場合別途計上	備考 記載の追加
関連数量算出項目																																																																
項目	単位	数量	備考																																																													
コンクリート削孔工	箇所		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照																																																													
アンカー定着工	本		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照																																																													
鉄筋工	t																																																															
特別な養生	m ³		必要な場合別途計上																																																													
特別な下地処理	m ²		必要な場合別途計上																																																													
項目	3次元モデル	属性情報																																																														
		単位	数量	備考																																																												
コンクリート削孔工	B	箇所		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照																																																												
アンカー定着工	B	本		「第3編（道路編）3.21.2（1）橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照																																																												
鉄筋工	B	t																																																														
特別な養生	C	m ³		必要な場合別途計上																																																												
特別な下地処理	C	m ²		必要な場合別途計上																																																												
積算上の注意事項	3-3-56		(控え頁) 8/8																																																													

改正理由	一部改正	改正 現行																																																				
現 行	改 正	備 考																																																				
現行どおり																																																						
<p>3. 2.2 落橋防止装置工</p> <p>3. 2.2.1 落橋防止装置工</p> <p>1. 適用</p> <p>落橋防止装置設置（けたかかり長、落橋防止構造、変位制限構造及び段差防止構造）に伴う、橋台・橋脚のコンクリート削孔、アンカー施工及び充填補修作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン）、コンクリート削孔（電動ハンマドリル）、コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕（空圧式））、アンカー、アンカー材（材料費）、注入材（材料費）、充填補修、補修材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、アンカー材径、削孔深さ、適用アンカー材径、削孔方向とする。</p>																																																						
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深さ</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（コアボーリングマシン）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。</p> <p>②コンクリート削孔（電動ハンマドリル）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（ハンマドリル）</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p> <p>③コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕（空圧式））</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>削孔深さ</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p>				項目	区分	アンカー材径	削孔深さ	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔（コアボーリングマシン）	○	○	○	孔			項 目	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔（ハンマドリル）	孔			項目	区分	削孔深さ	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）	○	○	孔																			
項目	区分	アンカー材径	削孔深さ	単 位	数 量	備 考																																																
コンクリート削孔（コアボーリングマシン）	○	○	○	孔																																																		
項 目	単 位	数 量	備 考																																																			
コンクリート削孔（ハンマドリル）	孔																																																					
項目	区分	削孔深さ	単 位	数 量	備 考																																																	
コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）	○	○	孔																																																			
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深さ</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（コアボーリングマシン）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。</p> <p>②コンクリート削孔（電動ハンマドリル）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（ハンマドリル）</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p> <p>③コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕（空圧式））</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p>				項目	区分	3次元モデル		属性情報			アンカー材径	削孔深さ	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔（コアボーリングマシン）	○	○	○	孔			項目	区分	3次元モデル		属性情報			単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔（ハンマドリル）	○	孔				項目	区分	3次元モデル		属性情報			単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）	○	孔			
項目	区分	3次元モデル				属性情報																																																
		アンカー材径	削孔深さ	単 位	数 量	備 考																																																
コンクリート削孔（コアボーリングマシン）	○	○	○	孔																																																		
項目	区分	3次元モデル		属性情報																																																		
		単 位	数 量	備 考																																																		
コンクリート削孔（ハンマドリル）	○	孔																																																				
項目	区分	3次元モデル		属性情報																																																		
		単 位	数 量	備 考																																																		
コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）	○	孔																																																				
記載の追加																																																						
記載の追加																																																						
記載の追加																																																						
3-3-57																																																						
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																			

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

項目	区分	適用 アンカー材径	削孔方向	単 位	数 量	備 考
アンカー		○	○	本		
アンカー材 (材料費)		×	×	本		
注入材 (材料費)		×	×	本		
充填補修		×	×	孔		
補修材 (材料費)		×	×	孔		

注) 上方向のアンカー打込みの場合は別途考慮する。

(2) コンクリート削孔 (電動式コアボーリングマシン) のアンカー材径による区分は、以下のとおりとする。

- アンカー材径
- 17mm 以下
 - 17mm を超え、23mm 以下
 - 23mm を超え、30mm 以下
 - 30mm を超え、43mm 以下
 - 43mm を超え、54mm 以下
 - 54mm を超え、67mm 以下
 - 67mm を超え、80mm 以下
 - 80mm を超え、100mm 以下

(3) コンクリート削孔 (電動式コアボーリングマシン) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。

- 削孔深さ
- 500mm 以下
 - 500mm を超え、1,000mm 以下
 - 1,000mm を超え、1,300mm 以下
(アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)

(4) コンクリート削孔 (さく岩機 [ハンドドリル] (空圧式)) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。

- 削孔深さ
- 200mm を超え、500mm 以下
 - 500mm を超え、800mm 以下

3-3-58

項目	区分	3次元 モデル	属性情報			
			適用 アンカー材径	削孔方向	単 位	数 量
アンカー		B	○	○	本	
アンカー材 (材料費)		B	×	×	本	
注入材 (材料費)		B	×	×	本	
充填補修		B	×	×	孔	
補修材 (材料費)		B	×	×	孔	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
注) 上方向のアンカー打込みの場合は別途考慮する。

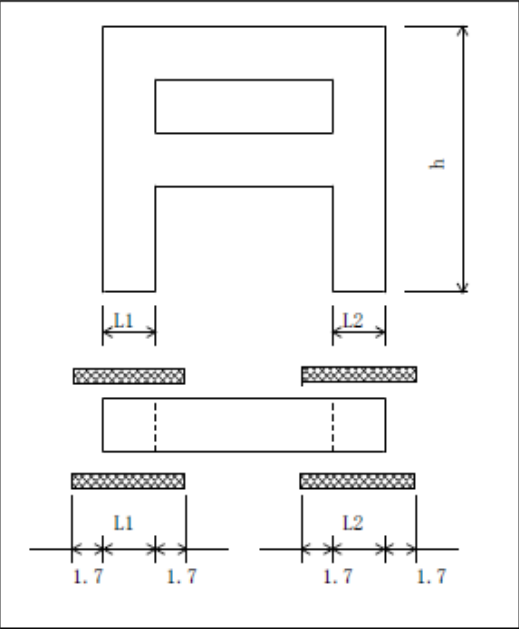
現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 2/3
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																														
	<p>現行</p> <p>(5) アンカーの適用アンカー材径による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>適用アンカー材径</p> <ul style="list-style-type: none"> — 25mm 以下 — 25mm を超え、40mm 以下 — 40mm を超え、55mm 以下 — 55mm を超え、70mm 以下 — 70mm を超え、85mm 以下 <p>(6) アンカーの削孔方向による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>削孔方向</p> <ul style="list-style-type: none"> — 横方向 — 下方向 <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泥水処理工</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカー材（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(2) 注入材（材料費）はエポキシ樹脂系注入材を標準とし、1本当りの注入材使用量を下式により算出する。</p> $\text{使用量(kg)} = \{ (D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times \ell \} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/本})$ <p>D：削孔径 (m) d：アンカー材径 (m) ℓ：削孔深 (m) M：単位質量は 1,200 kg/m³ とする。 K：ロス率は + 0.20 とする。</p> <p>(3) 補修材（材料費）はセメント系グラウト材を標準とし、1孔当りの注入材使用量を下式により算出する。</p> $\text{使用量(kg)} = (D^2 \times \pi \times 1/4 \times \ell) \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/孔})$ <p>D：削孔径 (m) ℓ：削孔深 (m)（削孔深は不達孔の平均削孔深とする） M：単位質量は 1,875 kg/m³ とする。 K：ロス率は + 0.15 とする。</p> <p style="text-align: center;">3-3-59</p>	項目	単位	数量	備考	泥水処理工	m ³		必要な場合別途計上	足場工	掛m ²		必要な場合別途計上	<p>改正</p> <p>現行</p> <p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泥水処理工</td> <td>C</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>C</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; color: red;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> </div> <p>記載の追加</p>	項目	3次元 モデル	属性情報			単位	数量	備考	泥水処理工	C	m ³		必要な場合別途計上	足場工	C	掛m ²		必要な場合別途計上	
項目	単位	数量	備考																														
泥水処理工	m ³		必要な場合別途計上																														
足場工	掛m ²		必要な場合別途計上																														
項目	3次元 モデル	属性情報																															
		単位	数量	備考																													
泥水処理工	C	m ³		必要な場合別途計上																													
足場工	C	掛m ²		必要な場合別途計上																													
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3																														

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																																													
現	行	改	正																																																																																																																																																																												
<p>6章 鋼製橋脚設置工</p> <p>6.1 鋼製橋脚設置工</p> <p>1. 適用</p> <p>陸上での鋼製橋脚設置工事に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鋼製橋脚の基数と架設鋼材質量、地組鋼材質量、現場溶接延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アンカーフレーム架設</td><td>×</td><td></td><td>基</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アンカーフレームグラウト注入</td><td>○</td><td></td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚地組</td><td>×</td><td></td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚地組連結</td><td>×</td><td></td><td>箇所</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚架設</td><td>×</td><td></td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚架設ブロック</td><td>×</td><td></td><td>ブロック</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚</td><td>×</td><td></td><td>脚</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚膨張モルタル注入</td><td>○</td><td></td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚無収縮モルタル注入</td><td>○</td><td></td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現場溶接</td><td>×</td><td></td><td>m</td><td></td><td>平均板厚 t = mm</td></tr> <tr><td>ビード仕上げ</td><td>×</td><td></td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>トルシアボルト</td><td>○</td><td></td><td>本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>足場</td><td>×</td><td></td><td>掛m²</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカーフレームモルタル注入量はアンカーフレーム1基ごとに算出する。 (2) 鋼製橋脚膨張モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。 (3) 鋼製橋脚無収縮モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。 (4) 現場溶接はビード仕上げの有無に関わらず総延長を算出する。 (5) ビード仕上げは必要な場合のみ算出するものとし、総延長を算出する。 (6) 足場 足場は「第1編（共通編）11章仮設工11.4足場工」によるものとする。</p> <p>1) 足場面積の算出は、下記のとおりとする。なお現場条件、橋脚の構造および施工方法等でこれによりがたい場合は、別途算出するものとする。</p>		項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	アンカーフレーム架設	×		基			アンカーフレームグラウト注入	○		m ³			鋼製橋脚地組	×		t			鋼製橋脚地組連結	×		箇所			鋼製橋脚架設	×		t			鋼製橋脚架設ブロック	×		ブロック			鋼製橋脚	×		脚			鋼製橋脚膨張モルタル注入	○		m ³			鋼製橋脚無収縮モルタル注入	○		m ³			現場溶接	×		m		平均板厚 t = mm	ビード仕上げ	×		m			トルシアボルト	○		本			足場	×		掛m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アンカーフレーム架設</td><td>B</td><td>×</td><td>基</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アンカーフレームグラウト注入</td><td>B</td><td>○</td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚地組</td><td>B</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚地組連結</td><td>B</td><td>×</td><td>箇所</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚架設</td><td>B</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚架設ブロック</td><td>B</td><td>×</td><td>ブロック</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚</td><td>B</td><td>×</td><td>脚</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚膨張モルタル注入</td><td>B</td><td>○</td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鋼製橋脚無収縮モルタル注入</td><td>B</td><td>○</td><td>m³</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現場溶接</td><td>B</td><td>×</td><td>m</td><td></td><td>平均板厚 t = mm</td></tr> <tr><td>ビード仕上げ</td><td>B</td><td>×</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>トルシアボルト</td><td>B</td><td>○</td><td>本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>足場</td><td>B</td><td>×</td><td>掛m²</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p>	項目	3次元モデル	属性情報				規 格	単 位	数 量	備 考	アンカーフレーム架設	B	×	基			アンカーフレームグラウト注入	B	○	m ³			鋼製橋脚地組	B	×	t			鋼製橋脚地組連結	B	×	箇所			鋼製橋脚架設	B	×	t			鋼製橋脚架設ブロック	B	×	ブロック			鋼製橋脚	B	×	脚			鋼製橋脚膨張モルタル注入	B	○	m ³			鋼製橋脚無収縮モルタル注入	B	○	m ³			現場溶接	B	×	m		平均板厚 t = mm	ビード仕上げ	B	×	m			トルシアボルト	B	○	本			足場	B	×	掛m ²			<p>記載の追加</p>
項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																																										
アンカーフレーム架設	×		基																																																																																																																																																																												
アンカーフレームグラウト注入	○		m ³																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚地組	×		t																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚地組連結	×		箇所																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚架設	×		t																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚架設ブロック	×		ブロック																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚	×		脚																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚膨張モルタル注入	○		m ³																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚無収縮モルタル注入	○		m ³																																																																																																																																																																												
現場溶接	×		m		平均板厚 t = mm																																																																																																																																																																										
ビード仕上げ	×		m																																																																																																																																																																												
トルシアボルト	○		本																																																																																																																																																																												
足場	×		掛m ²																																																																																																																																																																												
項目	3次元モデル	属性情報																																																																																																																																																																													
		規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																																										
アンカーフレーム架設	B	×	基																																																																																																																																																																												
アンカーフレームグラウト注入	B	○	m ³																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚地組	B	×	t																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚地組連結	B	×	箇所																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚架設	B	×	t																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚架設ブロック	B	×	ブロック																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚	B	×	脚																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚膨張モルタル注入	B	○	m ³																																																																																																																																																																												
鋼製橋脚無収縮モルタル注入	B	○	m ³																																																																																																																																																																												
現場溶接	B	×	m		平均板厚 t = mm																																																																																																																																																																										
ビード仕上げ	B	×	m																																																																																																																																																																												
トルシアボルト	B	○	本																																																																																																																																																																												
足場	B	×	掛m ²																																																																																																																																																																												
積算上の注意事項	3-6-2	次頁へ移動	(控え頁) 1/2																																																																																																																																																																												

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
現	行	改 正	備 考
<p>前頁より移動</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>1. 枠組足場を標準とする。 2. 足場面積 (掛m²) 枠組 = $\{2 \times (L1 + 3.4)\} \times h$ + $\{2 \times (L2 + 3.4)\} \times h$</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">3-6-3</p>		<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アンカーフレームモルタル注入量はアンカーフレーム1基ごとに算出する。 (2) 鋼製橋脚膨張モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。 (3) 鋼製橋脚無収縮モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。 (4) 現場溶接はビード仕上げの有無に関わらず総延長を算出する。 (5) ビード仕上げは必要な場合のみ算出するものとし、総延長を算出する。 (6) 足場 足場は「第1編（共通編）11章仮設工11.4足場工」によるものとする。 <p>1) 足場面積の算出は、下記のとおりとする。なお現場条件、橋脚の構造および施工方法等でこれによりがたい場合は、別途算出するものとする。</p>	
		現 行 ど お り	
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																		
現 行	改 正		備 考																																																																																																																																	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>7章 橋台・橋脚工</p> <p>7.1 橋台・橋脚工</p> <p>7.1.1 橋台・橋脚工(1)</p> <p>1. 適用</p> <p>橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、橋台・橋脚工(2)を適用する。</p> <p>1-1. 適用出来る範囲</p> <p>(1) 構造物高さ5m以上25m未満のT形橋脚(円形及び小判型含む)の場合</p> <p>(2) 構造物高さ5m以上20m未満の壁式橋脚(小判型含む)の場合</p> <p>(3) 構造物高さ12m未満かつ翼壁厚0.4m以上0.6m以下の逆T式橋台の場合</p> <p>1-2. 適用出来ない範囲</p> <p>(1) 同一構造物で、フーチングと躯体のコンクリート強度が異なる場合。</p> <p>(2) フーチングのみの工事、又は躯体のみの工事の場合。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>橋台・橋脚本体コンクリート(橋台においては翼壁を含む)、化粧型枠、鉄筋の数量を区分毎に算出する。</p> <p>また、基礎砕石(敷均し厚20cm以下)、均しコンクリートについては必要の有無を確認する。</p> <p>注) 1. 鉄筋については「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」によるものとする。</p> <p>2. 基礎砕石(敷均し厚20cmを超える場合)については、「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」によるものとする。</p> <p>3. 冬季の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編(共通編)11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。</p> <p>4. 逆T式橋台において水抜パイプが必要な場合は、別途考慮するものとする。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>形式</th> <th>必要性の有無</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋台・橋脚本体コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m³</td> <td>注1 注2</td> </tr> <tr> <td>基礎 敷均し厚20cm以下</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>砕石 敷均し厚20cm超え</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td>必要量計上</td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>-</td> <td>注3</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>逆T式橋台のみ必要に応じ計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>「橋台・橋脚本体コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。</p> <p>「基礎砕石」の「敷均し厚20cm以下」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現行どおり</p> <p>7.1.1 橋台・橋脚工(1)(構造物単位)</p> <p>1. 適用</p> <p>橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、橋台・橋脚工(2)を適用する。</p> <p>1-1. 適用出来る範囲</p> <p>(1) 構造物高さ5m以上25m未満のT形橋脚(躯体が円形及び小判型含む)の場合</p> <p>(2) 構造物高さ5m以上20m未満の壁式橋脚(躯体が小判型含む)の場合</p> <p>(3) 構造物高さ12m未満かつ翼壁厚0.4m以上0.6m以下の逆T式橋台の場合</p> <p>1-2. 適用出来ない範囲</p> <p>(1) 同一構造物で、フーチングと躯体のコンクリート強度が異なる場合。</p> <p>(2) フーチングのみの工事、又は躯体のみの工事の場合。</p> <p>(3) 化粧型枠を使用する場合</p> <p>(4) 手摺先行型枠組足場以外の足場を使用する場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>橋台・橋脚本体コンクリート(橋台においては翼壁を含む)、化粧型枠、鉄筋の数量を区分毎に算出する。</p> <p>また、基礎砕石(敷均し厚20cm以下)、均しコンクリートについては必要の有無を確認する。</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>形式</th> <th>必要性の有無</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋台・橋脚本体コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m³</td> <td>注1 注2</td> </tr> <tr> <td>基礎 敷均し厚20cm以下</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>砕石 敷均し厚20cm超え</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>-</td> <td>注3</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>逆T式橋台のみ必要に応じ計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>「橋台・橋脚本体コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。</p> <p>次頁へ移動</p> </div> </div>				項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考	規格	形式	必要性の有無	単位	橋台・橋脚本体コンクリート	A	○	○	-	m ³	注1 注2	基礎 敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	-		砕石 敷均し厚20cm超え	B	○	×	-	m ²		均しコンクリート	C	×	×	○	-		化粧型枠	B	×	×	-	m ²	必要量計上	鉄筋	B	○	×	-	t		足場	C	×	×	(×)	-	注3	水抜パイプ	C	×	×	-	-	逆T式橋台のみ必要に応じ計上	項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考	規格	形式	必要性の有無	単位	橋台・橋脚本体コンクリート	A	○	○	-	m ³	注1 注2	基礎 敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	-		砕石 敷均し厚20cm超え	B	○	×	-	m ²		均しコンクリート	C	×	×	○	-		鉄筋	B	○	×	-	t		足場	C	×	×	(×)	-	注3	水抜パイプ	C	×	×	-	-	逆T式橋台のみ必要に応じ計上
項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考																																																																																																																													
			規格	形式	必要性の有無	単位																																																																																																																														
橋台・橋脚本体コンクリート	A	○	○	-	m ³	注1 注2																																																																																																																														
基礎 敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	-																																																																																																																															
砕石 敷均し厚20cm超え	B	○	×	-	m ²																																																																																																																															
均しコンクリート	C	×	×	○	-																																																																																																																															
化粧型枠	B	×	×	-	m ²	必要量計上																																																																																																																														
鉄筋	B	○	×	-	t																																																																																																																															
足場	C	×	×	(×)	-	注3																																																																																																																														
水抜パイプ	C	×	×	-	-	逆T式橋台のみ必要に応じ計上																																																																																																																														
項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考																																																																																																																													
			規格	形式	必要性の有無	単位																																																																																																																														
橋台・橋脚本体コンクリート	A	○	○	-	m ³	注1 注2																																																																																																																														
基礎 敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	-																																																																																																																															
砕石 敷均し厚20cm超え	B	○	×	-	m ²																																																																																																																															
均しコンクリート	C	×	×	○	-																																																																																																																															
鉄筋	B	○	×	-	t																																																																																																																															
足場	C	×	×	(×)	-	注3																																																																																																																														
水抜パイプ	C	×	×	-	-	逆T式橋台のみ必要に応じ計上																																																																																																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																																																	

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
現	行	改 正	考
前頁より移動	<p>料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「基礎碎石」の「敷均し厚 20cm 越え」は、3次元モデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「化粧型枠」を使用する場合は、3次元モデルより面積を算出するため「B」を適用する。なお一般の型枠を使用する場合は、「C」を適用する。 「均しコンクリート」、「足場」と「水抜パイプ」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。</p> <p>注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3. (2)を参照のこと。 3. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出するなお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p>	<p>「基礎碎石」の「敷均し厚 20cm 以下」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「基礎碎石」の「敷均し厚 20cm 越え」は、3次元モデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「化粧型枠」を使用する場合は、3次元モデルより面積を算出するため「B」を適用する。 一般の型枠を使用する場合は、「C」を適用する。 「均しコンクリート」、「足場」と「水抜パイプ」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。</p> <p>注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3. (2)を参照のこと。 3. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出するなお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p>	記載の削除
積算上の注意事項	3-7-3		(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

8章 橋梁補修工

8.1 橋梁地覆補修工(撤去・復旧)

1. 適用

旧高欄の撤去を含めた地覆コンクリートの撤去・修復に適用する。
ただし、高欄の設置は含まない。

2. 数量算出項目

とりこわし、鉄筋、コンクリート、足場・防護の数量を区分ごとに算出する。

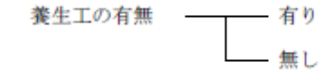
3. 区分

区分は、鉄筋規格、コンクリート規格、養生工の有無、防護種類、1工事での足場使用回数、足場を架設している総月数とする。

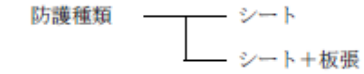
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	鉄筋規格	コンクリート規格	養生工の有無	防護種類	1工事での足場使用回数	足場を架設している総月数	単位	数量	備考
とりこわし	×	×	×	×	×	×	×	m ³		
鉄筋	○	×	×	×	×	×	×	t		
コンクリート	×	○	○	×	×	×	×	m ³		
足場・防護	×	×	×	○	○	○	○	m ²		

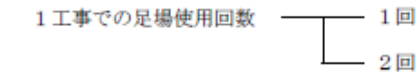
(2) 養生工の有無による区分は、以下のとおりとする。



(3) 防護種類による区分は、以下のとおりとする。



(4) 1工事での足場使用回数による区分は、以下のとおりとする。



3-8-2

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報					1工事での足場使用回数	足場を架設している総月数	単位	数量	備考
			鉄筋規格	コンクリート規格	養生工の有無	防護種類	足場を架設している総月数					
とりこわし	B	×	×	×	×	×	×	×	m ³			
鉄筋	B	○	×	×	×	×	×	×	t			
コンクリート	B	×	○	○	×	×	×	×	m ³			
足場・防護	B	×	×	×	○	○	○	○	m ²			

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。

現行どおり

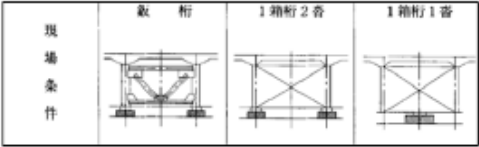
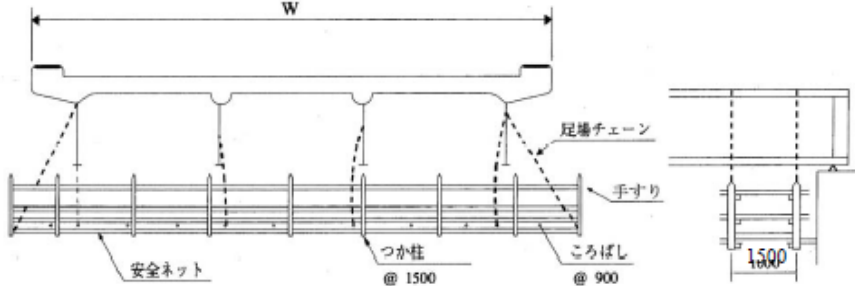
記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																														
現 行	改 正	備 考																																																																																														
<p>8.2 支承取替工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>橋梁補修工のうち、鋼橋及びPC橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、鋼橋及びPC橋以外の支承取替の場合（RC橋・PRC橋・複合橋等）沓座コンクリートのはつりにウォータージェットを使用する場合、膨張型薄型ジャッキ（フラットジャッキ等）を使用する場合、補修用足場にベント設備を用いる場合には適用しないものとする。</p> <p>適用できる範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th colspan="3">鋼橋-鋼製支承</th> <th>鋼橋-ゴム支承</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作用する反力 kN(t)</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> <td>1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下</td> <td>2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> PC橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>PC橋-ゴム支承</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形 式</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td>作用する反力 kN(t)</td> <td>1961.3kN (200t)以下</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>支承取替（鋼橋）、支承取替（PC橋）、支承（材料費）、足場の数量を区分ごとに算出する。</p> </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、規格、支承形式、現場条件、供用日数とする。</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">支承形式</th> <th rowspan="2">現場条件</th> <th rowspan="2">下部工ブラケット取付の有無</th> <th rowspan="2">供用日数</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支承取替（鋼橋）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承取替（PC橋）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承（材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下部工ブラケット取付</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(ブラケット単部材質量)</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下部工ブラケット（材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div>	種 類	鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承	I	II	III	IV	作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下	種 類	PC橋-ゴム支承	形 式	V	作用する反力 kN(t)	1961.3kN (200t)以下	区 分	規格	支承形式	現場条件	下部工ブラケット取付の有無	供用日数	単位	数量	備考	項目	支承取替（鋼橋）	○	○	○	○	×	基			支承取替（PC橋）	○	×	×	×	×	基			支承（材料費）	○	×	×	×	×	個			沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）	○	×	×	×	×	m ³			下部工ブラケット取付	○	×	×	(ブラケット単部材質量)	×	基			下部工ブラケット（材料費）	○	×	×	×	×	基			足 場	○	×	×	×	×	m ²			<p>現行どおり</p>		<p>記載の追加</p>
種 類		鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承																																																																																											
	I	II	III	IV																																																																																												
作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下																																																																																												
種 類	PC橋-ゴム支承																																																																																															
形 式	V																																																																																															
作用する反力 kN(t)	1961.3kN (200t)以下																																																																																															
区 分	規格	支承形式	現場条件	下部工ブラケット取付の有無	供用日数	単位	数量	備考																																																																																								
									項目																																																																																							
支承取替（鋼橋）	○	○	○	○	×	基																																																																																										
支承取替（PC橋）	○	×	×	×	×	基																																																																																										
支承（材料費）	○	×	×	×	×	個																																																																																										
沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）	○	×	×	×	×	m ³																																																																																										
下部工ブラケット取付	○	×	×	(ブラケット単部材質量)	×	基																																																																																										
下部工ブラケット（材料費）	○	×	×	×	×	基																																																																																										
足 場	○	×	×	×	×	m ²																																																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																													

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分	3次元モデル	属性情報						
		規格	支承形式	現場条件	下部工ブラケット取付の有無	供用日数	単位	数量
支承取替（鋼橋）	B	○	○	○	○	×	基	
支承取替（PC橋）	B	○	×	×	×	×	基	
支承（材料費）	B	○	×	×	×	×	個	
沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）	B	○	×	×	×	×	m ³	
下部工ブラケット取付	B	○	×	×	(ブラケット単部材質量)	×	基	
下部工ブラケット（材料費）	B	○	×	×	×	×	基	
足 場	B	○	×	×	×	×	m ²	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

改正理由	一部改正	改正 現行																											
現行	改正	備考																											
<p>注) 1. 現場条件は以下を標準とする。</p>  <p>2. 支取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とする。 なお、現場条件等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。</p>  <p>(2) 支取替（鋼橋）の支取形式による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>支取形式</p> <ul style="list-style-type: none"> I II III IV <p>(3) 支取替（鋼橋）の現場条件による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>現場条件</p> <ul style="list-style-type: none"> — 飯桁（支取形式 II、IIIのみ） — 1 箱桁 2 脊（支取形式 II、IIIのみ） — 1 箱桁 1 脊（支取形式 II、IIIのみ） <p>(4) 下部工ブラケット取付の単部材質量による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>単部材質量</p> <ul style="list-style-type: none"> — 600kg 以下 — 600kg を超え 2,000kg 以下 <table border="1" data-bbox="359 1570 1237 1717" style="border: 2px solid red;"> <thead> <tr> <th colspan="4">関連数量算出項目</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場補修塗装工</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">3-8-5</p>	関連数量算出項目				項目	単位	数量	備考	現場補修塗装工	m ²			<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <table border="1" data-bbox="1644 1570 2392 1684" style="border: 2px solid red;"> <thead> <tr> <th colspan="2">関連数量算出項目</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>3次元モデル</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場補修塗装工</td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p>	関連数量算出項目		属性情報			項目	3次元モデル	単位	数量	備考	現場補修塗装工	B	m ²			<p style="text-align: center;">記載の追加</p>
関連数量算出項目																													
項目	単位	数量	備考																										
現場補修塗装工	m ²																												
関連数量算出項目		属性情報																											
項目	3次元モデル	単位	数量	備考																									
現場補修塗装工	B	m ²																											
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																										

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																													
現 行	改 正	備 考																																																																																													
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>8.3 沓座拡幅工</p> <p>1. 適用</p> <p>沓座拡幅工のうち削孔工、チッピング工、アンカーボルト挿入工、足場工及び防護工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>チッピング（厚1～2cm）、アンカーボルト挿入、アンカーボルト（材料費）、注入材（材料費）の数量を算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チッピング (厚1～2cm)</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト挿入</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト (材料費)</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材（材料費）</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔工</td> <td>孔</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.22 落橋防止装置工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）8.2 支承取替工」参照</td> </tr> <tr> <td>防護工</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.20 床板補強工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 防護工は、鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、板張を原則とする。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカーボルト（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(2) 注入材（材料費）は、ロスを10%とし規格ごとに1本当りの使用量（kg）を算出する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現行どおり</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート沓座拡幅工のうちコンクリート削孔工、充填補修、チッピング工、アンカーボルト挿入工、鉄筋組立、型枠製作・設置・撤去、コンクリート打設・養生、足場工及び防護工、鋼製ブラケット沓座拡幅工のうちコンクリート削孔、アンカーボルト挿入、充填補修、不陸修正、鋼製ブラケット設置、足場及び防護に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>チッピング（厚1～2cm以下）、アンカーボルト挿入、アンカーボルト（材料費）、注入材（材料費）、鉄筋（沓座拡幅工）、型枠（沓座拡幅工）、コンクリート（沓座拡幅工）の数量を算出する。</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チッピング（厚1～2cm以下）</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト挿入</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト（材料費）</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材（材料費）</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋（沓座拡幅工）</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠（沓座拡幅工）</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート（沓座拡幅工）</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> </div> </div>				項目	規格	単位	数量	備考	チッピング (厚1～2cm)	×	m ²			アンカーボルト挿入	○	本			アンカーボルト (材料費)	○	本			注入材（材料費）	○	本			項目	単位	数量	備考	削孔工	孔		「第3編（道路編）3.22 落橋防止装置工」参照	足場工	m ²		「第3編（道路編）8.2 支承取替工」参照	防護工	m ²		「第3編（道路編）3.20 床板補強工」参照	項目	3次元モデル	属性情報			備考	規格	単位	数量	チッピング（厚 1～2cm 以下）	B	×	m ²			アンカーボルト挿入	B	○	本			アンカーボルト（材料費）	B	○	本			注入材（材料費）	B	○	本			鉄筋（沓座拡幅工）	B	○	t			型枠（沓座拡幅工）	B	×	m ²			コンクリート（沓座拡幅工）	B	○	m ³		
項目	規格	単位	数量	備考																																																																																											
チッピング (厚1～2cm)	×	m ²																																																																																													
アンカーボルト挿入	○	本																																																																																													
アンカーボルト (材料費)	○	本																																																																																													
注入材（材料費）	○	本																																																																																													
項目	単位	数量	備考																																																																																												
削孔工	孔		「第3編（道路編）3.22 落橋防止装置工」参照																																																																																												
足場工	m ²		「第3編（道路編）8.2 支承取替工」参照																																																																																												
防護工	m ²		「第3編（道路編）3.20 床板補強工」参照																																																																																												
項目	3次元モデル	属性情報			備考																																																																																										
		規格	単位	数量																																																																																											
チッピング（厚 1～2cm 以下）	B	×	m ²																																																																																												
アンカーボルト挿入	B	○	本																																																																																												
アンカーボルト（材料費）	B	○	本																																																																																												
注入材（材料費）	B	○	本																																																																																												
鉄筋（沓座拡幅工）	B	○	t																																																																																												
型枠（沓座拡幅工）	B	×	m ²																																																																																												
コンクリート（沓座拡幅工）	B	○	m ³																																																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																												

改正理由	一部改正	改正 現行																														
現	行	改	正																													
前頁より移動																																
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>(3) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。</p> $\text{足場面積} A = (L + 2) \times 2 \times 1.5 \times n$ <p>L : 橋台及び橋脚の長さ (m) n : 橋台及び橋脚の数 (ただし橋台の場合は1/2とする。)</p> </div>		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔工</td> <td>孔</td> <td></td> <td>「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト挿入</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照</td> </tr> <tr> <td>充填補修</td> <td>孔</td> <td></td> <td>「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照</td> </tr> <tr> <td>鋼製ブラケット設置</td> <td>基</td> <td></td> <td>「第3編 (道路編) 8. 2 支承取替工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編 (道路編) 8. 2 支承取替工」参照</td> </tr> <tr> <td>防護工</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編 (道路編) 3. 2.0 床板補強工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 防護工は、鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、板張を原則とする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカーボルト筋 (材料費) は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(2) 注入材 (材料費) は、ロスを101%とし規格ごとに1本当りの使用量 (kg) を算出する。</p> <p>(3) 鉄筋 (沓座拡幅工) は、ロスを1%とし規格ごとに質量 (t) を算出する。</p> <p>(4) コンクリート (沓座拡幅工) は、ロスを11%とし規格ごとに数量 (m³) を算出する。</p> <p>(3.5) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。</p> $\text{足場面積} A = (L + 2) \times 2 \times 1.5 \times n$ <p>L : 橋台及び橋脚の長さ (m) n : 橋台及び橋脚の数 (ただし橋台の場合は1/2とする。)</p> </div>		項目	単位	数量	備考	削孔工	孔		「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照	アンカーボルト挿入	本		「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照	充填補修	孔		「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照	鋼製ブラケット設置	基		「第3編 (道路編) 8. 2 支承取替工」参照	足場工	m ²		「第3編 (道路編) 8. 2 支承取替工」参照	防護工	m ²		「第3編 (道路編) 3. 2.0 床板補強工」参照	<p>語句の修正</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p> <p>語句の修正</p>
項目	単位	数量	備考																													
削孔工	孔		「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照																													
アンカーボルト挿入	本		「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照																													
充填補修	孔		「第3編 (道路編) 3. 2.2 落橋防止装置工」参照																													
鋼製ブラケット設置	基		「第3編 (道路編) 8. 2 支承取替工」参照																													
足場工	m ²		「第3編 (道路編) 8. 2 支承取替工」参照																													
防護工	m ²		「第3編 (道路編) 3. 2.0 床板補強工」参照																													
<p>5. 参考図</p> <p>足場面積</p> <p style="text-align: center;">3-8-8</p>		<p>現行どおり</p>																														
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																													

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																												
現 行	改 正	備 考																																																																																																																												
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>8.4 桁連結工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">桁連結工における芯出し素地調整、現場孔明、連結板取付、現場溶接、ボルト締に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">桁連結装置（材料費）、芯出し素地調整、現場孔明、連結板取付、現場溶接、ボルト締の数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格、作業条件とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業条件</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>桁連結装置（材料費）</td><td></td><td>○</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>芯出し素地調整</td><td></td><td>○</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現場孔明</td><td></td><td>×</td><td>○</td><td>本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>連結板取付</td><td></td><td>×</td><td>×</td><td>箇所</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現場溶接</td><td></td><td>○</td><td>×</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ボルト締</td><td></td><td>×</td><td>○</td><td>本</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 作業条件の「作業性の悪い箇所等」は、作業性の悪い箇所の他、構造的に複雑なもの 1箇所当りのボルト本数の少ない場合（10本/箇所未満）とする。 2. 溶接脚長は8～12mmの場合とする。 3. 作業条件の「作業性の悪い箇所等」は、作業性の悪い箇所の他、構造的に複雑なもの、 1箇所当りのボルト本数の少ない場合（10本/箇所未満）とする。</p> <p>(2) 作業条件による区分は、以下のとおりとする。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">作業条件</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">└──┬──┘</td> <td style="width: 15%;">10本以上/箇所</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">└──┬──┘</td> <td>作業性の悪い箇所等</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>現行どおり</p> <p>→</p> <p>現行どおり</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格</th> <th>作業条件</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>桁連結装置（材料費）</td><td></td><td>B</td><td>○</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>芯出し素地調整</td><td></td><td>B</td><td>○</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現場孔明</td><td></td><td>B</td><td>×</td><td>○</td><td>本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>連結板取付</td><td></td><td>B</td><td>×</td><td>×</td><td>箇所</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現場溶接</td><td></td><td>B</td><td>○</td><td>×</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ボルト締</td><td></td><td>B</td><td>×</td><td>○</td><td>本</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p><small>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</small></p> <p>注) 1. 作業条件の「作業性の悪い箇所等」は、作業性の悪い箇所の他、構造的に複雑なもの 1箇所当りのボルト本数の少ない場合（10本/箇所未満）とする。 2. 溶接脚長は8～12mmの場合とする。 3. 作業条件の「作業性の悪い箇所等」は、作業性の悪い箇所の他、構造的に複雑なもの、 1箇所当りのボルト本数の少ない場合（10本/箇所未満）とする。</p> </div> </div>				項目	区分	規格	作業条件	単位	数量	備考	桁連結装置（材料費）		○	×	t			芯出し素地調整		○	×	m ²			現場孔明		×	○	本			連結板取付		×	×	箇所			現場溶接		○	×	m			ボルト締		×	○	本			作業条件	└──┬──┘	10本以上/箇所					└──┬──┘	作業性の悪い箇所等				項目	区分	属性情報					3次元モデル	規格	作業条件	単位	数量	備考	桁連結装置（材料費）		B	○	×	t			芯出し素地調整		B	○	×	m ²			現場孔明		B	×	○	本			連結板取付		B	×	×	箇所			現場溶接		B	○	×	m			ボルト締		B	×	○	本			記載の追加
項目	区分	規格	作業条件	単位	数量	備考																																																																																																																								
桁連結装置（材料費）		○	×	t																																																																																																																										
芯出し素地調整		○	×	m ²																																																																																																																										
現場孔明		×	○	本																																																																																																																										
連結板取付		×	×	箇所																																																																																																																										
現場溶接		○	×	m																																																																																																																										
ボルト締		×	○	本																																																																																																																										
作業条件	└──┬──┘	10本以上/箇所																																																																																																																												
	└──┬──┘	作業性の悪い箇所等																																																																																																																												
項目	区分	属性情報																																																																																																																												
		3次元モデル	規格	作業条件	単位	数量	備考																																																																																																																							
桁連結装置（材料費）		B	○	×	t																																																																																																																									
芯出し素地調整		B	○	×	m ²																																																																																																																									
現場孔明		B	×	○	本																																																																																																																									
連結板取付		B	×	×	箇所																																																																																																																									
現場溶接		B	○	×	m																																																																																																																									
ボルト締		B	×	○	本																																																																																																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																																											

改正理由	一部改正	改正 現行																																																											
現 行		改 正																																																											
備 考																																																													
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">項目</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 20%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付用アンカーボルト</td> <td>本 (t)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付用高力ボルト</td> <td>本 (t)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場塗装工</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護工</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 塗装工は、下塗1回、中塗1回、上塗1回を標準とするが、ケレンの割合によって下塗2回を考慮すること。 2. 足場工及び防護工は、沓座幅の足場工及び防護工と同様にするが、面積は橋台幅×1.5mとする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 桁連結装置（材料費）は、質量（t）を算出する。 注）取付用アンカーボルト・高力ボルト類は別途算出する。</p> <p>(2) 塗装工は、規格・仕様ごとに面積（m²）を算出する。</p> <p>(3) 足場工の面積は、橋台幅×1.5mとし面積（m²）を算出する。</p> </div>		項目	単位	数量	備考	取付用アンカーボルト	本 (t)			取付用高力ボルト	本 (t)			現場塗装工	m ²			足場工	m ²			防護工	m ²			<p>→</p> <p style="font-size: 2em;">}</p> <p>現行どおり</p>	<p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 60%;">項目</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">3次元モデル</th> <th colspan="3" style="border: 2px solid red;">属性情報</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 20%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付用アンカーボルト</td> <td style="border: 2px solid red;">B</td> <td>本 (t)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付用高力ボルト</td> <td style="border: 2px solid red;">B</td> <td>本 (t)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場塗装工</td> <td style="border: 2px solid red;">B</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td style="border: 2px solid red;">B</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護工</td> <td style="border: 2px solid red;">B</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 塗装工は、下塗1回、中塗1回、上塗1回を標準とするが、ケレンの割合によって下塗2回を考慮すること。 2. 足場工及び防護工は、沓座幅の足場工及び防護工と同様にするが、面積は橋台幅×1.5mとする。</p>	項目	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	取付用アンカーボルト	B	本 (t)			取付用高力ボルト	B	本 (t)			現場塗装工	B	m ²			足場工	B	m ²			防護工	B	m ²			記載の追加
項目	単位	数量	備考																																																										
取付用アンカーボルト	本 (t)																																																												
取付用高力ボルト	本 (t)																																																												
現場塗装工	m ²																																																												
足場工	m ²																																																												
防護工	m ²																																																												
項目	3次元モデル	属性情報																																																											
		単位	数量	備考																																																									
取付用アンカーボルト	B	本 (t)																																																											
取付用高力ボルト	B	本 (t)																																																											
現場塗装工	B	m ²																																																											
足場工	B	m ²																																																											
防護工	B	m ²																																																											
積算上の注意事項	3-8-10		(控え頁) 2/2																																																										

改正理由	一部改正	改正 現行																																		
現行		改正																																		
<p>8.5 現場溶接鋼桁補強工</p> <p>1. 適用 桁補強を目的とする部材取付等の現場溶接作業に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 現場溶接鋼桁補強の数量を算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格・仕様とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場溶接鋼桁補強</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>溶接延長(6mm換算長)</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)11.4足場工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 溶接延長は、すみ肉溶接の脚長6mmの場合を標準とするが、これ以外の場合は下式により算出する。</p> $\text{溶接延長} = (S^2 \times L) / 36$ <p>S:脚長(mm) L:実溶接延長(m)</p> <p>3-8-11</p>		項目	規格・仕様	単位	数量	備考	現場溶接鋼桁補強	○	m		溶接延長(6mm換算長)	項目	単位	数量	備考	足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場溶接鋼桁補強</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>溶接延長(6mm換算長)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	3次元 モデル	属性情報			備考	規格・仕様	単位	数量	現場溶接鋼桁補強	B	○	m		溶接延長(6mm換算長)
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																
現場溶接鋼桁補強	○	m		溶接延長(6mm換算長)																																
項目	単位	数量	備考																																	
足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照																																	
項目	3次元 モデル	属性情報			備考																															
		規格・仕様	単位	数量																																
現場溶接鋼桁補強	B	○	m		溶接延長(6mm換算長)																															
積算上の注意事項			記載の追加 (控え頁) 1/1																																	

改正理由	一部改正	改正 現行																		
現行		改正																		
<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>8.6 ひび割れ補修工(充てん工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>橋梁のひび割れ補修における1橋当りの充てん作業(ひび割れ延長300m以下)に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ひび割れ補修工(充てん工法)を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ひび割れ補修工 (充てん工法)</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>充てん材</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. コンクリート殺の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。 3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> </div>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	ひび割れ補修工 (充てん工法)	延べ施工量		m			充てん材	○	kg			削除	積算基準改定に伴う削除(第1編12章 構造物補修工に移行)
項目	区分	規格	単位	数量	備考															
ひび割れ補修工 (充てん工法)	延べ施工量		m																	
	充てん材	○	kg																	
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																	

改正理由	一部改正	改正 現行																												
現 行		改 正																												
<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>8.7 ひび割れ補修工(低圧注入工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>橋梁のひび割れ補修における1橋当りの低圧注入作業（ひび割れ延長300m以下、注入圧力0.4MPa以下）に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ひび割れ補修工（低圧注入工法）を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">ひび割れ補修工 (低圧注入工法)</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低圧注入器具</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。</p> </div>		項 目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	延べ施工量		m			注入材	○	kg			シール材	○	kg			低圧注入器具	○	個			削除	積算基準改定に伴う削除(第1編12章構造物補修工に移行)
項 目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																									
ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	延べ施工量		m																											
	注入材	○	kg																											
	シール材	○	kg																											
	低圧注入器具	○	個																											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																											

改正理由	一部改正	改正 現行																			
現 行		改 正																			
<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>8.8 断面修復工(左官工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>橋梁の断面修復における1橋当りの左官作業(体積1.5m³以下)に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>断面補修工(左官工法)を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">規 格</th> <th rowspan="2">鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>延べ施工量</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>断面補修工(左官工法)</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。 3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> </div>		項目	区 分		規 格	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	単 位	数 量	備 考	延べ施工量		断面補修工(左官工法)	延べ施工量			○	m ³			→ 削除	積算基準改定に伴う削除(第1編12章構造物補修工に移行)
項目	区 分		規 格	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無						単 位	数 量	備 考									
	延べ施工量																				
断面補修工(左官工法)	延べ施工量			○	m ³																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																		

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																												
現	行	改	正																																																																																																																																											
<p>8.9 表面被覆工(塗装工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>橋梁補修のコンクリート面の表面被覆工(塗装工法)における1橋当りの塗装作業(仕上げ面積2,000m²以下)に適用する。ただし、新設時の塗装には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>下地処理、プライマー塗布、下塗り(パテ塗布)、中塗り材塗布、上塗り材塗布を区ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>延べ施工量</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下地処理</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プライマー塗布</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プライマー</td> <td>○</td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">下塗り(パテ塗布)</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パテ材</td> <td>○</td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中塗り材塗布</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中塗り材</td> <td>○</td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">上塗り材塗布</td> <td>延べ施工量</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上塗り材</td> <td>○</td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。 3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。 4. 中塗り材・上塗り材を複数回塗布する場合は、回数分を計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> <p style="text-align: center;">3-8-15</p>		項目	区分		規格	単位	数量	備考	延べ施工量		下地処理	延べ施工量			m ²			プライマー塗布	延べ施工量			m ²			プライマー	○		kg			下塗り(パテ塗布)	延べ施工量			m ²			パテ材	○		kg			中塗り材塗布	延べ施工量			m ²			中塗り材	○		kg			上塗り材塗布	延べ施工量			m ²			上塗り材	○		kg			<p>8.96 表面被覆工(塗装工法)</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下地処理</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プライマー塗布</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プライマー</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">下塗り(パテ塗布)</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パテ材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中塗り材塗布</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中塗り材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">上塗り材塗布</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上塗り材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。 3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。 4. 中塗り材・上塗り材を複数回塗布する場合は、回数分を計上する。</p> <p style="text-align: center;">3-8-12</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	下地処理	延べ施工量	B		m ²			プライマー塗布	延べ施工量	B		m ²			プライマー	B	○	kg			下塗り(パテ塗布)	延べ施工量	B		m ²			パテ材	B	○	kg			中塗り材塗布	延べ施工量	B		m ²			中塗り材	B	○	kg			上塗り材塗布	延べ施工量	B		m ²			上塗り材	B	○	kg			<p>語句の修正</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分		規格	単位					数量	備考																																																																																																																																				
	延べ施工量																																																																																																																																													
下地処理	延べ施工量			m ²																																																																																																																																										
プライマー塗布	延べ施工量			m ²																																																																																																																																										
	プライマー	○		kg																																																																																																																																										
下塗り(パテ塗布)	延べ施工量			m ²																																																																																																																																										
	パテ材	○		kg																																																																																																																																										
中塗り材塗布	延べ施工量			m ²																																																																																																																																										
	中塗り材	○		kg																																																																																																																																										
上塗り材塗布	延べ施工量			m ²																																																																																																																																										
	上塗り材	○		kg																																																																																																																																										
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																																																											
			規格	単位	数量	備考																																																																																																																																								
下地処理	延べ施工量	B		m ²																																																																																																																																										
プライマー塗布	延べ施工量	B		m ²																																																																																																																																										
	プライマー	B	○	kg																																																																																																																																										
下塗り(パテ塗布)	延べ施工量	B		m ²																																																																																																																																										
	パテ材	B	○	kg																																																																																																																																										
中塗り材塗布	延べ施工量	B		m ²																																																																																																																																										
	中塗り材	B	○	kg																																																																																																																																										
上塗り材塗布	延べ施工量	B		m ²																																																																																																																																										
	上塗り材	B	○	kg																																																																																																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																																																											

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

3. 区分

区分は、規格、断面とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	断面	必要性の有無	単位	数量	備考
躯体部本体コンクリート		○	○	-	m ³	○	
基礎	敷均し厚20cm以下	×	×	○	-	×	
	砕石 敷均し厚20cm超え	○	×	-	m ²	○	
均しコンクリート		×	×	○	-	×	
歩床部コンクリート		×	×	○	-	×	
目地・止水板	スリッパ-試	×	×	○	-	×	
	スリッパ-試跡	○	×	-	m ² 及びm	○	
化粧型枠		×	×	-	m ²	○	必要量計上
鉄筋		○	×	-	t	○	
足場		×	×	-	-	×	注) 2

注) 1. 躯体部本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。
2. 雪寒仮囲い等の特別な足場を必要とする場合は、必要量を別途算出する。

(2) 断面区分

区分	断面	土被り	内空幅: B (m)	内空高: H (m)
①	1層1連	1.5 < DH ≤ 3.0	2.0 ≤ B < 2.5	1.5 ≤ H < 2.0
			2.5 ≤ B < 3.5	1.5 ≤ H < 2.0
			2.0 ≤ B < 2.5	2.0 ≤ H < 2.5
			2.5 ≤ B < 3.5	2.0 ≤ H < 2.5
②	1層2連	3.0 < DH ≤ 5.0	2.0 ≤ B < 2.5	2.0 ≤ H < 2.5
			2.5 ≤ B < 3.5	2.0 ≤ H < 2.5
			2.0 ≤ B < 2.5	2.5 ≤ H < 3.0
			2.5 ≤ B < 3.5	2.5 ≤ H < 3.0
			2.0 ≤ B < 2.5	3.0 ≤ H < 4.0
			2.5 ≤ B < 3.5	3.0 ≤ H < 4.0

注) 1層2連の場合の考え方は、以下のとおりである。
・同一断面の場合 : 1連分のB、Hで決定
・異形断面の場合 : 共同溝工(2)により別途算出する。

3-10-3

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考
			規格	断面	必要性の有無	単位	
躯体部本体コンクリート		A	○	○	-	m ³	○
基礎	敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	-	×
	砕石 敷均し厚20cm超え	B	○	×	-	m ²	○
均しコンクリート		C	×	×	○	-	×
歩床部コンクリート		B	×	×	○	-	×
目地・止水板	スリッパ-試	B	×	×	○	-	×
	スリッパ-試跡	B	○	×	-	m ² 及びm	○
化粧型枠		B	×	×	-	m ²	○
鉄筋		B	○	×	-	t	○
足場		C	×	×	-	-	×

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 躯体部本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。
2. 雪寒仮囲い等の特別な足場を必要とする場合は、必要量を別途算出する。

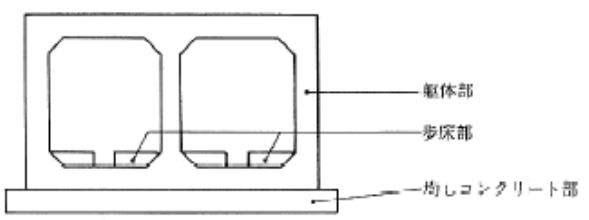
現行どおり

記載の追加

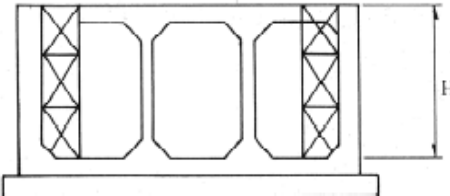
積算上の注意事項	(控え頁) 1/1
----------	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																					
現行		改正																																					
<p>10.2.3 掘削工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>掘削土量を区分ごとに算出する。なお、コンクリート及びアスファルト舗装版の破碎については、別途「3.2 舗装版破碎工」等により算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、施工形態、土質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>ブロック</th> <th>施工形態</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 算出する数量は、地山土量とする。</p> <p>1) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>2) 施工形態区分 施工形態による区分は、「土留覆工方式」、「土留開放方式」に区分して算出する。</p> <p>(土留覆工方式) (土留開放方式)</p> <p>3) 土質区分 土質区分は、「第1編(共通編)2.1土工 3.区分(2)」による。</p> <p>3-10-6</p>		区分 項目	ブロック	施工形態	土質	単位	数量	備考	掘削	○	○	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th></th> <th>ブロック</th> <th>施工形態</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 算出する数量は、地山土量とする。</p> <p>現行どおり</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報						ブロック	施工形態	土質	単位	数量	備考	掘削	—	○	○	○	m ³		記載の追加
区分 項目	ブロック	施工形態	土質	単位	数量	備考																																	
掘削	○	○	○	m ³																																			
区分 項目	3次元 モデル	属性情報																																					
	ブロック	施工形態	土質	単位	数量	備考																																	
掘削	—	○	○	○	m ³																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/9																																				

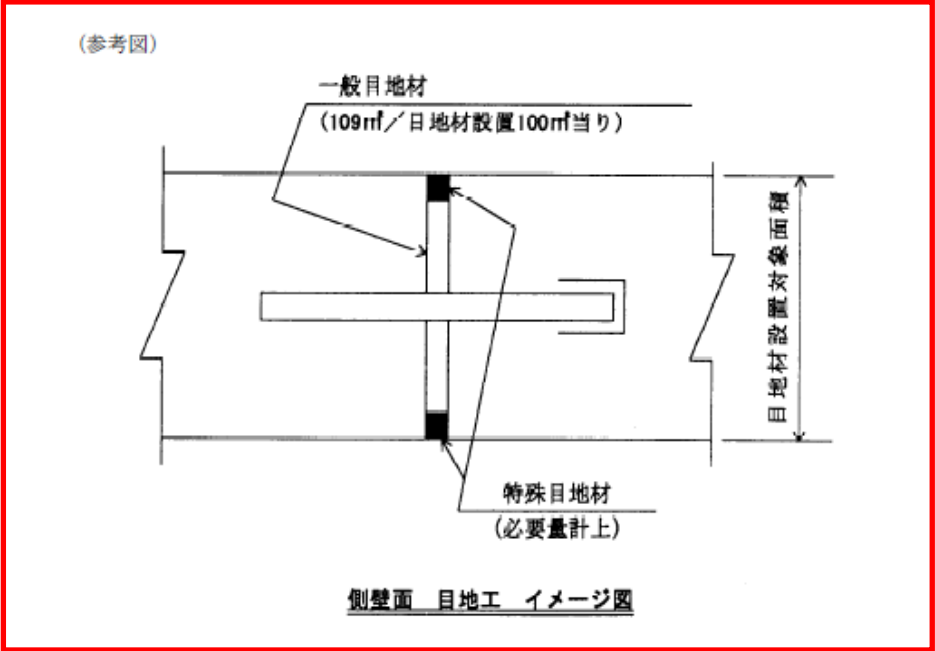
改正理由	一部改正	改正 現行																																
現行		改正																																
<p>10.2.4 埋戻工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>埋戻しの土量を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、施工形態とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>ブロック</th> <th>施工形態</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋戻し</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 算出する数量は、締固め後の土量とする。</p> <p>1) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>2) 施工形態区分 施工形態による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>(土留覆工方式) (土留開放方式)</p> <p>(注) 1. ①、②、③に区分し、土量を算出する。 2. W<0.9m、W≥0.9mに区分し、土量を算出する。</p> <p>10.2.5 基礎砕石工</p> <p>基礎砕石工の数量は「第1編(共通編)9章基礎工 9.1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」により算出する。</p>		区分 項目	ブロック	施工形態	単位	数量	備考	埋戻し	○	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>施工形態</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋戻し</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 算出する数量は、締固め後の土量とする。</p> <p>現行どおり</p>		項目	3次元 モデル	属性情報				ブロック	施工形態	単位	数量	備考	埋戻し	-	○	○	m ³			備考
区分 項目	ブロック	施工形態	単位	数量	備考																													
埋戻し	○	○	m ³																															
項目	3次元 モデル	属性情報																																
		ブロック	施工形態	単位	数量	備考																												
埋戻し	-	○	○	m ³																														
積算上の注意事項	3-10-7		記載の追加																															
			(控え頁) 2/9																															

改正理由	一部改正	改正 現行																																																													
現行		改正																																																													
<p>10.2.6 コンクリート工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>躯体部コンクリート、均しコンクリート部コンクリート、歩床部コンクリートの体積を区分ごとに算出する。</p>  <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>躯体部コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート部コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び体積(m³)を算出する。</td> </tr> <tr> <td>歩床部コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p>		項目	区分	ブロック	規格	単位	数量	備考	躯体部コンクリート		○	○	m ³			均しコンクリート部コンクリート		○	○	m ²		参考として施工厚さ(cm)及び体積(m ³)を算出する。	歩床部コンクリート		○	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>躯体部コンクリート</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート部コンクリート</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び体積(m³)を算出する。</td> </tr> <tr> <td>歩床部コンクリート</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	規格	単位	数量	躯体部コンクリート		A	○	○	m ³		均しコンクリート部コンクリート		B	○	○	m ²	参考として施工厚さ(cm)及び体積(m ³)を算出する。	歩床部コンクリート		A	○	○	m ³	
項目	区分	ブロック	規格	単位	数量	備考																																																									
躯体部コンクリート		○	○	m ³																																																											
均しコンクリート部コンクリート		○	○	m ²		参考として施工厚さ(cm)及び体積(m ³)を算出する。																																																									
歩床部コンクリート		○	○	m ³																																																											
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																												
			ブロック	規格	単位	数量																																																									
躯体部コンクリート		A	○	○	m ³																																																										
均しコンクリート部コンクリート		B	○	○	m ²	参考として施工厚さ(cm)及び体積(m ³)を算出する。																																																									
歩床部コンクリート		A	○	○	m ³																																																										
積算上の注意事項		記載の追加																																																													
		(控え頁)																																																													
		3/9																																																													

改正理由	一部改正	改正 現行																																																							
現 行		改 正																																																							
<p>10.2.7 型枠工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>型枠の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロックとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>ブロック</th> <th>構造物種別</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">型 枠</td> <td rowspan="4">○</td> <td>一般型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>別基礎コンクリート型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>敷きしない型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歩床部型枠</td> <td>m</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 化粧型枠がある場合は区分する。 2. 歩床部型枠数量については、排水溝延長とする。</p> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>10.2.8 鉄筋工</p> <p>鉄筋の数量は、「第1編(共通編)4章コンクリート工 4.3.1 鉄筋工」により算出する。</p>		区分	ブロック	構造物種別	単位	数量	備 考	型 枠	○	一般型枠	m ²		注) 1	別基礎コンクリート型枠	m ²			敷きしない型枠	m ²			歩床部型枠	m		注) 2	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>構造物種別</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">型 枠</td> <td rowspan="4">B</td> <td rowspan="4">○</td> <td>一般型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>別基礎コンクリート型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>敷きしない型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歩床部型枠</td> <td>m</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>注) 1. 化粧型枠がある場合は区分する。 2. 歩床部型枠数量については、排水溝延長とする。</p> <p>現行どおり</p>		区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	構造物種別	単位	数量	備 考	型 枠	B	○	一般型枠	m ²		注) 1	別基礎コンクリート型枠	m ²			敷きしない型枠	m ²			歩床部型枠	m		注) 2
区分	ブロック	構造物種別	単位	数量	備 考																																																				
型 枠	○	一般型枠	m ²		注) 1																																																				
		別基礎コンクリート型枠	m ²																																																						
		敷きしない型枠	m ²																																																						
		歩床部型枠	m		注) 2																																																				
区分	3次元モデル	属性情報																																																							
		ブロック	構造物種別	単位	数量	備 考																																																			
型 枠	B	○	一般型枠	m ²		注) 1																																																			
			別基礎コンクリート型枠	m ²																																																					
			敷きしない型枠	m ²																																																					
			歩床部型枠	m		注) 2																																																			
3-10-9		記載の追加																																																							
積算上の注意事項			(控え頁) 4/9																																																						

改正理由	一部改正	改正 現行																								
現 行		改 正																								
<p>10.2.9 足場工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>足場の数量は、「第1編(共通編)11章仮設工11.4足場工」により算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロックとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>ブロック</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足 場</td> <td>○</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記によるものとする。</p> <p>(1) 一般部については、「第1編(共通編)11章仮設工 11.4 足場工」により算出する。</p> <p>(2) 側部内防水工箇所については、枠組足場を標準とし、下記のとおり算出する。</p>  <p>$A = 2 \times H \times t$ A: 足場工面積 (掛m²) t: 延長 (m)</p>		区分 項目	ブロック	単 位	数 量	備 考	足 場	○	掛m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足 場</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>掛m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>現行どおり</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報			ブロック	単 位	数 量	足 場	B	○	掛m ²	
区分 項目	ブロック	単 位	数 量	備 考																						
足 場	○	掛m ²																								
区分 項目	3次元 モデル	属性情報																								
		ブロック	単 位	数 量																						
足 場	B	○	掛m ²																							
備考		記載の追加																								
積算上の注意事項	3-10-10	(控え頁) 5/9																								

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																								
現行		改正																																																																																																																																								
<p>10.2.11 伸縮継手工、カラー継手工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>伸縮継手工の止水板、目地材、スリップバー及びカラー継手工のコンクリート、型枠、鉄筋、目地材の数量を算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>1) 伸縮継手工</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>止水板</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スリップバー</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2) カラー継手工</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 目地材 特殊目地材については、必要量を別途算出する。</p> <p>(参考図)</p> <p>3-10-11</p>		項目	区分	ブロック	規格	単位	数量	備考	止水板			○	m			目地材	○		○	m ²			スリップバー			○	本			項目	区分	ブロック	規格	単位	数量	備考	コンクリート			○	m ³			型枠			○	m ²			鉄筋			○	t			目地材			○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>1) 伸縮継手工</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>止水板</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>○</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スリップバー</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</u></p> <p>2) カラー継手工</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</u></p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	規格	単位	数量	止水板		B		○	m		目地材	○	B	○	○	m ²		スリップバー		B		○	本		項目	区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	規格	単位	数量	コンクリート		B		○	m ³		型枠		B		○	m ²		鉄筋		B		○	t		目地材		B		○	m ²		<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	ブロック	規格	単位	数量	備考																																																																																																																																				
止水板			○	m																																																																																																																																						
目地材	○		○	m ²																																																																																																																																						
スリップバー			○	本																																																																																																																																						
項目	区分	ブロック	規格	単位	数量	備考																																																																																																																																				
コンクリート			○	m ³																																																																																																																																						
型枠			○	m ²																																																																																																																																						
鉄筋			○	t																																																																																																																																						
目地材			○	m ²																																																																																																																																						
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																																																							
			ブロック	規格	単位	数量																																																																																																																																				
止水板		B		○	m																																																																																																																																					
目地材	○	B	○	○	m ²																																																																																																																																					
スリップバー		B		○	本																																																																																																																																					
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																																																							
			ブロック	規格	単位	数量																																																																																																																																				
コンクリート		B		○	m ³																																																																																																																																					
型枠		B		○	m ²																																																																																																																																					
鉄筋		B		○	t																																																																																																																																					
目地材		B		○	m ²																																																																																																																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 6/9																																																																																																																																							

改正理由	一部改正		改正 現行	
現行	改正			備考
	<p data-bbox="1092 640 1234 674">前頁より移動</p>  <p data-bbox="1952 1766 2041 1787">3-10-12</p>			
積算上の注意事項				(控え頁) 7/9

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

10.2.12 防水工

1. 数量算出項目

防水の面積を区分ごとに算出する。

2. 区分

区分は、ブロック、施工箇所、種別、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分項目	ブロック	施工箇所	種別	規格	単位	数量	備考
防水	○	一般部 換気部	底頂部	—	○	m ²	
			側部	内防水	○	m ²	
	特殊部	側部	底頂部	—	○	m ²	
			側部	内防水	○	m ²	
		側部	底頂部	—	○	m ²	
			側部	外防水	○	m ²	

注) 1. 一般部とは、共同溝の標準的な断面部のブロックをいう。
換気部とは、構内の温度及び湿度の調整並びに有毒ガスの排除を目的とした、強制換気口又は自然換気口等のブロックをいう。
特殊部とは、支線の分岐箇所、ケーブルのジョイントホール、敷設物件の導入用入孔及び搬入口等のブロックをいう。
2. 継手構造がカラー継手の場合は、施工箇所区分にしたがってカラー部を計上する。

(2) ブロック区分
ブロックごとに区分して算出する。

3-10-12

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分項目	3次元モデル	属性情報						数量	備考
		ブロック	施工箇所	種別	規格	単位			
防水	○	一般部 換気部	底頂部	—	○	m ²			
			側部	内防水	○	m ²			
			特殊部	側部	底頂部	—	○	m ²	
					側部	内防水	○	m ²	
				側部	底頂部	—	○	m ²	
					側部	外防水	○	m ²	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 1. 一般部とは、共同溝の標準的な断面部のブロックをいう。
換気部とは、構内の温度及び湿度の調整並びに有毒ガスの排除を目的とした、強制換気口又は自然換気口等のブロックをいう。
特殊部とは、支線の分岐箇所、ケーブルのジョイントホール、敷設物件の導入用入孔及び搬入口等のブロックをいう。
2. 継手構造がカラー継手の場合は、施工箇所区分にしたがってカラー部を計上する。

現行どおり

3-10-13

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 8/9
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																																															
現 行		改 正																																																															
<p>10.2.13 防水層保護工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>防水層保護の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、施工箇所、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分項目</th> <th>ブロック</th> <th>施工箇所</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">防水層保護</td> <td rowspan="4">○</td> <td rowspan="2">一般部</td> <td>底頂部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>側 部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特殊部</td> <td>底頂部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>側 部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 施工箇所の定義については、「10.2.12防水工」による。 2. 継手構造がカラー継手の場合は、施工箇所区分にしたがってカラー部を計上する。</p> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>3-10-13</p>		区分項目	ブロック	施工箇所	規 格	単 位	数 量	備 考	防水層保護	○	一般部	底頂部	○	m ²		側 部	○	m ²		特殊部	底頂部	○	m ²		側 部	○	m ²		<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>施工箇所</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">防水層保護</td> <td>B</td> <td rowspan="4">○</td> <td rowspan="2">一般部</td> <td>底頂部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>側 部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特殊部</td> <td>底頂部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>側 部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 施工箇所の定義については、「10.2.12防水工」による。 2. 継手構造がカラー継手の場合は、施工箇所区分にしたがってカラー部を計上する。</p> <p>現行どおり</p> <p>3-10-14</p>		区分項目	3次元モデル	属性情報					数量	備考	ブロック	施工箇所	規 格	単 位	防水層保護	B	○	一般部	底頂部	○	m ²		側 部	○	m ²		特殊部	底頂部	○	m ²		側 部	○	m ²		備考
区分項目	ブロック	施工箇所	規 格	単 位	数 量	備 考																																																											
防水層保護	○	一般部	底頂部	○	m ²																																																												
			側 部	○	m ²																																																												
		特殊部	底頂部	○	m ²																																																												
			側 部	○	m ²																																																												
区分項目	3次元モデル	属性情報					数量	備考																																																									
		ブロック	施工箇所	規 格	単 位																																																												
防水層保護	B	○	一般部	底頂部	○	m ²																																																											
	側 部			○	m ²																																																												
	特殊部		底頂部	○	m ²																																																												
			側 部	○	m ²																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 9/9																																																														

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																								
現行		改正																								
<p>10.3 電線共同溝(C.C.BOX)工</p> <p>10.3.1 適用</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝(C・C・BOX)工事に適用する。</p> <p>10.3.2 舗装版破砕積込</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝(C・C・BOX)の設置工事の舗装版破砕積込に適用する。 ・舗装版破砕積込：厚さが15cm以下のアスファルト舗装版の破砕及び積込作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>舗装版破砕積込を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版破砕積込</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	単位	数量	備考	舗装版破砕積込		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版破砕積込</td> <td></td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p>		項目	区分	属性情報			3次元モデル	単位	数量	舗装版破砕積込		B	m ²	
項目	区分	単位	数量	備考																						
舗装版破砕積込		m ²																								
項目	区分	属性情報																								
		3次元モデル	単位	数量																						
舗装版破砕積込		B	m ²																							
3-10-14		3-10-15																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/4																							

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																											
現 行		改 正																																											
<p>10.3.3 土工</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝(C・C・BOX)工事の土工に適用する。 ・床掘り：土質が土砂(砂質土及び砂、粘性土、レキ質土)の床掘り作業の場合 ・埋戻し・締固め：管路材及びプレキャストボックス設置後の埋戻し・締固め作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>床掘り、埋戻し・締固めの土量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、土質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床掘り</td> <td></td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し・締固め</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土質区分 土質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>土質 — 土砂 — 中埋砂</p> <p>10.3.4 基礎工</p> <p>基礎工の数量は、「第1編(共通編) 4章コンクリート工 4.1 コンクリート工及び9章基礎工 9.1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込梁石工」により算出する。</p> <p>3-10-15</p>		項目	区分	土質	単位	数量	備考	床掘り		×	m ³			埋戻し・締固め		○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床掘り</td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し・締固め</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>現行どおり</p> <p>3-10-16</p>		項目	区分	属性情報				3次元モデル	土質	単位	数量	備考	床掘り		—	×	m ³		埋戻し・締固め		—	○	m ³		備考
項目	区分	土質	単位	数量	備考																																								
床掘り		×	m ³																																										
埋戻し・締固め		○	m ³																																										
項目	区分	属性情報																																											
		3次元モデル	土質	単位	数量	備考																																							
床掘り		—	×	m ³																																									
埋戻し・締固め		—	○	m ³																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 2/4																																										

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

10.3.5 管路工

1. 適用

電線共同溝(C・C・BOX)の設置工事の管路工に適用する。
 ・管路材設置：露出部に単管(呼び径150mm以下)を設置する場合
 埋設部に単管・FA管(呼び径150mm以下)、ボディ管(呼び径200mm(さや管12条以下)、250mm(さや管21条以下)、多条管(可とう性のある波付き管路材で呼び径150mm以下)を設置する場合
 ・プレキャストボックス設置：質量が11,000kg以下のプレキャストボックスブロックの設置作業の場合
 ・蓋設置：質量が2,000kg以下の蓋の設置作業の場合

2. 数量算出項目

管路材設置、受金具(材料費)、支持金具(材料費)、管路受台(スペーサ)(材料費)、プレキャストボックス設置、蓋設置、蓋(材料費)を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様、作業区分、ボックスブロック1個当り質量、蓋1組当り質量とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格・仕様	作業区分	ボックスブロック1個当り質量	蓋1組当り質量	単位	数量	備考
管路材設置	○	○				m		
受金具(材料費)	○					個		
支持金具(材料費)	○					個		
管路受台(スペーサ)(材料費)	○					個		
プレキャストボックス設置	○			○		個		注2 (2)その他1)
蓋設置	○				○	組		注3 (2)その他2)

注) 1. 埋設部・露出部毎に算出する。なお、露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。
 2. 特殊部(プレキャストボックス)は、側壁、本体(上部躯体、下部床版)からなる個々のブロックより構成される。計上するボックスブロック個数は、蓋、受枠を除く側壁、本体(上部躯体、下部床版)によるブロック数を計上する。なお、上部躯体質量は、蓋部、調整リング及び受枠質量を含めないものとする。
 3. 蓋1組当り質量は、蓋部、調整リング及び受枠も含めた1組当り質量を計上する。

3-10-16

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			規格・仕様	作業区分	ボックスブロック1個当り質量	蓋1組当り質量			
管路材設置		B	○	○			m		
受金具(材料費)		B	○				個		
支持金具(材料費)		B	○				個		
管路受台(スペーサ)(材料費)		B	○				個		
プレキャストボックス設置		B	○		○		個	注2 (2)その他1)	
蓋設置		B	○		○		個	注3 (2)その他2)	

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。
 注) 1. 埋設部・露出部毎に算出する。なお、露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。
 2. 特殊部(プレキャストボックス)は、側壁、本体(上部躯体、下部床版)からなる個々のブロックより構成される。計上するボックスブロック個数は、蓋、受枠を除く側壁、本体(上部躯体、下部床版)によるブロック数を計上する。なお、上部躯体質量は、蓋部、調整リング及び受枠質量を含めないものとする。
 3. 蓋1組当り質量は、蓋部、調整リング及び受枠も含めた1組当り質量を計上する。

3-10-17

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 3/4
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																				
現行		改正																																				
<p>10.3.6 仮設工</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝(C・C・BOX)の設置工事の仮設工に適用する。 ・軽量鋼矢板設置・撤去：土留工における軽量鋼矢板の設置及び撤去作業の場合 ・覆工板設置・撤去：覆工板の設置及び撤去作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>軽量鋼矢板設置・撤去の延長、及び覆工板設置・撤去の面積を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽量鋼矢板設置・撤去</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆工板設置・撤去</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 矢板設置延長は、総延長とする。 2. 覆工板設置撤去の施工数量は、工事中の延べ設置・撤去面積とする。</p> <p>3. 参考図</p> <p>3-10-18</p>		項目	区分	単位	数量	備考	軽量鋼矢板設置・撤去		m			覆工板設置・撤去		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽量鋼矢板設置・撤去</td> <td></td> <td>B</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆工板設置・撤去</td> <td></td> <td>B</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 矢板設置延長は、総延長とする。 2. 覆工板設置撤去の施工数量は、工事中の延べ設置・撤去面積とする。</p> <p>現行どおり</p> <p>3-10-19</p>		項目	区分	属性情報			3次元モデル	単位	数量	備考	軽量鋼矢板設置・撤去		B	m		覆工板設置・撤去		B	m ²		備考
項目	区分	単位	数量	備考																																		
軽量鋼矢板設置・撤去		m																																				
覆工板設置・撤去		m ²																																				
項目	区分	属性情報																																				
		3次元モデル	単位	数量	備考																																	
軽量鋼矢板設置・撤去		B	m																																			
覆工板設置・撤去		B	m ²																																			
積算上の注意事項			(控え頁) 4/4																																			

改正理由	一部改正	改正 現行																																						
現 行		改 正																																						
<p>10.4 情報ボックス工</p> <p>10.4.1 適用</p> <p>1. 適用</p> <p>情報ボックス工事に適用する。</p> <p>10.4.2 舗装版破砕</p> <p>1. 適用</p> <p>情報ボックス工事の舗装版破砕に適用する。 ・舗装版破砕：厚さが15cm以下のアスファルト舗装版の破砕及び積込作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>舗装版破砕を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版破砕</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>積込を含む</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版切断</td> <td>m</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.3 舗装版切断」参照</td> </tr> <tr> <td>舗装版復旧</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）1 舗装工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>10.4.3 土工</p> <p>1. 適用</p> <p>情報ボックス工事の土工に適用する。 ・床掘り：基面整正を含む床掘り作業の場合 ・埋戻し：埋設表示シートの設置を含む埋戻し・締固め作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>床掘り、埋戻し、中埋材（材料費）、埋設表示シート（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格・仕様、中埋材料とする。</p> <p>3-10-19</p>		項目	区分	単位	数量	備考	舗装版破砕		m ²		積込を含む	項目	単位	数量	備考	舗装版切断	m		「第3編（道路編）3.3 舗装版切断」参照	舗装版復旧	m ²		「第3編（道路編）1 舗装工」参照	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版破砕</td> <td></td> <td>B</td> <td>m²</td> <td>積込を含む</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p> <p>3-10-20</p>		項目	区分	属性情報			3次元モデル	単位	数量	備考	舗装版破砕		B	m ²	積込を含む	備考
項目	区分	単位	数量	備考																																				
舗装版破砕		m ²		積込を含む																																				
項目	単位	数量	備考																																					
舗装版切断	m		「第3編（道路編）3.3 舗装版切断」参照																																					
舗装版復旧	m ²		「第3編（道路編）1 舗装工」参照																																					
項目	区分	属性情報																																						
		3次元モデル	単位	数量	備考																																			
舗装版破砕		B	m ²	積込を含む																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 1/5																																					

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																										
現行		改正																																																																																										
<p>前頁より移動</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>中埋材料</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床掘り</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中埋材 (材料費)</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋設表示シート (材料費)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 床掘り数量は、地山数量とする。 また、埋戻し数量は、締固め後数量とする。</p> <p>(2) 中埋材料の区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td>中埋材料</td> <td>—</td> <td>購入土</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td>砂</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td>砕石</td> </tr> </table> </div>		項目	区分	規格・仕様	中埋材料	単位	数量	備考	床掘り		×	×	m ³			埋戻し		×	×	m ³			中埋材 (材料費)		×	○	m ³			埋設表示シート (材料費)		○	×	m			中埋材料	—	購入土		—	砂		—	砕石	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>10.4.3 土工</p> <p>1. 適用</p> <p>情報ボックス工事の土工に適用する。 ・床掘り：基面整正を含む床掘り作業の場合 ・埋戻し：埋設表示シートの設置を含む埋戻し・締固め作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>床掘り、埋戻し、中埋材 (材料費)、埋設表示シート (材料費) の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格・仕様、中埋材料とする。</p> </div> <p>現行どおり</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>中埋材料</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床掘り</td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中埋材 (材料費)</td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋設表示シート (材料費)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする。 注) 床掘り数量は、地山数量とする。 また、埋戻し数量は、締固め後数量とする。</p> </div> <p>次頁へ移動</p>		項目	区分	属性情報					3次元モデル	規格・仕様	中埋材料	単位	数量	備考	床掘り		—	×	×	m ³			埋戻し		—	×	×	m ³			中埋材 (材料費)		—	×	○	m ³			埋設表示シート (材料費)		B	○	×	m		
項目	区分	規格・仕様	中埋材料	単位	数量	備考																																																																																						
床掘り		×	×	m ³																																																																																								
埋戻し		×	×	m ³																																																																																								
中埋材 (材料費)		×	○	m ³																																																																																								
埋設表示シート (材料費)		○	×	m																																																																																								
中埋材料	—	購入土																																																																																										
	—	砂																																																																																										
	—	砕石																																																																																										
項目	区分	属性情報																																																																																										
		3次元モデル	規格・仕様	中埋材料	単位	数量	備考																																																																																					
床掘り		—	×	×	m ³																																																																																							
埋戻し		—	×	×	m ³																																																																																							
中埋材 (材料費)		—	×	○	m ³																																																																																							
埋設表示シート (材料費)		B	○	×	m																																																																																							
<p>3-10-20</p>		<p>3-10-21</p>																																																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 2/5																																																																																									

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																					
現 行		改 正																																																																					
<p>前頁より移動</p> <p>10.4.5 管路材設置</p> <p>1. 適用</p> <p>情報ボックス工事の本体管及びさや管等の設置に適用する。 ・埋設部管路材設置：埋設部における管路材の設置作業の場合 ・露出部管路材設置：トンネル部を除く露出部における本体管及びさや管の設置作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>埋設部管路材、露出部管路材、スリーブ（材料費）、伸縮継手（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格・仕様、本体管の材質、さや管の材質、設置区分、さや管の条数、高所作業車による作業とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分 項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>本体管の材質</th> <th>さや管の材質</th> <th>設置区分</th> <th>さや管の条数</th> <th>高所作業車による作業</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋設部管路材設置</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>露出部管路材設置</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スリーブ（材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伸縮継手（材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本体管の材質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>本体管の材質</p> <ul style="list-style-type: none"> コンクリート製 合成樹脂製 鋼製 <p>(3) さや管の材質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>さや管の材質</p> <ul style="list-style-type: none"> VU・FEP管類 VU管類 FEP管類 <p>(4) 設置区分は、以下のとおりとする。</p> <p>設置区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 本体管設置 さや管設置 本体管及びさや管設置 <p>3-10-21</p>		区 分 項 目	規格・仕様	本体管の材質	さや管の材質	設置区分	さや管の条数	高所作業車による作業	単位	数量	備考	埋設部管路材設置	○	○	○	○	○	×	m			露出部管路材設置	○	×	×	×	○	○	m			スリーブ（材料費）	○	×	×	×	×	×	個			伸縮継手（材料費）	○	×	×	×	×	×	個			<p>10.4.4 基礎工</p> <p>1. 適用</p> <p>情報ボックス工事の基礎工に適用する。 ・基礎材：基礎材の厚さが20cm以下の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>基礎材の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、碎石の厚さ、碎石の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分 項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>碎石の厚さ</th> <th>碎石の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>3-10-22</p>	区 分 項 目	3次元 モデル	属 性 情 報				碎石の厚さ	碎石の種類	単位	数量	備考	基礎材	B	○	○	m ²			備考
区 分 項 目	規格・仕様	本体管の材質	さや管の材質	設置区分	さや管の条数	高所作業車による作業	単位	数量	備考																																																														
埋設部管路材設置	○	○	○	○	○	×	m																																																																
露出部管路材設置	○	×	×	×	○	○	m																																																																
スリーブ（材料費）	○	×	×	×	×	×	個																																																																
伸縮継手（材料費）	○	×	×	×	×	×	個																																																																
区 分 項 目	3次元 モデル	属 性 情 報																																																																					
		碎石の厚さ	碎石の種類	単位	数量	備考																																																																	
基礎材	B	○	○	m ²																																																																			
積算上の注意事項			(控え頁) 3/5																																																																				

現行どおり

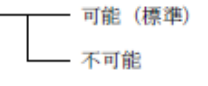
次頁へ移動

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

(5) 高所作業車による作業による区分は、以下のとおりとする。
高所作業車による作業



10. 4. 6 ハンドホール設置

1. 適用

情報ボックス工事のハンドホール、蓋等の設置に適用する。
・ハンドホール設置：ハンドホール設置（支持金具、蓋、固定板の設置を含む）の場合

2. 数量算出項目

ハンドホール、ハンドホール蓋（材料費）、ハンドホール固定板（材料費）、支持金具（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

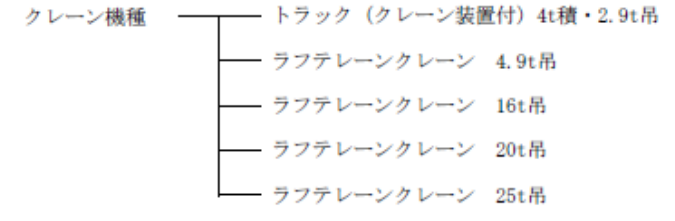
3. 区分

区分は、規格・仕様、クレーン機種とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	規格・仕様	クレーン機種	単位	数量	備考
ハンドホール		○	○	個		
ハンドホール蓋（材料費）		○	×	枚		
ハンドホール固定板（材料費）		○	×	枚		
支持金具（材料費）		○	×	個		

(6) クレーン機種による区分は、以下のとおりとする。



10. 4. 7 仮設工

仮設工の数量は、「第1編（共通編）11章仮設工により算出する。なお、軽量鋼矢板による土留、路面覆工等による仮設工の数量は、「第3編（道路編）10章共同溝10. 3電線共同溝（C.C.BOX）工」により算出する。

3-10-22

前頁より移動



現行どおり

3. 区分

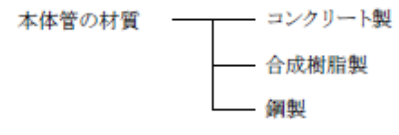
区分は、規格・仕様、本体管の材質、さや管の材質、設置区分、さや管の条数、高所作業車による作業とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

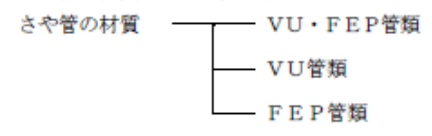
項目	3次元モデル	属性情報						単位	数量	備考
		規格・仕様	本体管の材質	さや管の材質	設置区分	さや管の条数	高所作業車による作業			
埋設部管路材設置	B	○	○	○	○	○	×	m		
露出部管路材設置	B	○	×	×	×	○	○	m		
スリーブ（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	個		
伸縮継手（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	個		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

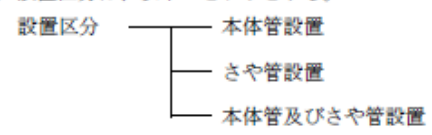
(2) 本体管の材質による区分は、以下のとおりとする。



(3) さや管の材質による区分は、以下のとおりとする。



(4) 設置区分は、以下のとおりとする。



3-10-23

次頁へ移動



記載の追加

積算上の注意事項			(控え頁) 4/5
----------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																									
現行	改 正	備考																																									
	<p>前頁より移動 →</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>10.4.6 ハンドホール設置</p> <p>1. 適用</p> <p>情報ボックス工事のハンドホール、蓋等の設置に適用する。 ・ハンドホール設置：ハンドホール設置（支持金具、蓋、固定板の設置を含む）の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ハンドホール、ハンドホール蓋（材料費）、ハンドホール固定板（材料費）、支持金具（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格・仕様、クレーン機種とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>クレーン機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハンドホール</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハンドホール蓋（材料費）</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハンドホール固定板（材料費）</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支持金具（材料費）</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>(6) クレーン機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>クレーン機種</p> <ul style="list-style-type: none"> — トラック（クレーン装置付）4t積・2.9t吊 — ラフテレーンクレーン 4.9t吊 — ラフテレーンクレーン 16t吊 — ラフテレーンクレーン 20t吊 — ラフテレーンクレーン 25t吊 <p>10.4.7 仮設工</p> <p>仮設工の数量は、「第1編（共通編）11章仮設工」により算出する。なお、軽量鋼矢板による土留、路面覆工等による仮設工の数量は、「第3編（道路編）10章共同溝10.3電線共同溝（C.C.BOX）工」により算出する。</p> </div>	項目	区分	属性情報					3次元モデル	規格・仕様	クレーン機種	単位	数量	備考	ハンドホール	B	○	○	個			ハンドホール蓋（材料費）	B	○	×	枚			ハンドホール固定板（材料費）	B	○	×	枚			支持金具（材料費）	B	○	×	個			記載の追加
項目	区分			属性情報																																							
		3次元モデル	規格・仕様	クレーン機種	単位	数量	備考																																				
ハンドホール	B	○	○	個																																							
ハンドホール蓋（材料費）	B	○	×	枚																																							
ハンドホール固定板（材料費）	B	○	×	枚																																							
支持金具（材料費）	B	○	×	個																																							
積算上の注意事項		3-10-24	(控え頁) 5/5																																								

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

1章 公園植栽工

1.1 公園植栽工

1. 適用

公園の植栽作業及び移植作業に適用する。

2. 数量算出項目

植栽（植樹）、支柱、移植、地被類植付、張芝を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、樹木の種類、支柱の種類、施工場所とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

区分 項目	樹木種類	支柱種類	施工場所	単位	数量	備考
植栽（植樹）	○	×	○	本		
支柱	×	○	○	本・m		
移植	○	×	○	本		
地被類植付	○	×	○	鉢		
張芝	○	×	×	m ²		

(2) 樹木の種類区分

植栽 (植樹)	低木	樹高60cm未満
		樹高60cm以上100cm未満
移植	中木	樹高100cm以上200cm未満
		樹高200cm以上300cm未満
	高木	幹周15cm未満
		幹周15cm以上25cm未満
		幹周25cm以上40cm未満
		幹周40cm以上60cm未満
地被類植付	各種	
張芝	各種	

- 注) 1. 低木には、株物、一本立ちを含む。
 2. 高木とは樹高3m以上とする。また、幹周とは地際よりの高さ1.2mでの幹の周囲長とし幹が枝分かれ（株立樹木）している場合の幹周は、各々の総和の70%とする。
 3. 土壌改良材を使用する場合は、植栽（植樹）1本当たり土壌改良材使用量を算出すること。
 4. 移植の場合は、根巻・幹巻の有無を区分する。また、運搬を伴う場合は、運搬距離（km）を算出する。
 5. 植栽（植樹）及び移植に伴い、客土、埋戻土が別途必要な場合は、その数量を算出する。また、残土の搬出が必要な場合は残土量を算出する。

4-1-2

現行どおり

(1) 数量算出項目区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報					
		樹木種類	支柱種類	施工場所	単位	数量	備考
植栽（植樹）	B	○	×	○	本		
支柱	B	×	○	○	本・m		
移植	B	○	×	○	本		
地被類植付	B	○	×	○	鉢		
張芝	B	○	×	×	m ²		

3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする

現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																					
現 行		改 正																																					
<p>1.2 公園除草工</p> <p>1. 適用</p> <p>公園の除草及び集草、積込・運搬に適用する。 ただし、景観を重視し、かつ除草回数が1回/月を超える場合には適用除外とする。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>公園除草の面積を算出する</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、作業内容とする。</p> <p>(1) 数量算出項目区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>作業内容</th> <th>施工場所</th> <th>単位</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公園除草</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業内容区分</p> <p>除草の面積を作業内容（除草、抜根、集草、積込・運搬）ごとに区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 除草は施工場所毎に下記の工法に区分して算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 除草工法 <ul style="list-style-type: none"> — 人力除草 — 人力抜根 — 機械除草I（肩掛式） — 機械除草II（ハンドガイド式+肩掛式） <p>(2) 公園外への運搬が必要な場合は、運搬路に応じて、運搬距離（片道）（km）を算出する。</p>		区分	作業内容	施工場所	単位	単位	数量	備考	公園除草	○	○	m ²	本			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>作業内容</th> <th>施工場所</th> <th>単位</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公園除草</td> <td></td> <td>C</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>3次元モデルの基本的な表現方法は、コンクリート構造を参考とする</u></p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元 モデル	属 性 情 報				数量	備考	作業内容	施工場所	単位	単位	公園除草		C	○	○	m ²	本			記載の追加
区分	作業内容	施工場所	単位	単位	数量	備考																																	
公園除草	○	○	m ²	本																																			
項目	区分	3次元 モデル	属 性 情 報				数量	備考																															
			作業内容	施工場所	単位	単位																																	
公園除草		C	○	○	m ²	本																																	
積算上の注意事項	4-1-4		(控え頁) 1/1																																				